

第8期宇治市障害福祉計画及び
第4期宇治市障害児福祉計画
策定に向けたアンケート調査結果報告書(案)

令和8年8月

宇 治 市

目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	2
II	障害者用(調査票A).....	3
1.	あなたのことについて.....	3
2.	暮らし・住まいについて.....	15
3.	外出について.....	19
4.	相談支援について.....	23
5.	情報の入手について.....	28
6.	日中の過ごし方や就労について.....	31
7.	地域・社会活動について.....	34
8.	介護の状況について.....	45
9.	障害福祉サービスの利用について.....	48
10.	権利擁護について.....	81
11.	災害時の避難等について.....	86
12.	宇治市の今後の施策に向けて.....	90
III	障害児用(調査票B).....	99
1.	あなたのことについて.....	99
2.	暮らし・住まいについて.....	110
3.	外出について.....	114
4.	相談支援について.....	118
5.	情報の入手について.....	123
6.	教育・余暇の過ごし方について.....	126
7.	地域・社会活動について.....	135
8.	介護の状況について.....	146
9.	障害児通所サービス・障害福祉サービスの利用について.....	149
10.	権利擁護について.....	169
11.	災害時の避難等について.....	174
12.	宇治市の今後の施策に向けて.....	178

IV 障害福祉サービス等利用者用（調査票C）	183
1. あなたのことにについて	183
2. 暮らし・住まいについて	186
3. 外出について	188
4. 相談支援について	190
5. 情報の入手について	193
6. 教育・余暇の過ごし方について	195
7. 日中の過ごし方や就労について	200
8. 地域・社会活動について	201
9. 介護の状況について	207
10. 障害児通所サービス・障害福祉サービスの利用について	209
11. 権利擁護について	223
12. 災害時の避難等について	226
13. 宇治市の今後の施策に向けて	228

I 調査の概要

1 調査の目的

宇治市の障害福祉に関する令和9年度以降の実施計画となる、「第8期障害福祉計画・第4期障害児福祉計画」の策定に向け、日常生活・社会生活や障害福祉サービス等の利用実態・ニーズについて当事者意見を調査し、計画の基礎資料とするもの。

2 調査対象

調査対象	対象条件	調査人数
障害者用 (調査票A)	令和7(2025)年12月1日現在、18歳以上の身体・療育・精神手帳所持者	3,688人
障害児用 (調査票B)	令和7(2025)年12月1日現在、18歳未満の身体・療育・精神手帳所持者または特別児童扶養手当対象児童	299人
障害福祉サービス等利用者用 (調査票C)	令和7(2025)年12月1日現在、調査票A・B以外の障害福祉サービス利用者または特別児童扶養手当対象児童(18~19歳)	299人

3 調査期間

令和8年2月9日から令和8年3月11日まで

4 調査方法

郵送による配布・回収(インターネット回答も可)

5 回収状況

調査票の種類	配布数	回収数	回収率
障害者用(調査票A)	3,688通	1,733通	47.0%
障害児用(調査票B)	299通	119通	39.8%
障害福祉サービス等利用者用(調査票C)	299通	103通	34.4%
合計	4,286通	1,955通	45.6%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。

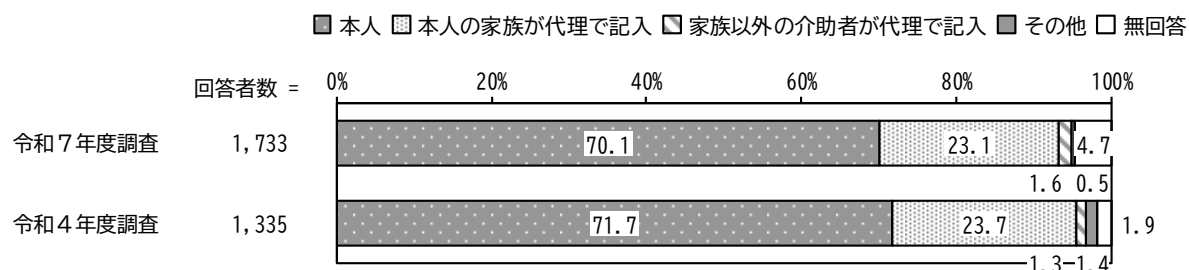
Ⅱ 障害者用(調査票A)

1. あなたのことについて

問1 この調査票にご記入いただく方はどなたですか。(1つに○)

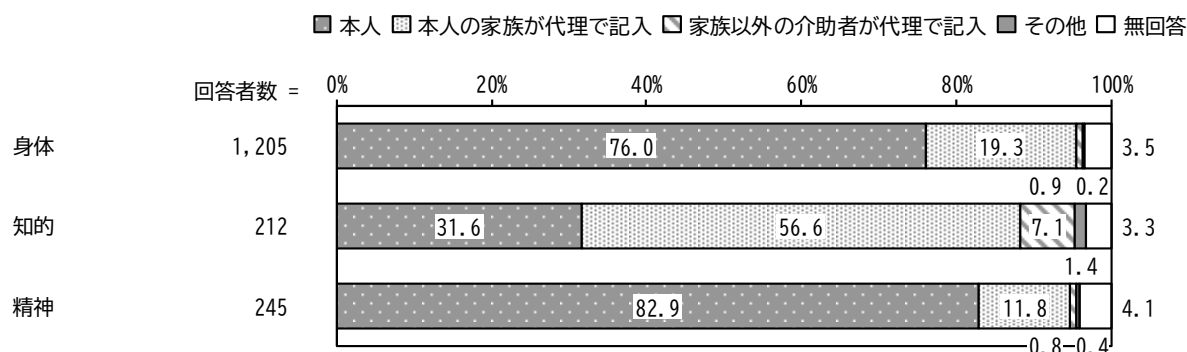
「本人」の割合が70.1%、「本人の家族が代理で記入」の割合が23.1%、「家族以外の介助者が代理で記入」の割合が1.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体、精神で「本人」、知的で「本人の家族が代理で記入」の割合が高くなっています。

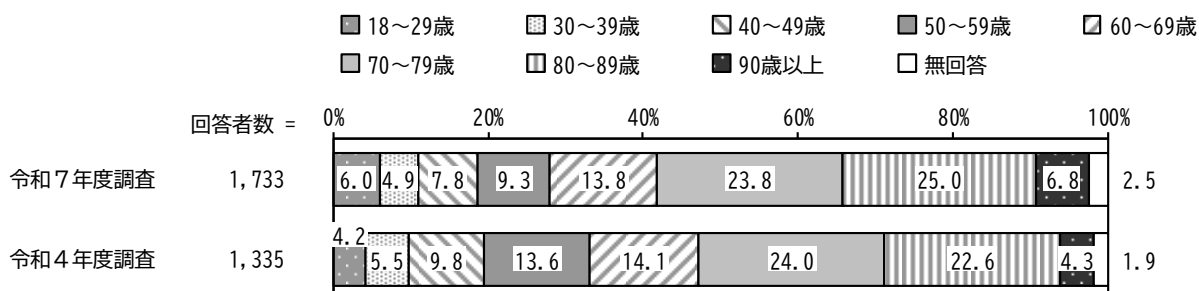


問2 令和8（2026）年1月1日現在のあなたの年齢と性別をお答えください。

年齢

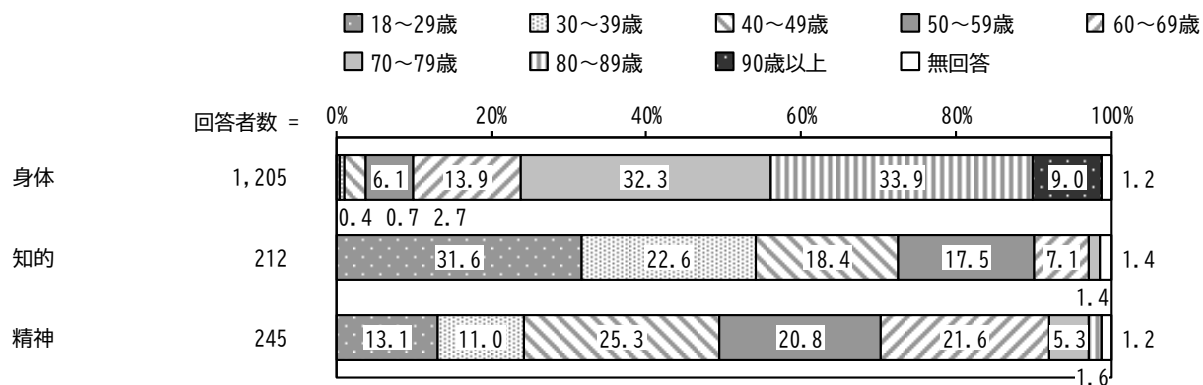
「80～89歳」の割合が25.0%と最も高く、次いで「70～79歳」の割合が23.8%、「60～69歳」の割合が13.8%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



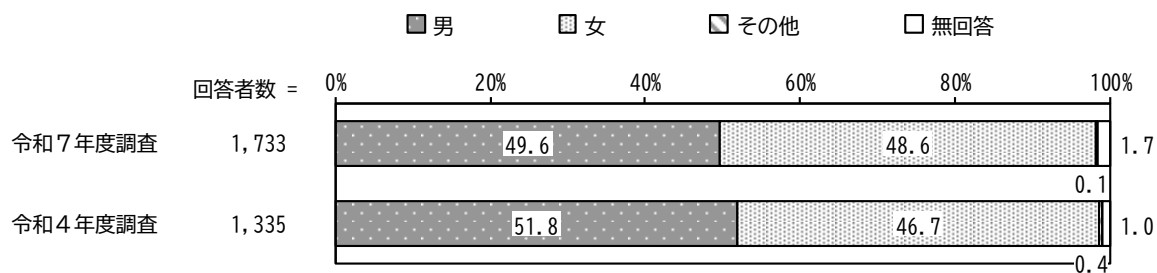
【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「70～79 歳」「80～89 歳」、知的で「18～29 歳」「30～39 歳」、精神で「40～49 歳」「60～69 歳」の割合が高くなっています。



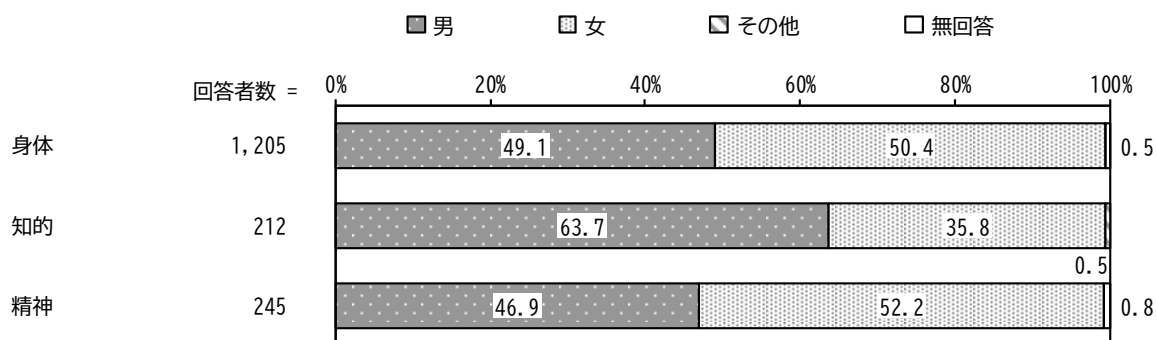
性別

「男」の割合が49.6%、「女」の割合が48.6%となっています。
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

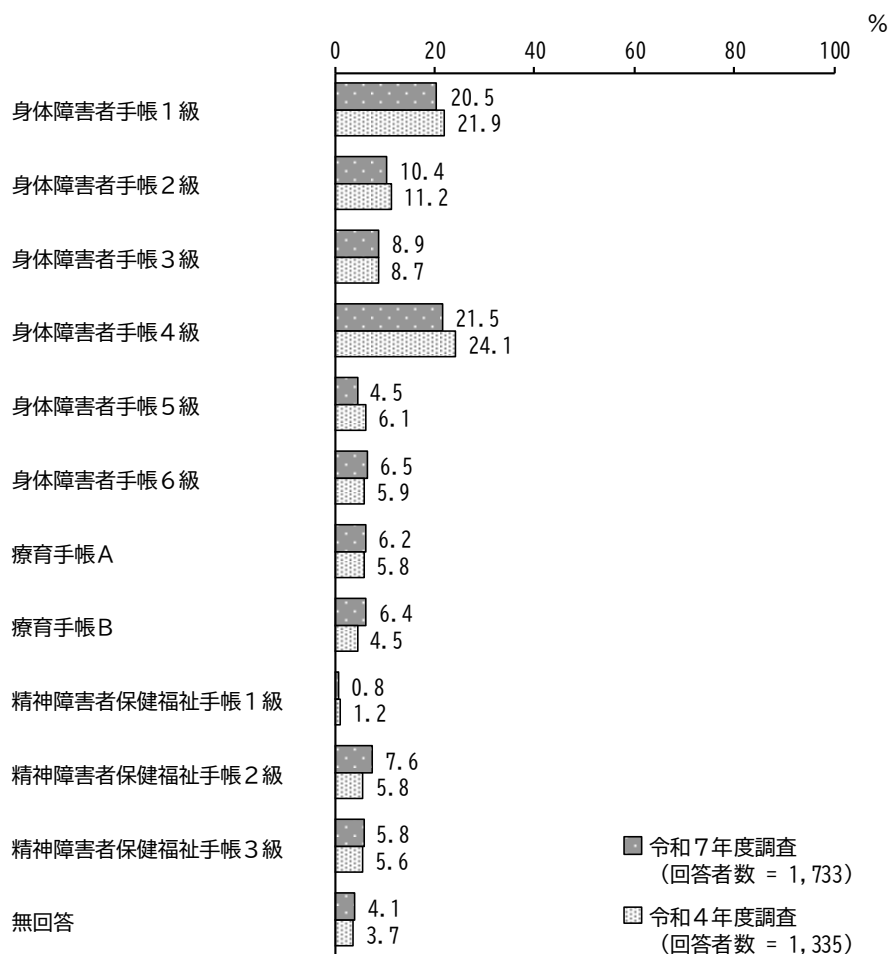
手帳種類別にみると、知的で「男」の割合が高くなっています。



問3 あなたがおもちの手帳はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

「身体障害者手帳4級」の割合が21.5%と最も高く、次いで「身体障害者手帳1級」の割合が20.5%、「身体障害者手帳2級」の割合が10.4%となっています。

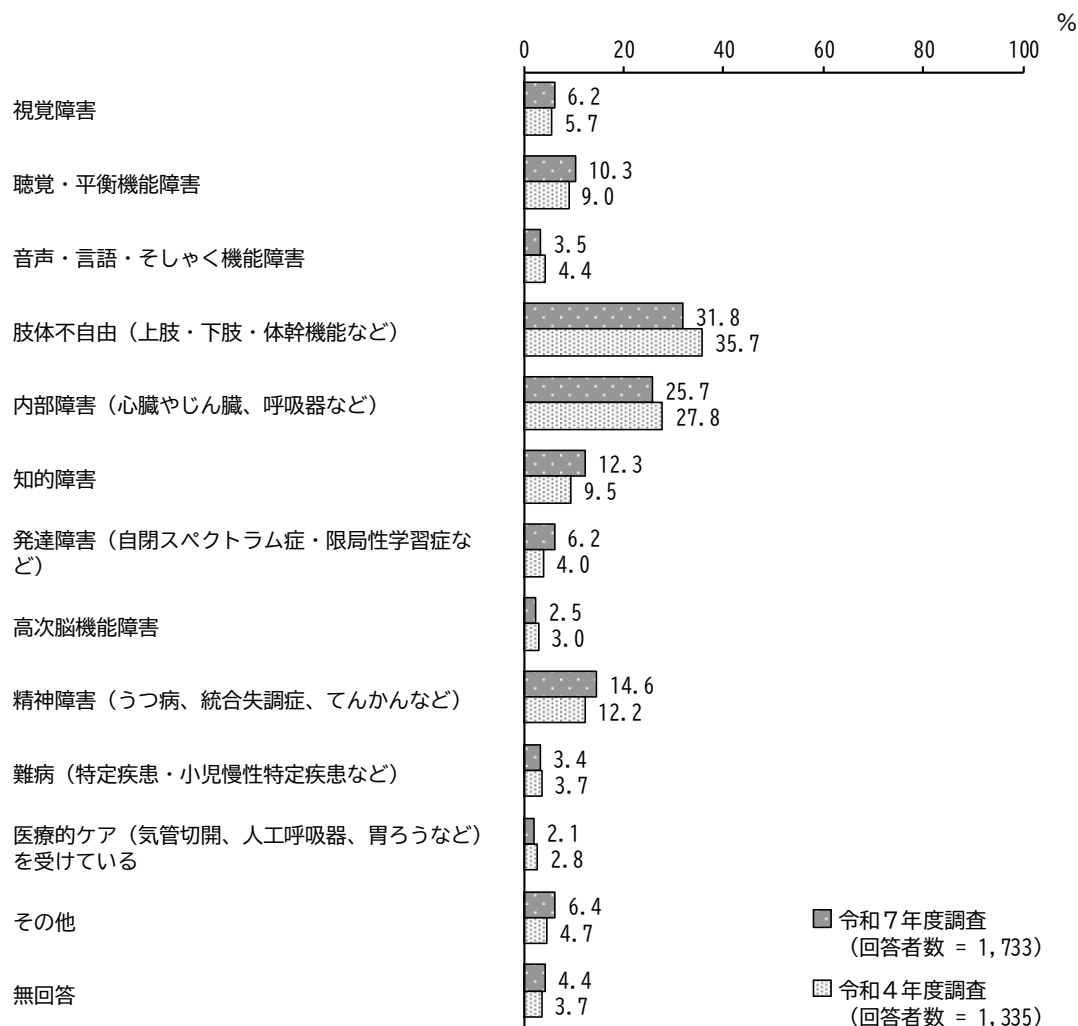
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問4 あなたは、どのような障害がありますか。(あてはまるものすべてに○)

「肢体不自由（上肢・下肢・体幹機能など）」の割合が 31.8%と最も高く、次いで「内部障害（心臓やじん臓、呼吸器など）」の割合が 25.7%、「精神障害（うつ病、統合失調症、てんかんなど）」の割合が 14.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

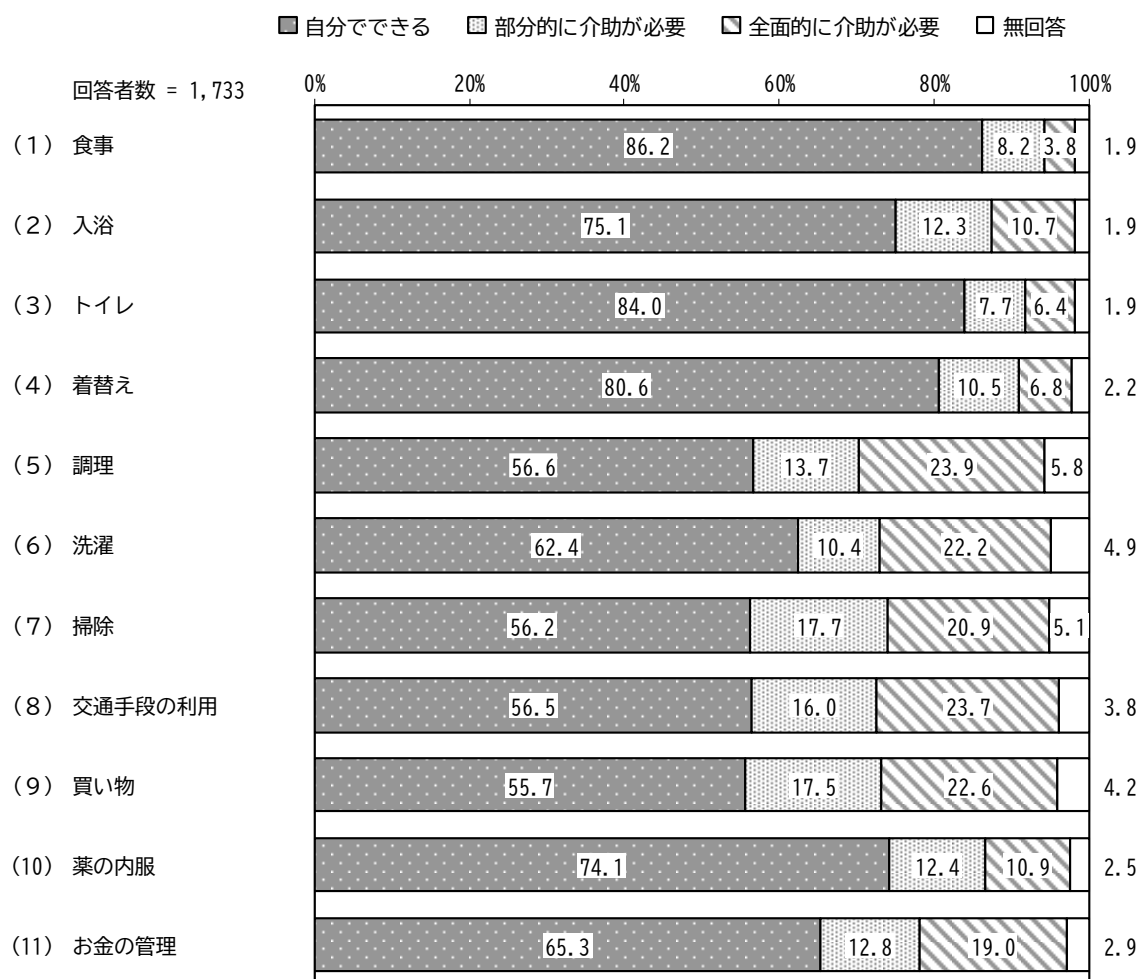
手帳種類別にみると、該当区分の障害以外については、身体で「難病（特定疾患・小児慢性特定疾患など）」、知的で「発達障害（自閉スペクトラム症・限局性学習症など）」、精神で「知的障害」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	視覚障害	聴覚・平衡機能障害	音声・言語・そしゃく機能障害	肢体不自由 (上肢・下肢・体幹機能など)	内部障害 (心臓やじん臓、呼吸器など)	知的障害	発達障害 (自閉スペクトラム症・限局性学習症など)	高次脳機能障害	精神障害 (うつ病、統合失調症、てんかんなど)	難病 (特定疾患・小児慢性特定疾患など)	医療的ケア (気管切開、人工呼吸器、胃ろうなど) を受けている	その他	無回答
全 体	1,733	6.2	10.3	3.5	31.8	25.7	12.3	6.2	2.5	14.6	3.4	2.1	6.4	4.4
身体	1,205	8.5	14.0	3.4	42.2	35.0	0.4	0.2	2.5	2.2	4.1	2.5	7.1	2.5
知的	212	0.9	1.4	5.7	11.8	3.3	91.0	24.5	0.9	10.8	1.4	0.9	3.3	0.9
精神	245	0.4	1.2	2.4	2.9	2.0	5.7	21.6	4.9	81.6	2.4	0.4	6.5	2.4

問5 あなたは次の（１）～（１１）のことを自分でできますか。
（それぞれの項目について１つに○）

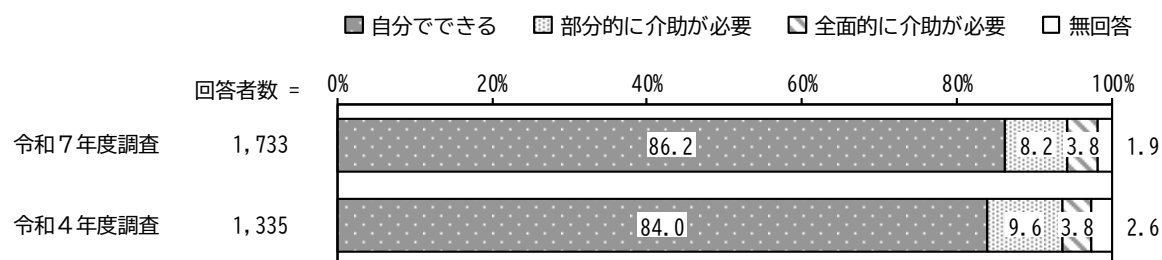
『（１）食事』で「自分でできる」が、『（７）掃除』で「部分的に介助が必要」が、『（５）調理』で「全面的に介助が必要」が高くなっています。



(1) 食事

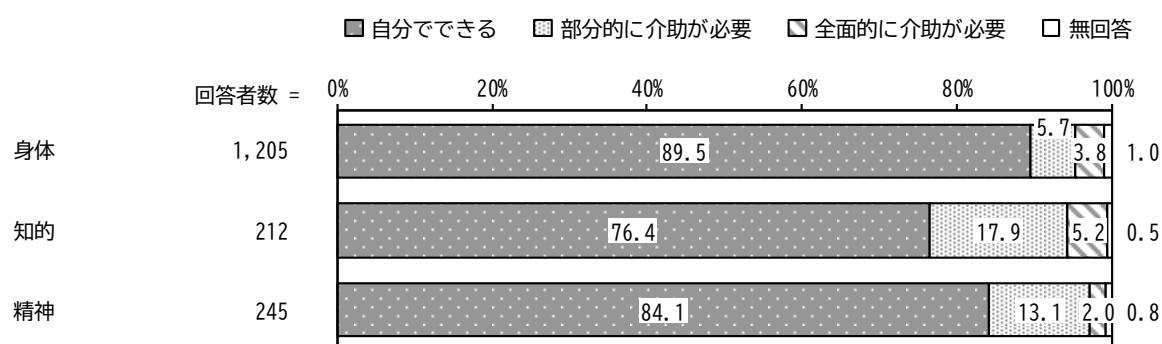
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

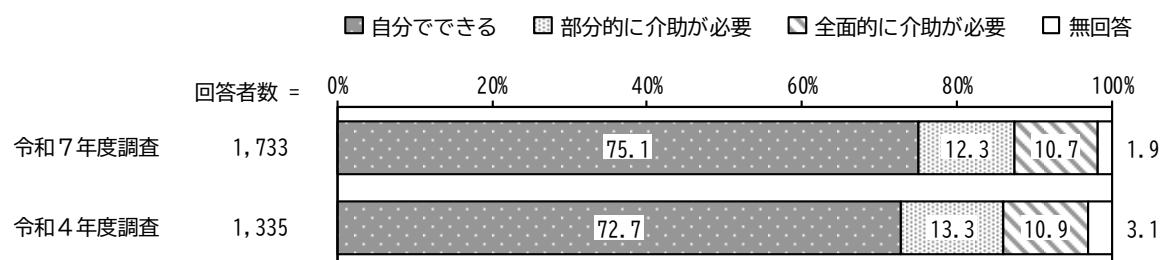
手帳種類別にみると、いずれの手帳種別においても、「自分でできる」の割合が高くなっています。



(2) 入浴

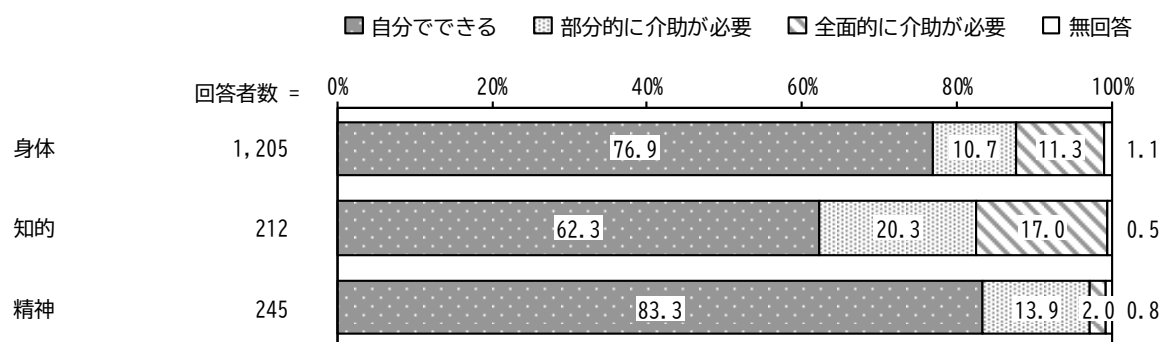
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

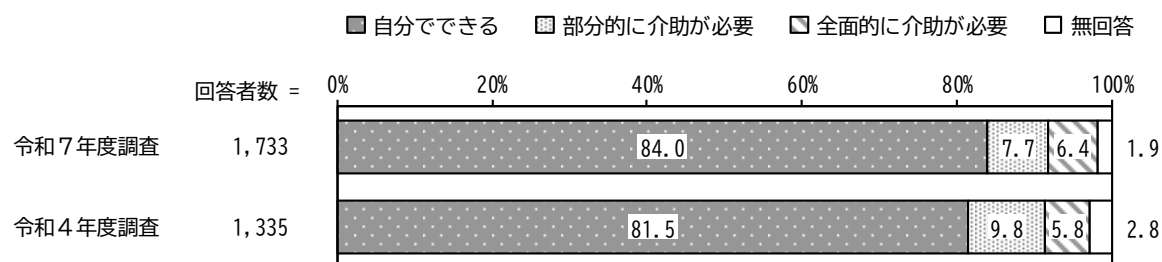
手帳種類別にみると、いずれの手帳種別においても、「自分でできる」の割合が高くなっています。



(3) トイレ

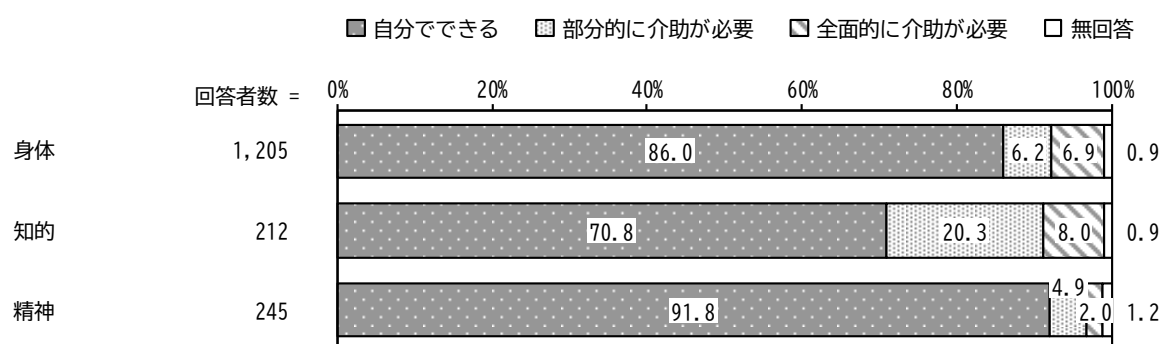
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

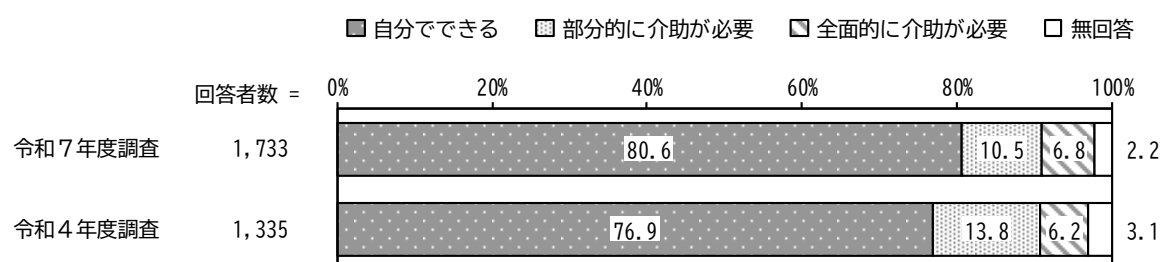
手帳種類別にみると、いずれの手帳種別においても、「自分でできる」の割合が高くなっています。



(4) 着替え

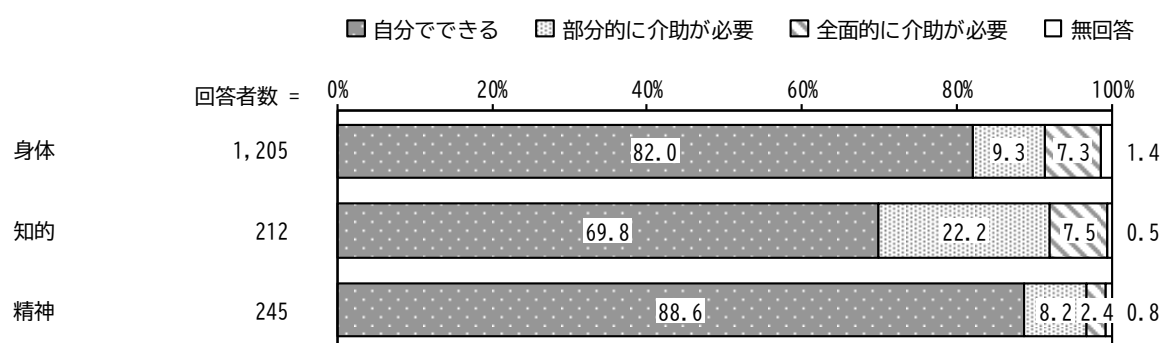
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

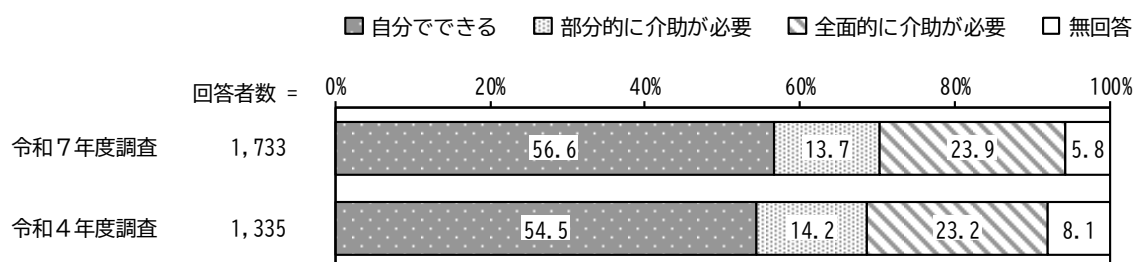
手帳種類別にみると、いずれの手帳種別においても、「自分でできる」の割合が高くなっています。



(5) 調理

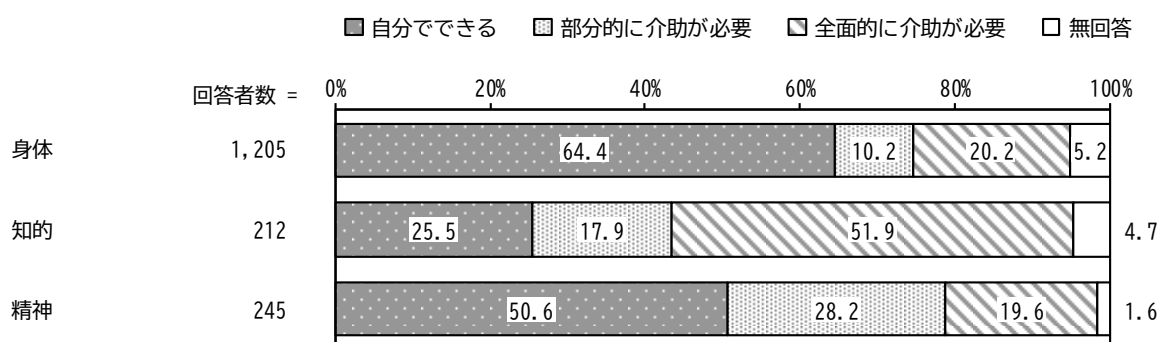
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

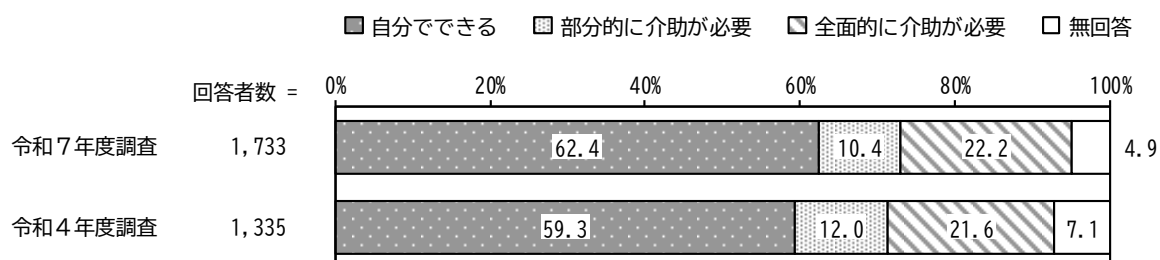
手帳種類別にみると、身体、精神で「自分でできる」の割合が高く、知的で「全面的に介助が必要」の割合が高くなっています。



(6) 洗濯

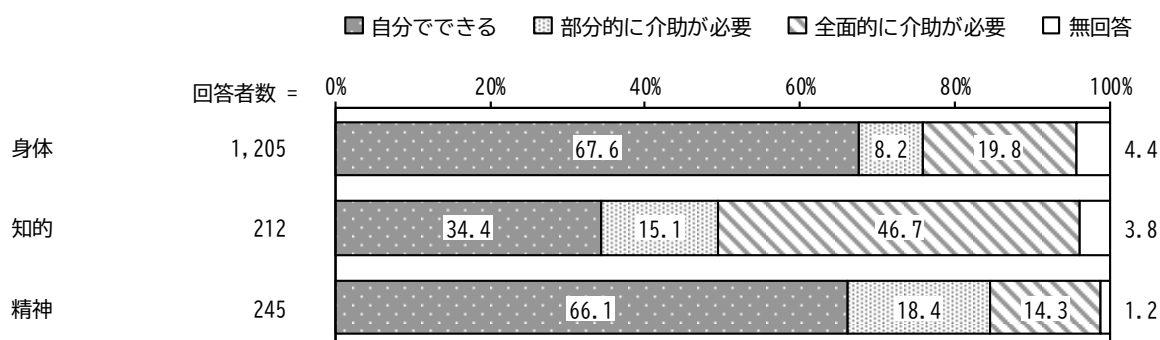
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

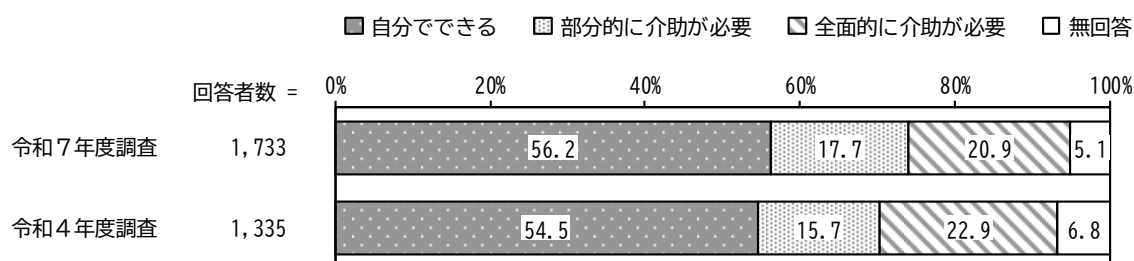
手帳種類別にみると、身体、精神で「自分でできる」の割合が高く、知的で「全面的に介助が必要」の割合が高くなっています。



(7) 掃除

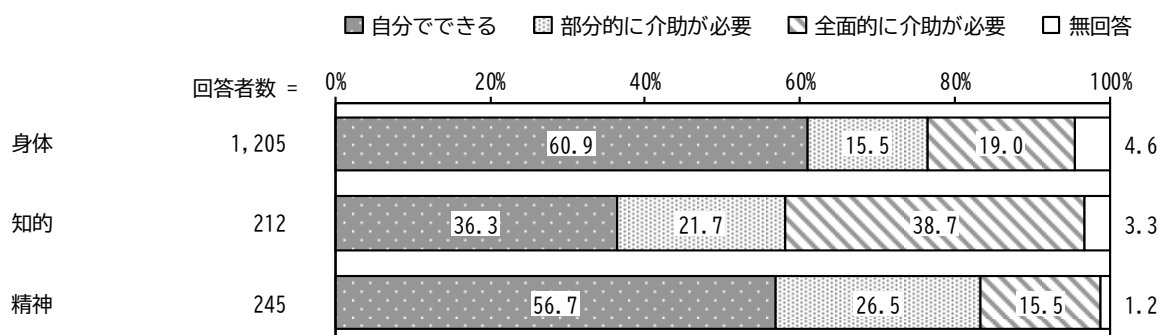
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

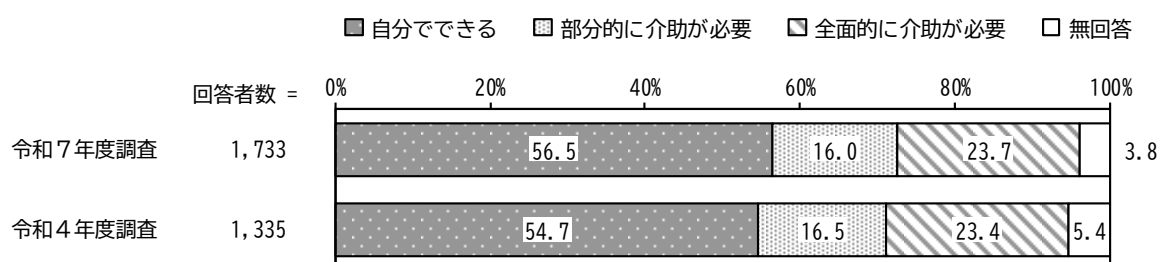
手帳種類別にみると、身体、精神で「自分でできる」の割合が高く、知的で「全面的に介助が必要」の割合が高くなっています。



(8) 交通手段の利用

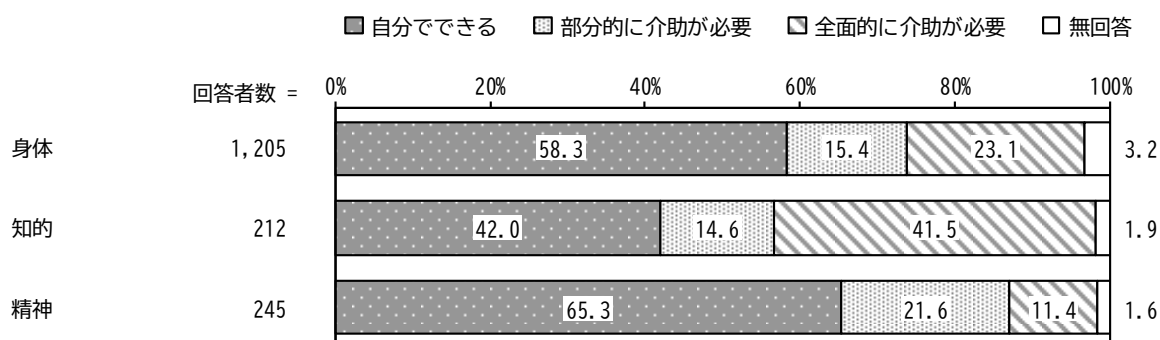
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

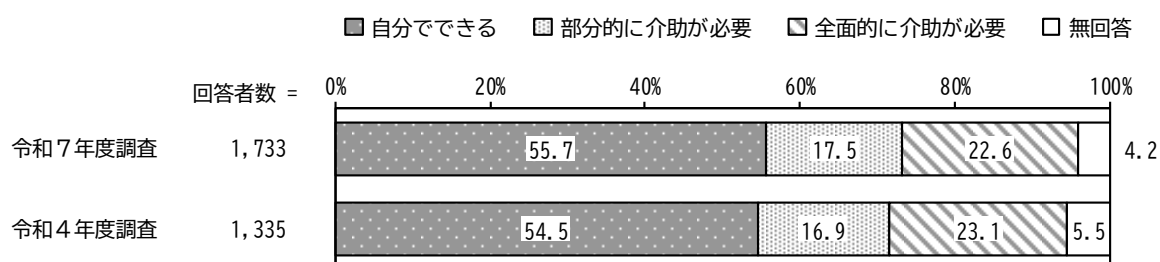
手帳種類別にみると、いずれの手帳種別においても、「自分でできる」の割合が高くなっています。



(9) 買い物

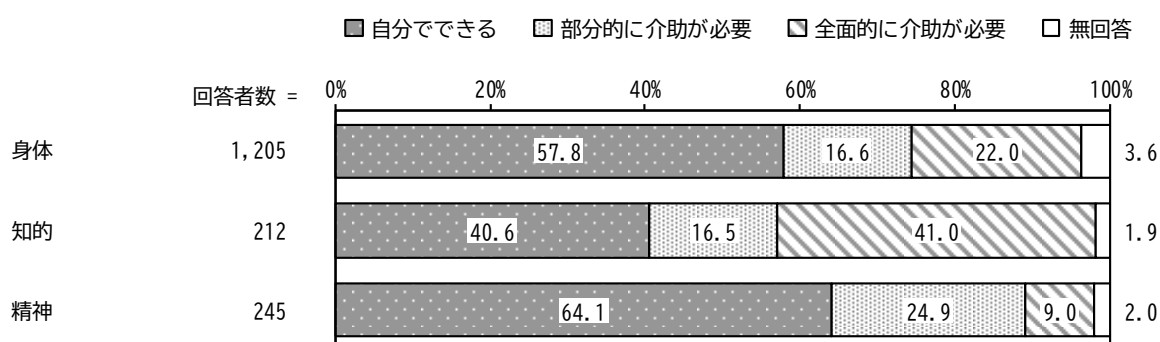
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

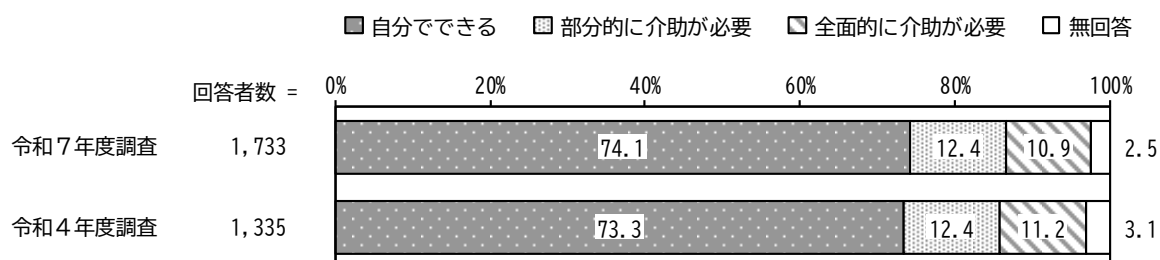
手帳種類別にみると、身体、精神で「自分でできる」の割合が高く、知的で「全面的に介助が必要」の割合が高くなっています。



(10) 薬の内服

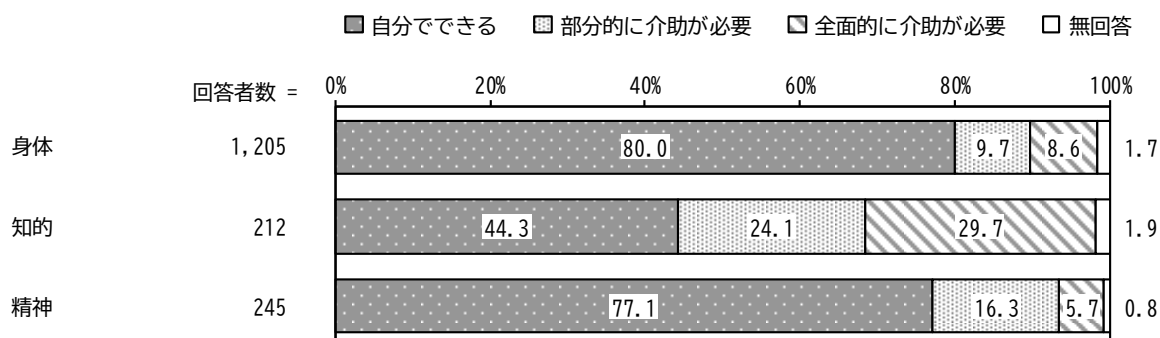
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

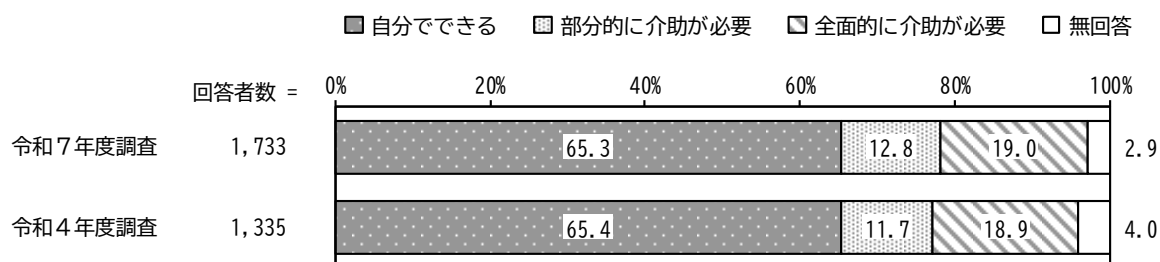
手帳種類別にみると、いずれの手帳種別においても、「自分でできる」の割合が高くなっています。



(11) お金の管理

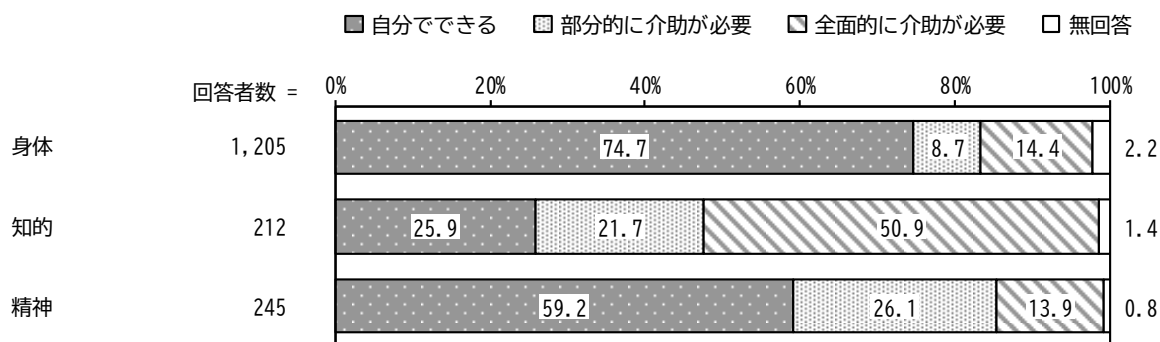
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体、精神で「自分でできる」の割合が高く、知的で「全面的に介助が必要」の割合が高くなっています。

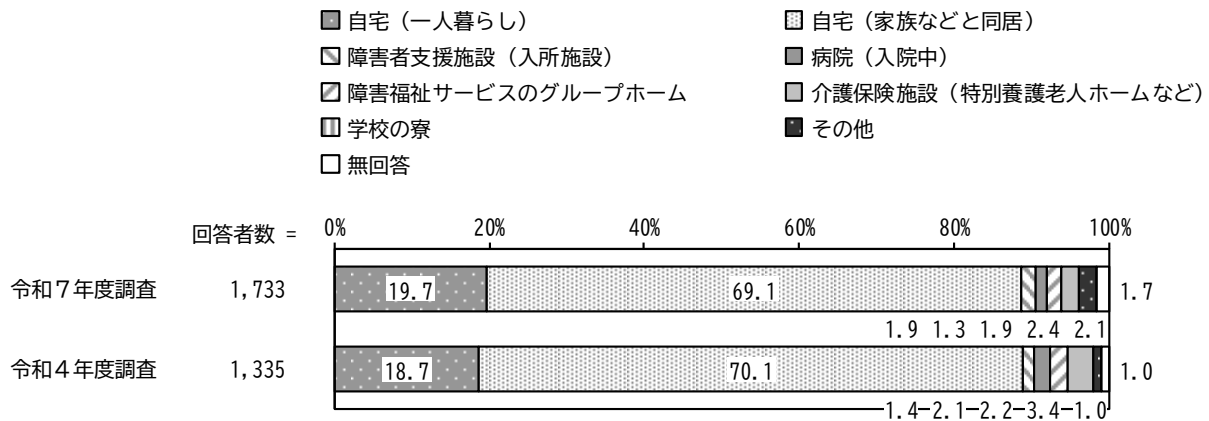


2. 暮らし・住まいについて

問6 あなたが現在、暮らしている場所はどこですか。(1つに○)

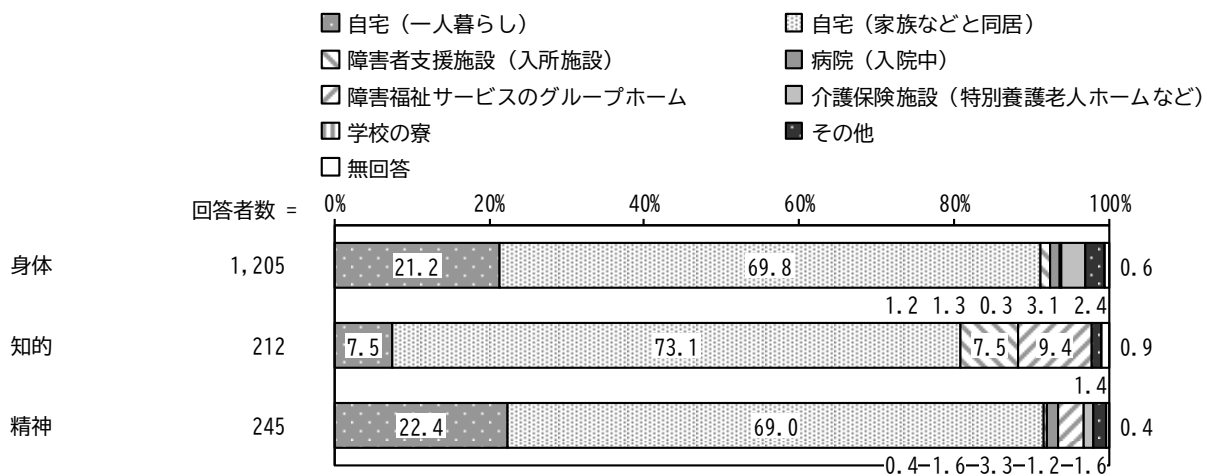
「自宅(家族などと同居)」の割合が69.1%と最も高く、次いで「自宅(一人暮らし)」の割合が19.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

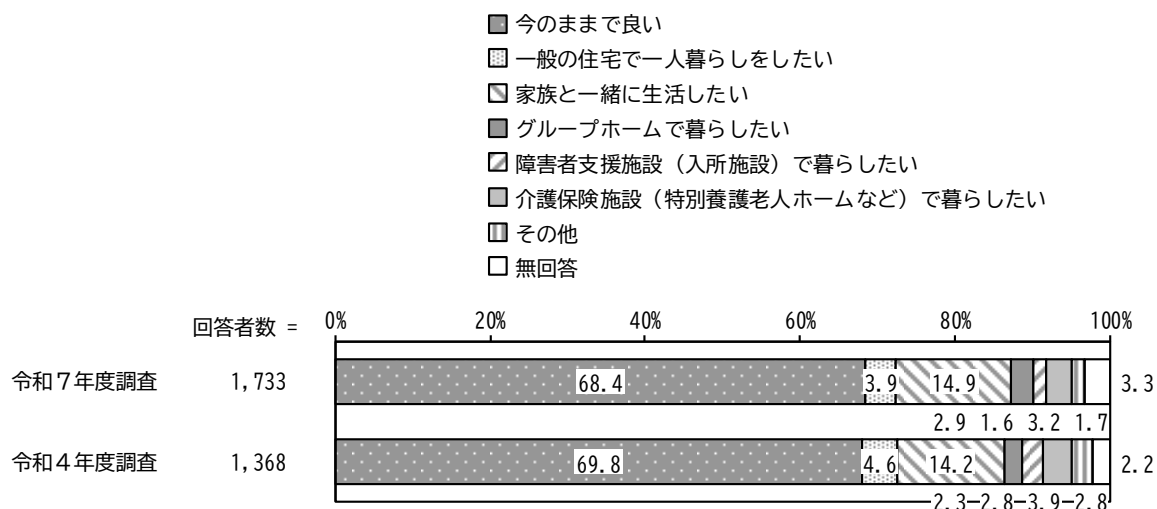
手帳種類別にみると、知的で「障害者支援施設(入所施設)」「障害福祉サービスのグループホーム」の割合が高く、「自宅(一人暮らし)」の割合が低くなっています。



問7 あなたは今後、どのような暮らしをしたいと思いますか。(1つに○)

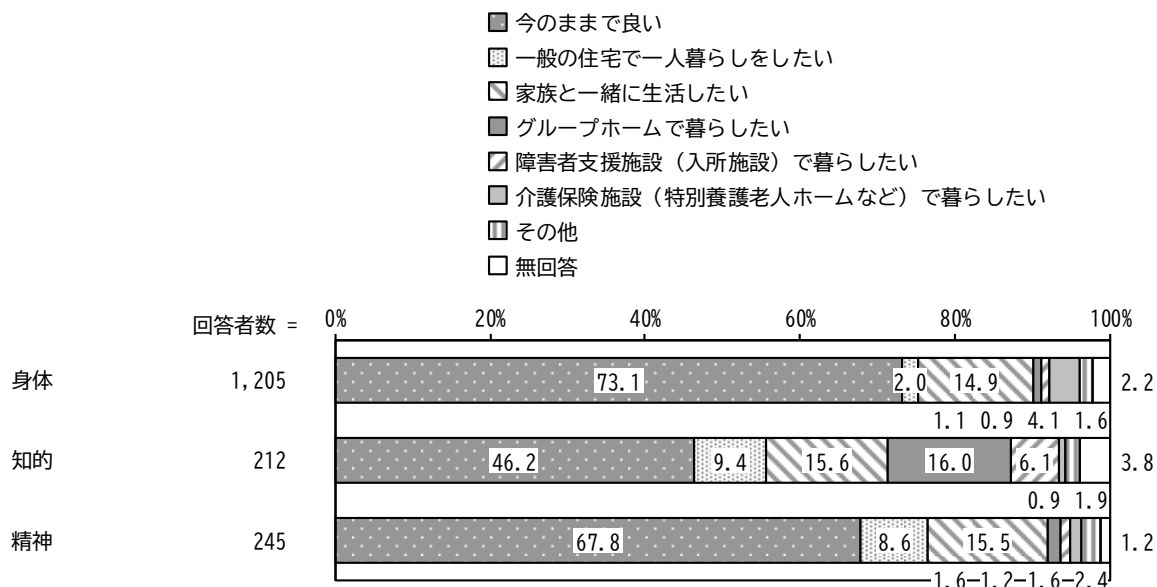
「今のままで良い」の割合が68.4%と最も高く、次いで「家族と一緒に生活したい」の割合が14.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

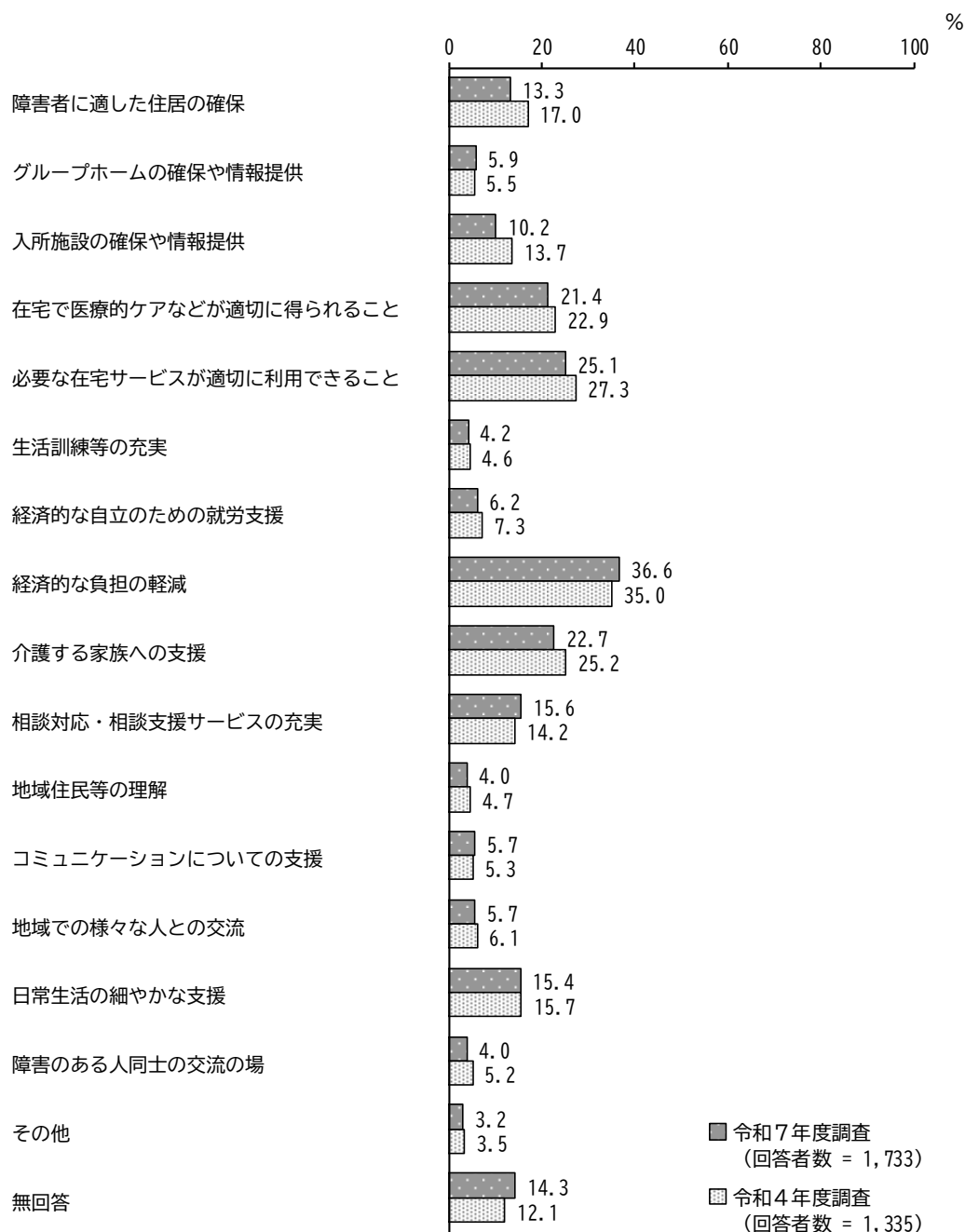
手帳種類別にみると、知的で「一般の住宅で一人暮らしをしたい」「グループホームで暮らしたい」の割合が身体、精神と比べて高くなっています。



問8 あなたが今後、希望する暮らしを送るために、どのような支援があればよいと思いますか。(3つまでに○)

「経済的な負担の軽減」の割合が 36.6%と最も高く、次いで「必要な在宅サービスが適切に利用できること」の割合が 25.1%、「介護する家族への支援」の割合が 22.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、全区分で「経済的な負担の軽減」が最も高くなっています。次いで、身体で「必要な在宅サービスが適切に利用できること」、知的で「グループホームの確保や情報提供」、精神で「相談対応・相談支援サービスの充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	障害者に 適した住 居の確保	グルー プホーム の 確保や情報提供	入所施設 の確保や 情報提供	在宅で医 療的ケア などが適 切に得ら れること	必要なが 在宅サー ビスが適 切に利用 できるこ と	生活訓練 等の充実	経済的な 自立のた めの就労 支援	経済的な 負担の軽 減
全 体	1,733	13.3	5.9	10.2	21.4	25.1	4.2	6.2	36.6
身体	1,205	12.4	3.0	10.2	26.9	30.3	3.7	2.7	33.7
知的	212	17.0	24.5	15.6	6.1	16.5	6.1	9.9	33.0
精神	245	15.9	3.3	5.3	9.4	9.8	5.7	19.6	54.3

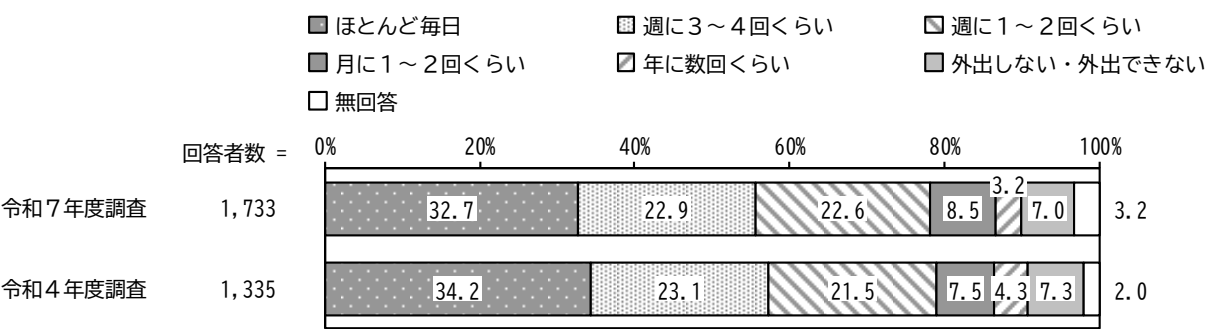
区分	介護する 家族への 支援	相談対応・ 相談支援 サービスの 充実	地域住民 等の理解	コミュニ ケーション についての 支援	地域での 様々な人 との交流	日常生 活の細やか な支援	障害のある 人同士の 交流の場	その他	無回答
全 体	22.7	15.6	4.0	5.7	5.7	15.4	4.0	3.2	14.3
身体	24.5	13.5	2.7	4.6	6.1	13.8	2.7	3.2	14.3
知的	18.4	21.7	8.5	11.8	5.7	23.6	9.4	3.8	10.8
精神	17.6	20.0	7.3	5.7	5.3	17.6	5.7	3.3	14.3

3. 外出について

問9 あなたはどれくらいの頻度で外出していますか。(1つに○)

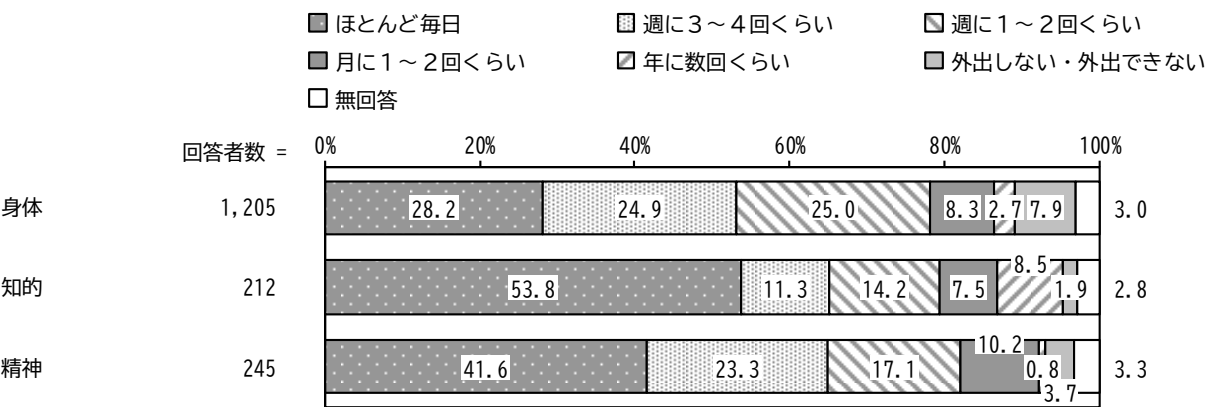
「ほとんど毎日」の割合が32.7%と最も高く、次いで「週に3～4回くらい」の割合が22.9%、「週に1～2回くらい」の割合が22.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

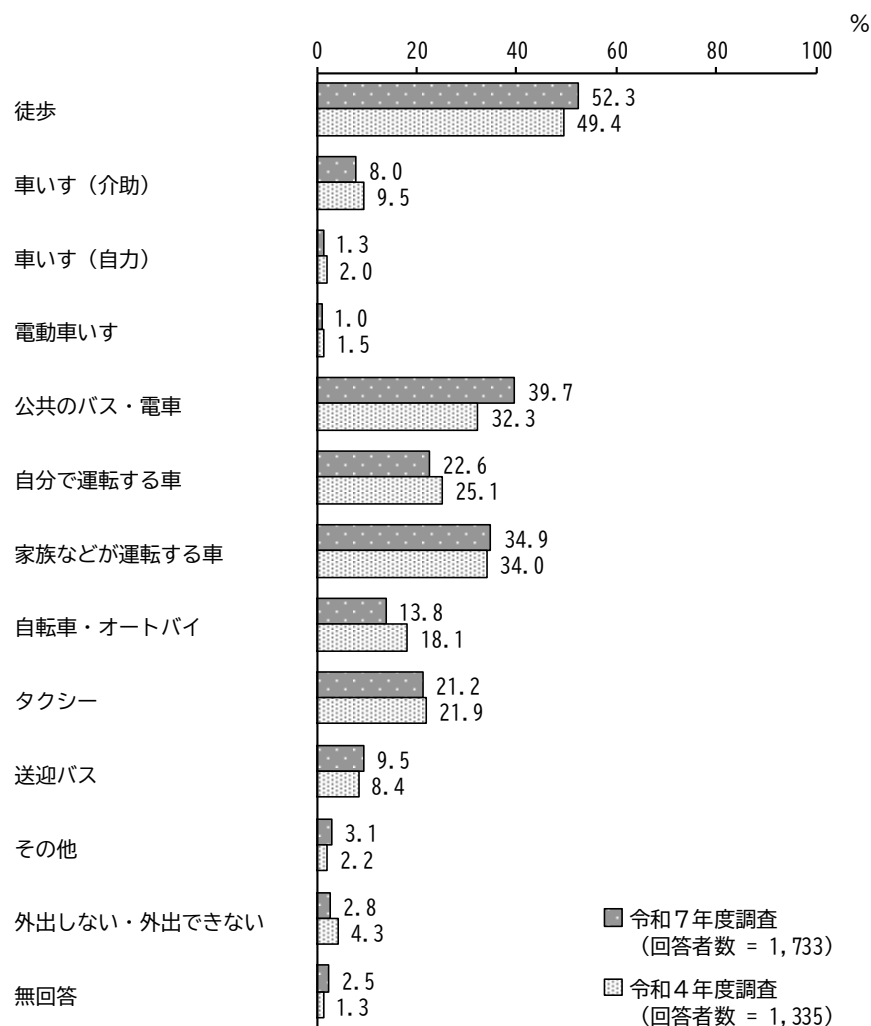
手帳種類別にみると、知的で「ほとんど毎日」「年に数回くらい」の割合が高くなっています。



問10 あなたは外出するとき、どの移動手段を使っていますか。（3つまでに○）

「徒歩」の割合が52.3%と最も高く、次いで「公共のバス・電車」の割合が39.7%、「家族などが運転する車」の割合が34.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「公共のバス・電車」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、全区分で「徒歩」の割合が最も高くなっています。次いで、全区分で「公共のバス・電車」の割合が高くなっています。

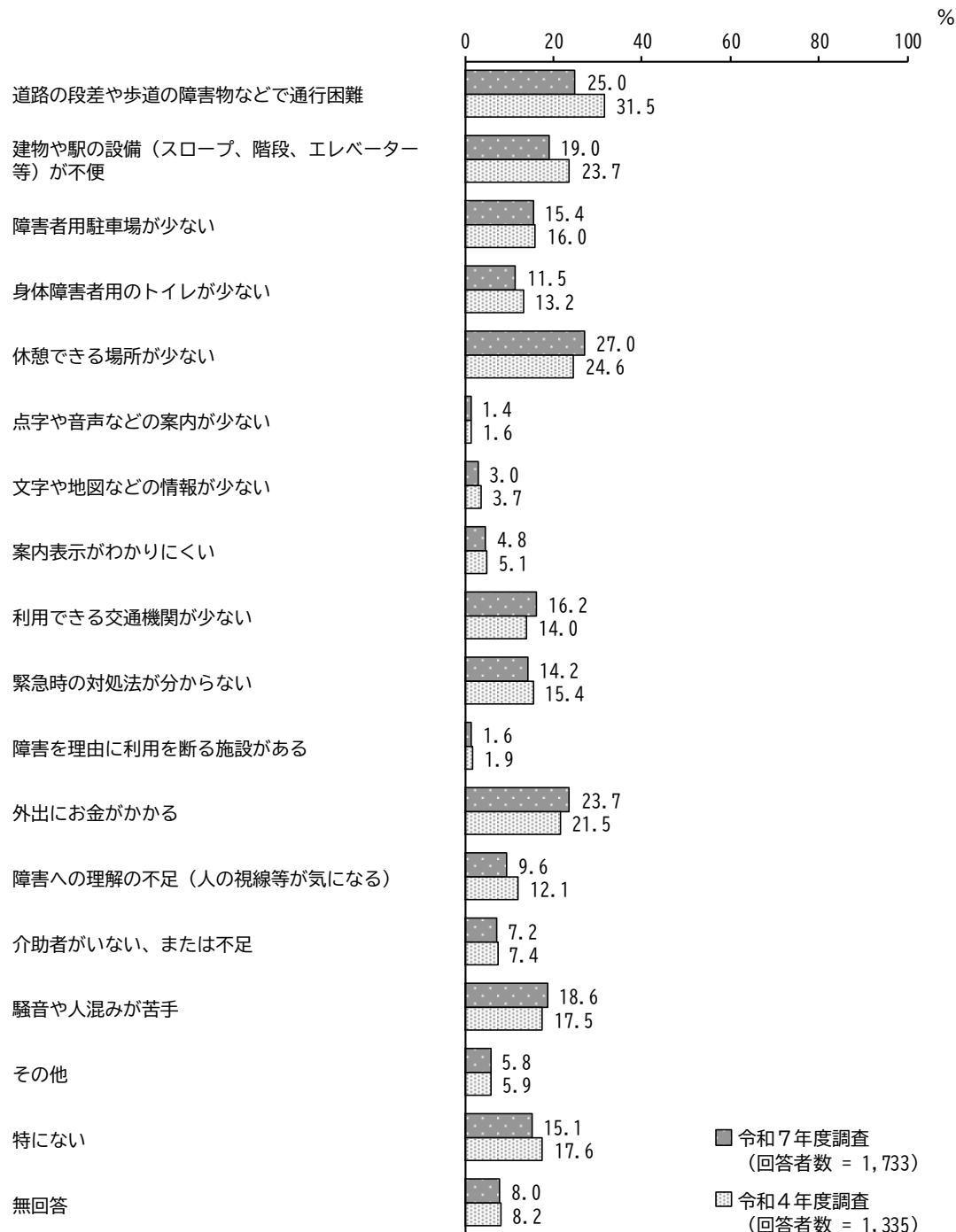
単位：％

区分	回答者数 (件)	徒歩	車いす (介助)	車いす (自力)	電動車いす	公共のバス・電車	自分で運転する車	家族などが運転する車	自転車・オートバイ	タクシー	送迎バス	その他	外出しない・外出できない	無回答
全 体	1,733	52.3	8.0	1.3	1.0	39.7	22.6	34.9	13.8	21.2	9.5	3.1	2.8	2.5
身体	1,205	48.6	9.3	1.7	1.2	35.2	27.0	34.7	12.0	24.7	8.3	3.2	3.4	2.6
知的	212	61.8	8.5	0.0	0.5	51.9	6.1	45.8	17.0	8.0	20.3	2.4	0.0	0.9
精神	245	67.8	1.6	0.0	0.0	55.9	18.0	27.8	22.4	12.7	7.3	2.4	1.6	2.4

問 11 あなたが外出時に、不便に感じたり、困ることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「休憩できる場所が少ない」の割合が 27.0%と最も高く、次いで「道路の段差や歩道の障害物などで通行困難」の割合が 25.0%、「外出にお金がかかる」の割合が 23.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「道路の段差や歩道の障害物などで通行困難」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「道路の段差や歩道の障害物などで通行困難」、知的で「緊急時の対処法が分からない」、精神で「騒音や人混みが苦手」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	道路の段差や歩道の障害物などで通行困難	建物や駅設備（スロープ、階段、エレベーター等）が不便	障害者用駐車場が少ない	身体障害者用のトイレが少ない	休憩できる場所が少ない	点字や音声などの案内が少ない	文字や地図などの情報が少ない	案内表示がわかりにくい	利用できる交通機関が少ない
全 体	1,733	25.0	19.0	15.4	11.5	27.0	1.4	3.0	4.8	16.2
身体	1,205	31.0	23.1	19.4	12.5	29.4	1.7	2.1	4.0	17.6
知的	212	9.0	9.9	7.5	17.5	19.8	0.9	6.6	9.4	13.2
精神	245	8.6	6.9	3.3	2.0	22.9	0.8	4.5	5.3	10.6

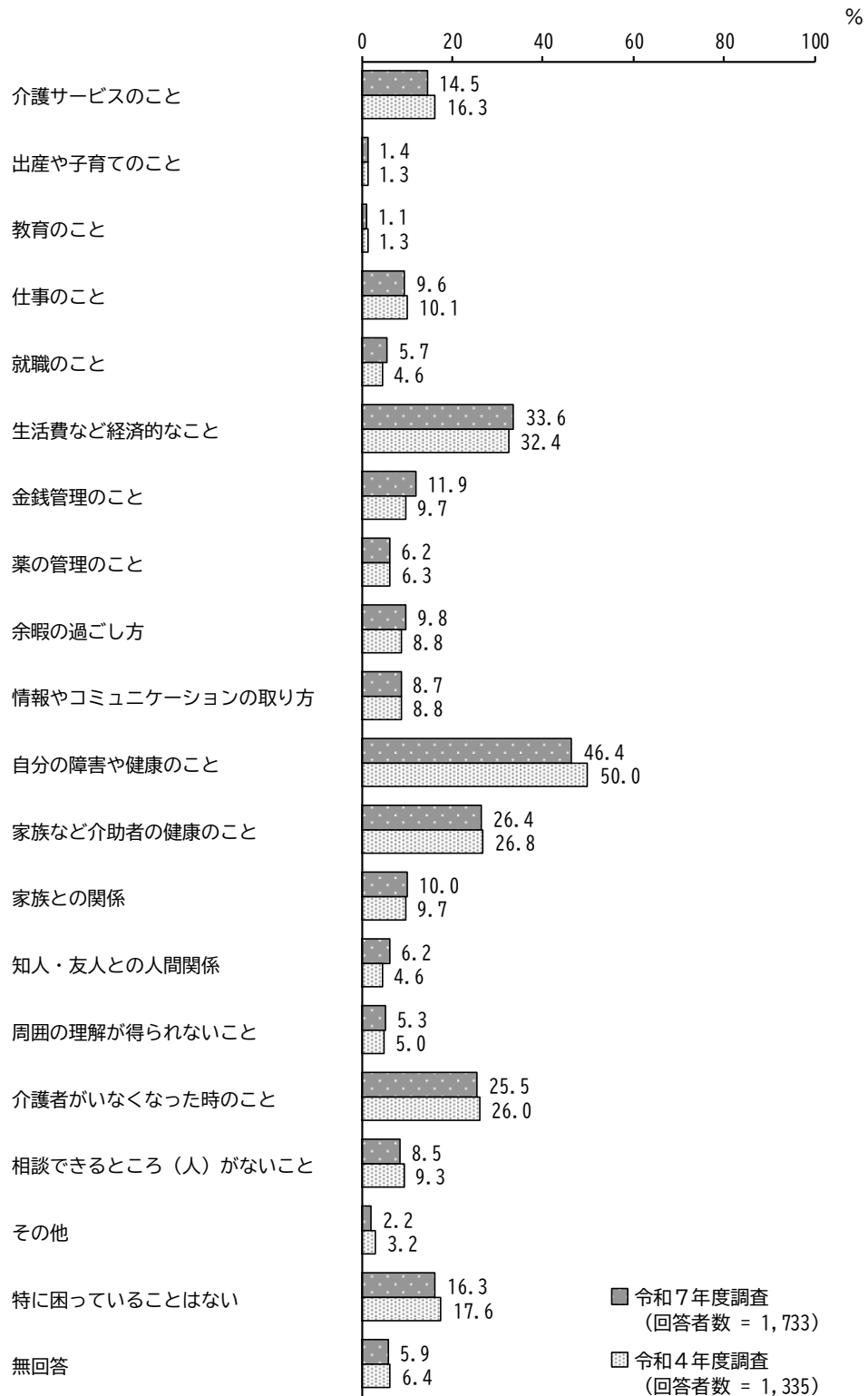
区分	緊急時の対処法が分からない	障害を理由に利用を断る施設がある	外出にお金がかかる	障害への理解の不足（人の視線等が気になる）	介助者がいない、または不足	手騒音や人混みが苦手	その他	特にない	無回答
全 体	14.2	1.6	23.7	9.6	7.2	18.6	5.8	15.1	8.0
身体	11.0	1.3	21.2	6.4	6.5	13.0	5.7	15.6	8.3
知的	31.1	2.8	24.5	22.2	17.0	25.5	4.7	14.6	4.7
精神	16.3	2.0	33.9	15.9	2.4	39.6	6.9	15.9	6.5

4. 相談支援について

問 12 あなたは、現在の生活で困っていることや不安に思っていることがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「自分の障害や健康のこと」の割合が 46.4%と最も高く、次いで「生活費など経済的なこと」の割合が 33.6%、「家族など介助者の健康のこと」の割合が 26.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「自分の障害や健康のこと」、知的で「介護者がいなくなった時のこと」、精神で「生活費など経済的なこと」の割合が高くなっています。

単位：％

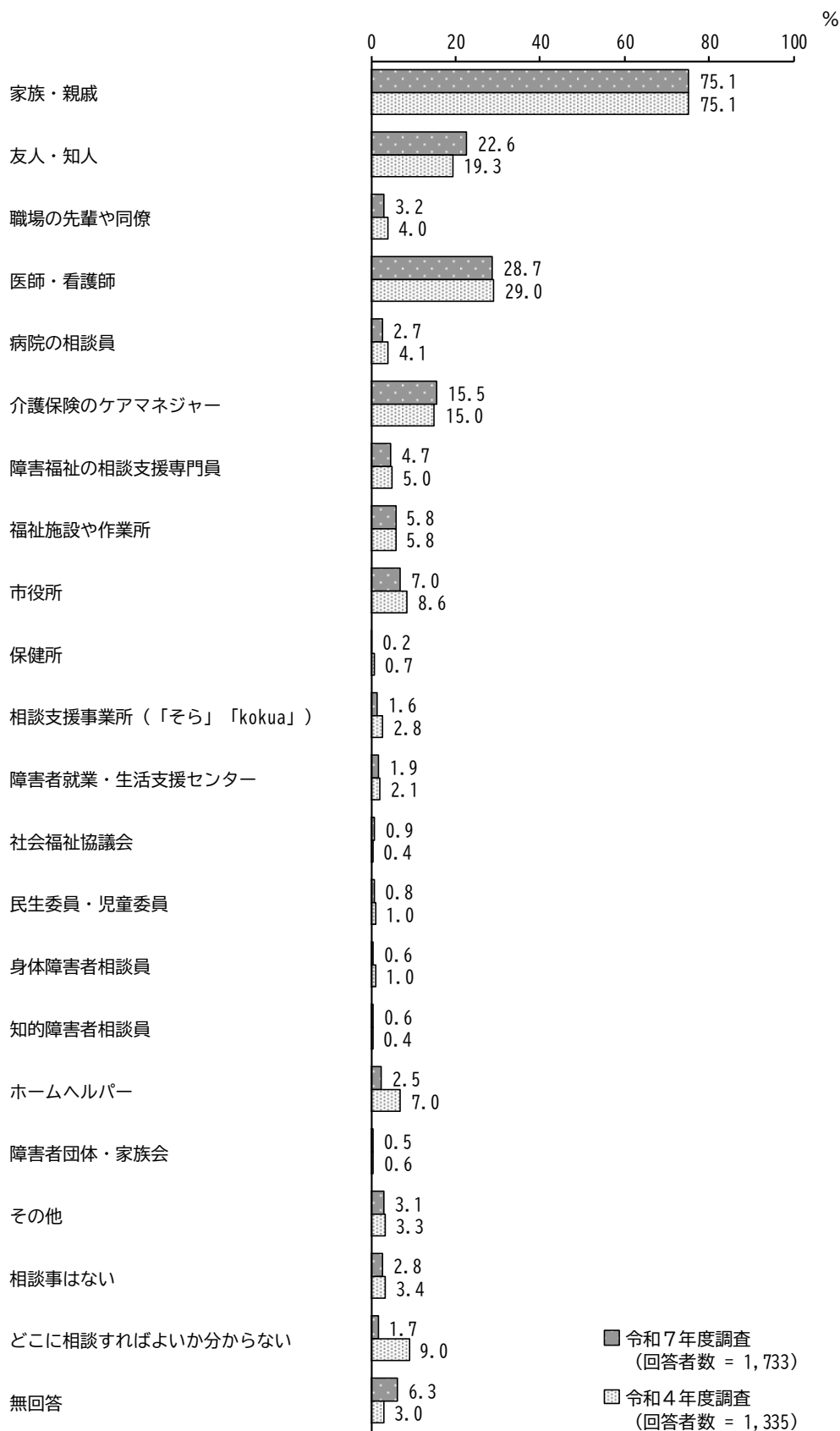
区分	回答者数 (件)	介護サ ービスの こと	と 出 産や子 育ての こと	教育の こと	仕事 のこと	就職 のこと	生活 費など 経済 的な こと	金銭 管理 のこと	薬の 管理 のこと	余暇 の過 ごし 方	情報 やコ ミュ ニ ケ ー シ ョ ン の 取 り 方
全 体	1,733	14.5	1.4	1.1	9.6	5.7	33.6	11.9	6.2	9.8	8.7
身体	1,205	16.3	0.2	0.4	4.9	2.1	28.8	4.6	3.7	7.1	6.4
知的	212	13.2	1.9	1.4	14.6	7.1	26.9	32.5	11.8	25.5	16.0
精神	245	7.3	7.3	4.5	29.4	23.3	61.6	30.2	14.3	10.2	14.3

区分	自 分 の 障 害 や 健 康 の こ と	家 族 な ど 介 助 者 の 健 康 の こ と	家 族 と の 関 係	知 人・ 友 人 と の 人 間 関 係	周 囲 の 理 解 が 得 ら れ な い こ と	介 護 者 が い な く な っ た 時 の こ と	相 談 で き る と こ ろ (人) が な い こ と	そ の 他	特 に 困 っ て い る こ と は な い	無 回 答
全 体	46.4	26.4	10.0	6.2	5.3	25.5	8.5	2.2	16.3	5.9
身体	48.1	26.3	7.8	3.5	2.3	23.8	6.0	1.8	18.7	6.7
知的	29.7	25.0	6.1	12.3	10.8	39.6	14.2	1.9	12.7	5.2
精神	55.1	28.2	23.3	15.1	15.1	22.4	15.9	3.7	9.4	2.9

問13 あなたが悩みや困ったことを相談するのは誰（どこ）ですか。（3つまでに○）

「家族・親戚」の割合が75.1%と最も高く、次いで「医師・看護師」の割合が28.7%、「友人・知人」の割合が22.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「どこに相談すればよいかわからない」の割合が7.3ポイント減少し、1.7%となっています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、全区分で「家族・親戚」の割合が最も高くなっています。次いで、身体と精神で「医師・看護師」、知的で「福祉施設や作業所」の割合が高くなっています。

単位：％

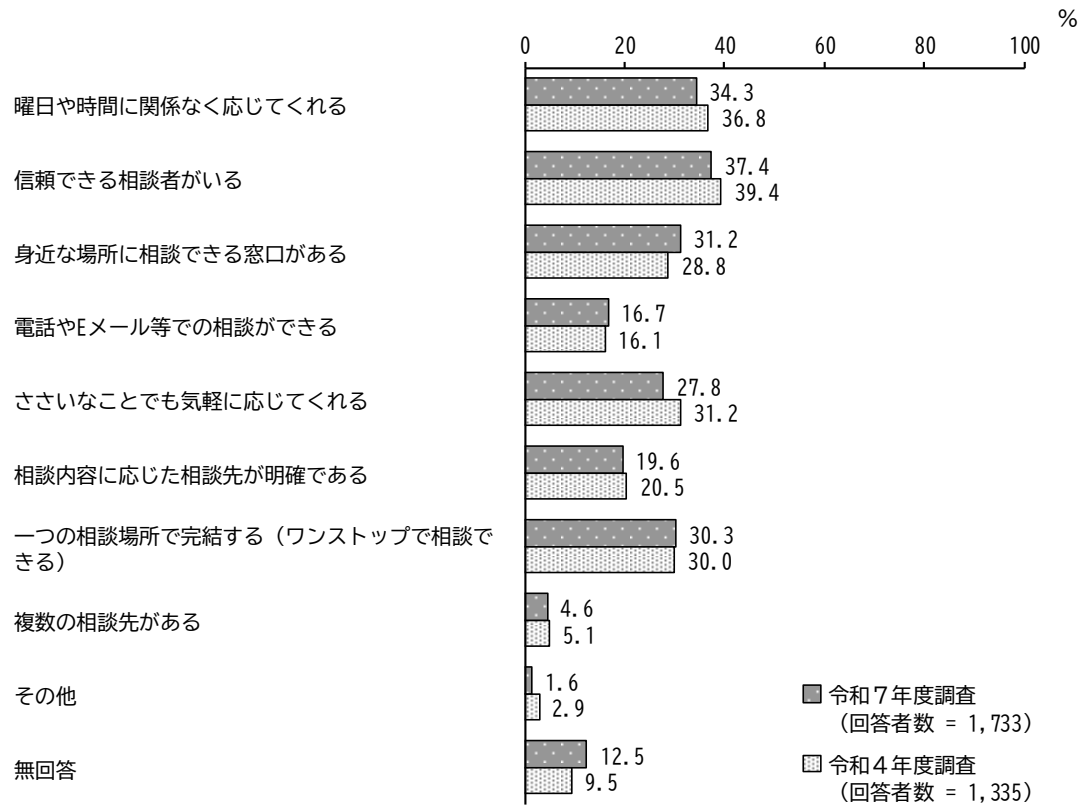
区分	回答者数 (件)	家族・親戚	友人・知人	職場の先輩や同僚	医師・看護師	病院の相談員	介護保険のケアマネジャー	障害福祉の相談支援専門員	福祉施設や作業所	市役所	保健所	相談支援事業所 (「KOKU」「Kokua」)
全 体	1,733	75.1	22.6	3.2	28.7	2.7	15.5	4.7	5.8	7.0	0.2	1.6
身体	1,205	77.8	24.6	2.0	28.4	2.1	19.9	2.2	0.8	7.1	0.2	0.2
知的	212	69.8	13.2	8.5	9.4	0.5	0.9	16.5	34.9	6.1	0.0	10.4
精神	245	67.3	23.3	5.7	48.2	6.9	4.1	6.9	5.3	7.8	0.4	0.8

区分	障害者就業・生活支援センター	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	身体障害者相談員	知的障害者相談員	ホームヘルパー	障害者団体・家族会	その他	相談事はない	どこに相談すればよいか分からない	無回答
全 体	1.9	0.9	0.8	0.6	0.6	2.5	0.5	3.1	2.8	1.7	6.3
身体	0.7	0.8	1.0	0.7	0.1	2.4	0.4	2.6	3.0	1.7	5.3
知的	7.1	0.5	0.0	0.0	3.3	2.8	0.5	3.3	3.3	1.4	5.7
精神	3.7	1.6	0.4	0.4	0.4	2.0	0.8	5.7	1.2	2.9	10.2

問 14 行政や専門機関で、相談しやすい体制をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまでに○）

「信頼できる相談者がいる」の割合が 37.4%と最も高く、次いで「曜日や時間に関係なく応じてくれる」の割合が 34.3%、「身近な場所に相談できる窓口がある」の割合が 31.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、全区分で「信頼できる相談者がいる」の割合が最も高くなっています。次いで、全区分で「曜日や時間に関係なく応じてくれる」、身体で「身近な場所に相談できる窓口がある」の割合が高くなっています。

単位：％

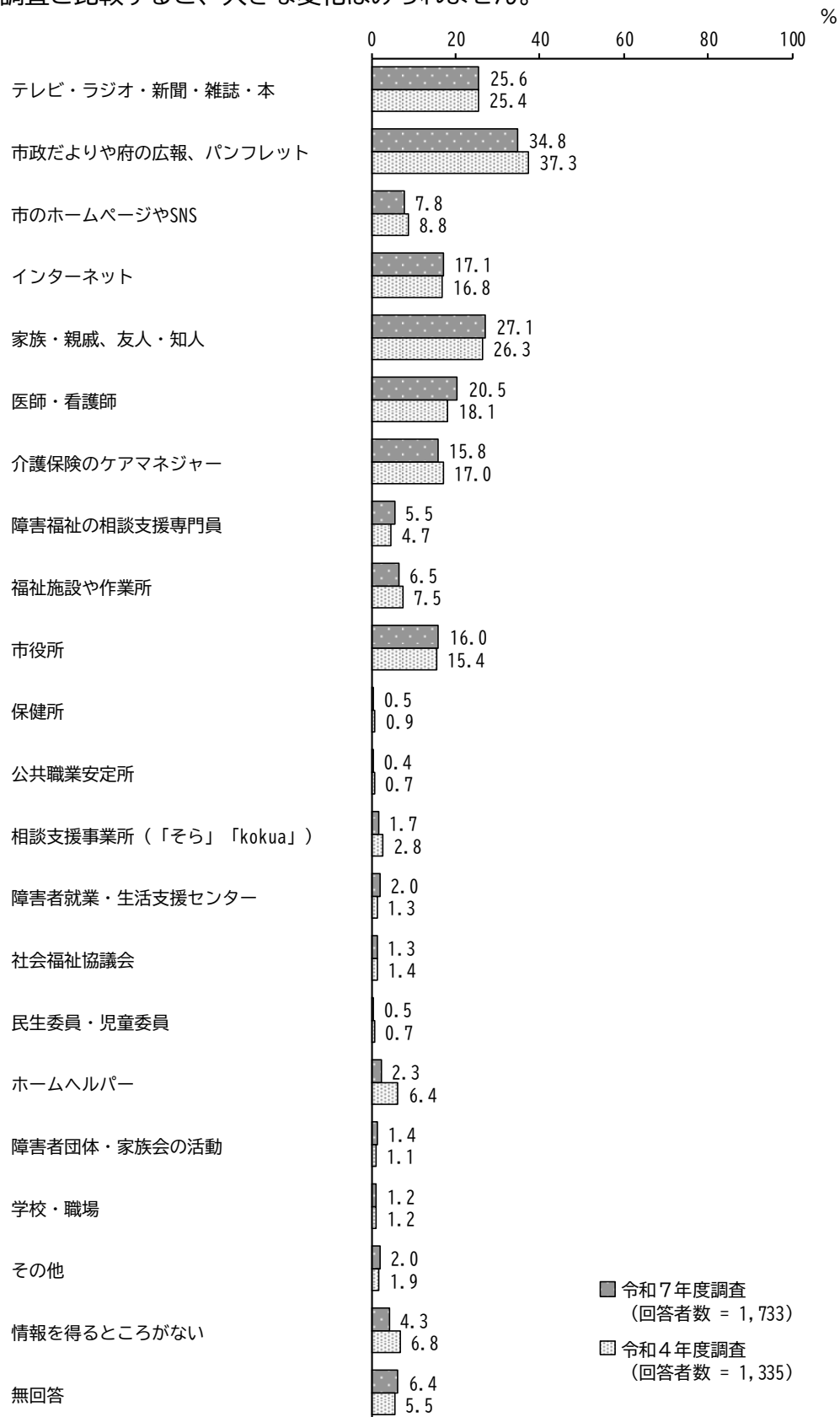
区分	回答者数（件）	曜日や時間に関係なく応じてくれる	信頼できる相談者がいる	身近な場所に相談できる窓口がある	電話やEメール等での相談ができる	ささいなことでも気軽に応じてくれる	相談内容に応じた相談先が明確である	一つの相談場所で完結する（ワンストップで相談できる）	複数の相談先がある	その他	無回答
全 体	1,733	34.3	37.4	31.2	16.7	27.8	19.6	30.3	4.6	1.6	12.5
身体	1,205	33.4	34.9	33.4	16.9	25.9	20.0	31.5	3.1	1.5	12.0
知的	212	37.7	44.8	30.2	9.0	32.5	18.9	31.6	8.0	1.4	11.8
精神	245	39.2	43.3	21.2	23.7	32.7	20.0	24.5	8.2	2.4	13.1

5. 情報の入手について

問 15 あなたは障害のことや福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。
(3つまでに○)

「市政だよりや府の広報、パンフレット」の割合が34.8%と最も高く、次いで「家族・親戚、友人・知人」の割合が27.1%、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・本」の割合が25.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「市政だよりや府の広報、パンフレット」、知的で「家族・親戚、友人・知人」「福祉施設や作業所」、精神で「医師・看護師」の割合が高くなっています。

単位：％

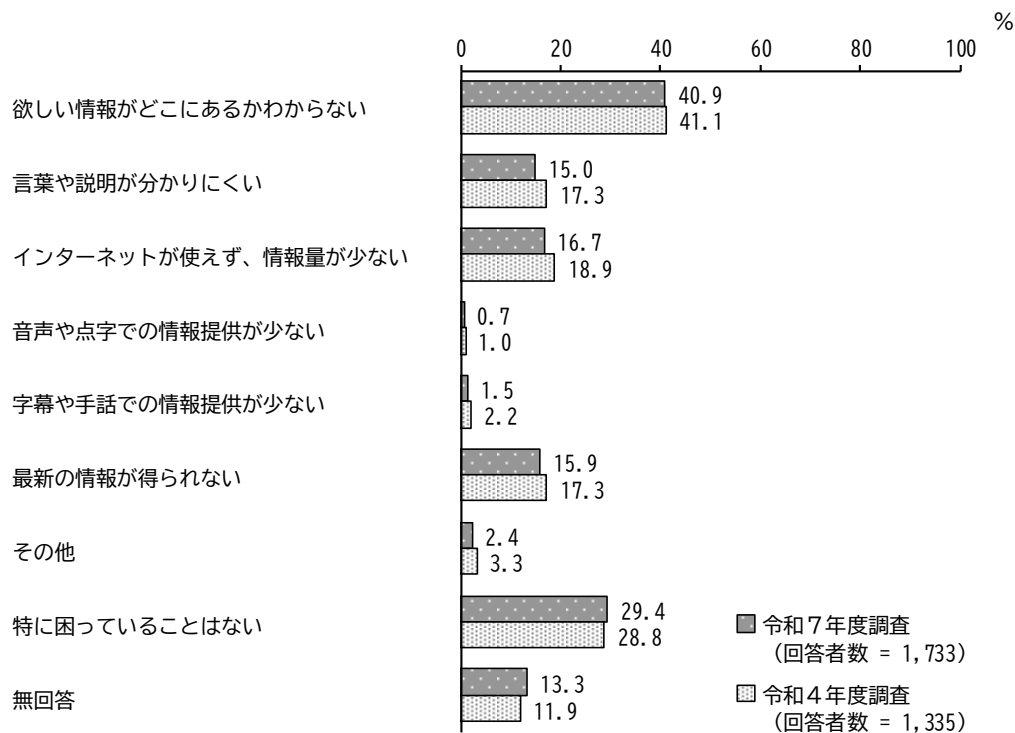
区分	回答者数 (件)	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・本	市政だよりや府の広報、パンフレット	市のホームページやSNS	インターネット	家族・親戚、友人・知人	医師・看護師	介護保険のケアマネジャー	障害福祉の相談支援専門員	福祉施設や作業所	市役所	保健所
全 体	1,733	25.6	34.8	7.8	17.1	27.1	20.5	15.8	5.5	6.5	16.0	0.5
身体	1,205	28.8	40.7	7.7	15.4	26.9	20.0	19.8	2.8	1.2	17.1	0.7
知的	212	12.7	18.4	2.8	11.3	38.7	7.5	2.4	17.5	38.7	12.7	0.0
精神	245	23.3	21.6	13.5	32.2	19.6	35.5	4.5	8.2	5.7	13.1	0.0

区分	公共職業安定所	相談支援事業所（「ココロ」）	障害者就業・生活支援センター	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	ホームヘルパー	障害者団体・家族会の活動	学校・職場	その他	情報を得るところがない	無回答
全 体	0.4	1.7	2.0	1.3	0.5	2.3	1.4	1.2	2.0	4.3	6.4
身体	0.2	0.4	0.7	1.7	0.6	2.4	1.0	0.7	1.9	3.9	6.4
知的	0.0	8.5	6.1	0.5	0.0	2.4	4.2	3.3	2.4	4.2	7.1
精神	1.2	2.0	4.5	0.8	0.0	1.2	1.2	2.0	2.9	5.3	4.5

問 16 福祉等に関する情報の入手について、あなたが困っていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「欲しい情報がどこにあるかわからない」の割合が 40.9%と最も高く、次いで「インターネットが使えず、情報量が少ない」の割合が 16.7%、「最新の情報が得られない」の割合が 15.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、全区分で「欲しい情報がどこにあるかわからない」が最も割合が高くなっています。次いで、身体と精神では「特に困っていることはない」が多く、身体で「インターネットが使えず、情報量が少ない」、知的と精神で「言葉や説明が分かりにくい」の割合が高くなっています。

単位：%

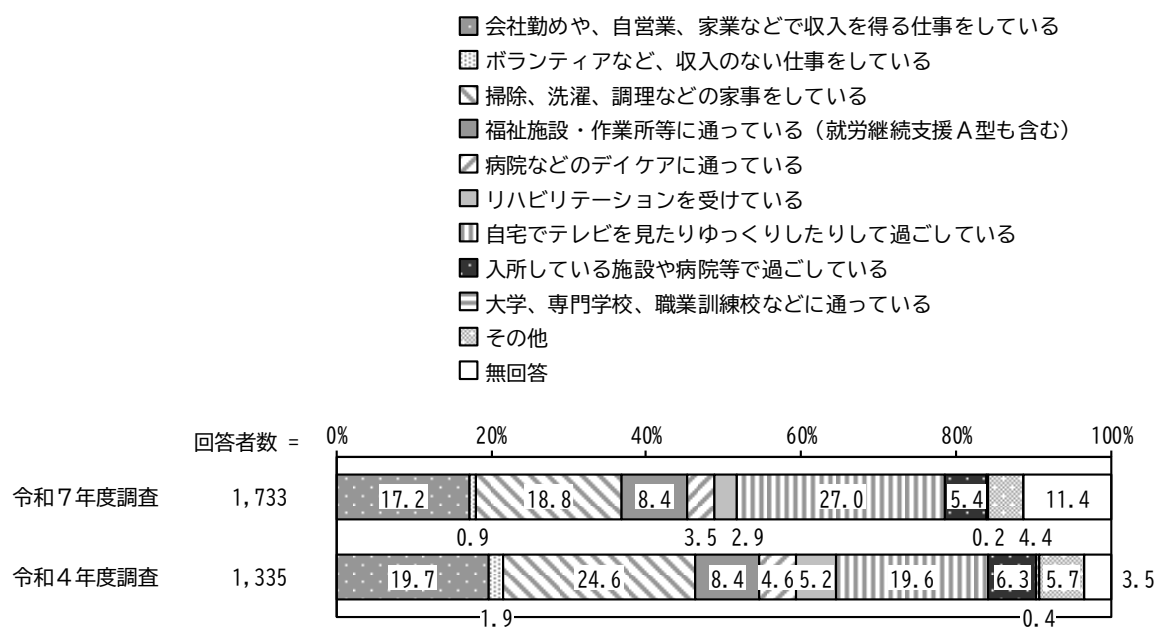
区分	回答者数(件)	欲しい情報がどこにあるかわからない	言葉や説明が分かりにくい	インターネットが使えず、情報量が少ない	音声や点字での情報提供が少ない	字幕や手話での情報提供が少ない	最新の情報が得られない	その他	特に困っていることはない	無回答
全 体	1,733	40.9	15.0	16.7	0.7	1.5	15.9	2.4	29.4	13.3
身体	1,205	38.8	11.1	18.8	0.7	1.9	15.9	1.8	31.5	14.3
知的	212	42.0	30.7	13.7	1.4	1.4	13.2	4.7	23.6	11.8
精神	245	50.2	21.2	8.6	0.0	0.0	18.8	4.1	25.7	8.2

6. 日中の過ごし方や就労について

問 17 あなたは平日の日中を主にどのように過ごしていますか。（1 つに○）

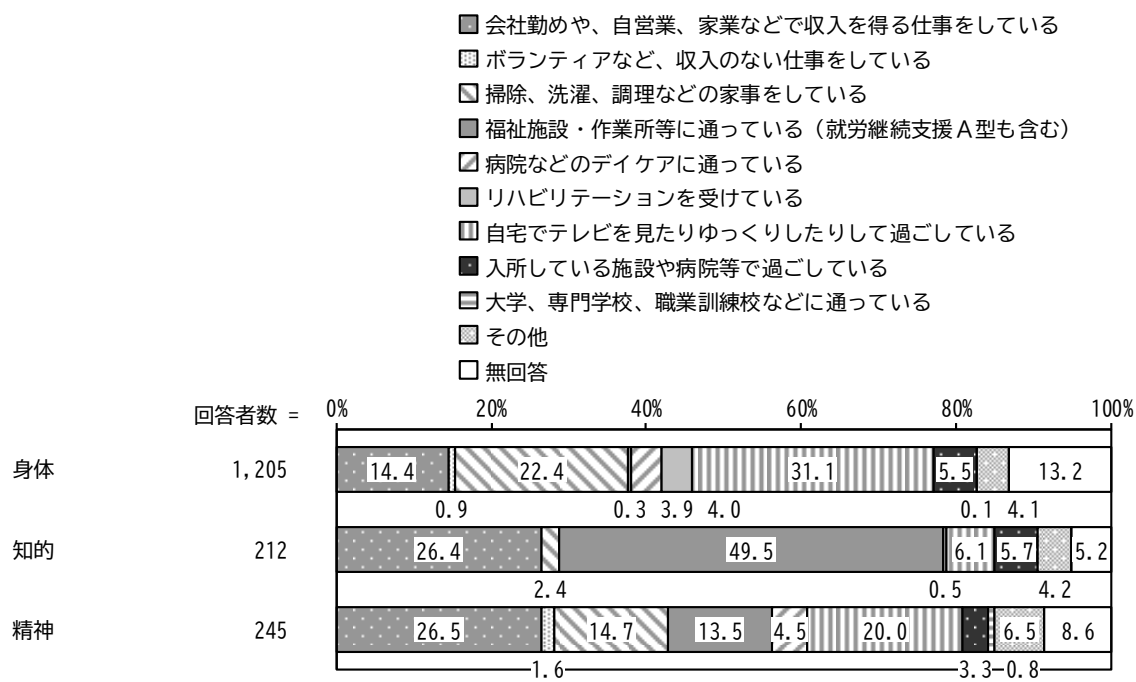
「自宅でテレビを見たりゆっくりしたりして過ごしている」の割合が 27.0%と最も高く、次いで「掃除、洗濯、調理などの家事をしている」の割合が 18.8%、「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている」の割合が 17.2%となっています。

令和 4 年度調査と比較すると、「自宅でテレビを見たりゆっくりしたりして過ごしている」の割合が増加しています。一方、「掃除、洗濯、調理などの家事をしている」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

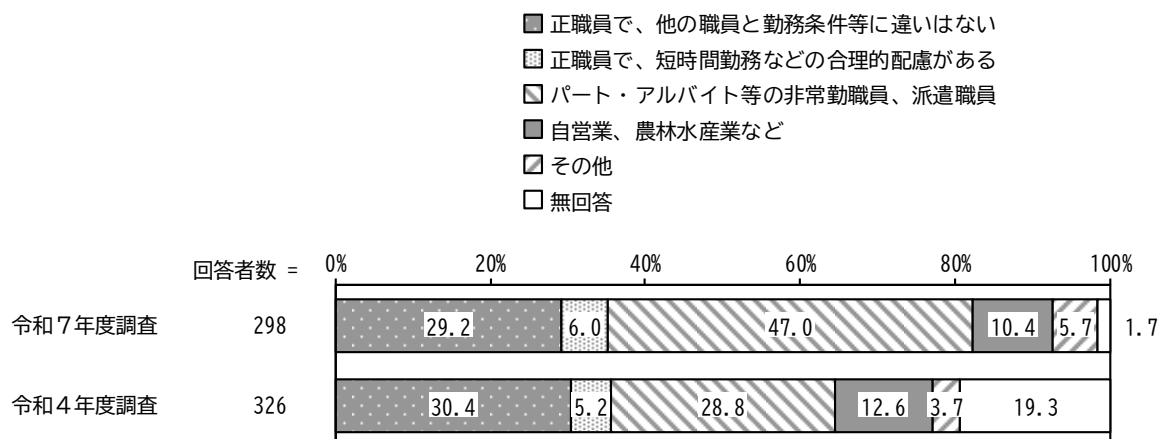
手帳種類別にみると、知的、精神で「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている」、知的で「福祉施設・作業所等に通っている（就労継続支援 A 型も含む）」の割合が高く、知的で「掃除、洗濯、調理などの家事をしている」「自宅でテレビを見たりゆっくりしたりして過ごしている」の割合が低くなっています。



問 18 【問 17 で「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている」を選択された方にお聞きします】
どのような雇用形態で働いていますか。（1 つに○）

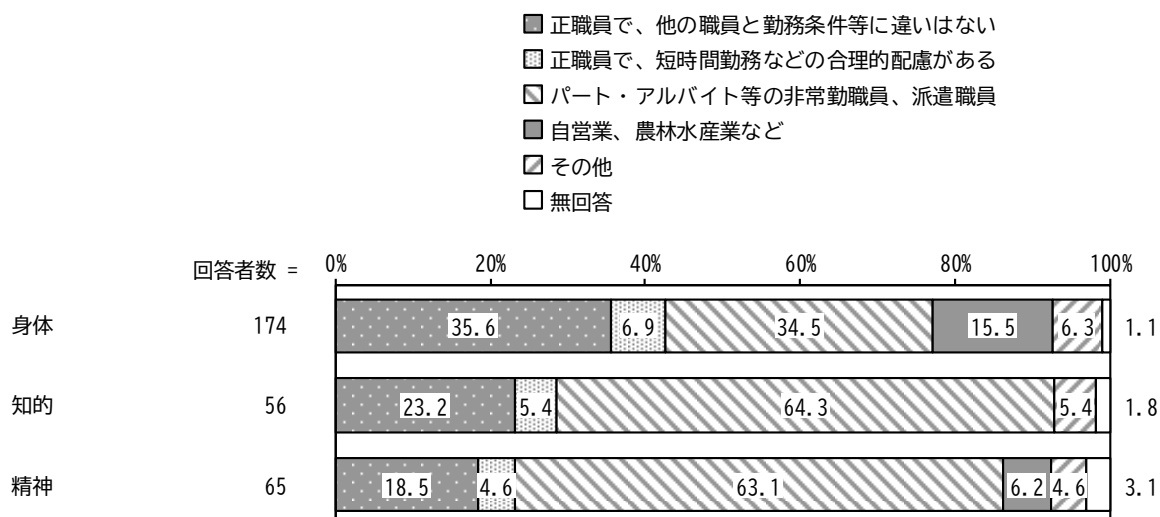
「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」の割合が 47.0%と最も高く、次いで「正職員で、他の職員と勤務条件等に違いはない」の割合が 29.2%、「自営業、農林水産業など」の割合が 10.4%となっています。

令和 4 年度調査と比較すると、「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」の割合が 18.2 ポイント増加しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「正職員で、他の職員と勤務条件等に違いはない」の割合が最も高い一方、知的、精神では「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」の割合が高く、精神では「正職員で、他の職員と勤務条件等に違いはない」の割合が低くなっています。

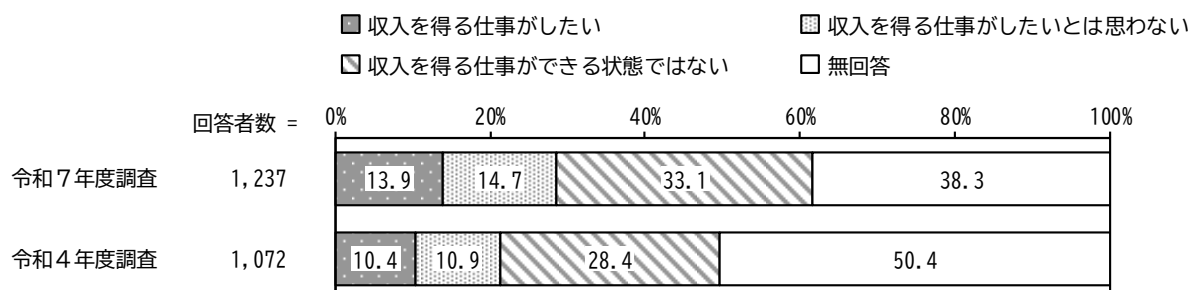


問 19 【問 17 で「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている」以外を選択された方にお聞きします】

あなたは、今後、収入を得る仕事（福祉就労以外）をしたいと思いますか。（1 つに○）

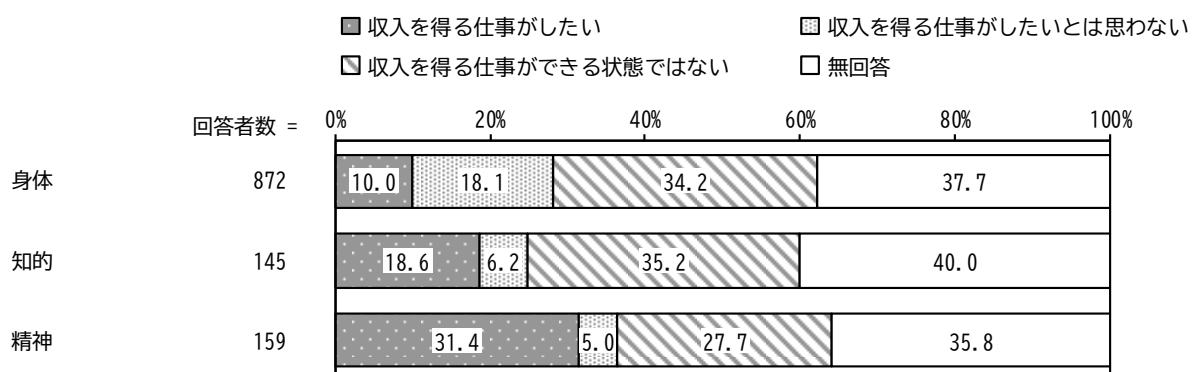
「収入を得る仕事がしたい」の割合が 13.9%、「収入を得る仕事がしたいとは思わない」の割合が 14.7%、「収入を得る仕事ができる状態ではない」の割合が 33.1%となっています。

令和 4 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、精神で「収入を得る仕事がしたい」の割合が高くなっています。

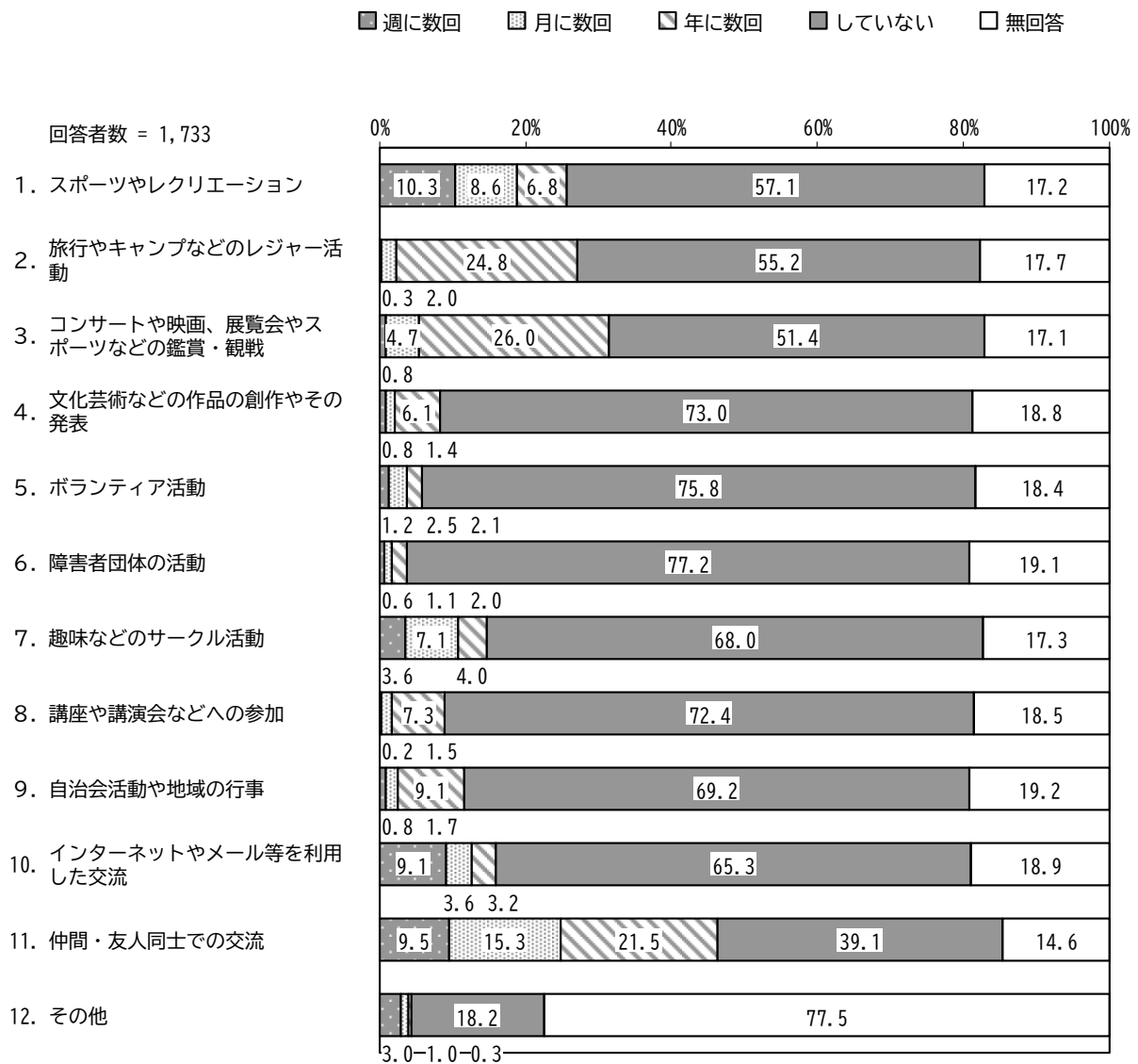


7. 地域・社会活動について

問 20 あなたは仕事や学業以外の活動として、次の1～12のことを（１）現在、どれくらいの頻度でしていますか。また、（２）今後、したいですか。（現在していることも含めて）

（１）現在の状況（それぞれの項目につき１つに○）

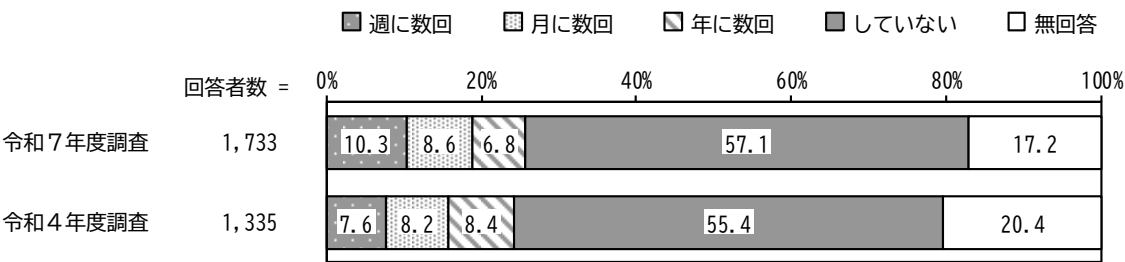
『1. スポーツやレクリエーション』で「週に数回」が、『11. 仲間・友人同士での交流』で「月に数回」が、『3. コンサートや映画、展覧会やスポーツなどの鑑賞・観戦』で「年に数回」が、『6. 障害者団体の活動』で「していない」が高くなっています。



1. スポーツやレクリエーション

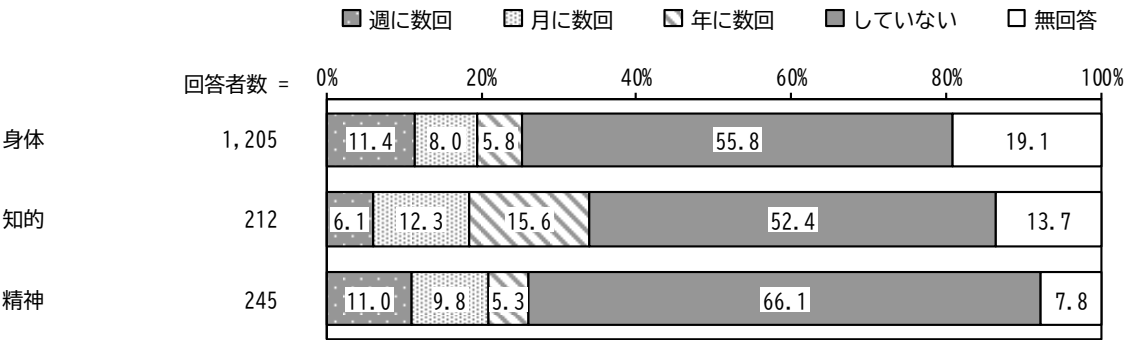
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「週に数回」「月に数回」「年に数回」を合わせた“している”の割合が増加しています。



【手帳種類別】

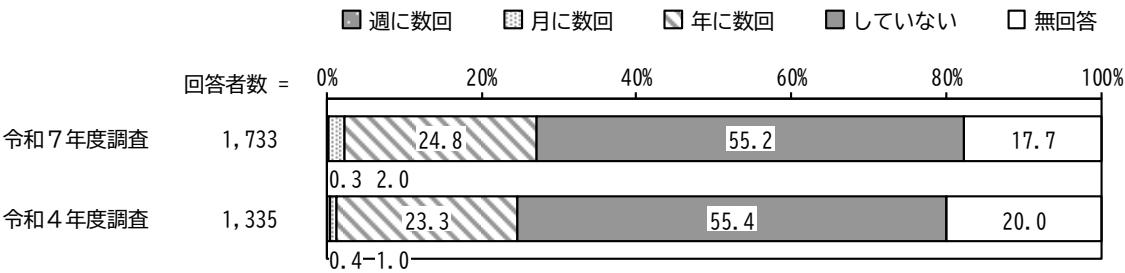
手帳種類別にみると、知的において“している”の割合が高くなっています。



2. 旅行やキャンプなどのレジャー活動

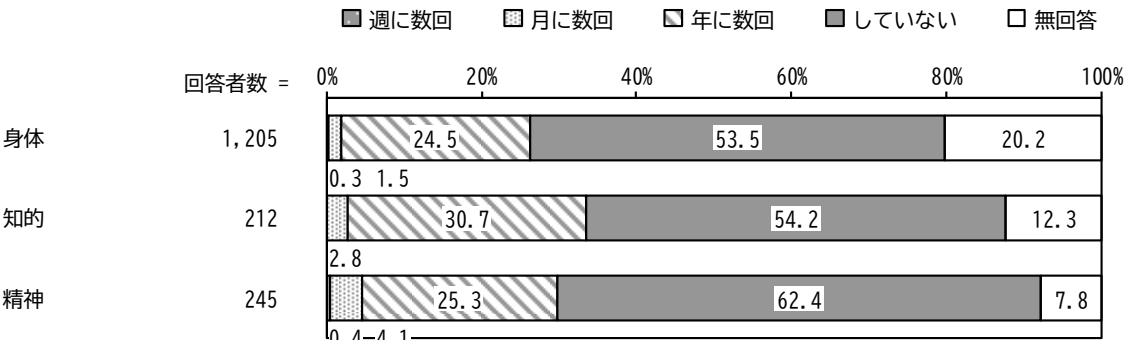
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



【手帳種類別】

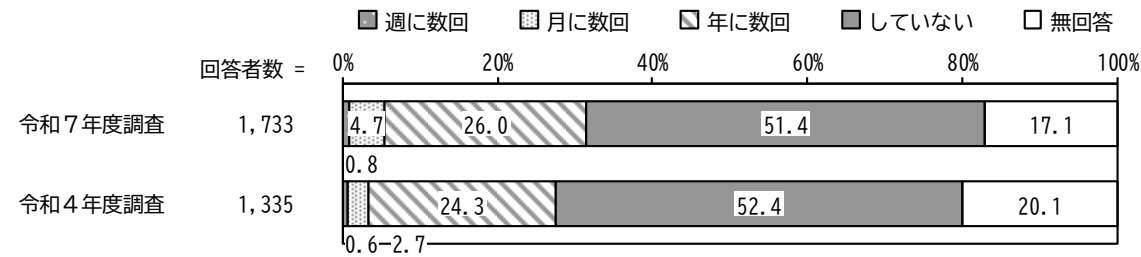
手帳種類別にみると、知的において“している”の割合が高くなっています。



3. コンサートや映画、展覧会やスポーツなどの鑑賞・観戦

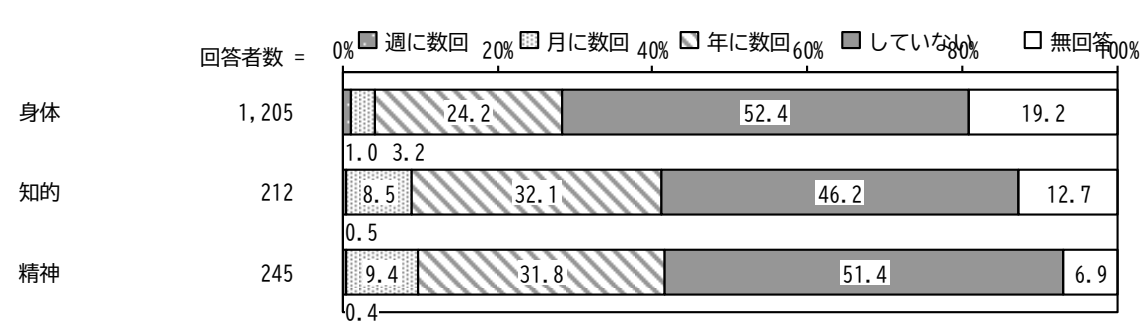
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



【手帳種類別】

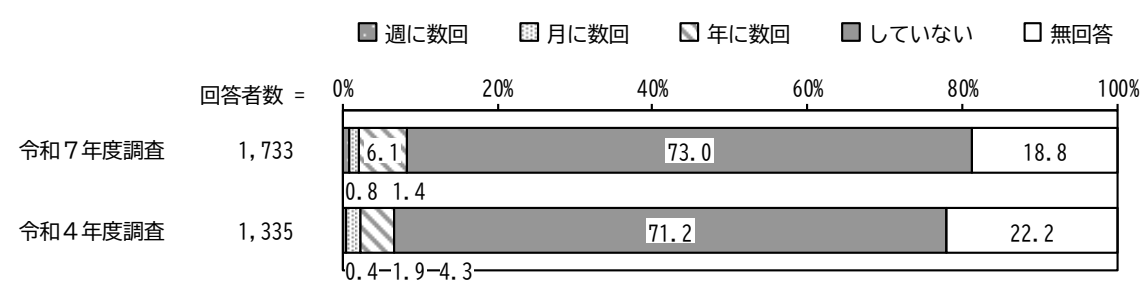
手帳種類別にみると、知的と精神において“している”の割合が高くなっています。



4. 文化芸術などの作品の創作やその発表

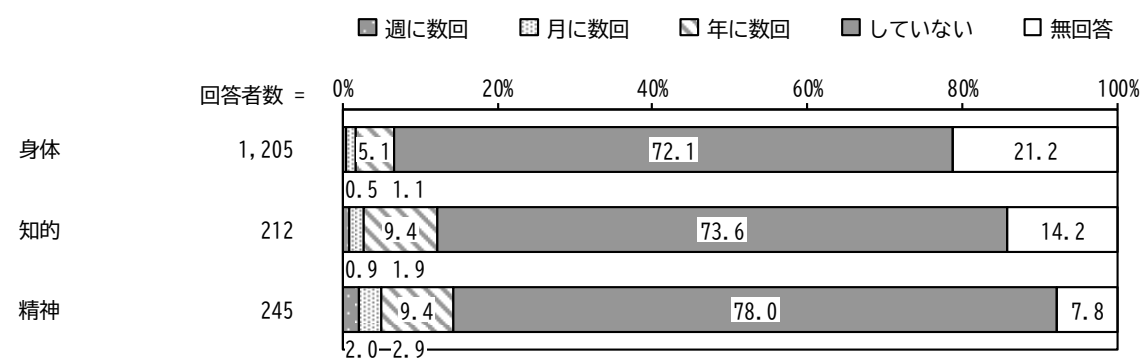
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



【手帳種類別】

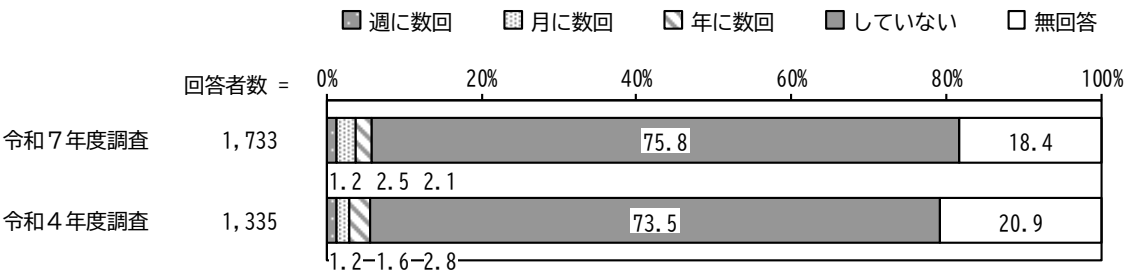
手帳種類別にみると、知的と精神において“している”の割合が高くなっています。



5. ボランティア活動

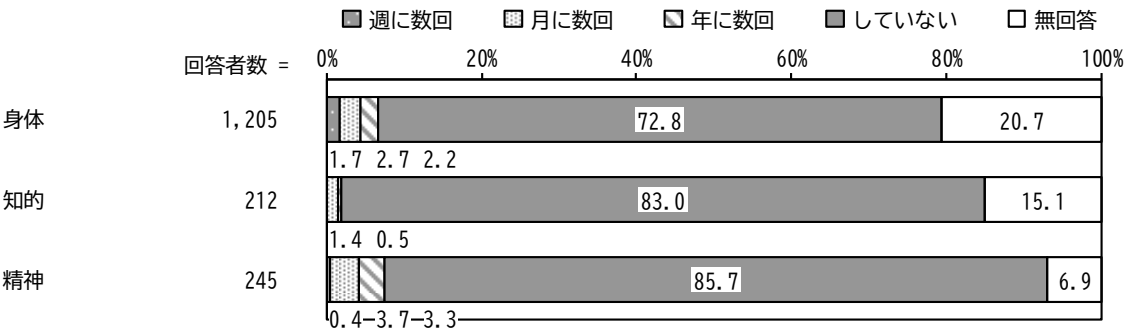
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

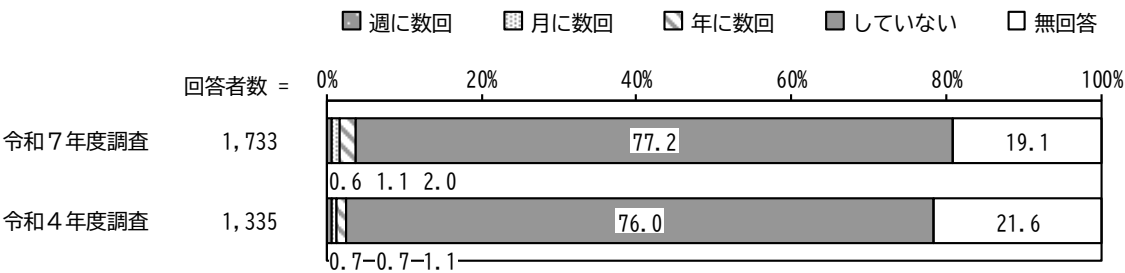
手帳種類別にみると、身体と精神において“している”の割合が高くなっています。



6. 障害者団体の活動

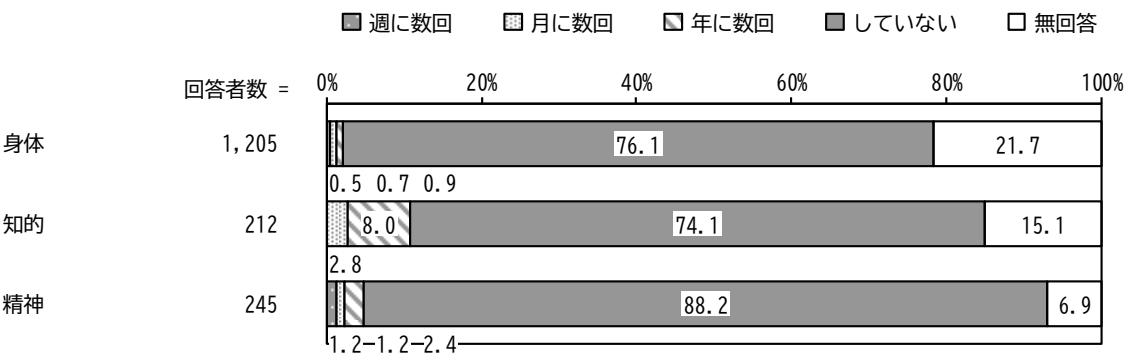
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



【手帳種類別】

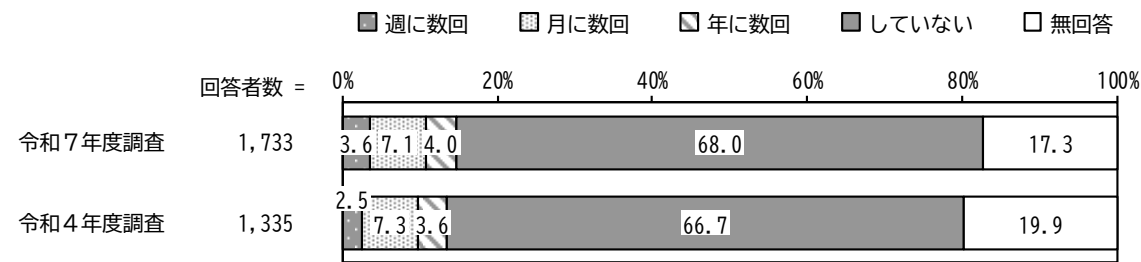
手帳種類別にみると、知的において“している”の割合が高くなっています。



7. 趣味などのサークル活動

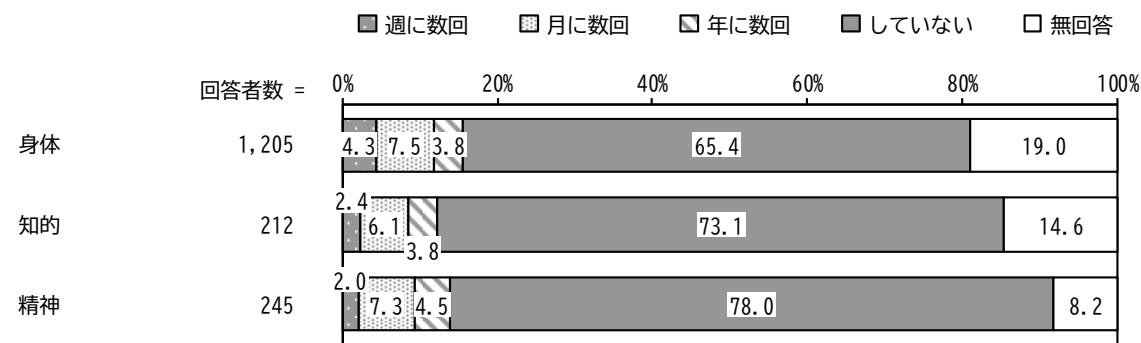
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



【手帳種類別】

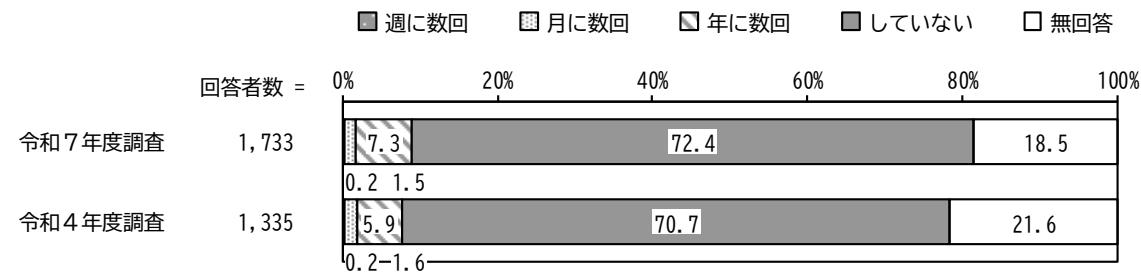
手帳種類別にみると、身体において“している”の割合が若干高くなっています。



8. 講座や講演会などへの参加

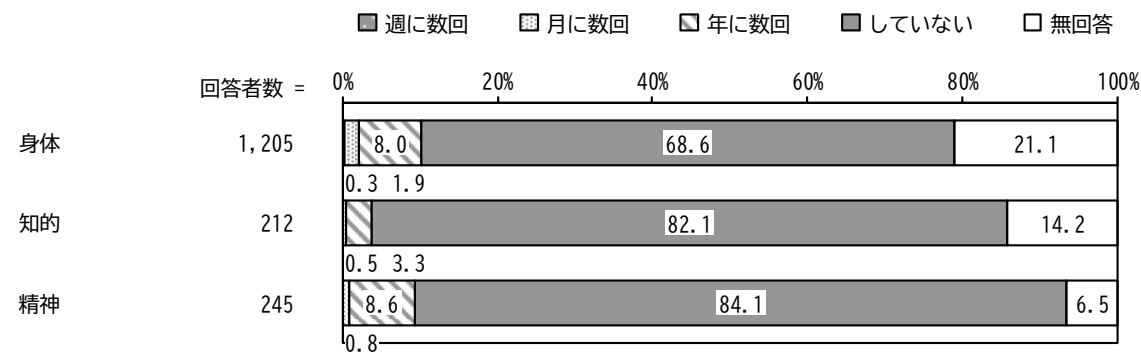
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



【手帳種類別】

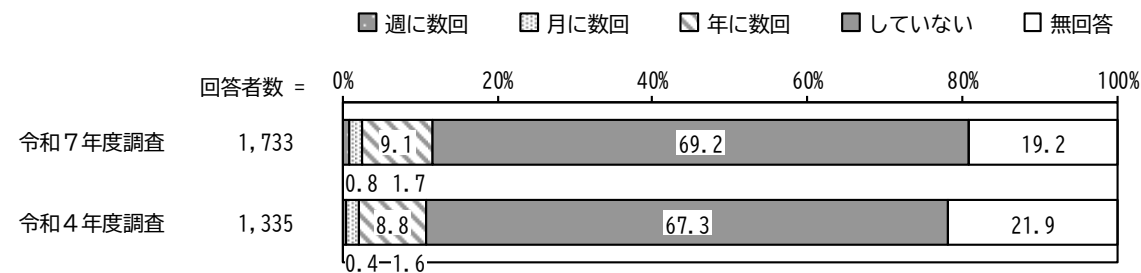
手帳種類別にみると、身体と精神において“している”の割合が高くなっています。



9. 自治会活動や地域の行事

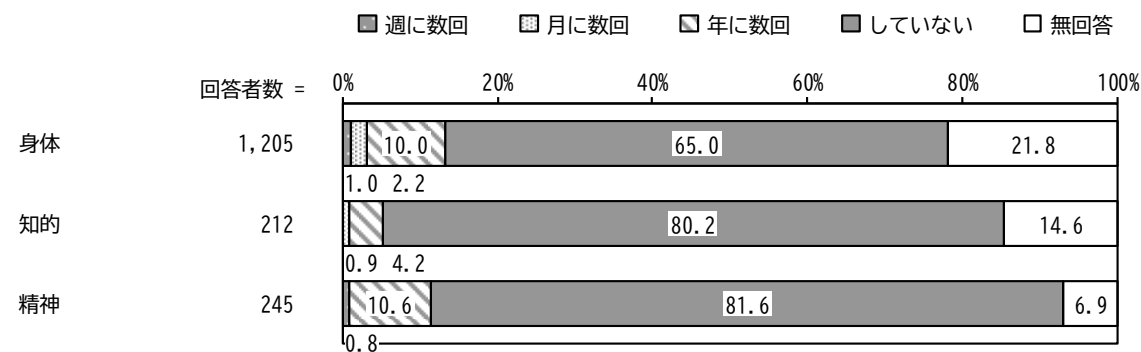
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

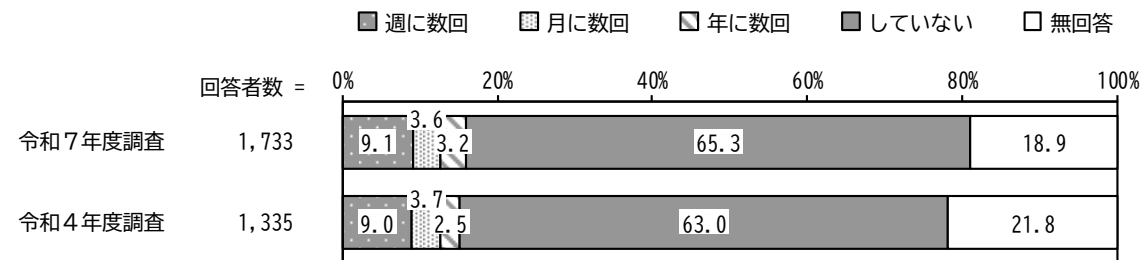
手帳種類別にみると、身体と精神において“している”の割合が高くなっています。



10. インターネットやメール等を利用した交流

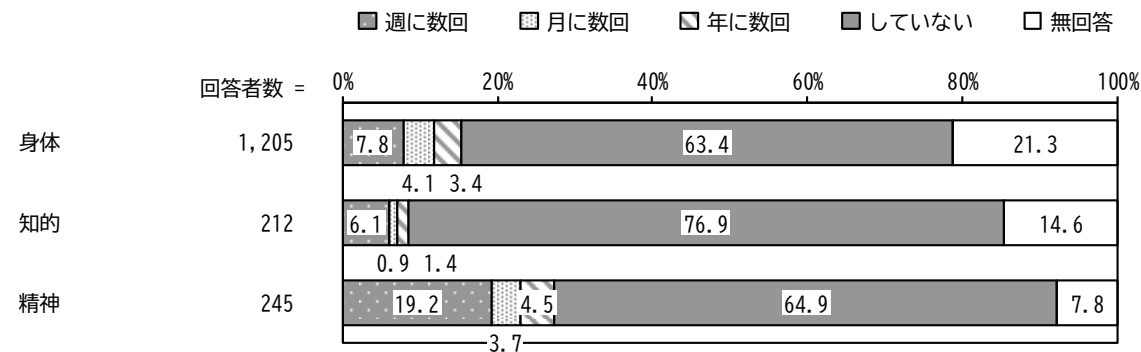
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

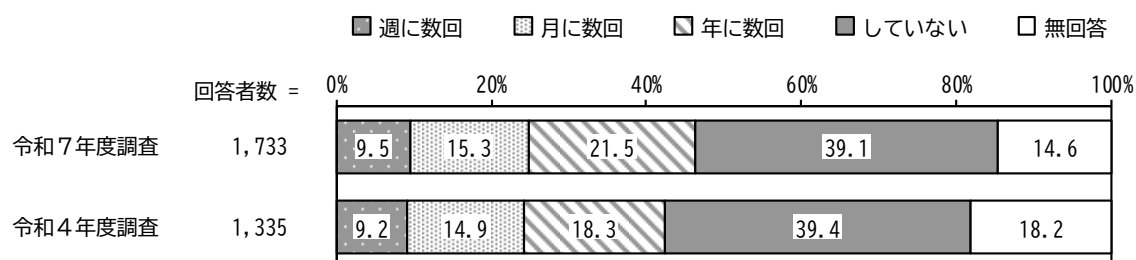
手帳種類別にみると、精神において“している”の割合が高くなっています。



11. 仲間・友人同士での交流

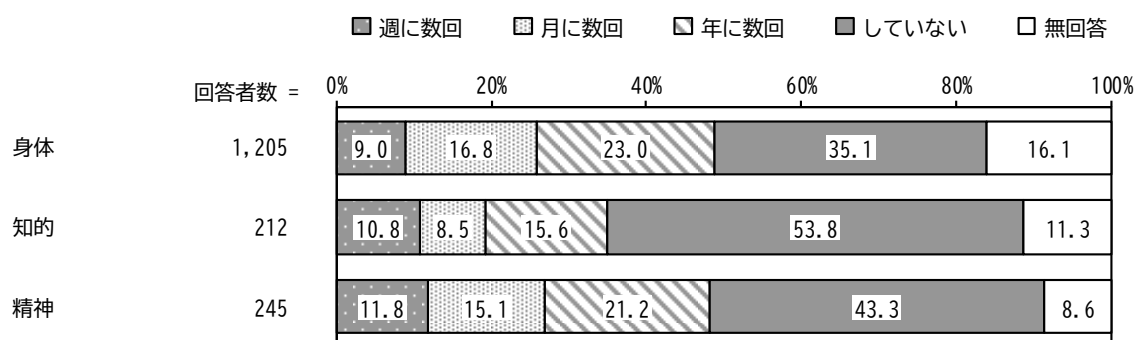
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



【手帳種類別】

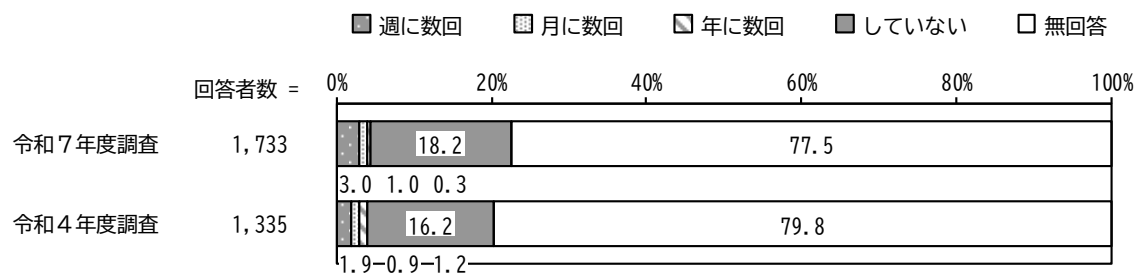
手帳種類別にみると、身体と精神において“している”の割合が高くなっています。



12. その他

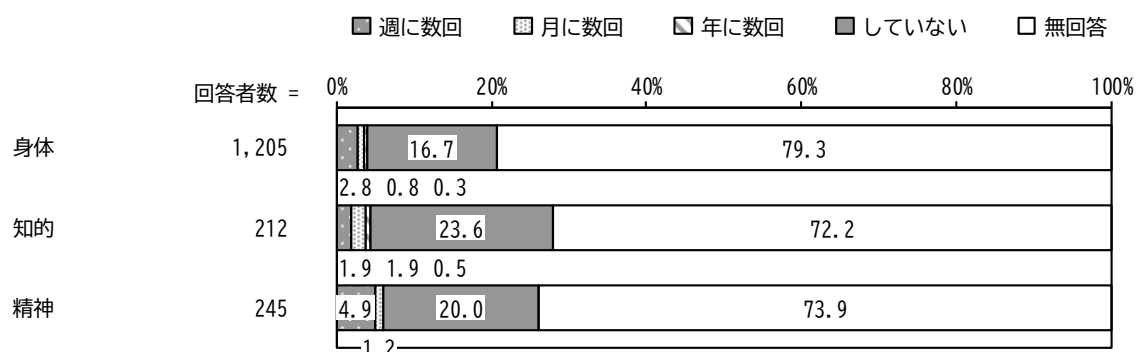
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、精神において“している”の割合が若干高くなっています。

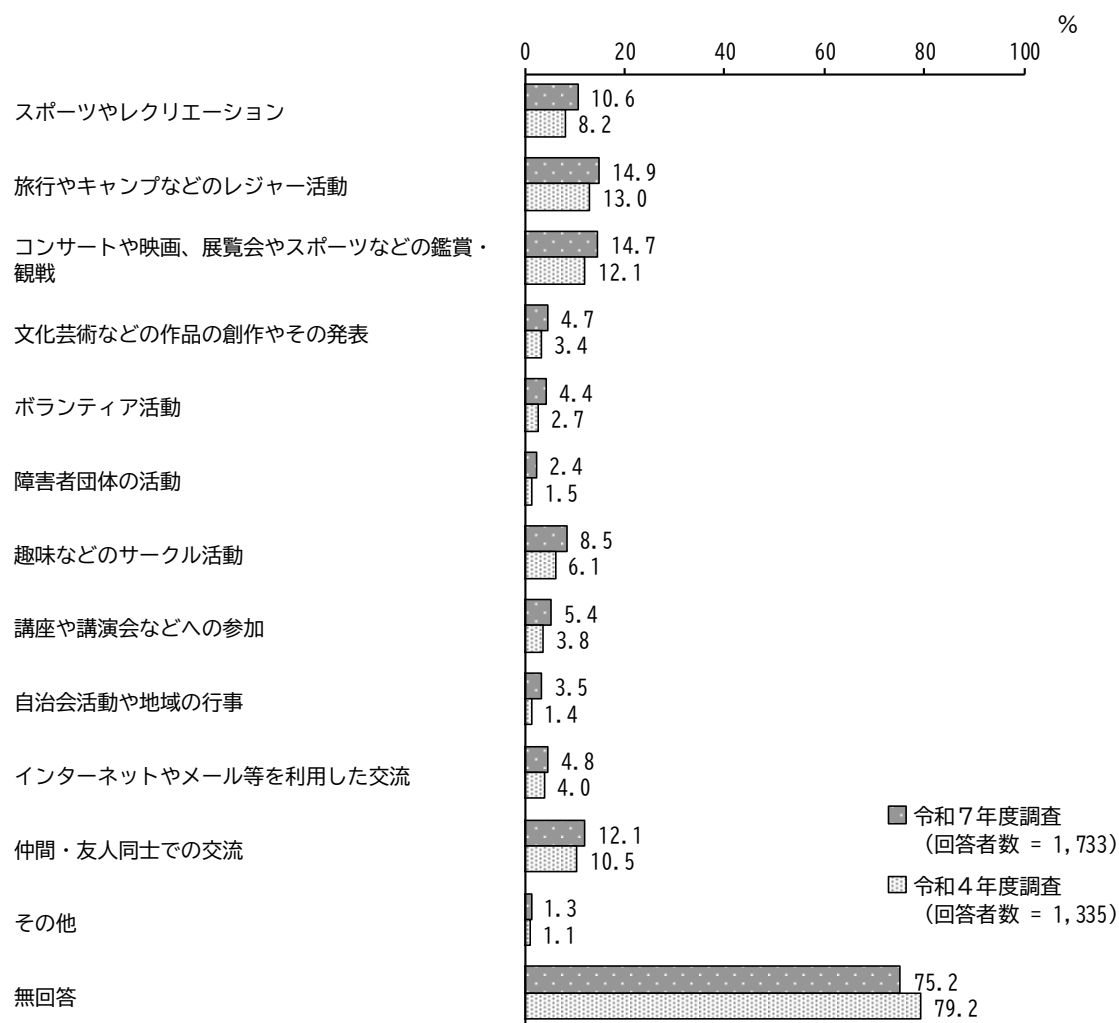


<その他意見> ・ 散歩 ・ 買い物等

(2) 今後したいこと（あてはまるものすべてに○）

「旅行やキャンプなどのレジャー活動」の割合が 14.9%と最も高く、次いで「コンサートや映画、展覧会やスポーツなどの鑑賞・観戦」の割合が 14.7%、「仲間・友人同士での交流」の割合が 12.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「コンサートや映画、展覧会やスポーツなどの鑑賞・観戦」知的、精神で旅行やキャンプなどのレジャー活動」の割合が高くなっています。

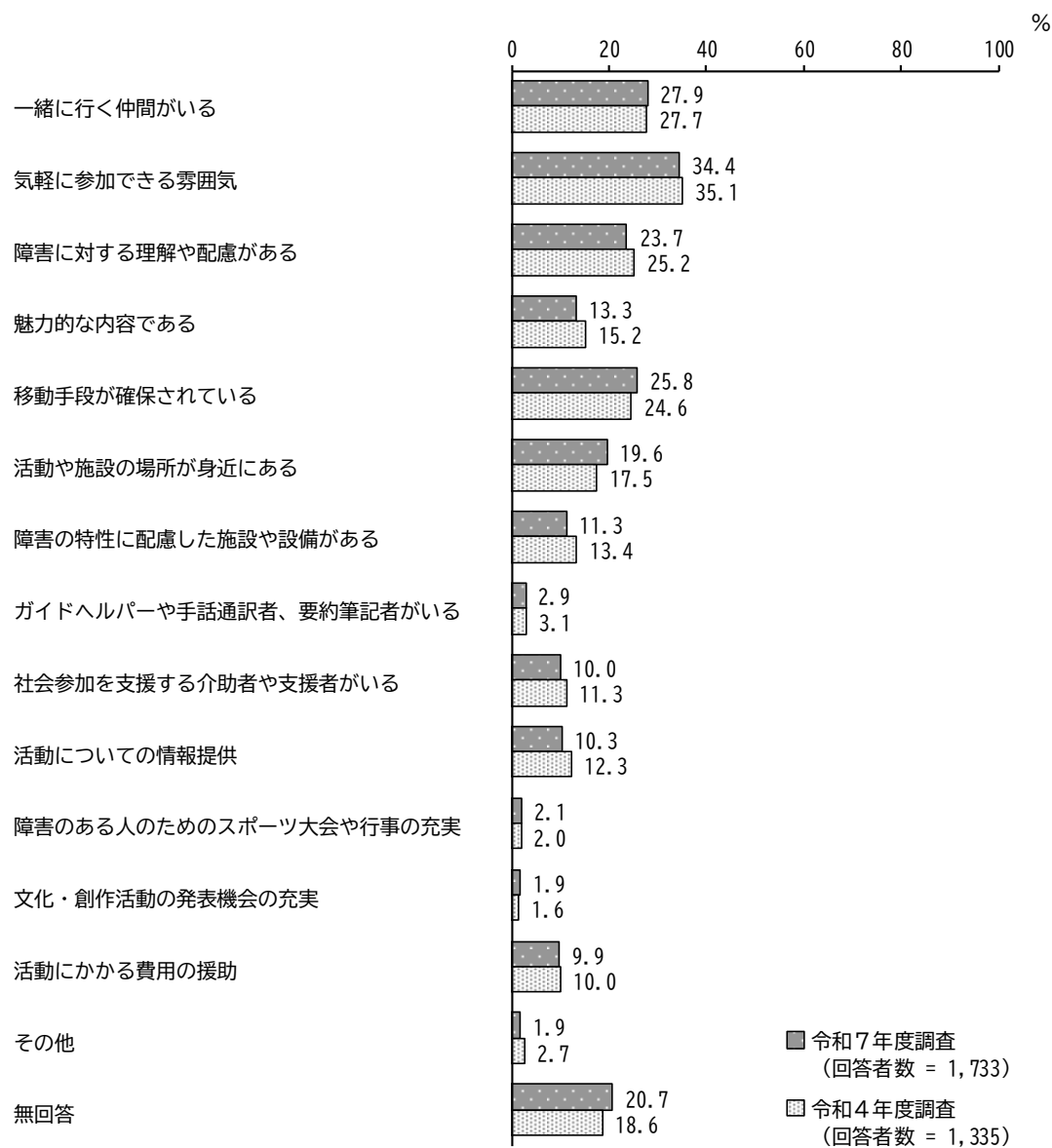
単位：％

区分	回答者数 (件)	スポーツやレクリエーション	旅行やキャンプなどのレジャー活動	コンサートや映画、展覧会やスポーツなどの鑑賞・観戦	文化芸術などの作品の創作やその発表	ボランティア活動	障害者団体の活動	趣味などのサークル活動	講座や講演会などへの参加	自治会活動や地域の行事	インターネットやメール等を利用した交流	仲間・友人同士での交流	その他	無回答
全 体	1,733	10.6	14.9	14.7	4.7	4.4	2.4	8.5	5.4	3.5	4.8	12.1	1.3	75.2
身体	1,205	8.4	12.1	12.3	3.6	4.3	2.0	7.8	5.7	3.5	4.5	10.6	1.4	78.6
知的	212	15.6	21.7	18.4	3.8	2.4	3.3	5.7	1.4	3.8	1.9	11.3	0.5	68.9
精神	245	18.0	24.9	26.5	11.8	7.8	4.5	15.9	7.8	3.7	10.6	22.0	2.0	59.6

問 21 障害のある人が地域・社会活動に参加しやすくなるために、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまでに○）

「気軽に参加できる雰囲気」の割合が 34.4%と最も高く、次いで「一緒に行く仲間がいる」の割合が 27.9%、「移動手段が確保されている」の割合が 25.8%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「気軽に参加できる雰囲気」、知的、精神で「障害に対する理解や配慮がある」の割合が高くなっています。

単位：％

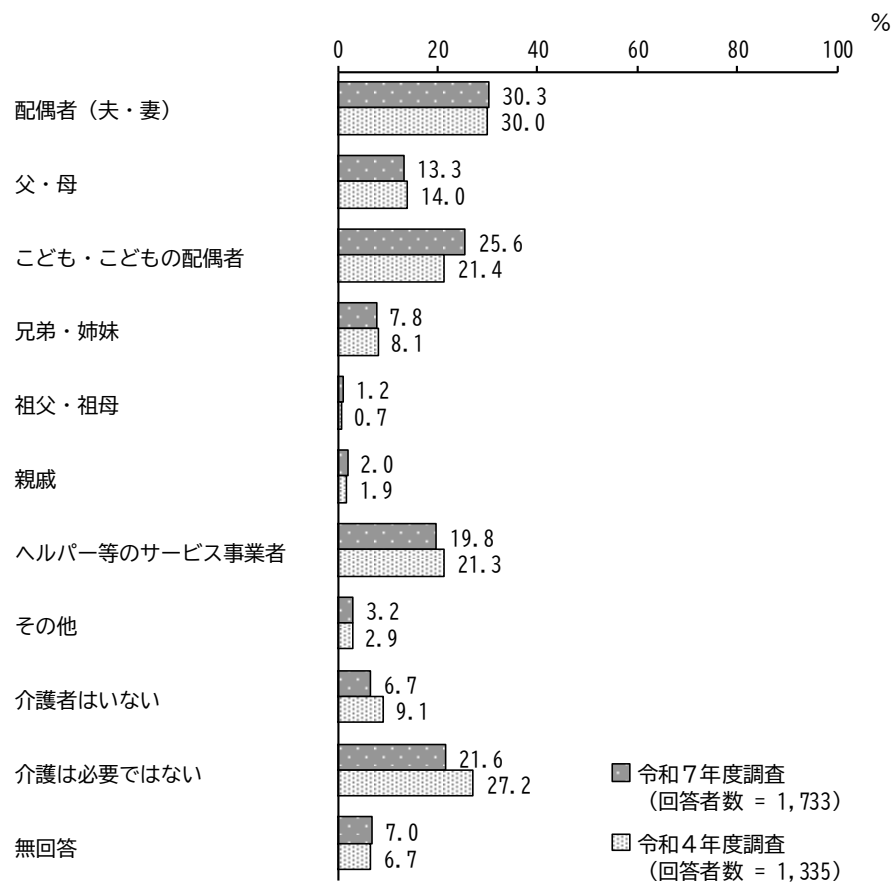
区分	回答者数 (件)	一緒に 行く仲間が いる	気軽に参加できる 雰囲気	障害に対する理解 や配慮がある	魅力的な内容であ る	移動手段が確保さ れている	活動や施設の場所 が身近にある	障害の特性に配慮 した施設や設備が ある
全 体	1,733	27.9	34.4	23.7	13.3	25.8	19.6	11.3
身体	1,205	27.8	35.2	17.4	13.2	29.0	20.8	10.4
知的	212	30.2	29.2	42.0	10.8	16.0	15.6	21.7
精神	245	28.2	35.1	41.6	15.9	20.0	18.0	8.2

区分	ガイドヘルパーや 手話通訳者、要約筆 記者がいる	社会参加を支援す る介助者や支援者 がいる	活動につ いての情 報提供	障害のある人のた めのスポーツ大会 や行事の充実	文化・創作活動の発 表機会の充実	活動にか かる費用 の援助	その他	無回答
全 体	2.9	10.0	10.3	2.1	1.9	9.9	1.9	20.7
身体	2.7	8.3	10.4	1.0	1.8	8.7	2.0	22.1
知的	5.7	21.2	9.0	9.4	1.9	8.5	2.4	12.7
精神	1.6	9.4	12.2	1.2	2.0	18.8	1.6	14.7

8. 介護の状況について

問 22 あなたの介護に関わっているすべての方をお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

「配偶者（夫・妻）」の割合が 30.3%と最も高く、次いで「こども・こどもの配偶者」の割合が 25.6%、
「ヘルパー等のサービス事業者」の割合が 19.8%となっています。
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「配偶者（夫・妻）」、知的、精神で「父・母」の割合が高くなっています。

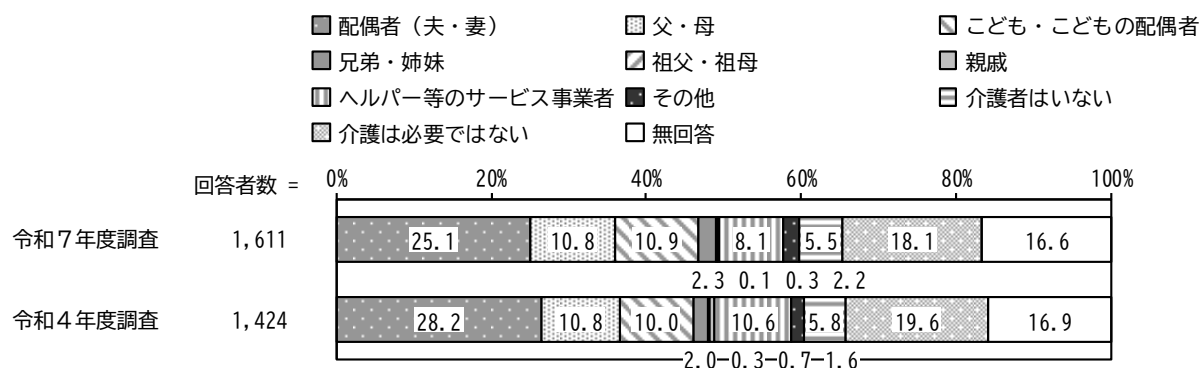
単位：％

区分	回答者数（件）	配偶者（夫・妻）	父・母	こども・こどもの配偶者	兄弟・姉妹	祖父・祖母	親戚	ヘルパー等のサービス事業者	その他	介護者はいない	介護は必要ではない	無回答
全 体	1,733	30.3	13.3	25.6	7.8	1.2	2.0	19.8	3.2	6.7	21.6	7.0
身体	1,205	37.8	2.3	32.3	4.4	0.1	1.5	17.2	2.9	7.1	22.3	7.0
知的	212	2.4	59.9	1.4	22.6	6.1	1.9	33.5	4.2	1.9	17.9	6.6
精神	245	18.0	28.6	9.0	13.1	2.9	4.1	18.4	4.1	8.6	23.3	7.8

問 23 問 22 で回答した人のうち、あなたを主に介護しているのはどなたですか。
(1つに○)

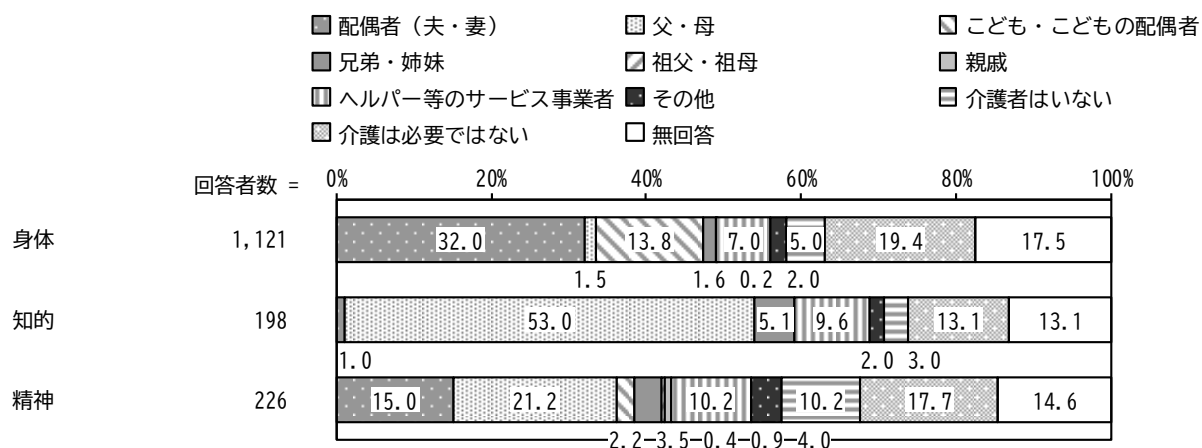
「配偶者(夫・妻)」の割合が25.1%と最も高く、次いで「こども・こどもの配偶者」の割合が10.9%、「父・母」の割合が10.8%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

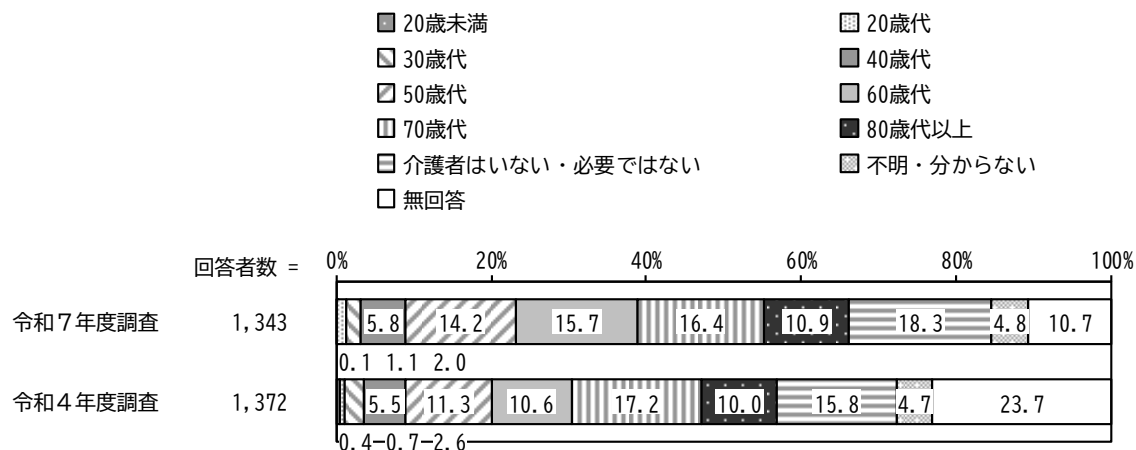
手帳種類別にみると、身体で「配偶者(夫・妻)」、知的で「父・母」の割合が高くなっています。



問 24 問 23 で回答した、あなたを主に介護をしている方の年齢はおいくつですか。
(1 つに○)

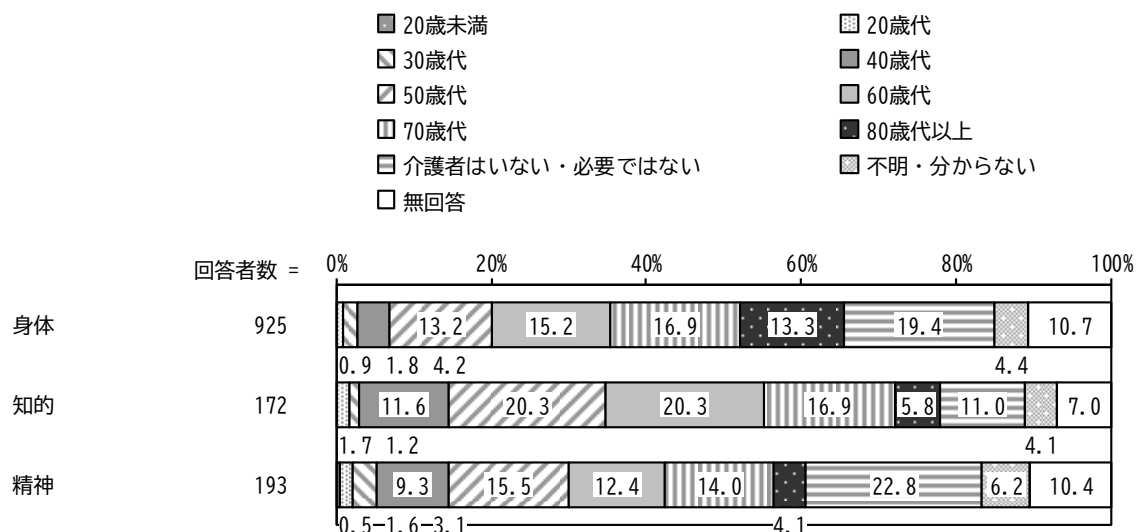
「70 歳代」の割合が 16.4%と最も高く、次いで「60 歳代」の割合が 15.7%、「50 歳代」の割合が 14.2%となっています。

令和 4 年度調査と比較すると、「60 歳代」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「70 歳代」、知的で「50 歳代」「60 歳代」の割合が高く、精神で「50 歳代」の割合が高くなっています。

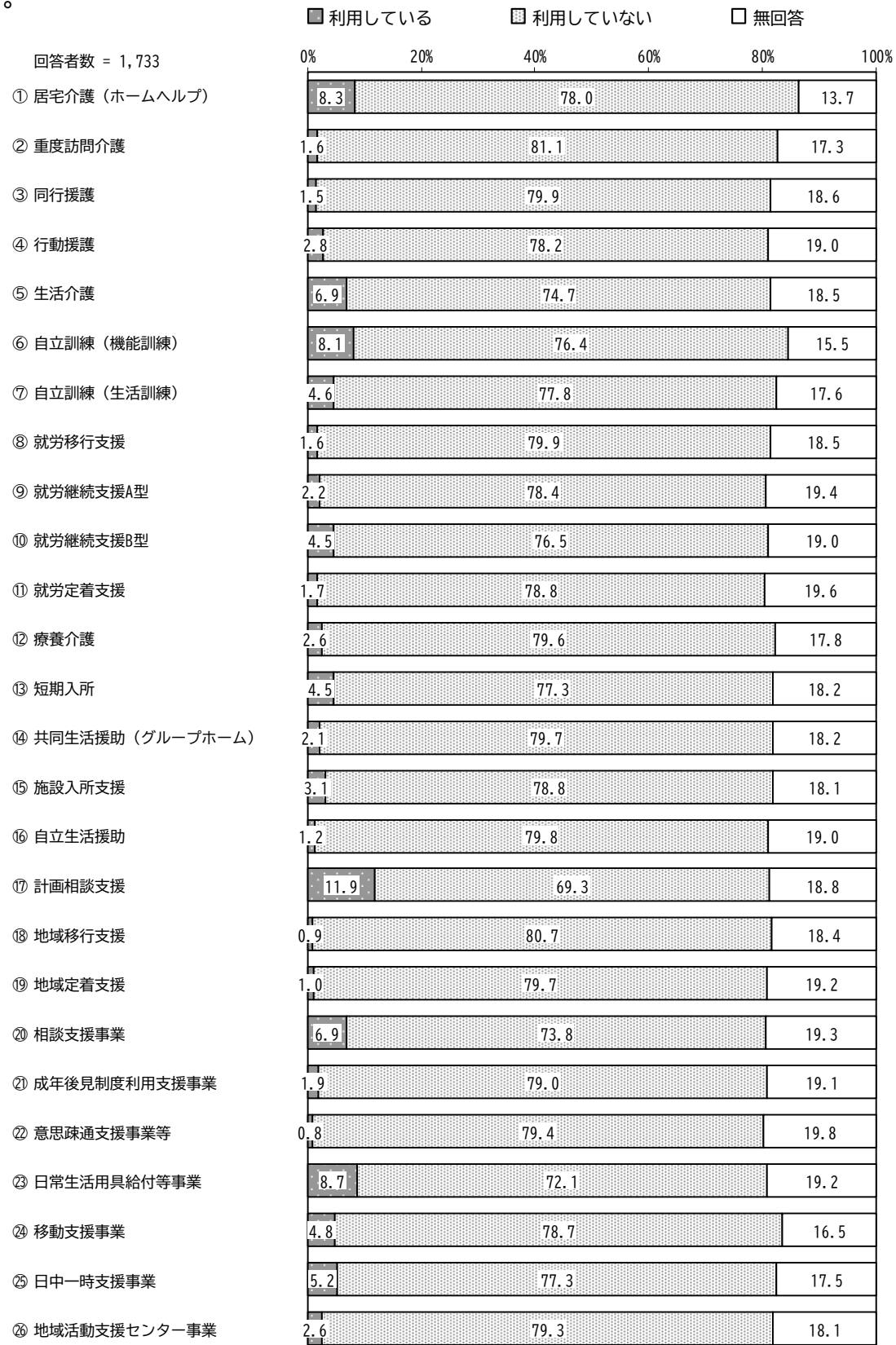


9. 障害福祉サービスの利用について

問 25 あなたは、(1) 次のサービスを利用していますか。また、(2) これから利用したいですか。①～②⑥のサービスごとに、「(1) 現在の利用」と「(2) 今後3年以内の利用希望」の両方をお答えください。(番号に○をしてください)

(1) 現在の利用

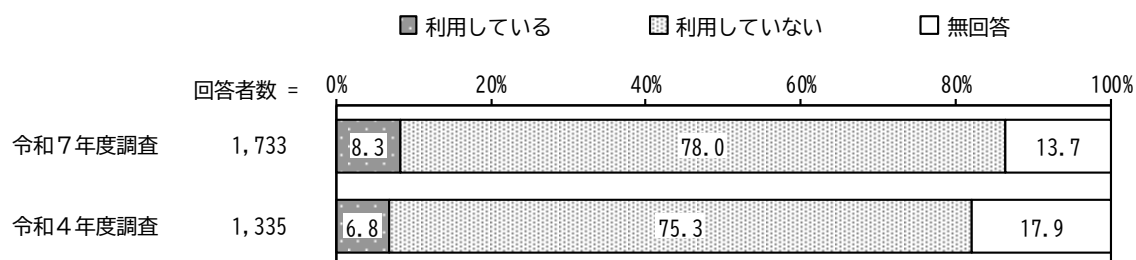
『①⑦計画相談支援』で「利用している」が、『②重度訪問介護』で「利用していない」が高くなっています。



①居宅介護（ホームヘルプ）

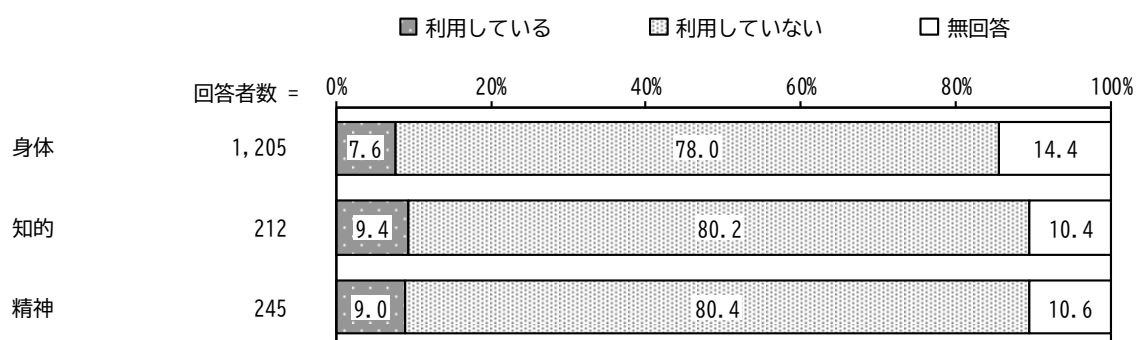
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

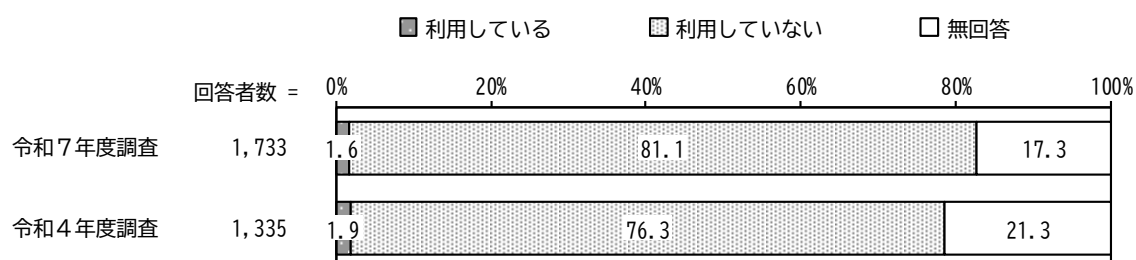
手帳種類別にみると、知的において「利用している」の割合が若干高くなっています。



②重度訪問介護

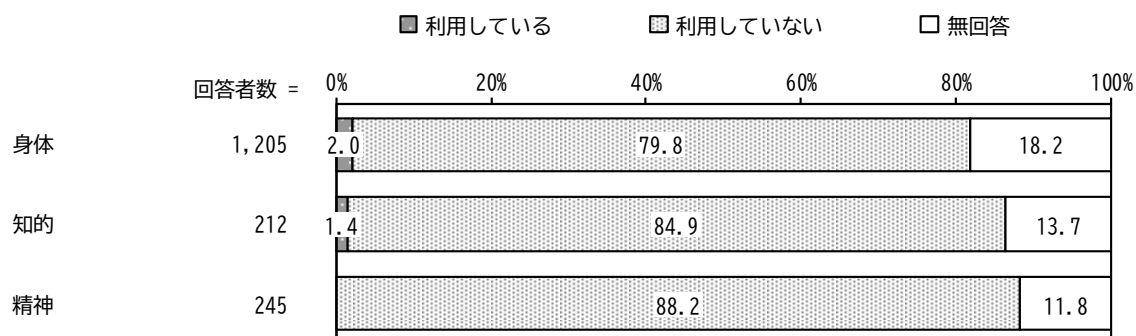
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

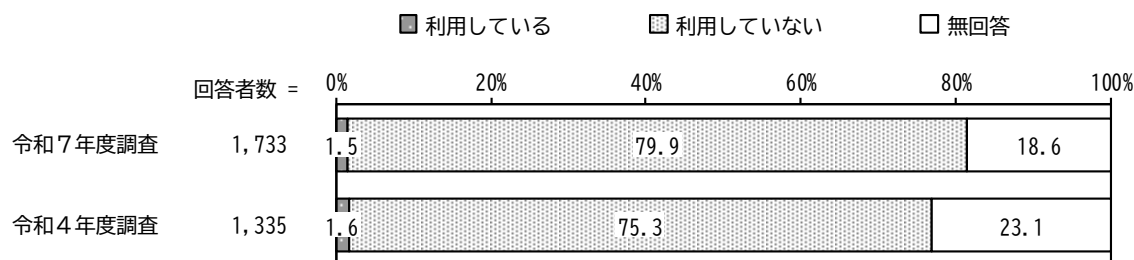
手帳種類別にみると、身体において「利用している」の割合が若干高くなっています。
精神において「利用している」の回答は、ありませんでした。



③同行援護

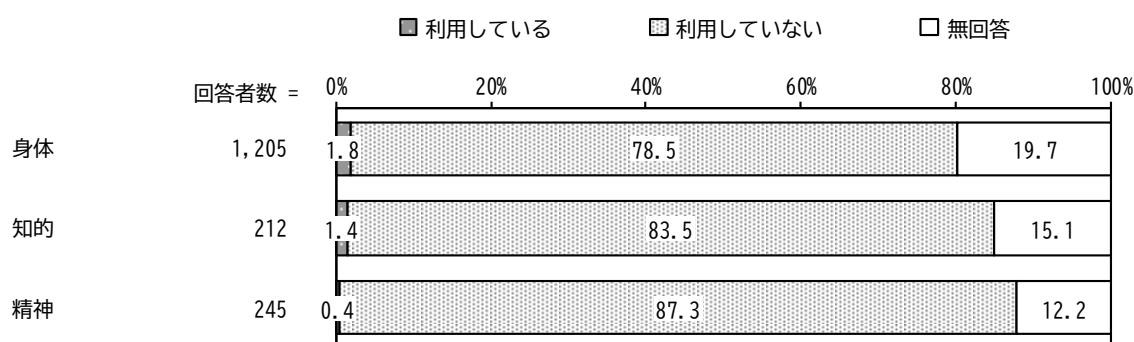
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

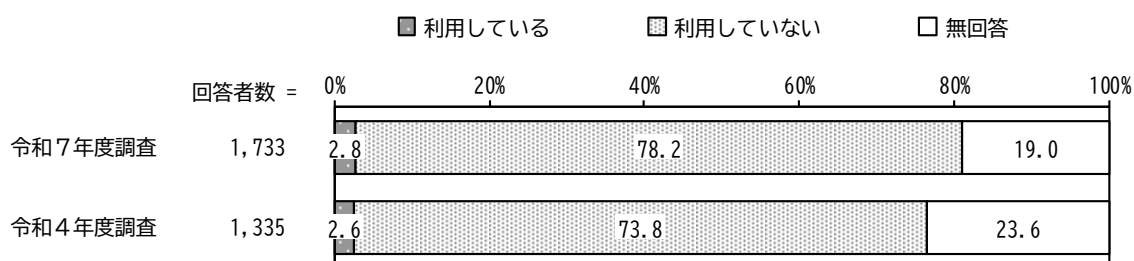
手帳種類別にみると、身体において「利用している」の割合が若干高くなっています。



④行動援護

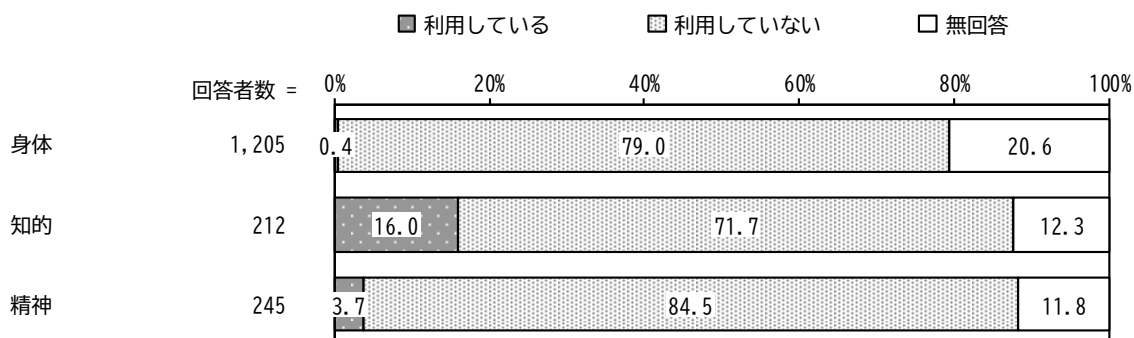
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

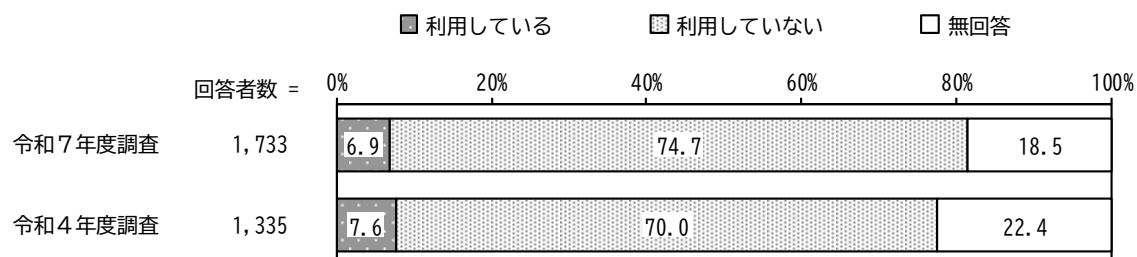
手帳種類別にみると、知的において「利用している」の割合が高くなっています。



⑤生活介護

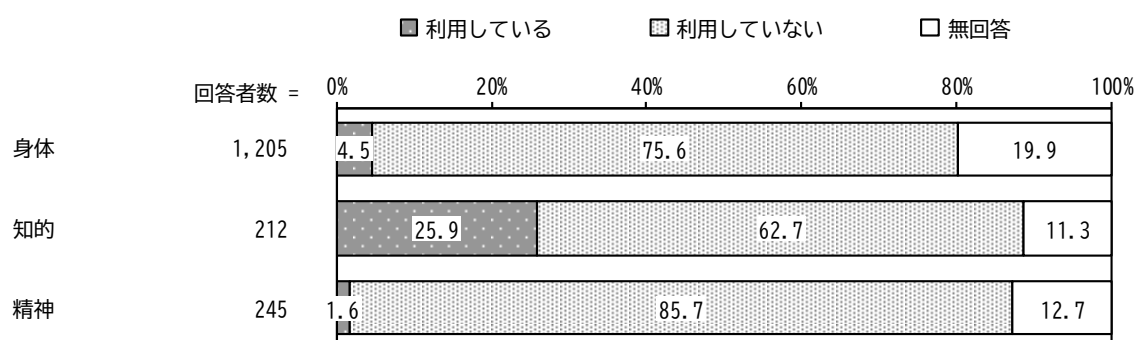
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

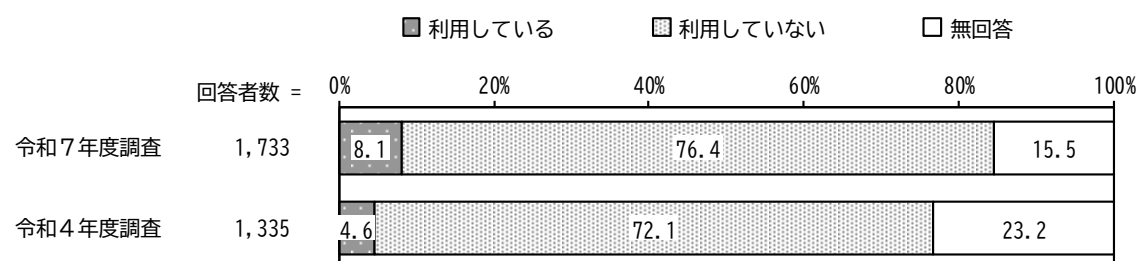
手帳種類別にみると、知的において「利用している」の割合が高くなっています。



⑥自立訓練（機能訓練）

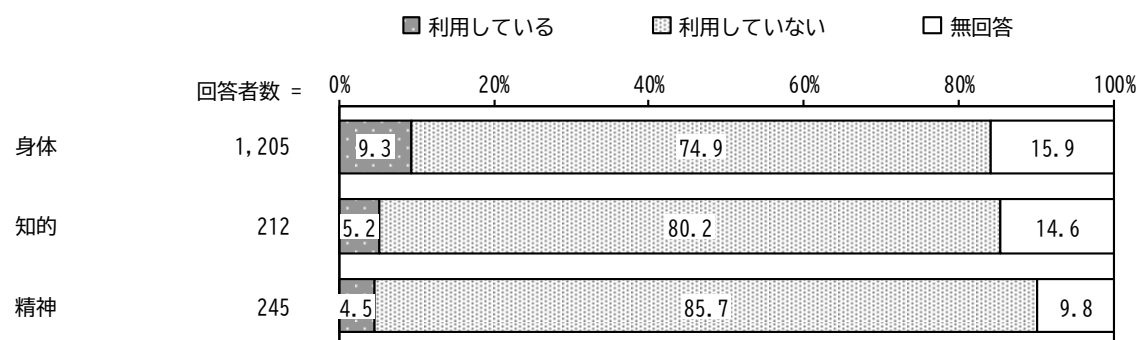
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

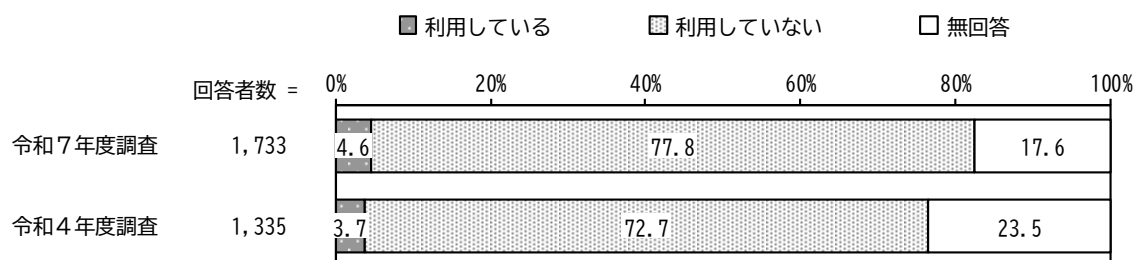
手帳種類別にみると、身体において「利用している」の割合が若干高くなっています。



⑦自立訓練（生活訓練）

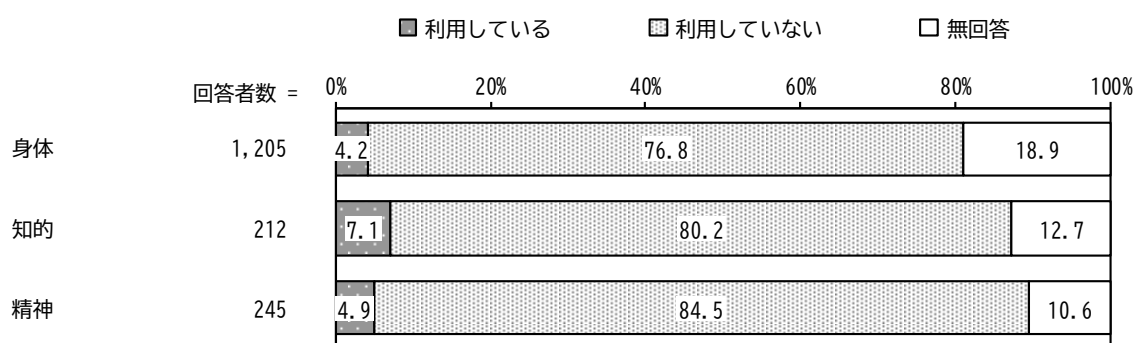
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

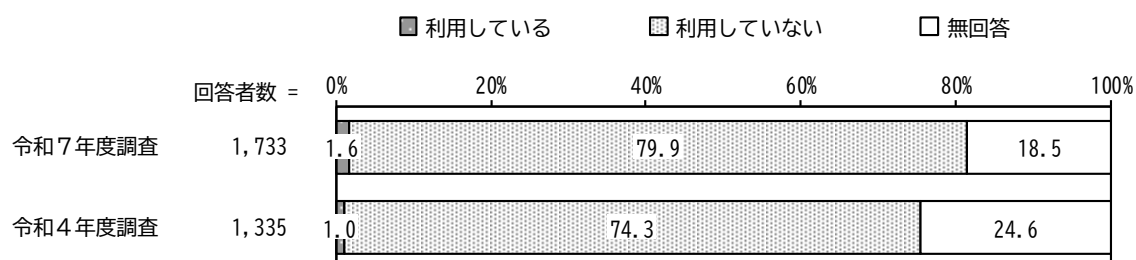
手帳種類別にみると、知的において「利用している」の割合が若干高くなっています。



⑧就労移行支援

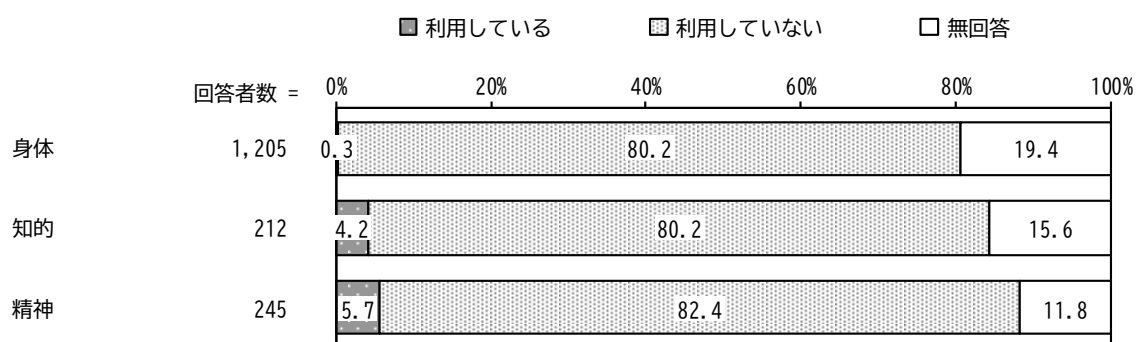
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

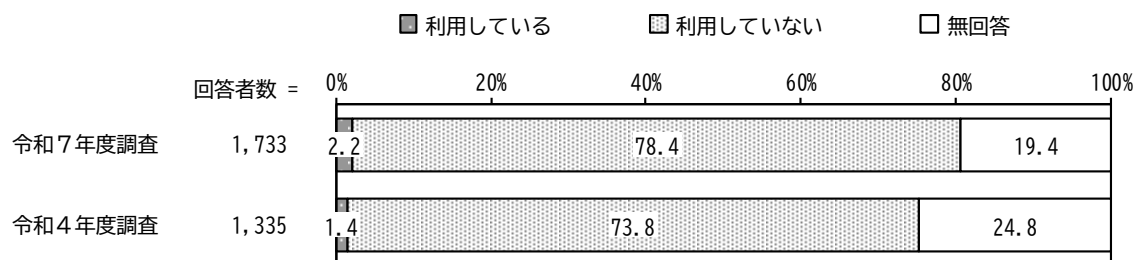
手帳種類別にみると、身体と比べて知的、精神において「利用している」の割合が高くなっています。



⑨就労継続支援A型

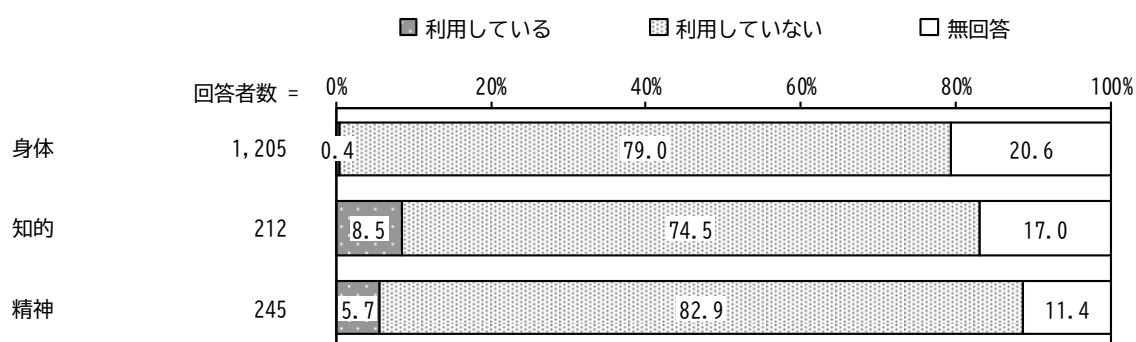
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

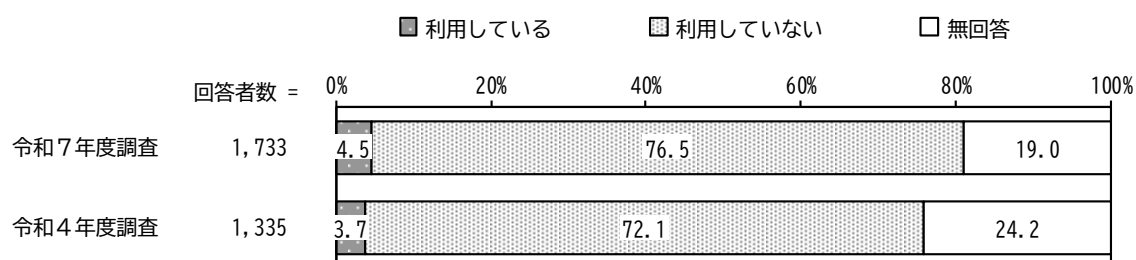
手帳種類別にみると、身体と比べて知的、精神において「利用している」の割合が高くなっています。



⑩就労継続支援B型

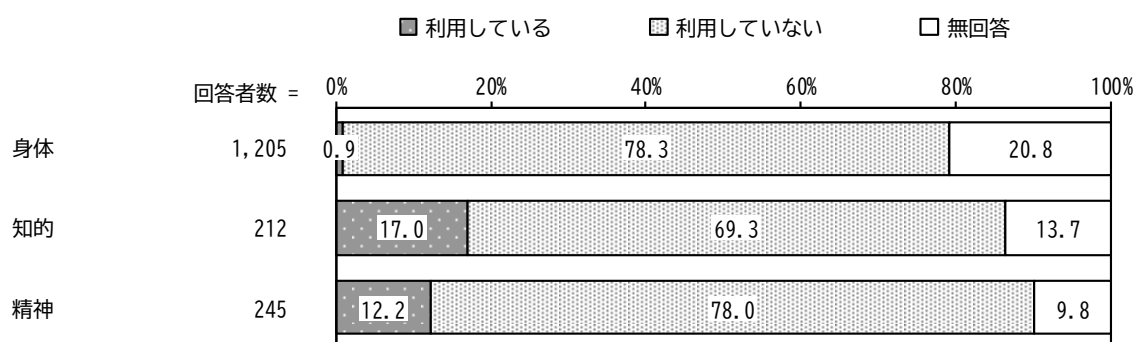
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

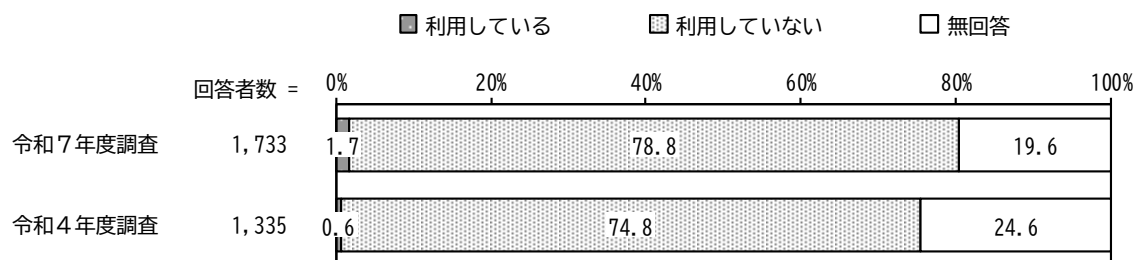
手帳種類別にみると、身体と比べて知的、精神において「利用している」の割合が高くなっています。



⑪就労定着支援

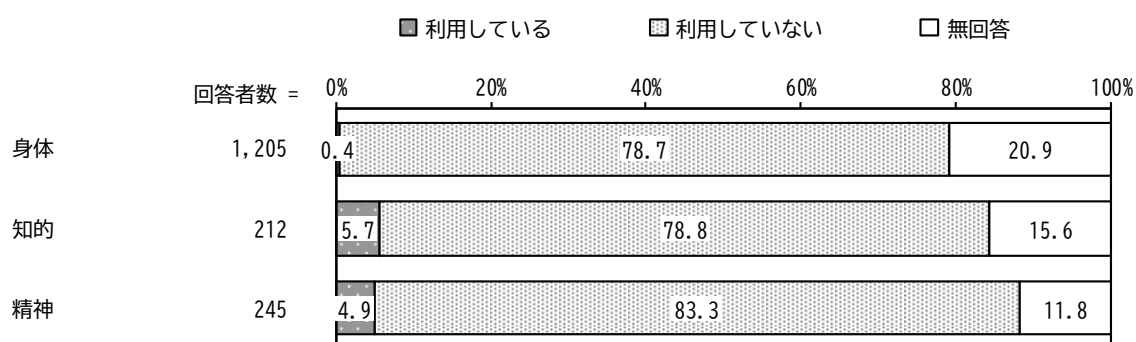
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

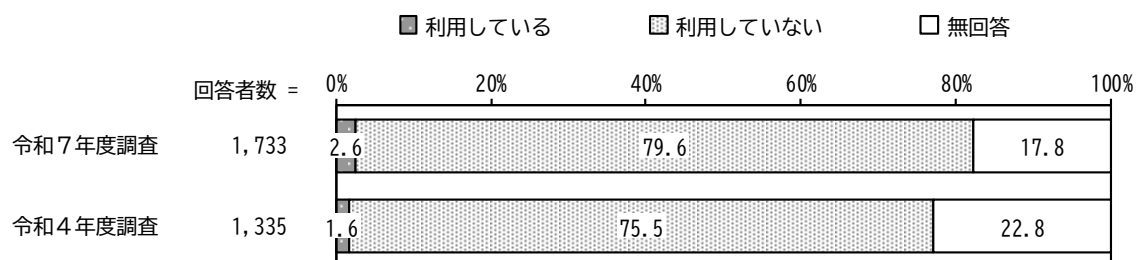
手帳種類別にみると、身体と比べて知的、精神において「利用している」の割合が高くなっています。



⑫療養介護

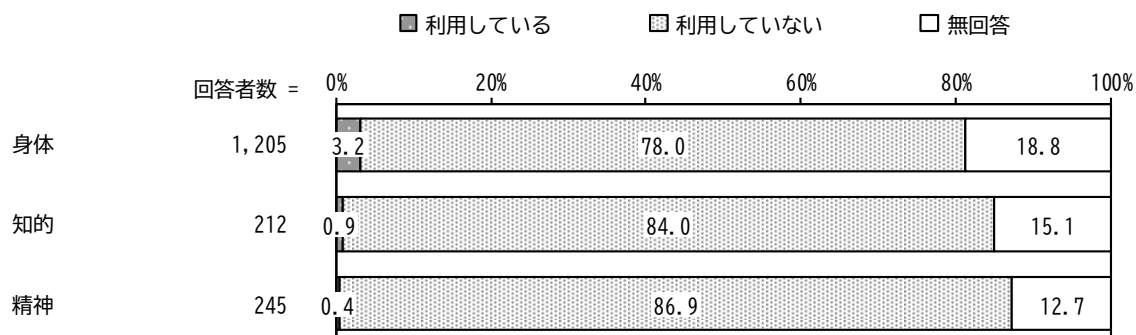
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

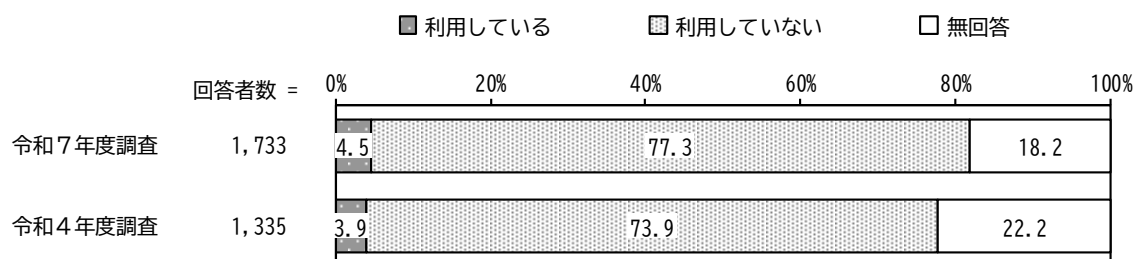
手帳種類別にみると、身体において「利用している」の割合が若干高くなっています。



⑬短期入所

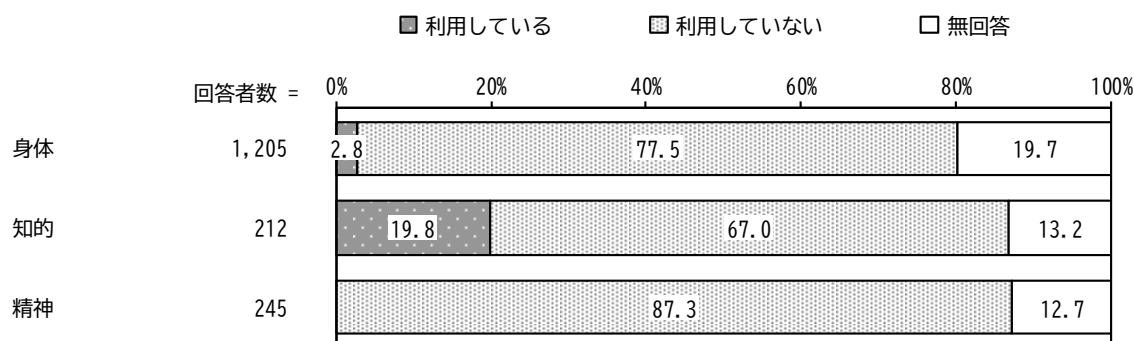
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

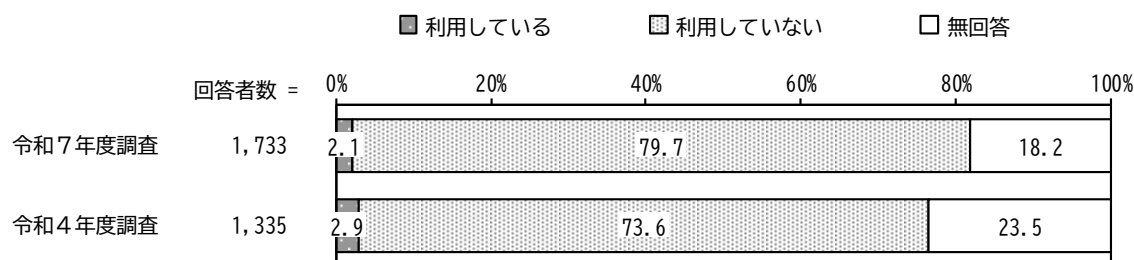
手帳種類別にみると、知的において「利用している」の割合が高くなっています。精神において「利用している」の回答は、ありませんでした。



⑭共同生活援助（グループホーム）

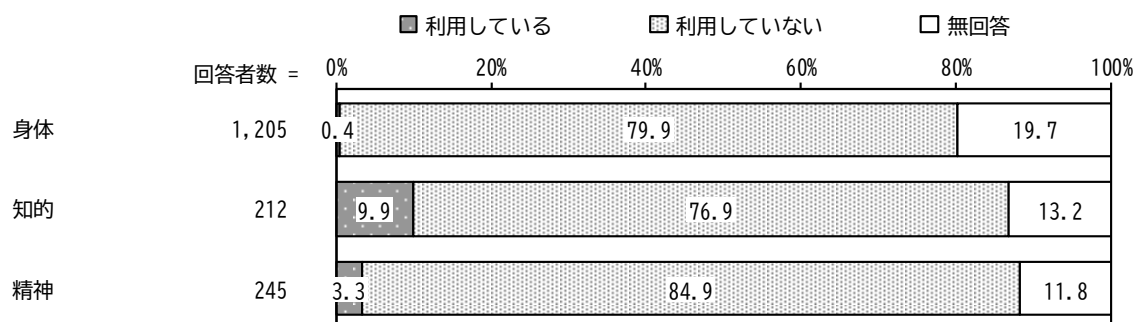
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

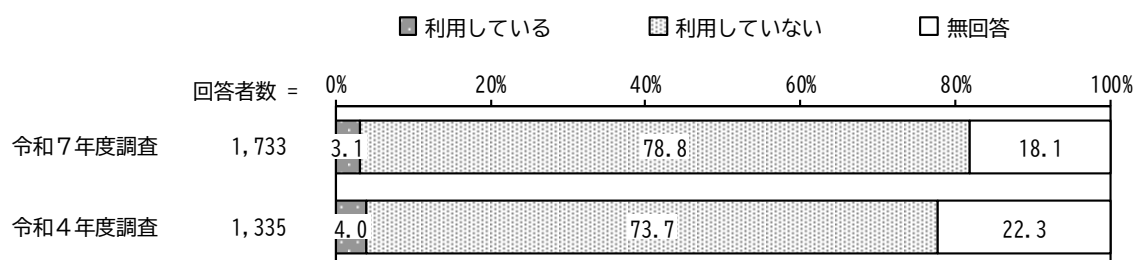
手帳種類別にみると、知的において「利用している」の割合が高くなっています。



⑮施設入所支援

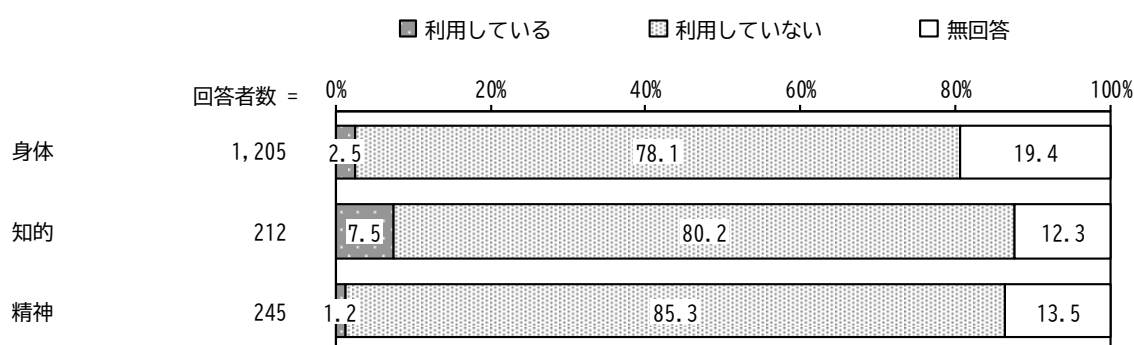
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

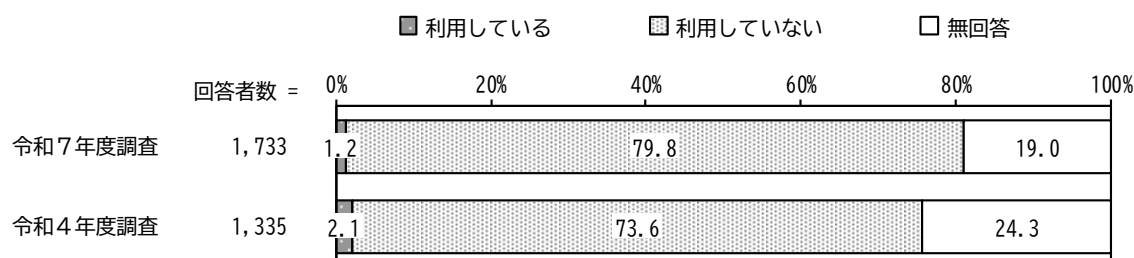
手帳種類別にみると、知的において「利用している」の割合が高くなっています。



⑯自立生活援助

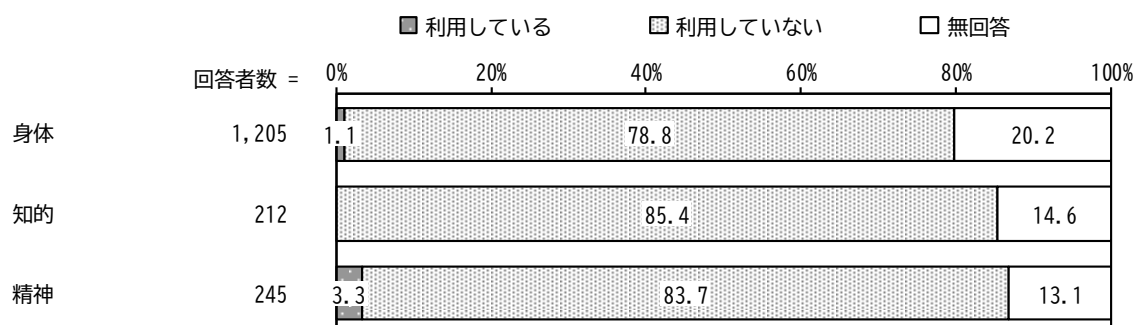
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

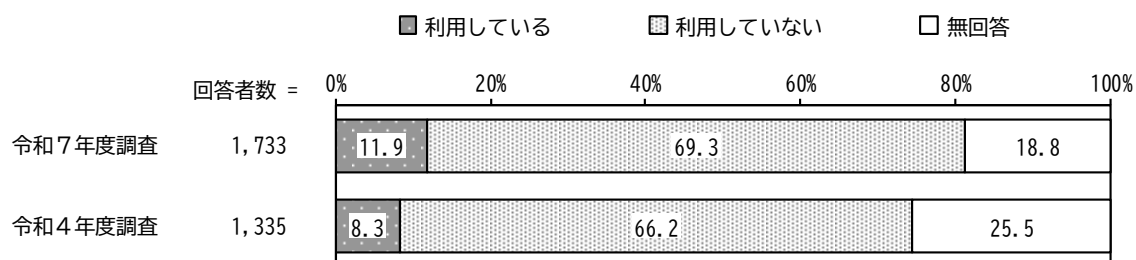
手帳種類別にみると、精神において「利用している」の割合が若干高くなっています。知的において「利用している」の回答は、ありませんでした。



⑰計画相談支援

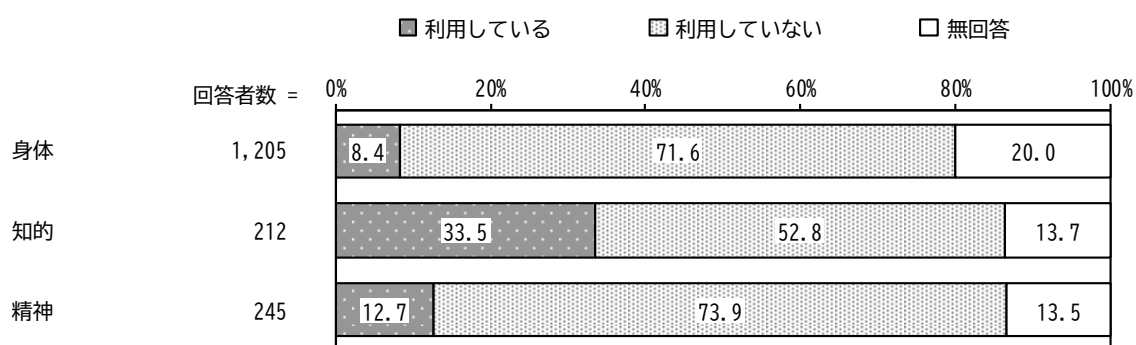
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

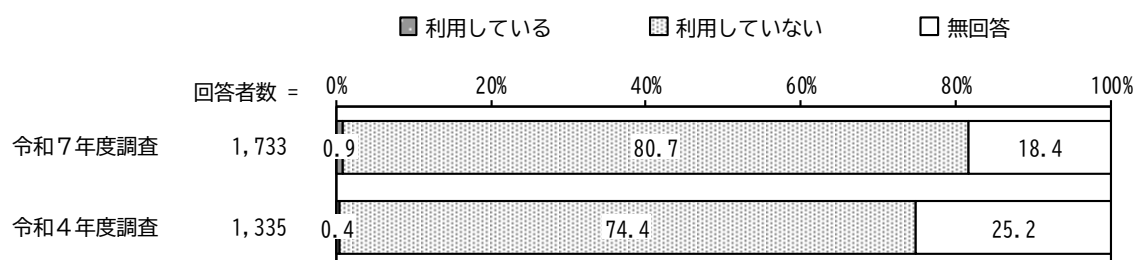
手帳種類別にみると、知的において「利用している」の割合が高くなっています。



⑱地域移行支援

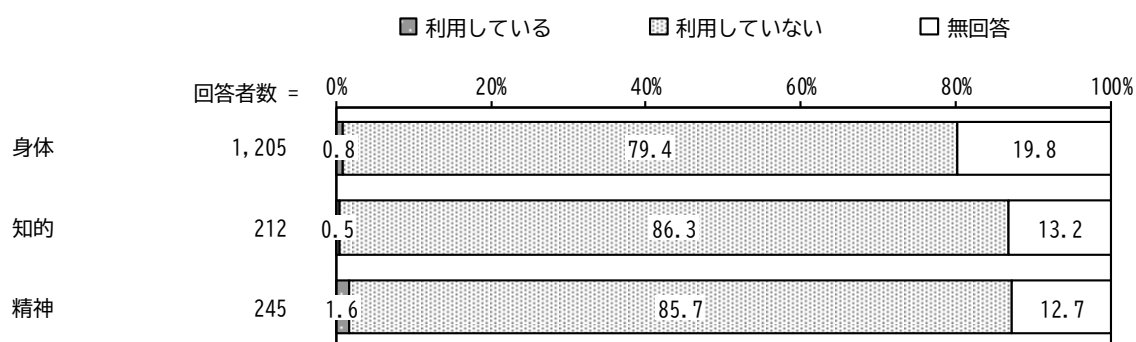
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

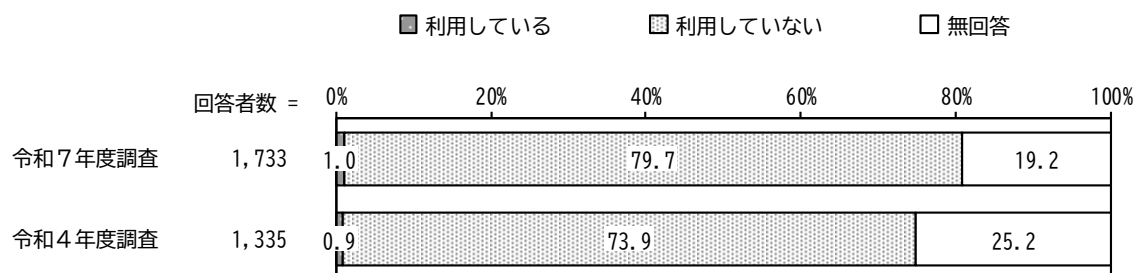
手帳種類別にみると、精神において「利用している」の割合が若干高くなっています。



⑱地域定着支援

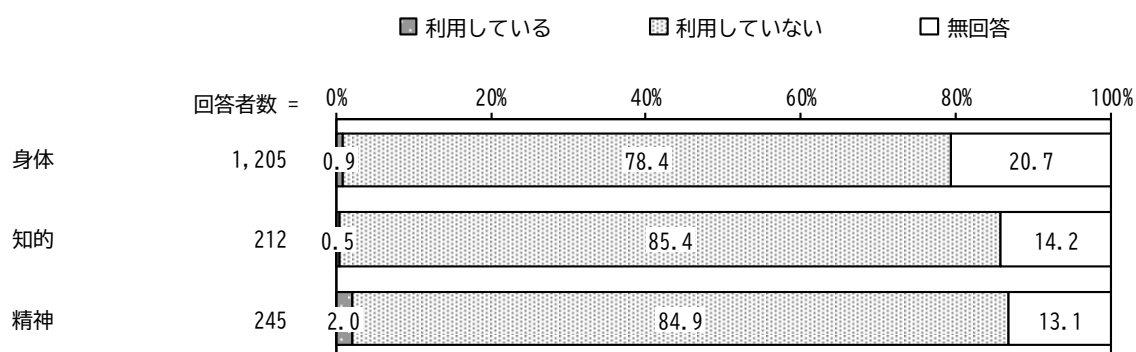
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

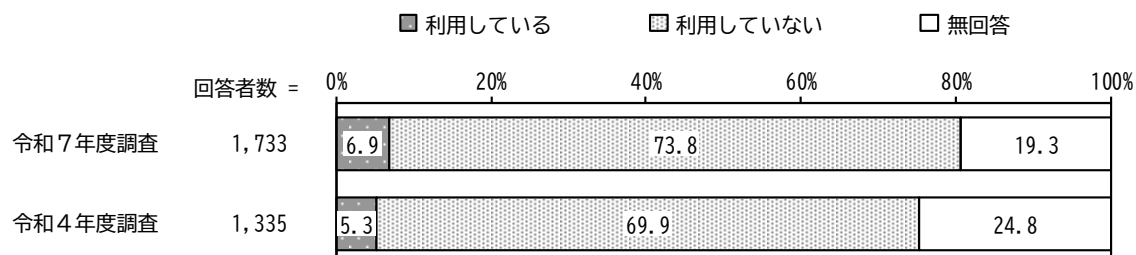
手帳種類別にみると、精神において「利用している」の割合が若干高くなっています。



⑳相談支援事業

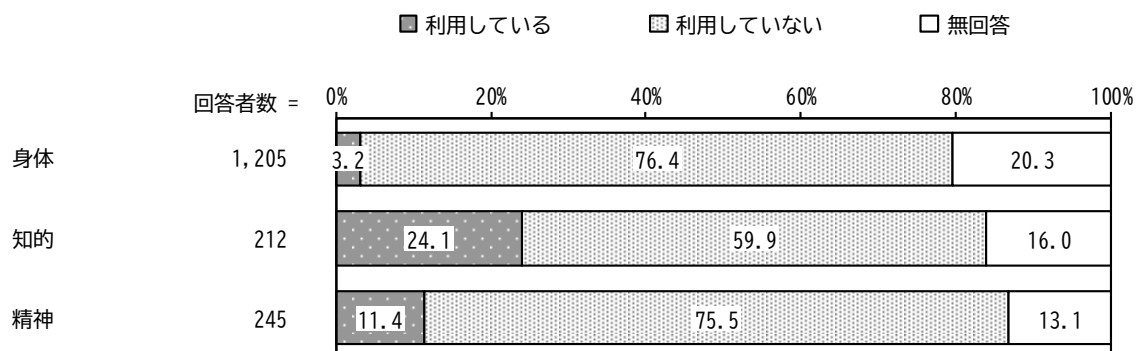
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

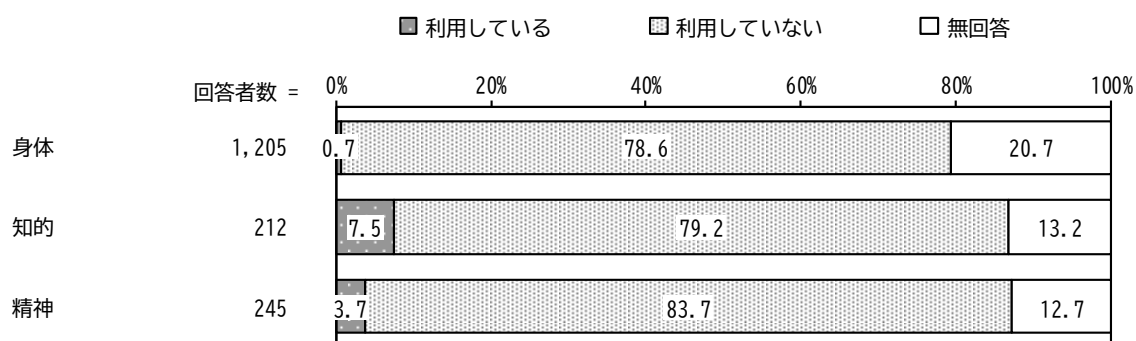
手帳種類別にみると、知的において「利用している」の割合が高くなっています。



②成年後見制度利用支援事業

【手帳種類別】

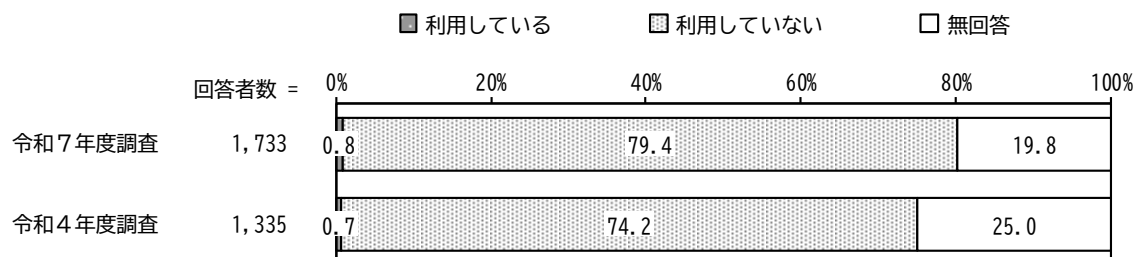
手帳種類別にみると、知的において「利用している」の割合が高くなっています。



②意思疎通支援事業等

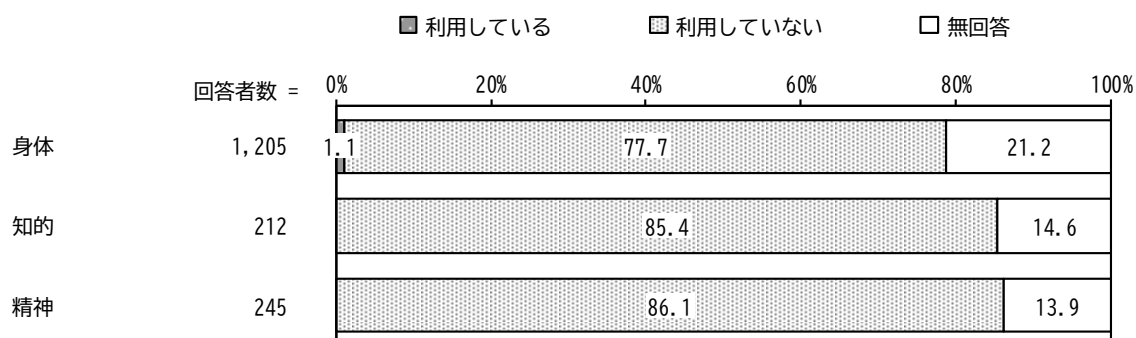
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

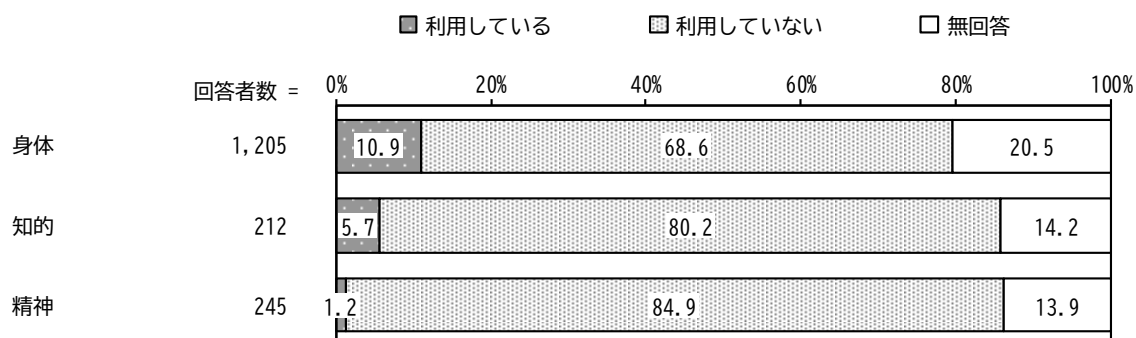
手帳種類別にみると、身体において「利用している」の割合が高くなっています。知的と精神において「利用している」の回答は、ありませんでした。



②③日常生活用具給付等事業

【手帳種類別】

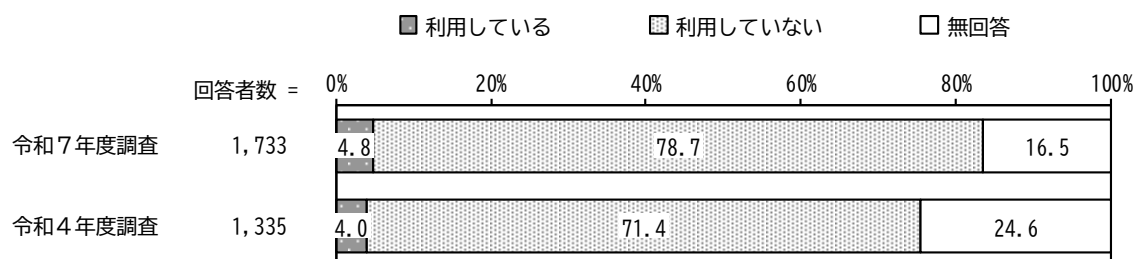
手帳種類別にみると、身体において「利用している」の割合が高くなっています。



②④移動支援事業

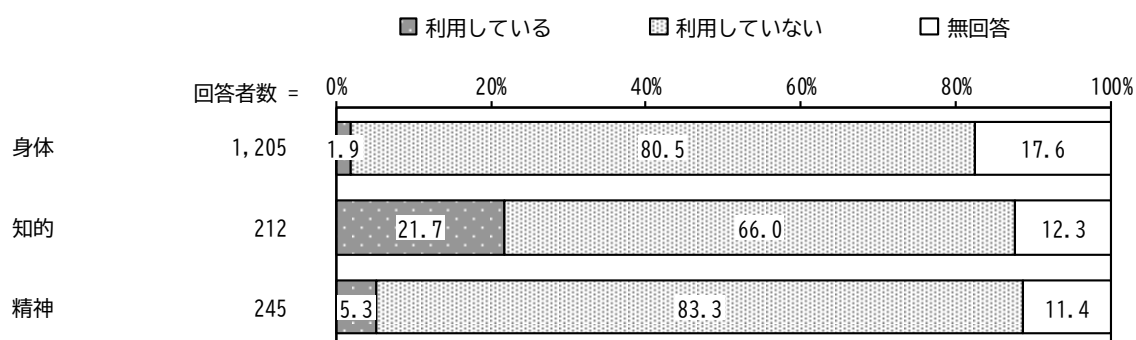
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

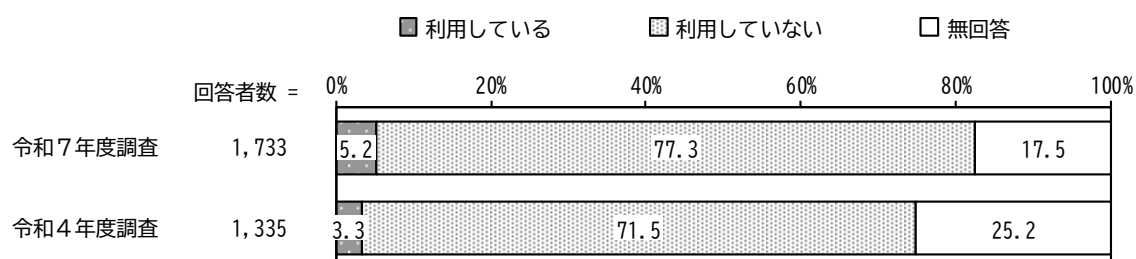
手帳種類別にみると、知的において「利用している」の割合が高くなっています。



②⑤日中一時支援事業

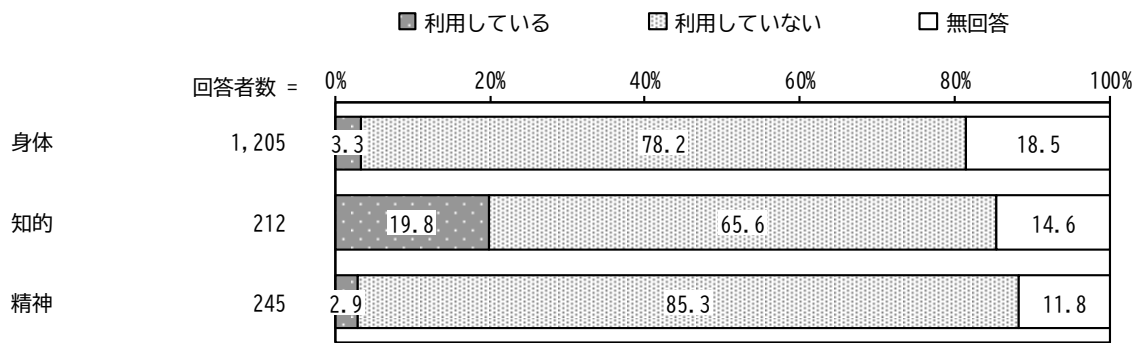
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が高くなっています。



【手帳種類別】

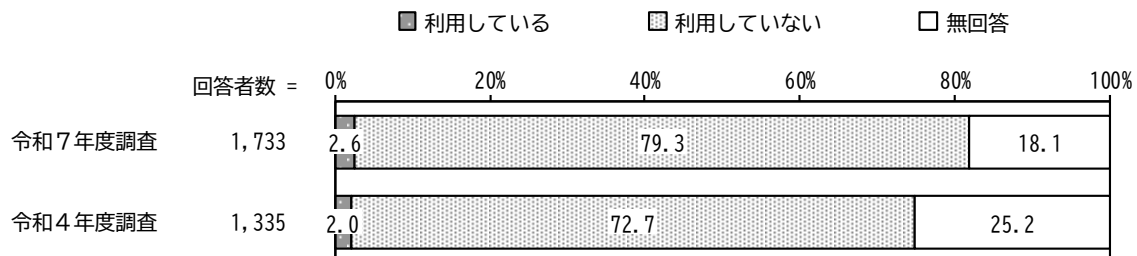
手帳種類別にみると、知的において「利用している」の割合が高くなっています。



②⑥地域活動支援センター事業

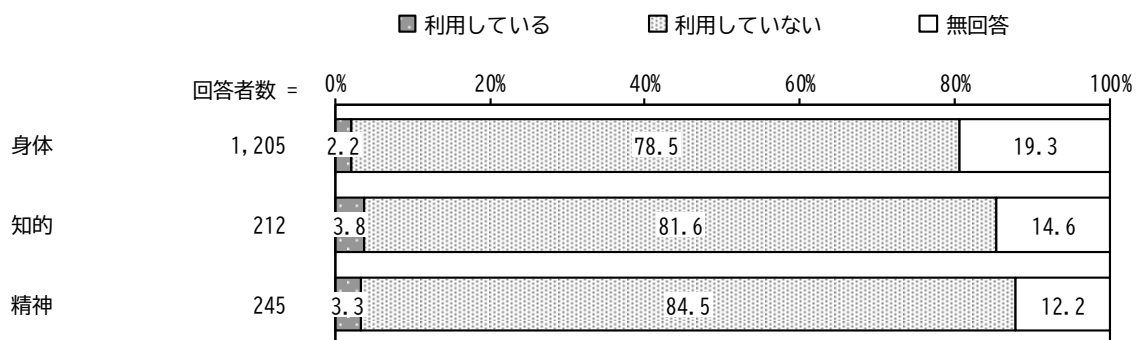
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



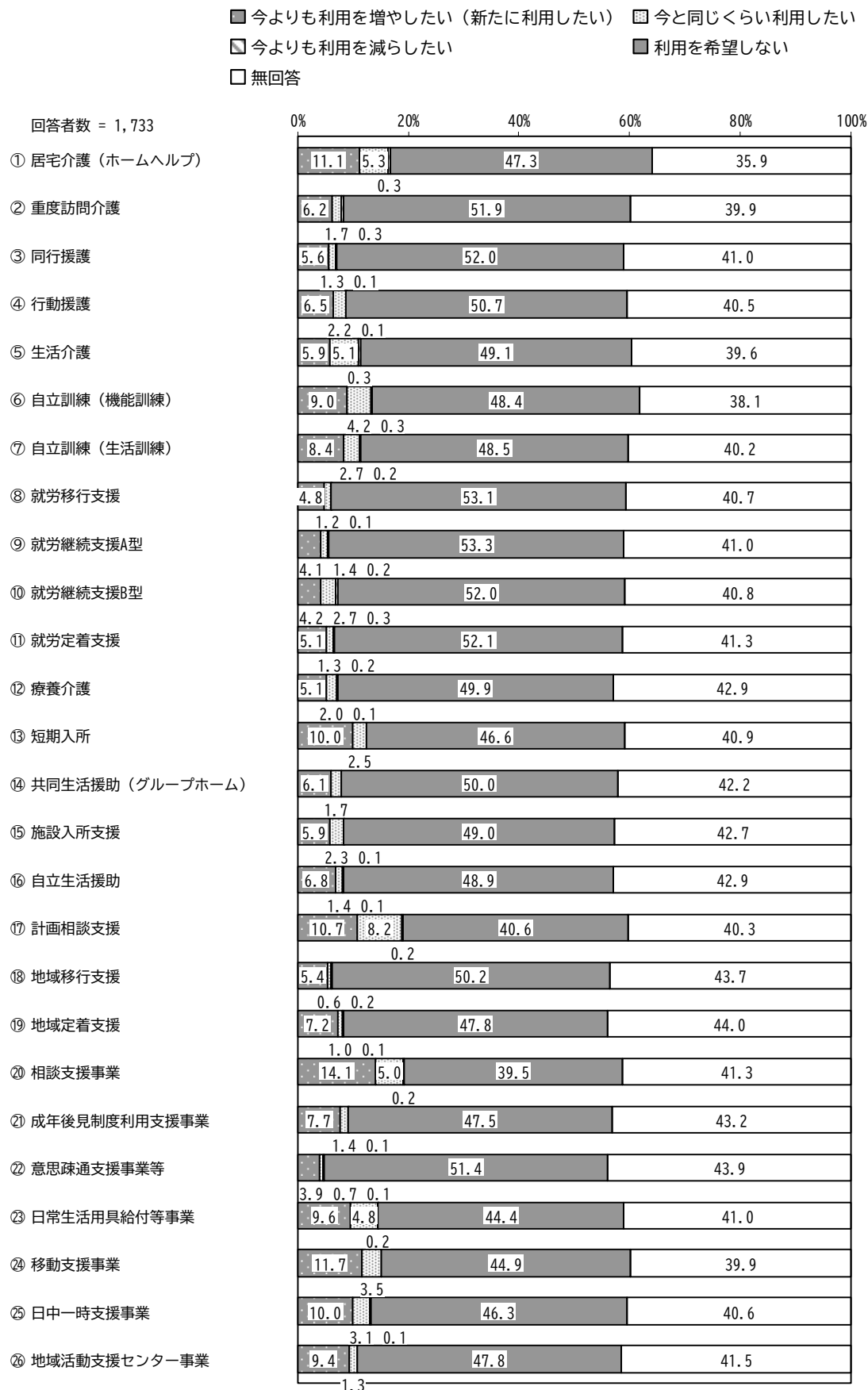
【手帳種類別】

手帳種類別にみると、知的において「利用している」の割合が若干高くなっています。



(2) 今後3年以内の利用希望

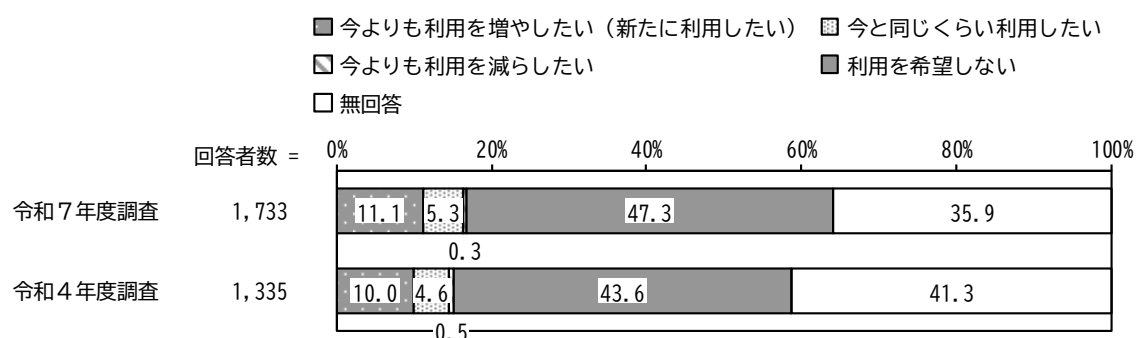
『⑳相談支援事業』で「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」が、『㉑計画相談支援』で「今と同じくらい利用したい」が、『㉒居宅介護（ホームヘルプ）』『㉓重度訪問介護』『㉔生活介護』『㉕自立訓練（機能訓練）』『㉖就労継続支援B型』で「今よりも利用を減らしたい」が、『㉗就労継続支援A型』で「利用を希望しない」が高くなっています。



① 居宅介護（ホームヘルプ）

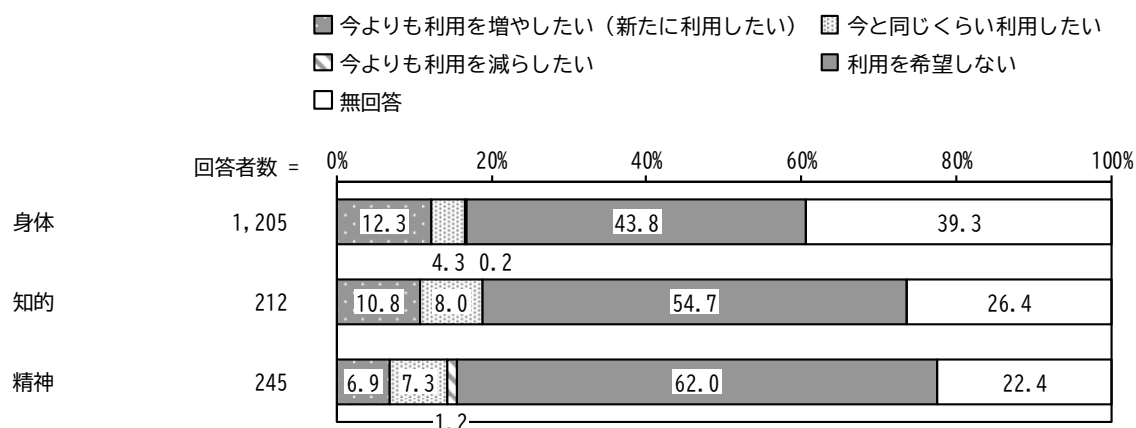
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

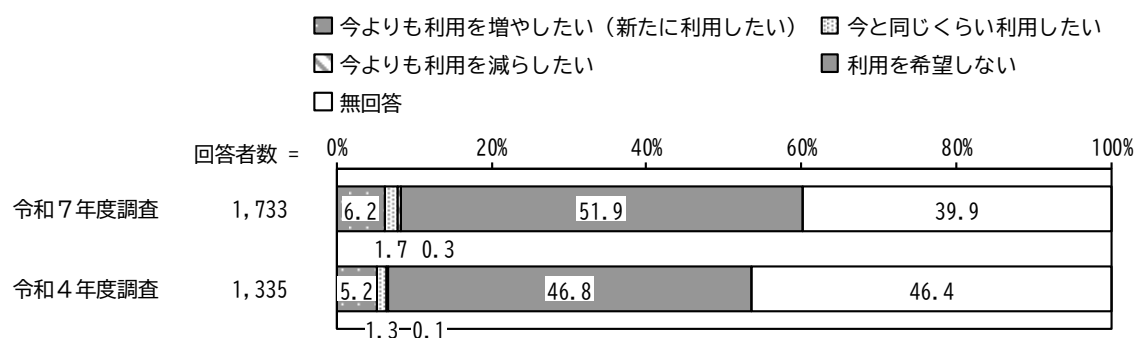
手帳種類別にみると、身体において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が若干高くなっています。



② 重度訪問介護

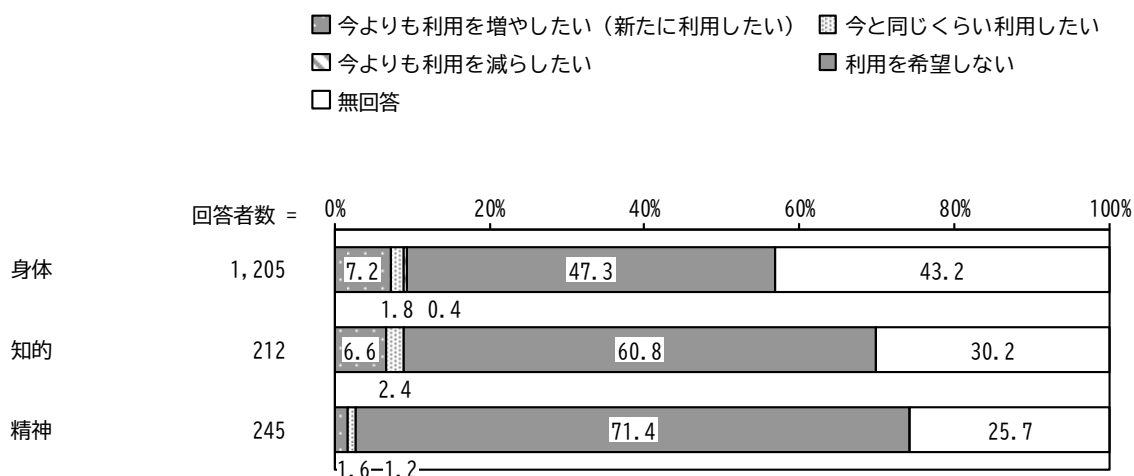
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

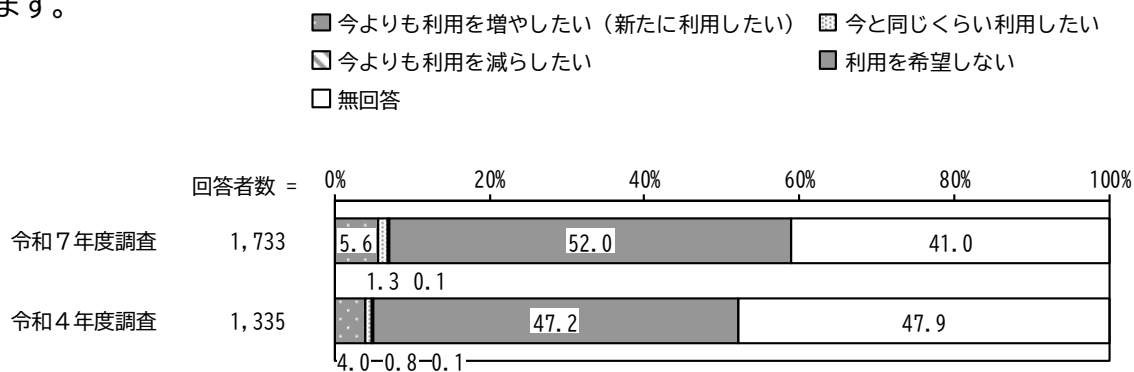
手帳種類別にみると、身体と知的において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が若干高くなっています。



③同行援護

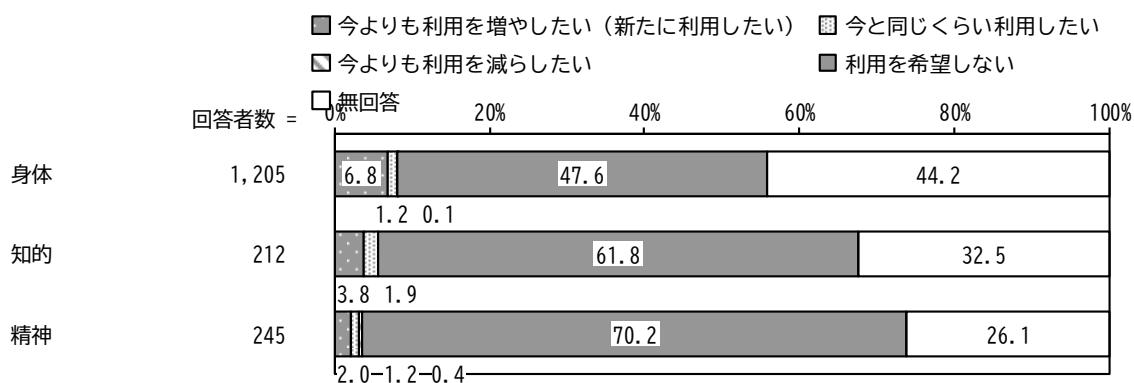
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

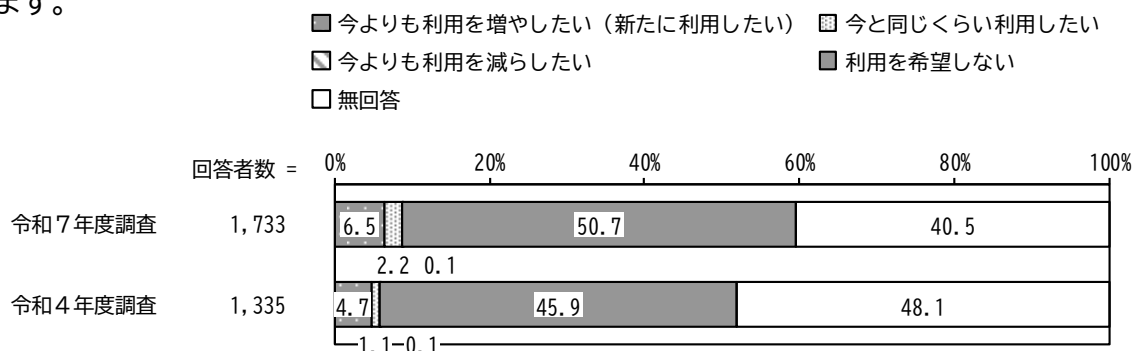
手帳種類別にみると、身体において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が若干高くなっています。



④行動援護

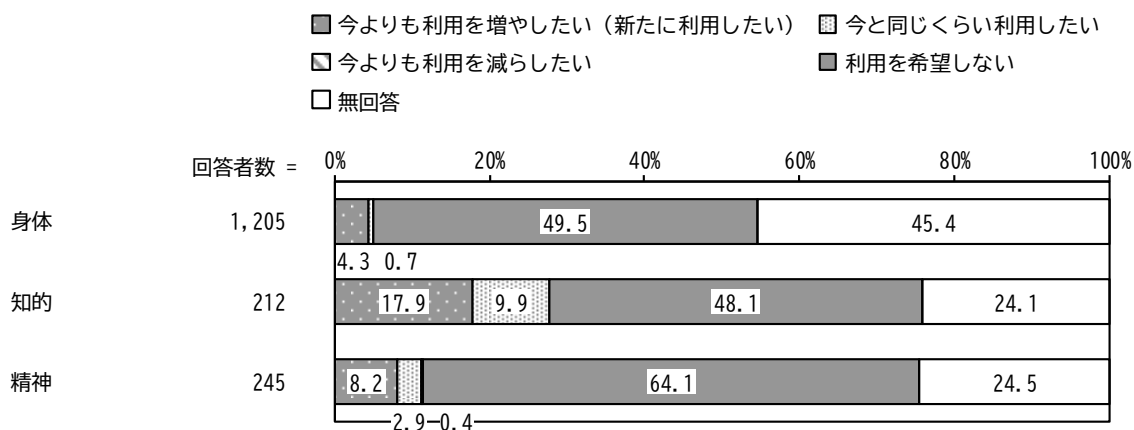
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

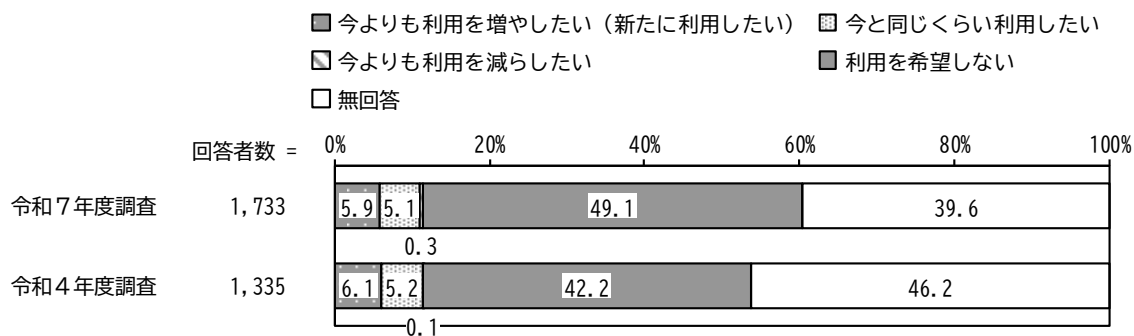
手帳種類別にみると、知的において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。



⑤生活介護

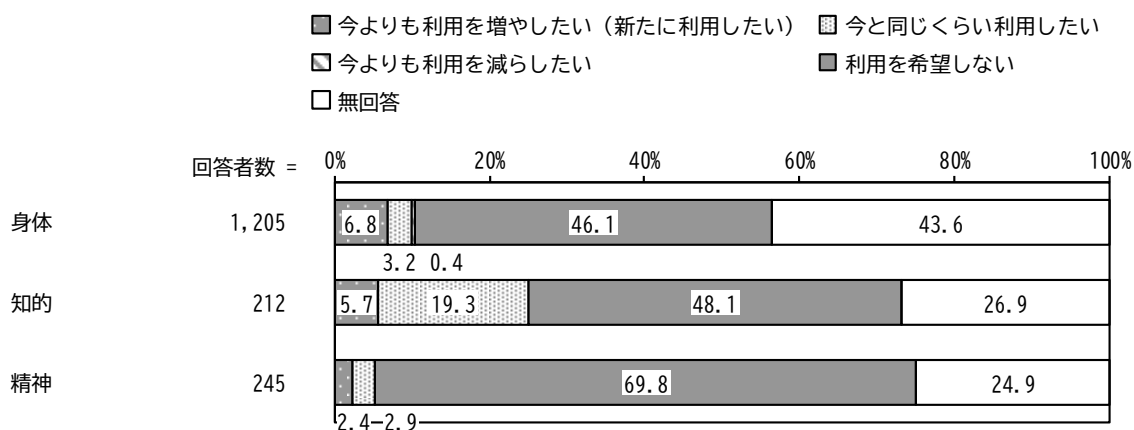
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

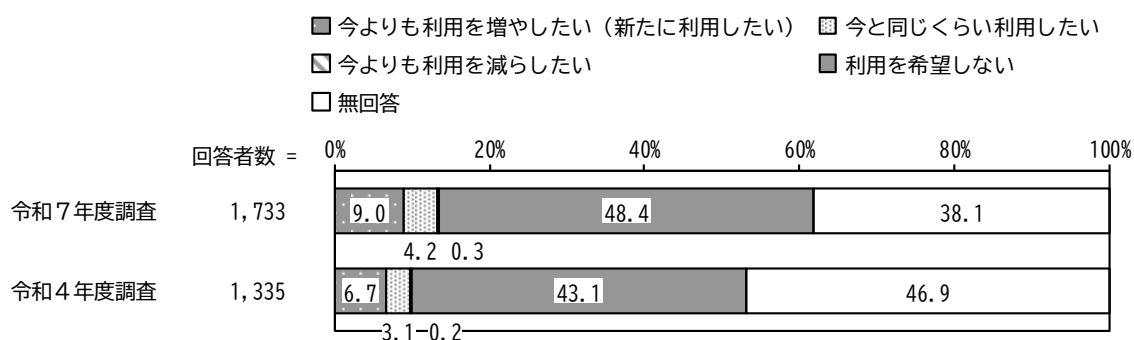
手帳種類別にみると、身体と知的において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が若干高くなっています。



⑥自立訓練（機能訓練）

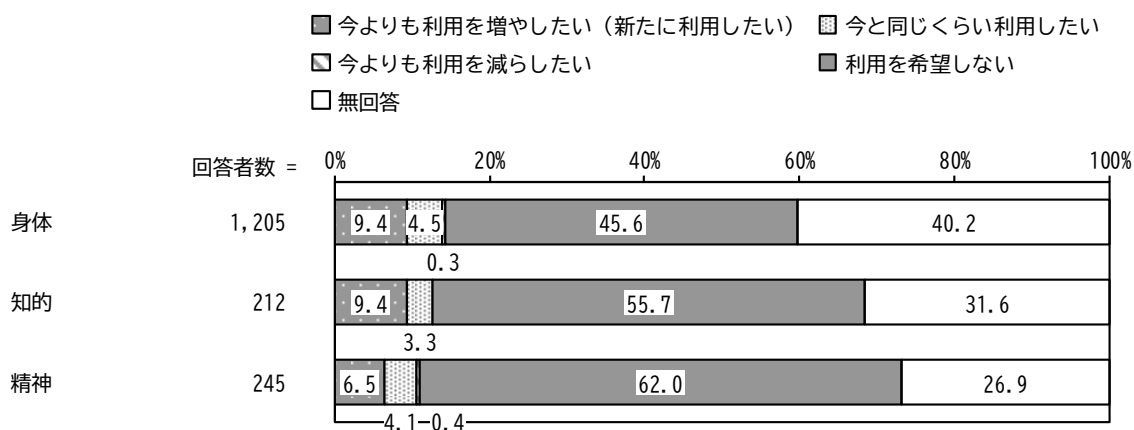
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

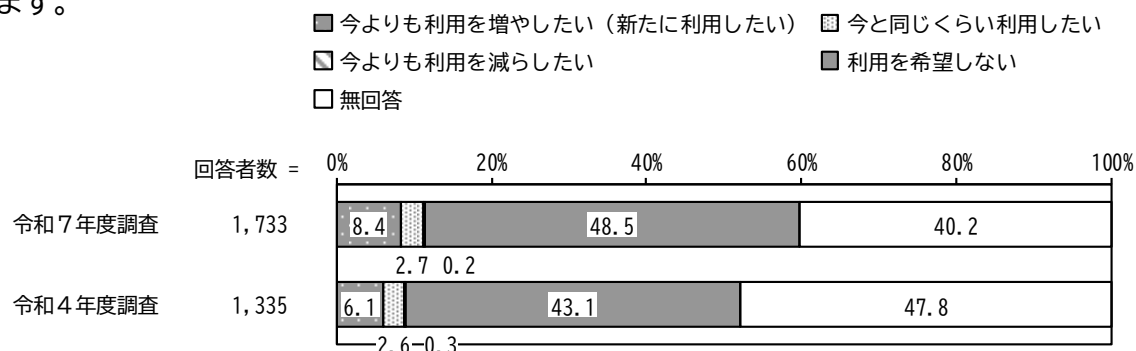
手帳種類別にみると、身体と知的において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が若干高くなっています。



⑦自立訓練（生活訓練）

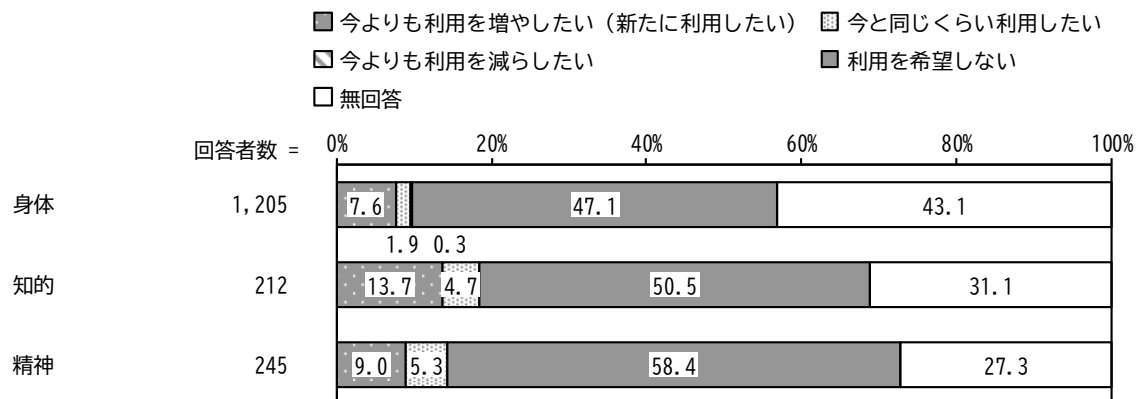
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

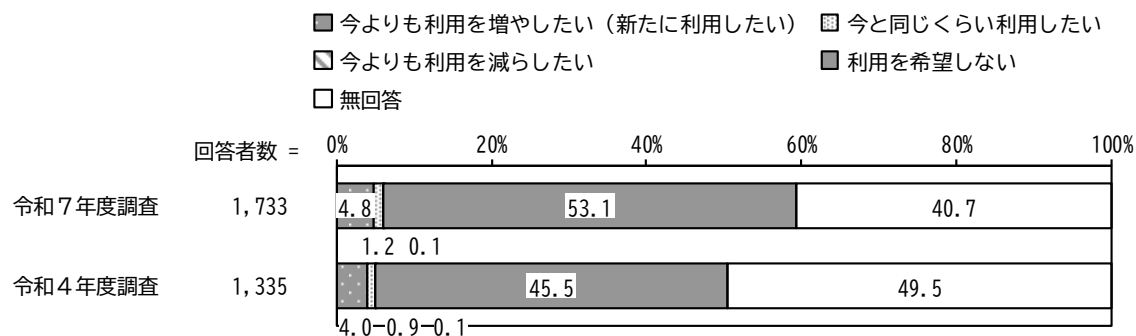
手帳種類別にみると、知的において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が若干高くなっています。



⑧就労移行支援

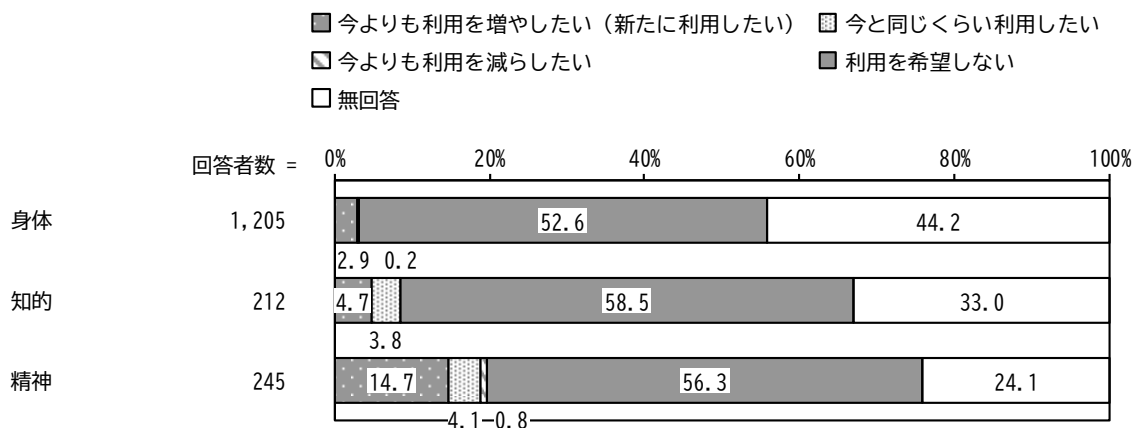
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

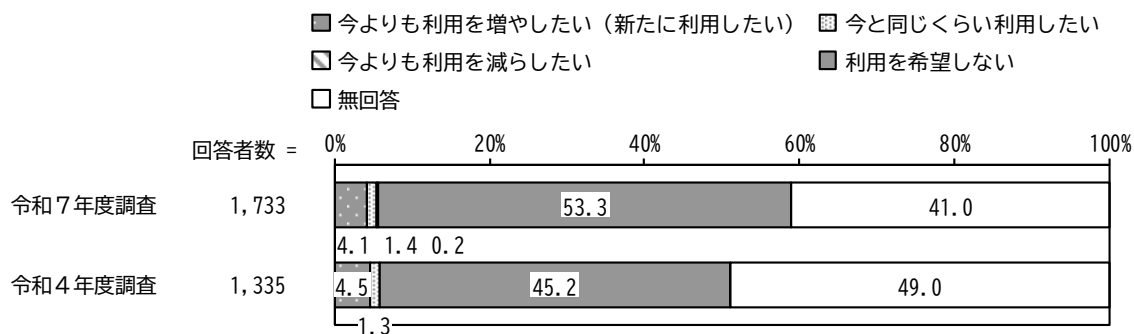
手帳種類別にみると、精神において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。



⑨就労継続支援A型

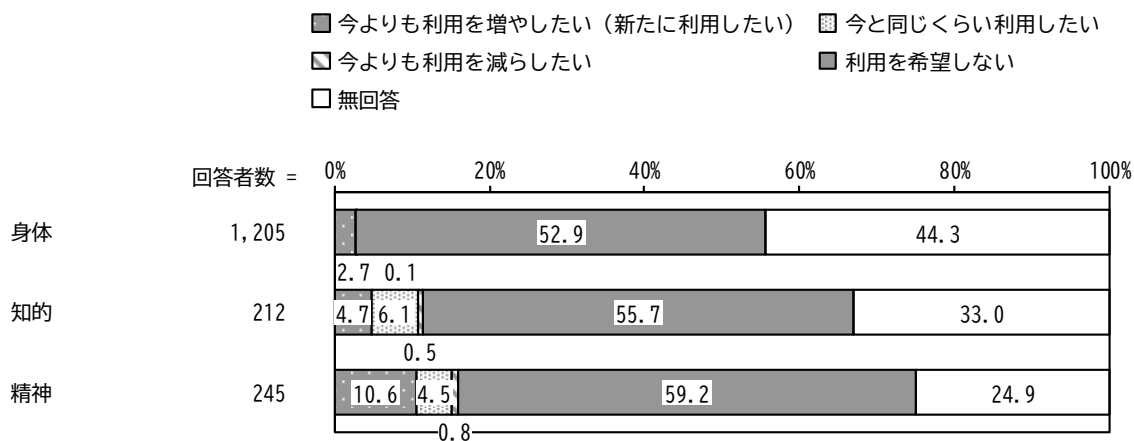
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

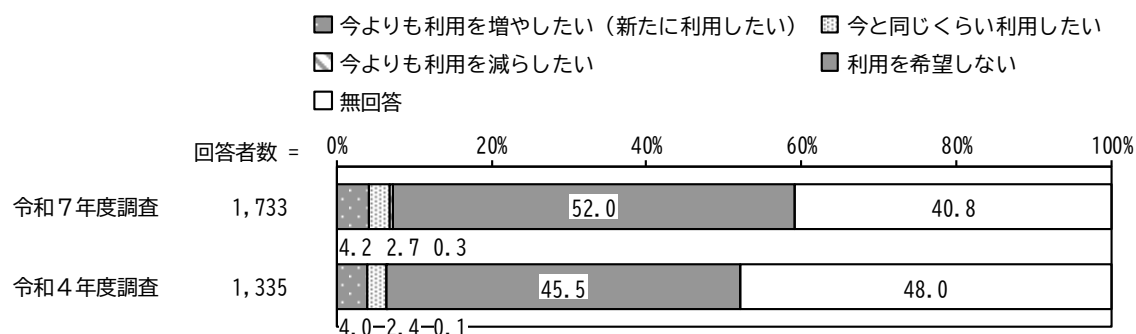
手帳種類別にみると、精神において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が若干高くなっています。



⑩就労継続支援B型

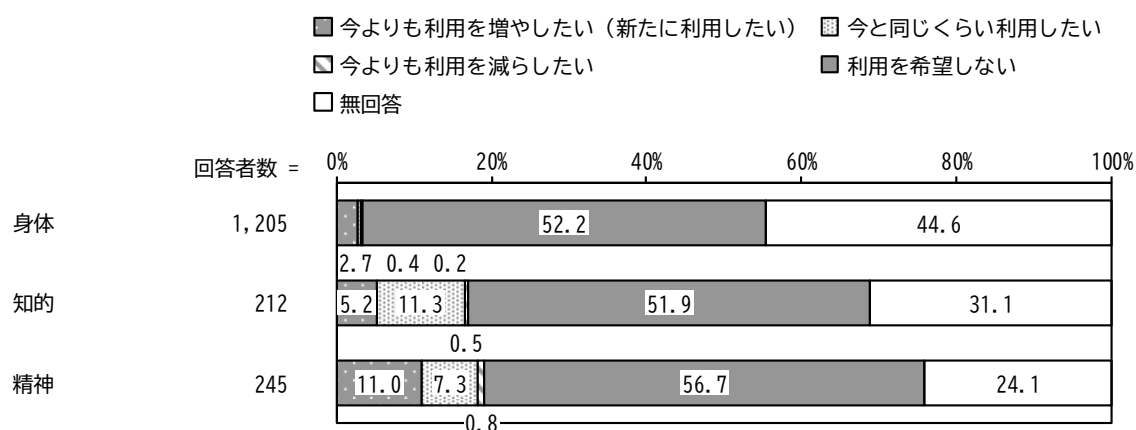
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

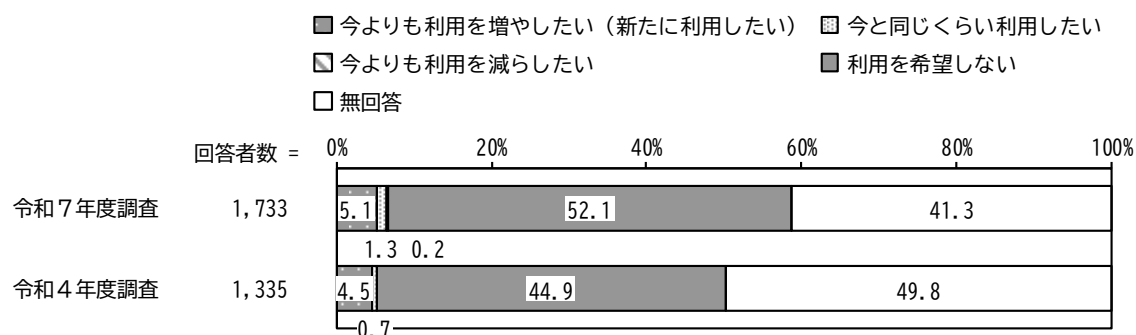
手帳種類別にみると、精神において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が若干高くなっています。



⑪就労定着支援

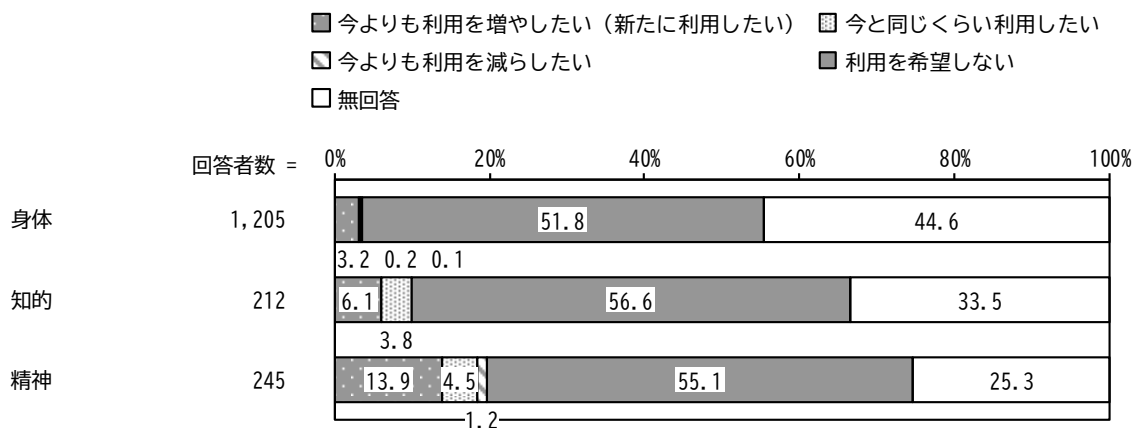
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

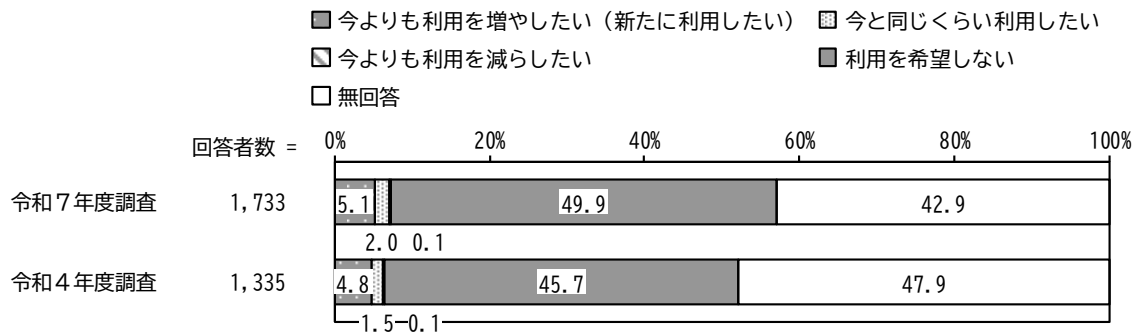
手帳種類別にみると、精神において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。



⑫療養介護

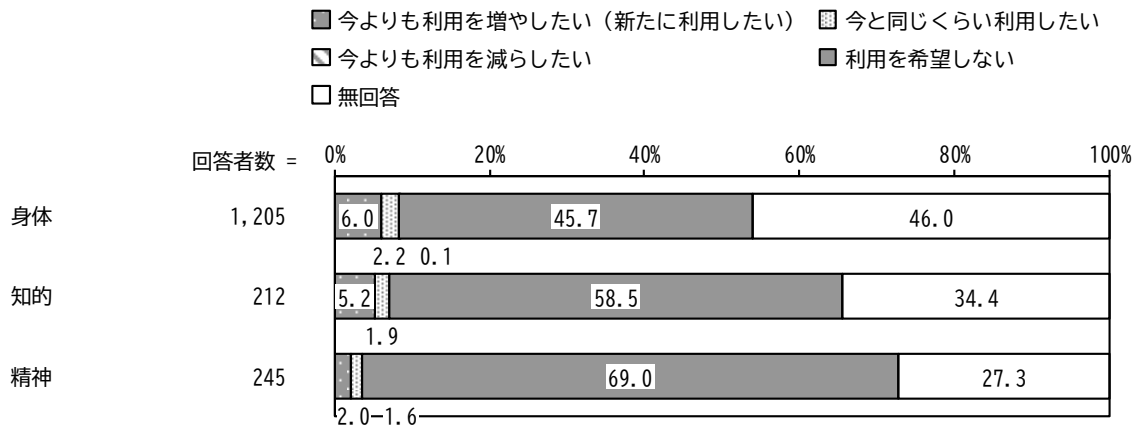
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

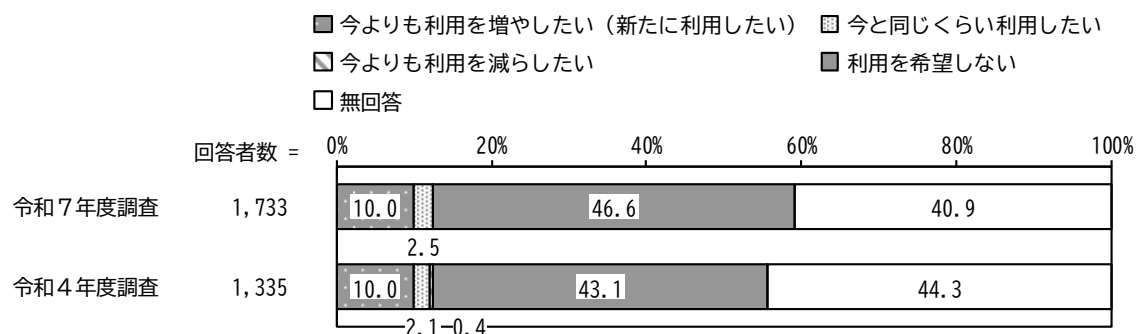
手帳種類別にみると、身体と知的において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が若干高くなっています。



⑬短期入所

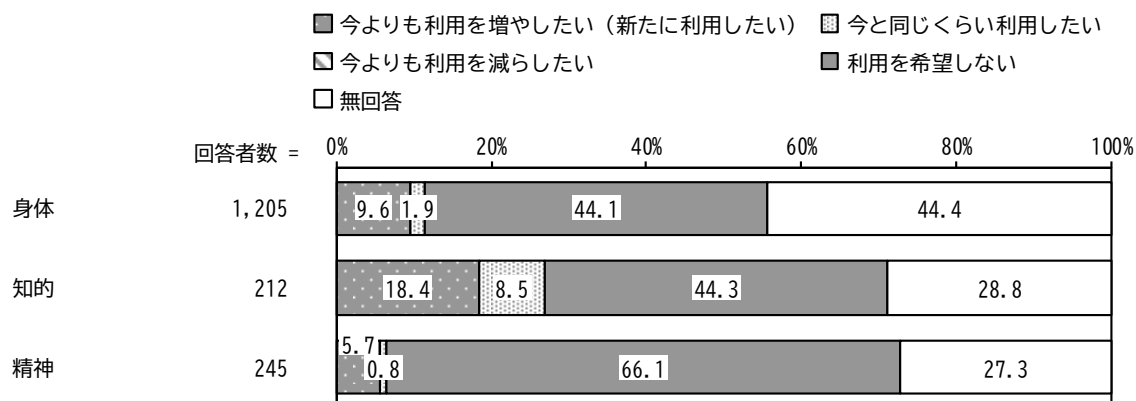
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

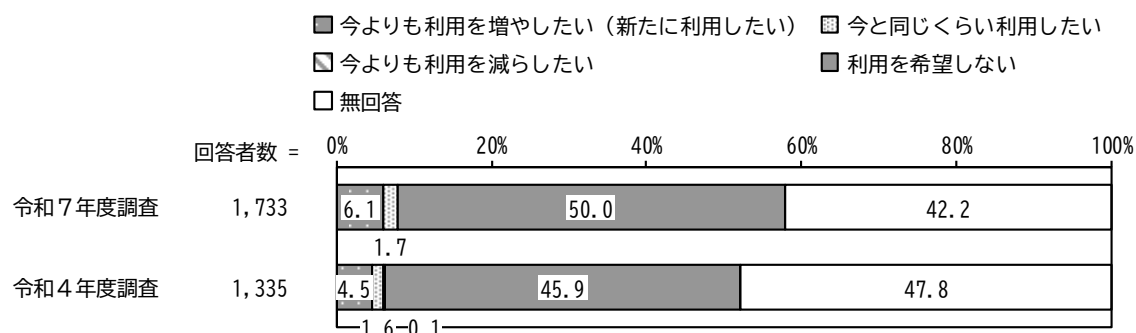
手帳種類別にみると、知的において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が若干高くなっています。



⑭共同生活援助（グループホーム）

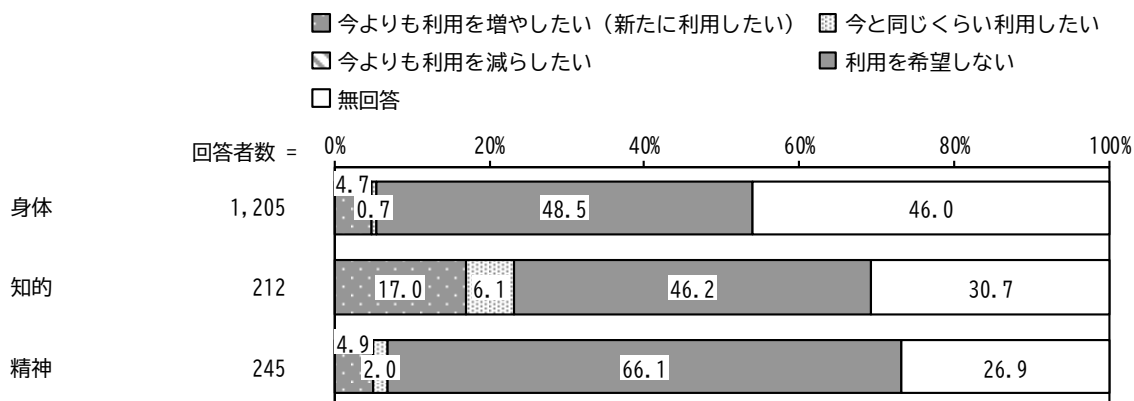
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

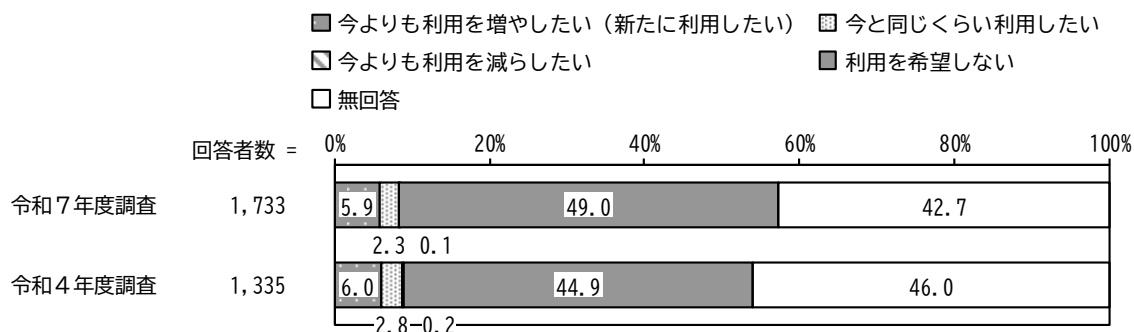
手帳種類別にみると、知的において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。



⑮施設入所支援

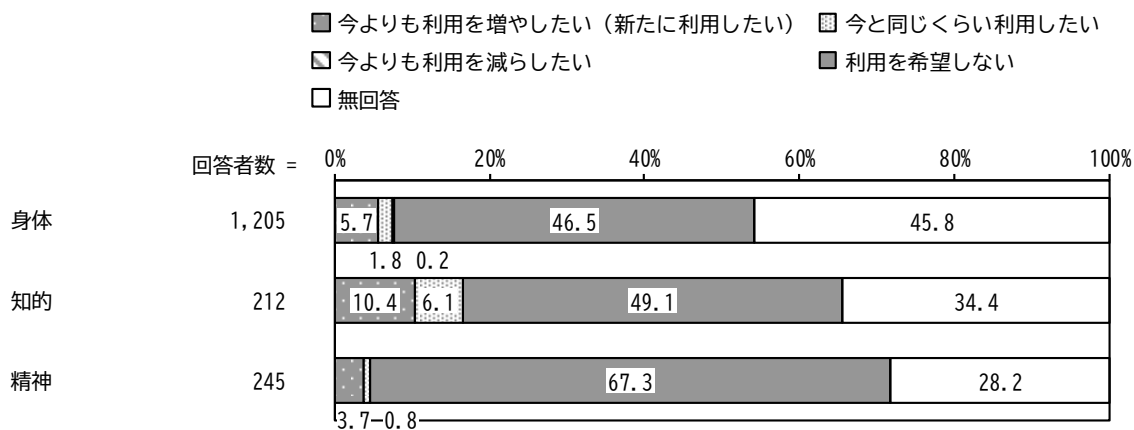
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

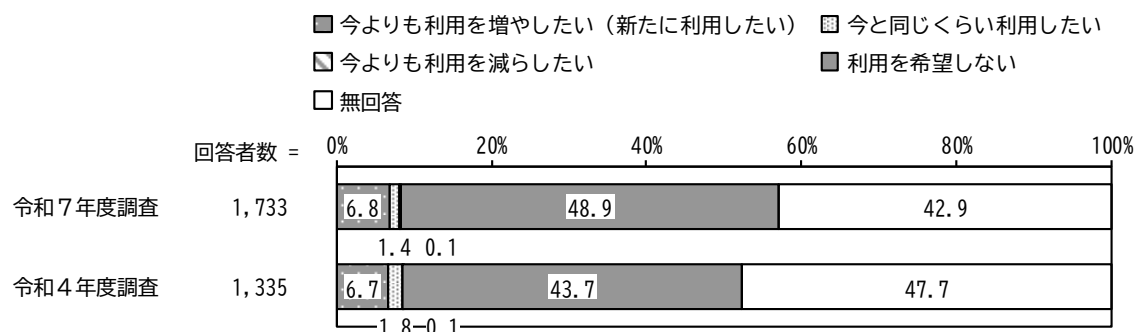
手帳種類別にみると、知的において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が若干高くなっています。



⑩自立生活援助

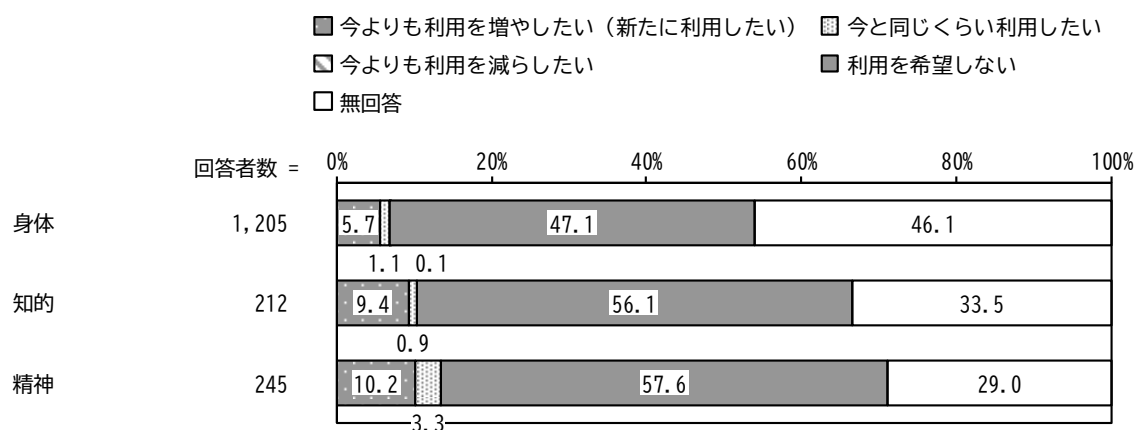
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

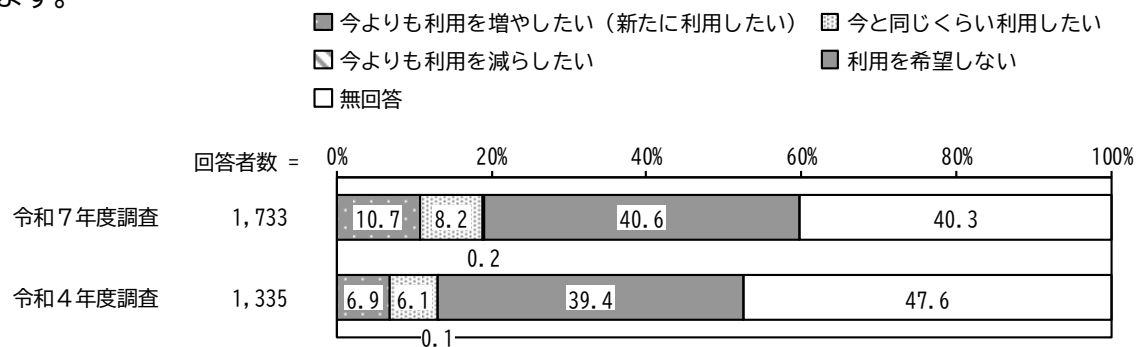
手帳種類別にみると、知的と精神において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が若干高くなっています。



⑪計画相談支援

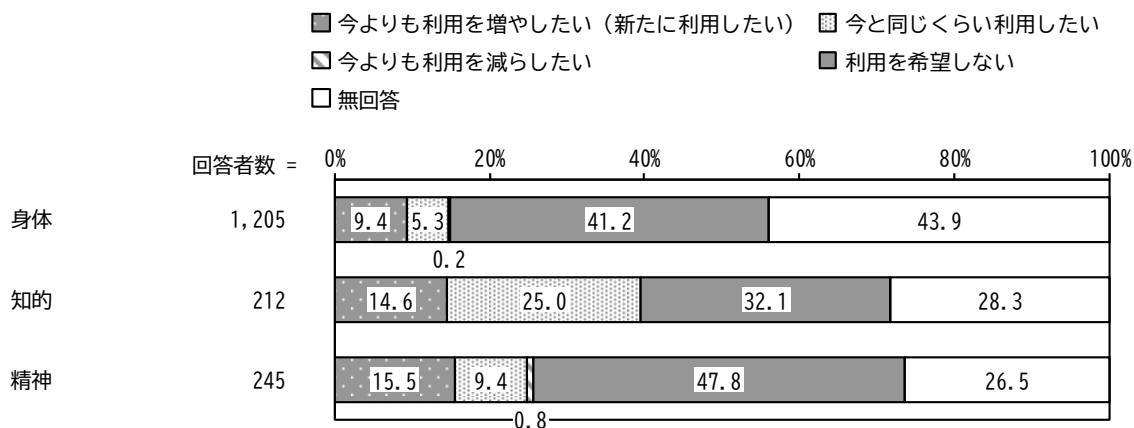
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

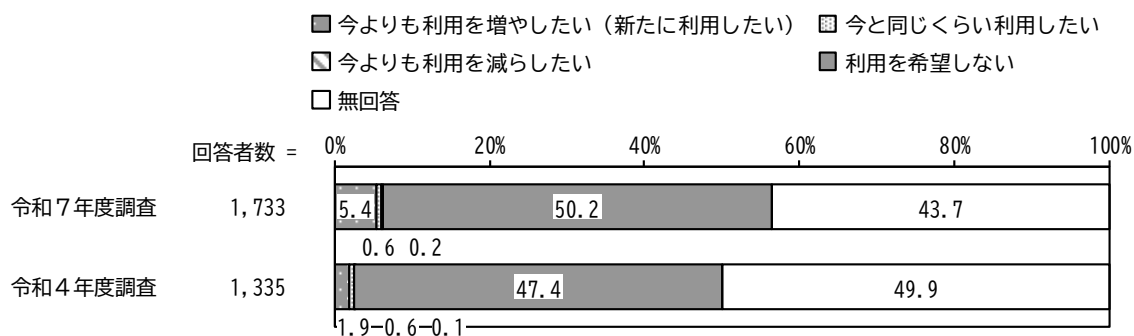
手帳種類別にみると、知的と精神において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が若干高くなっています。



⑱地域移行支援

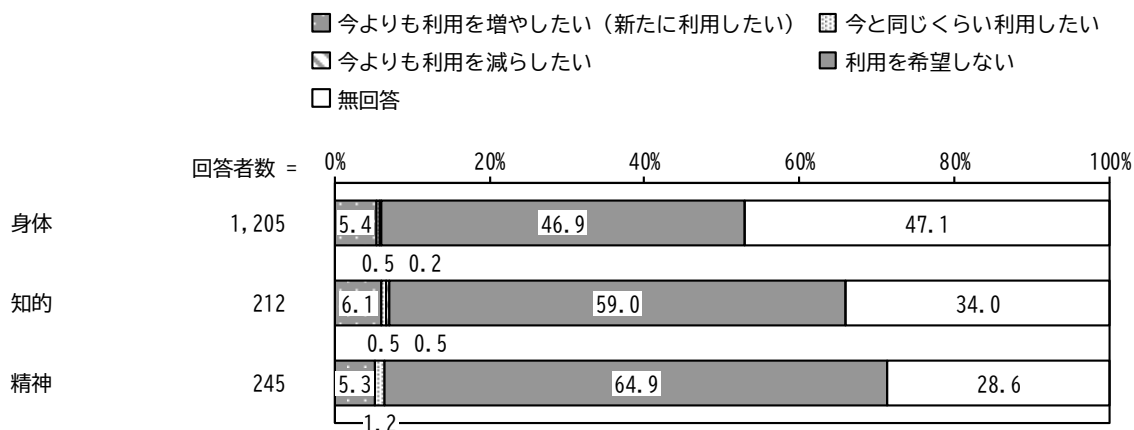
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

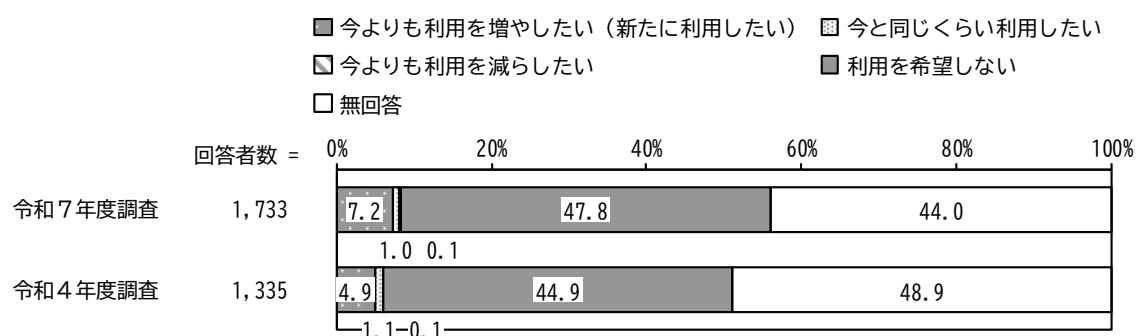
手帳種類別にみると、知的において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が若干高くなっています。



⑱地域定着支援

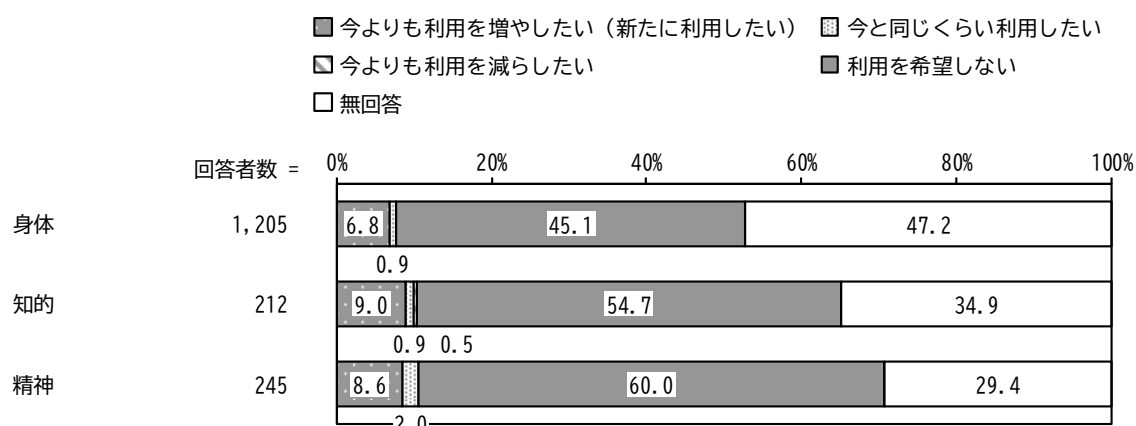
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

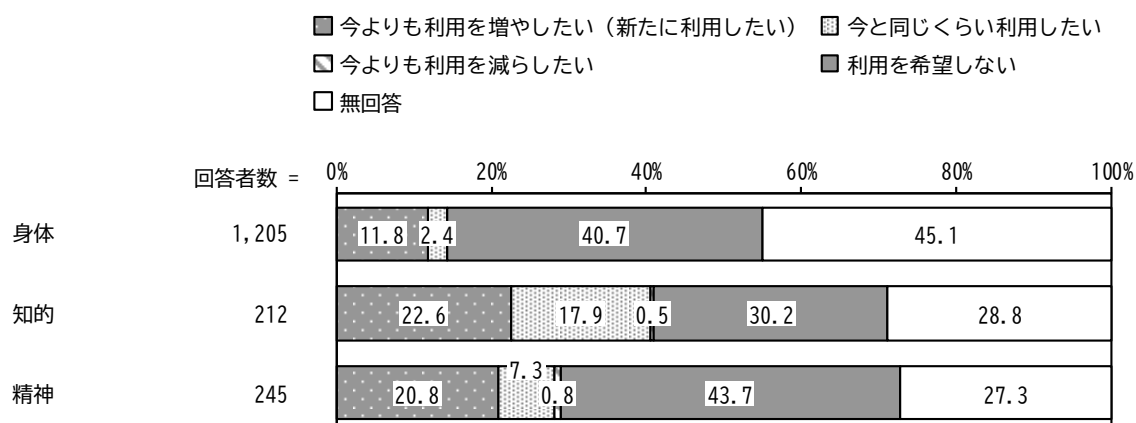
手帳種類別にみると、知的において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が若干高くなっています。



⑳相談支援事業

【手帳種類別】

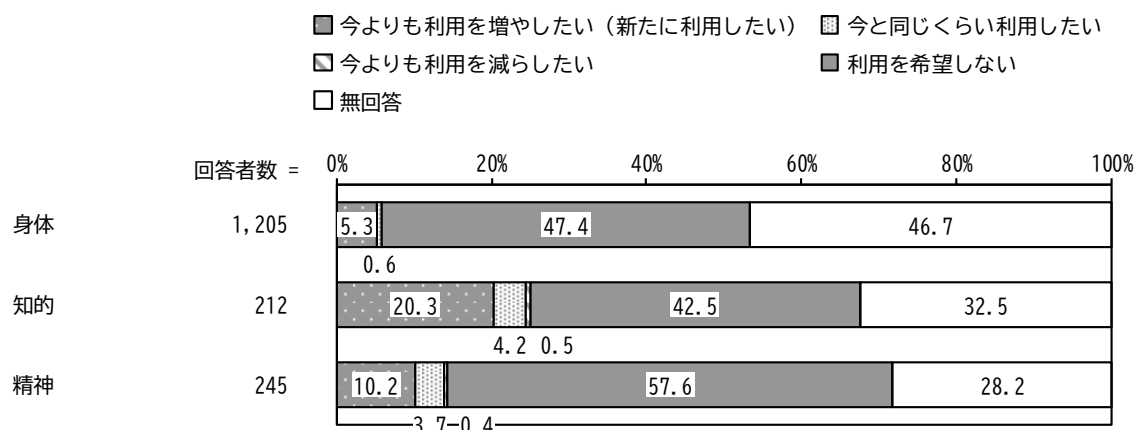
手帳種類別にみると知的と精神において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。



②成年後見制度利用支援事業

【手帳種類別】

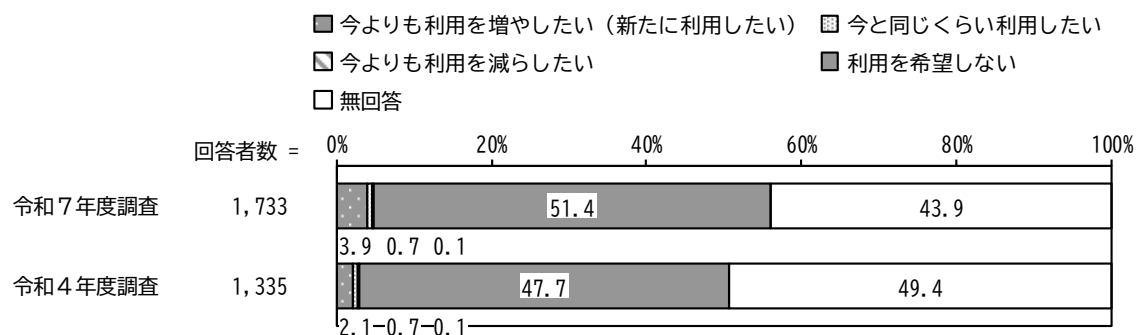
手帳種類別にみると、知的において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。



②意思疎通支援事業等

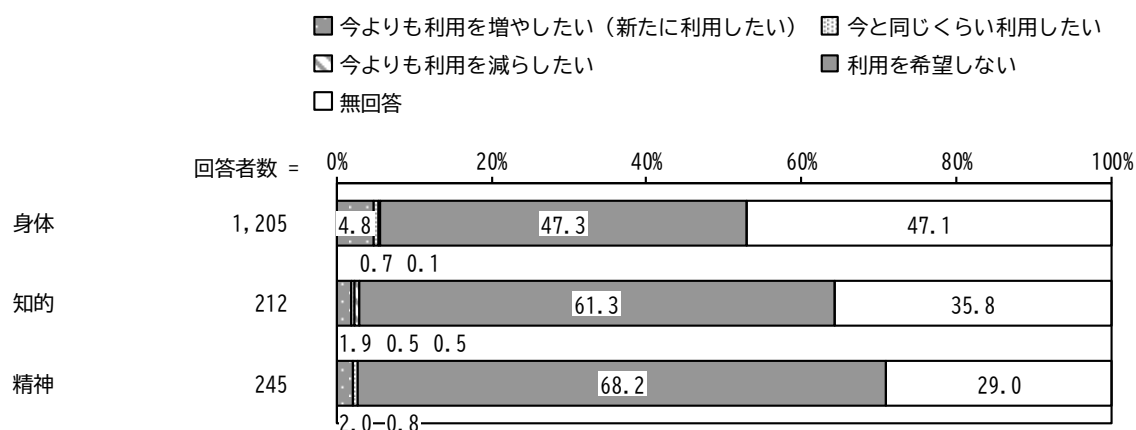
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

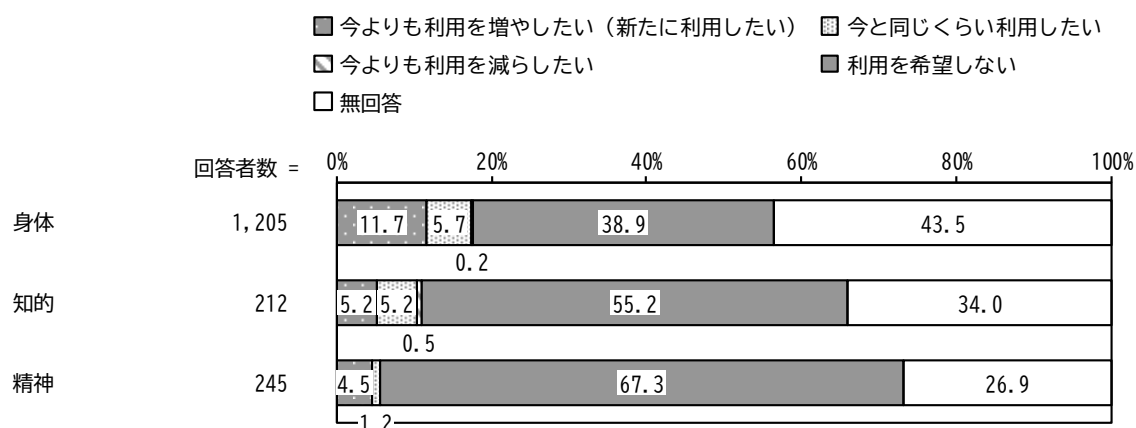
手帳種類別にみると、身体において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が若干高くなっています。



②日常生活用具給付等事業

【手帳種類別】

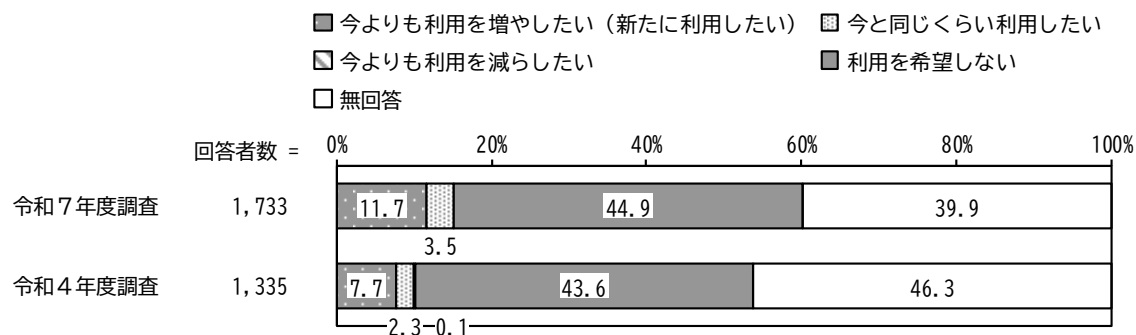
手帳種類別にみると、身体において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。



④移動支援事業

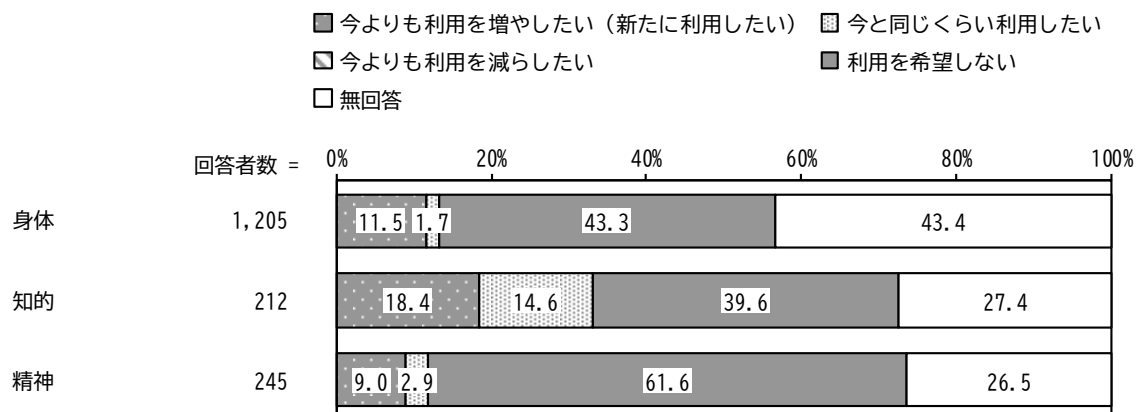
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

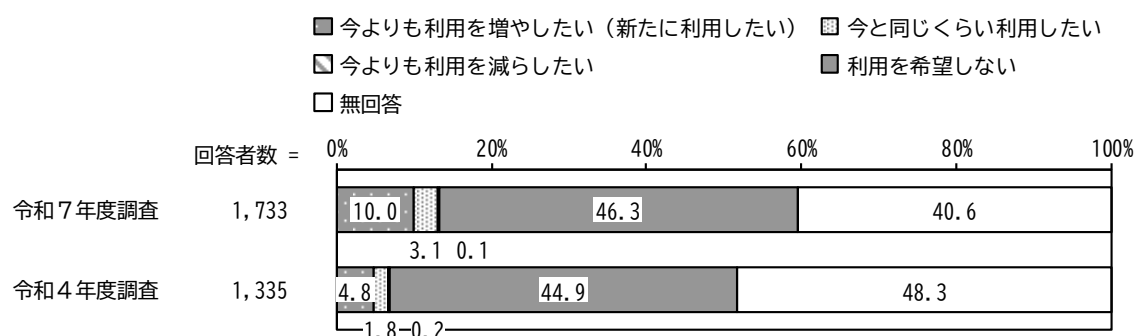
手帳種類別にみると、知的において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。



㊤日中一時支援事業

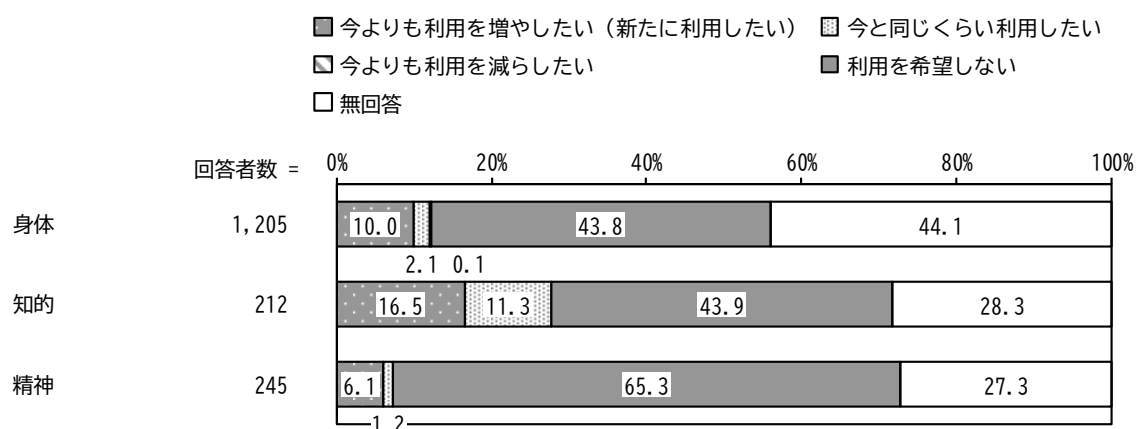
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

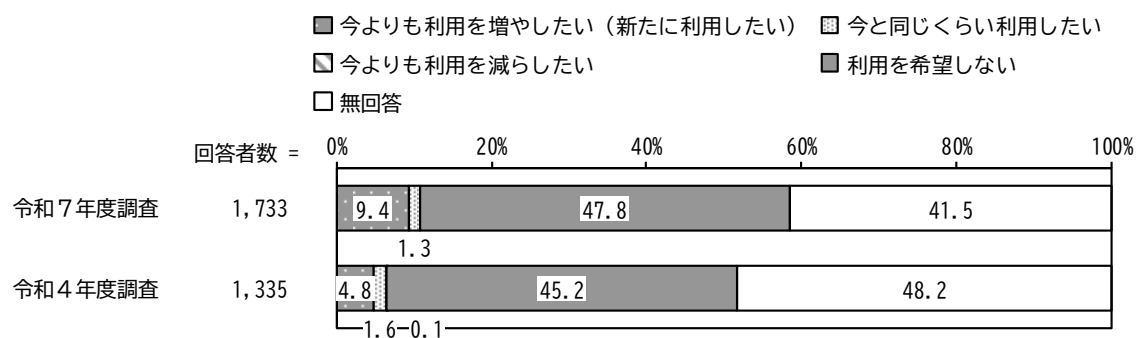
手帳種類別にみると、知的において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。



㊤地域活動支援センター事業

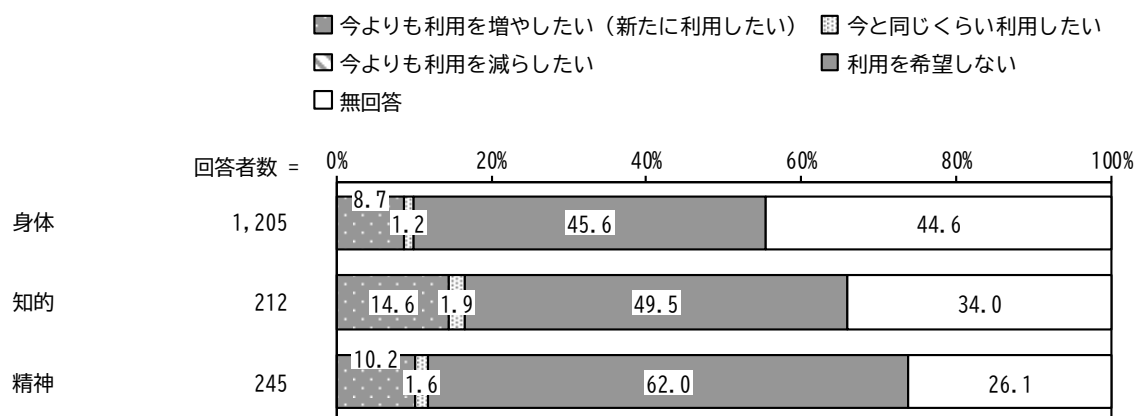
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

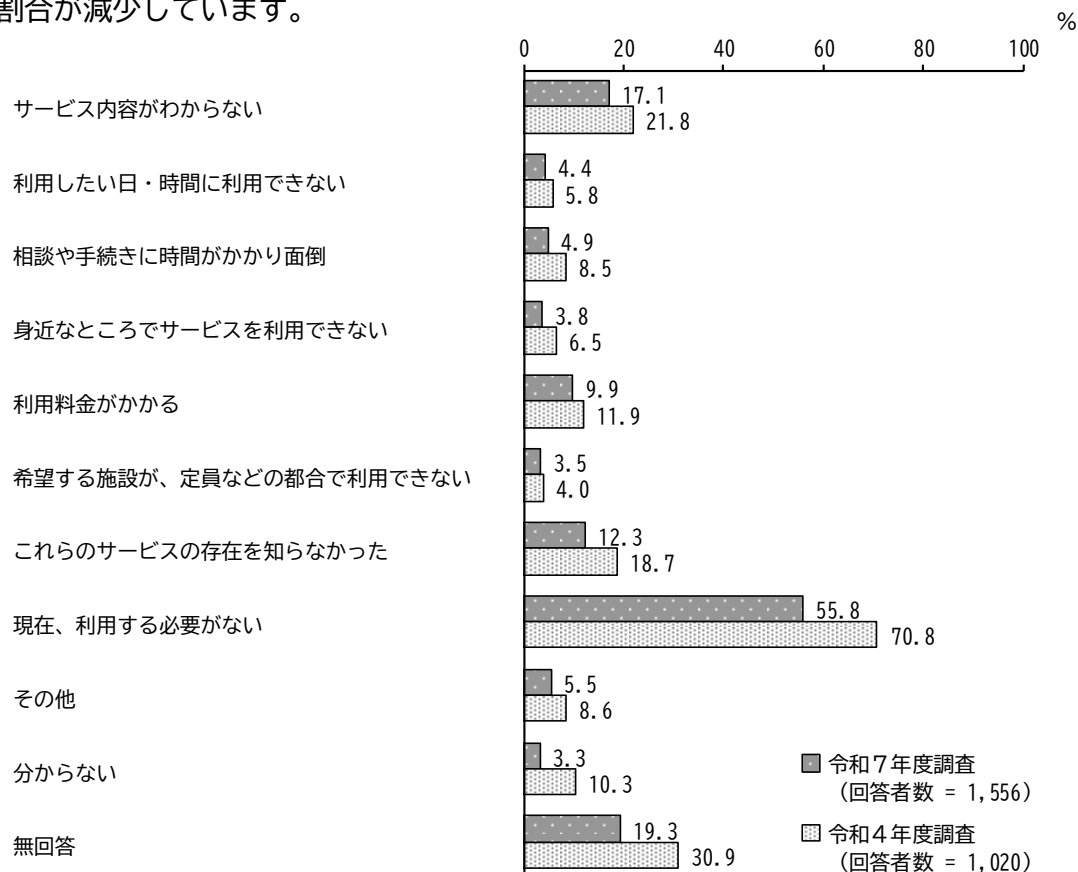
手帳種類別にみると、知的において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が若干高くなっています。



問 26 【問 25 のサービスで一つでも（１）現在の利用で「利用していない」、（２）今後３年以内の利用希望で「利用を希望しない」を選択された方にお聞きします。】
現在、利用されていない理由、または今後利用を希望されない理由は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

「現在、利用する必要がない」の割合が 55.8%と最も高く、次いで「サービス内容がわからない」の割合が 17.1%、「これらのサービスの存在を知らなかった」の割合が 12.3%となっています。

令和４年度調査と比較すると、「これらのサービスの存在を知らなかった」「現在、利用する必要がない」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、全区分で「現在、利用する必要がない」の割合が最も高くなっています。次いで、身体、知的で「サービス内容がわからない」、精神で「これらのサービスの存在を知らなかった」の割合が高くなっています。

単位：％

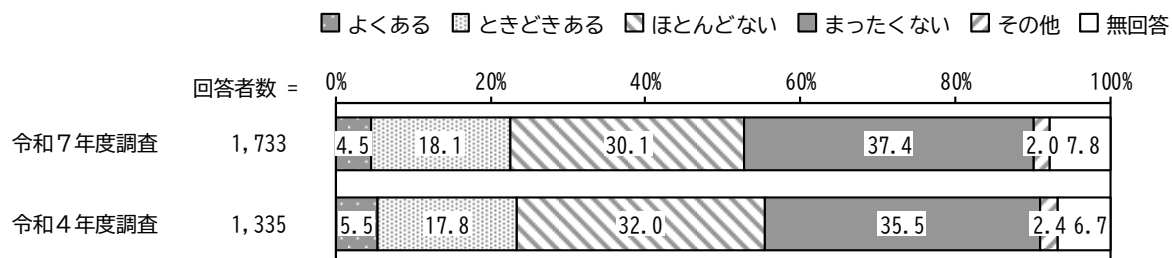
区分	回答者数（件）	いサービス内容がわからない	利用したい日・時間に利用できない	相談や手続きに時間がかかり面倒	身近なところでサービスを利用できない	利用料金がかかる	希望する施設が、定員などの都合で利用できない	これらのサービスの存在を知らなかった	い現在、利用する必要がない	その他	分からない	無回答
全 体	1,556	17.1	4.4	4.9	3.8	9.9	3.5	12.3	55.8	5.5	3.3	19.3
身体	1,076	15.1	3.0	3.6	3.0	8.6	2.6	9.9	59.4	5.3	3.0	19.6
知的	195	22.6	10.8	7.7	7.7	9.2	11.3	11.3	47.7	4.1	3.6	20.5
精神	228	22.4	7.0	7.9	3.9	15.8	1.8	24.6	50.4	7.9	3.9	15.8

10. 権利擁護について

問 27 あなたは、差別を受けたり、嫌な思いをする（した）ことがありますか。（1つに○）

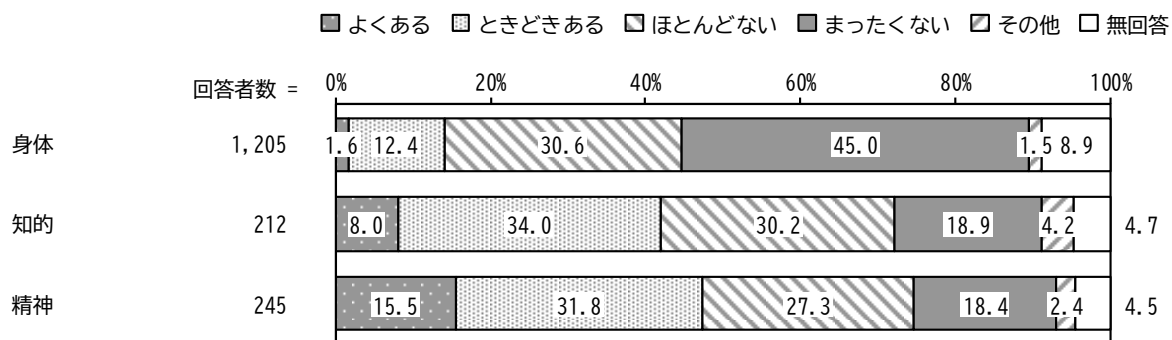
「よくある」「ときどきある」を合わせた“ある”の割合が22.6%、「ほとんどない」「まったくない」を合わせた“ない”の割合が67.5%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

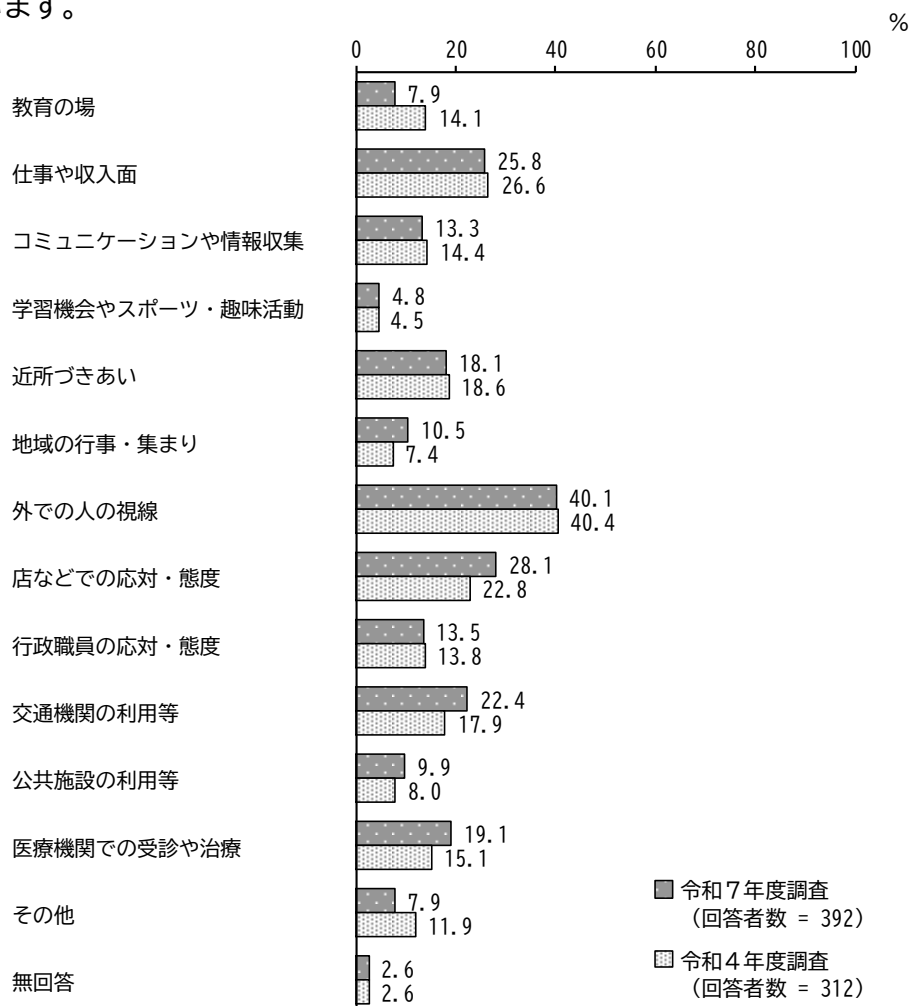
手帳種類別にみると、知的と精神で“ある”の割合が高くなっています。



問 28 【問 27 で「よくある」「ときどきある」を選択された方にお聞きます】
 具体的にどのような場面で、差別を受けたり、嫌な思いをされましたか。
 （あてはまるものすべてに○）

「外での人の視線」の割合が 40.1%と最も高く、次いで「店などでの対応・態度」の割合が 28.1%、
 「仕事や収入面」の割合が 25.8%となっています。

令和 4 年度調査と比較すると、「店などでの対応・態度」の割合が増加しています。一方、「教育の場」
 の割合が減少しています。



【手帳種類別】

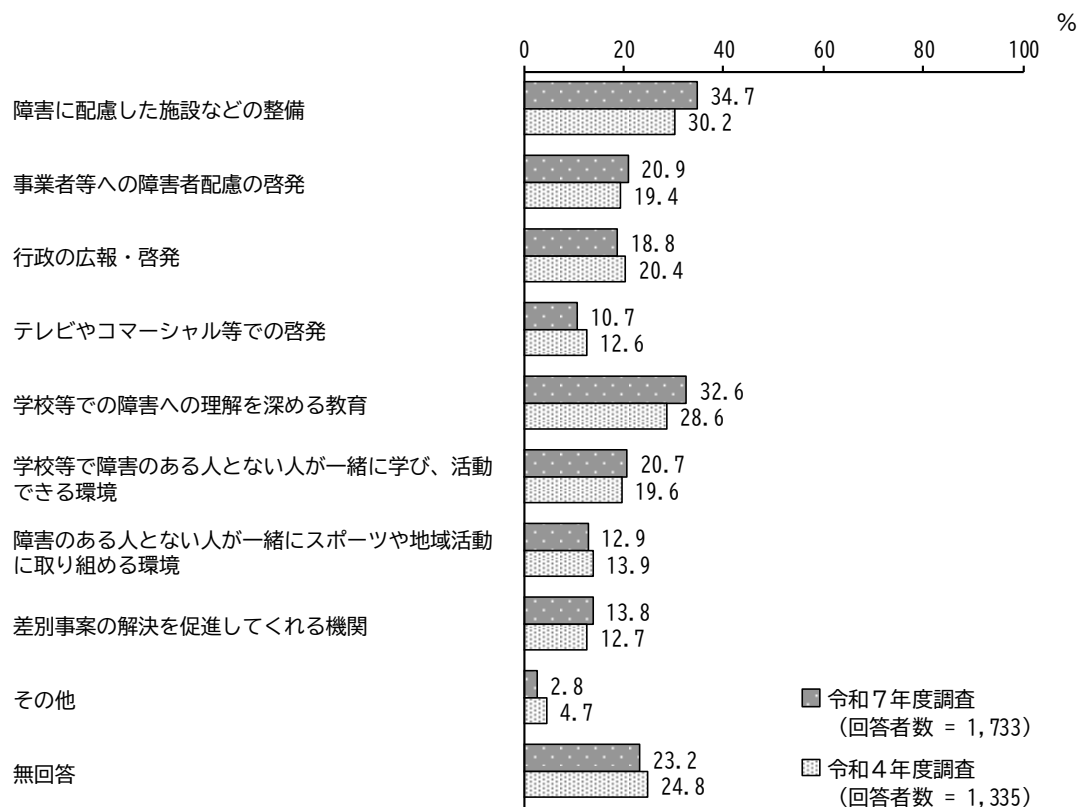
手帳種類別にみると、身体、知的で「外での人の視線」、精神で「仕事や収入面」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	教育の場	仕事や収入面	コミュニケーションや情報収集	学習機会やスポーツ・趣味活動	近所づきあい	地域の行事・集まり	外での人の視線	店などでの対応・態度	行政職員の対応・態度	交通機関の利用等	公共施設の利用等	医療機関での受診や治療	その他	無回答
全 体	392	7.9	25.8	13.3	4.8	18.1	10.5	40.1	28.1	13.5	22.4	9.9	19.1	7.9	2.6
身体	169	1.8	17.2	12.4	4.1	16.6	14.8	36.7	32.5	14.8	29.6	13.0	18.3	5.9	1.2
知的	89	13.5	23.6	9.0	3.4	16.9	11.2	57.3	32.6	5.6	15.7	10.1	13.5	6.7	3.4
精神	116	13.8	42.2	19.0	6.9	18.1	4.3	32.8	18.1	16.4	18.1	6.0	21.6	12.1	4.3

問 29 障害のある人に対する理解や差別解消のために必要なことは何だと思いますか。
(3つまでに○)

「障害に配慮した施設などの整備」の割合が 34.7%と最も高く、次いで「学校等での障害への理解を深める教育」の割合が 32.6%、「事業者等への障害者配慮の啓発」の割合が 20.9%となっています。
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

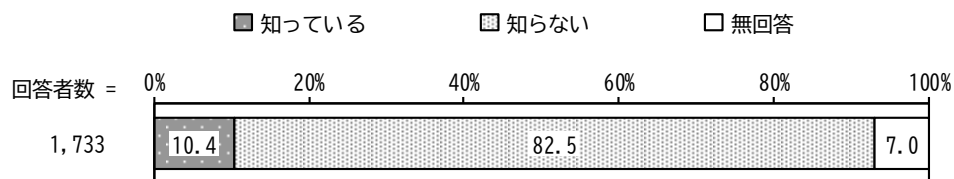
手帳種類別にみると、身体で「障害に配慮した施設などの整備」、知的、精神で「学校等での障害への理解を深める教育」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	障害に配慮した施設などの整備	事業者等への障害者配慮の啓発	行政の広報・啓発	テレビやコマーシャル等での啓発	学校等での障害への理解を深める教育	学校等で障害のある人とない人が一緒に学び、活動できる環境	障害のある人とない人が一緒にスポーツや地域活動に取り組める環境	差別事案の解決を促進してくれる機関	その他	無回答
全 体	1,733	34.7	20.9	18.8	10.7	32.6	20.7	12.9	13.8	2.8	23.2
身体	1,205	36.2	19.4	20.4	10.2	29.7	19.1	12.1	10.9	2.2	25.4
知的	212	35.8	26.4	11.3	6.1	47.2	33.0	18.9	19.8	2.8	15.1
精神	245	26.9	25.7	18.4	17.6	38.4	20.8	12.2	23.7	5.7	14.7

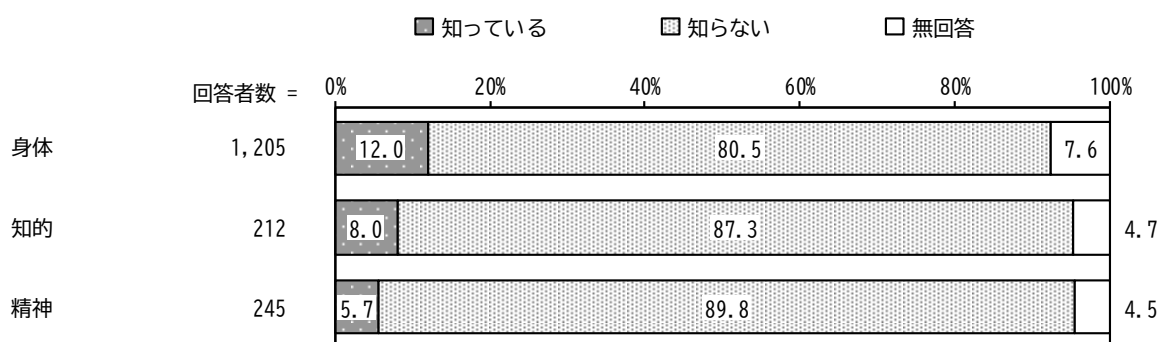
問 30 あなたは、「宇治市障害者・高齢者権利擁護センター」を知っていますか。
(1つに○)

「知っている」の割合が10.4%、「知らない」の割合が82.5%となっています。



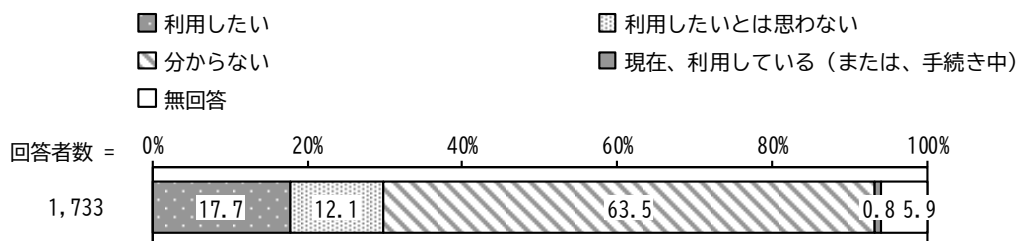
【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「知っている」の割合が高く、精神で「知らない」の割合が高くなっています。



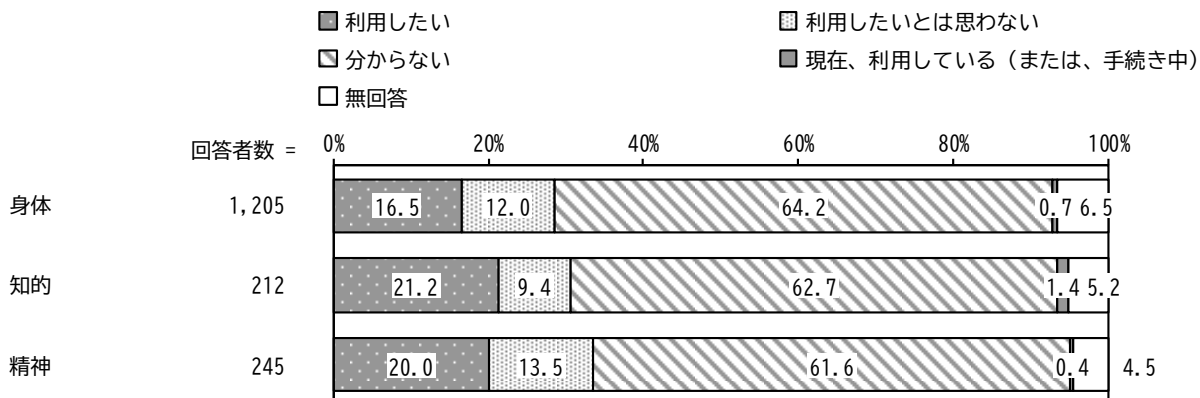
問 31 あなたは、今後、「宇治市障害者・高齢者権利擁護センター」を利用したいですか。
(1つに○)

「利用したい」の割合が17.7%、「利用したいとは思わない」の割合が12.1%となっています。



【手帳種類別】

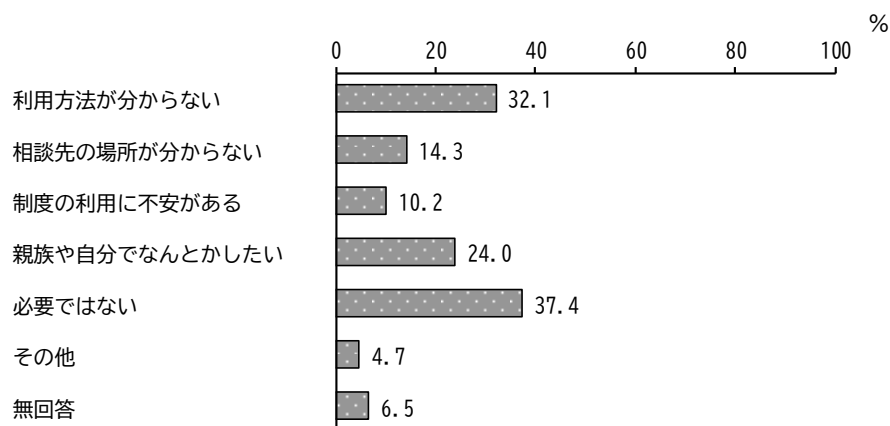
手帳種類別にみると、知的において「利用したい」の割合が若干高くなっています。



問 32 【問 31 で「利用したいとは思わない」「分からない」を選択された方にお聞きします】
現在のところ、利用を検討されない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「必要ではない」の割合が 37.4%と最も高く、次いで「利用方法が分からない」の割合が 32.1%、「親族や自分でなんとかしたい」の割合が 24.0%となっています。

回答者数 = 1,310



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「必要ではない」、知的、精神で「利用方法が分からない」の割合が高くなっています。

単位：％

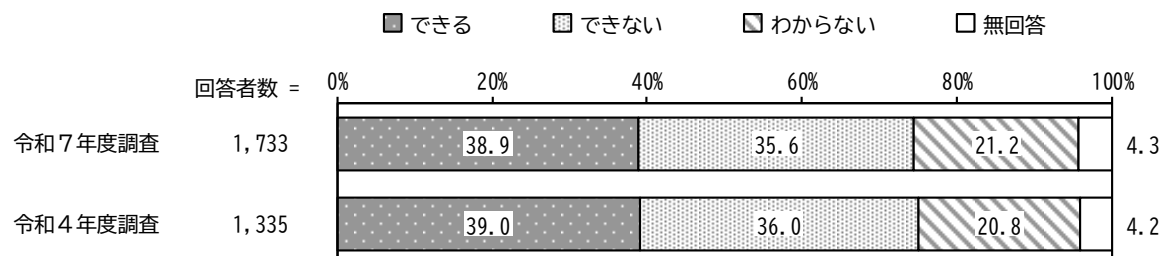
区分	回答者数 (件)	利用 方法が分 から ない	相 談 先 の 場 所 が 分 か ら ない	が 制 度 の 利 用 に 不 安 あ る	親 族 や 自 分 で な ん か し た い	必 要 で は な い	そ の 他	無 回 答
全 体	1,310	32.1	14.3	10.2	24.0	37.4	4.7	6.5
身体	919	27.5	12.9	7.7	26.7	39.4	4.4	6.5
知的	153	47.1	17.0	14.4	20.9	32.0	7.2	5.2
精神	184	43.5	17.9	18.5	14.1	36.4	3.8	4.3

11. 災害時の避難等について

問 33 あなたは地震や水害、火事等の災害時に一人で避難できますか。(1つに○)

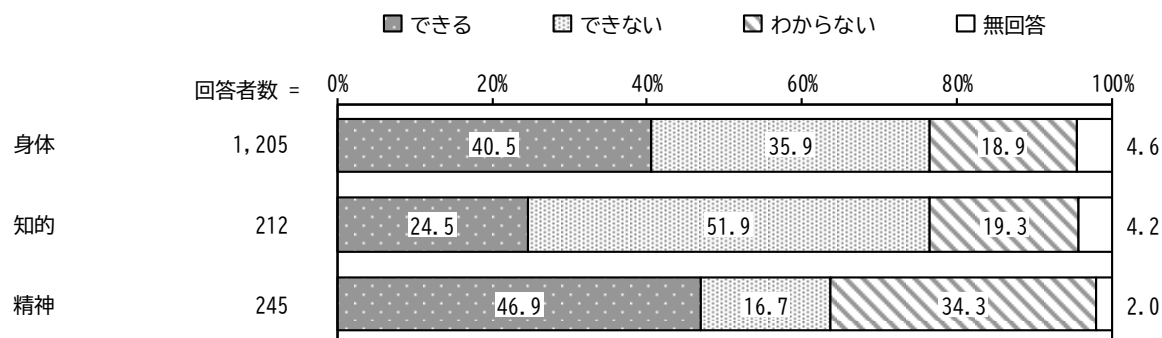
「できる」の割合が38.9%、「できない」の割合が35.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

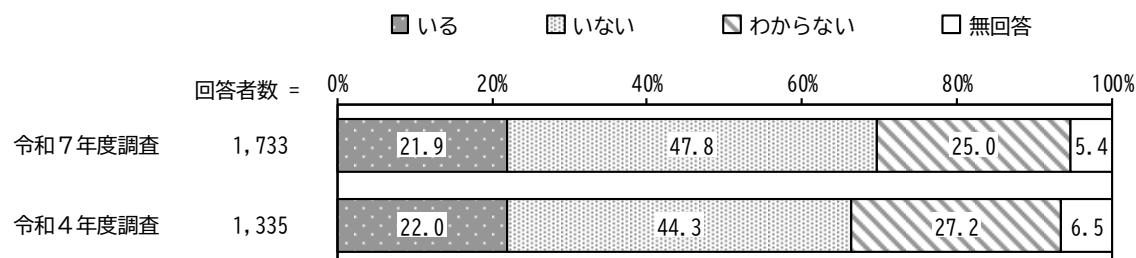
手帳種類別にみると、知的で「できない」の割合が高くなっています。



問 34 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、災害時にあなたを助けてくれる人はいますか。(1つに○)

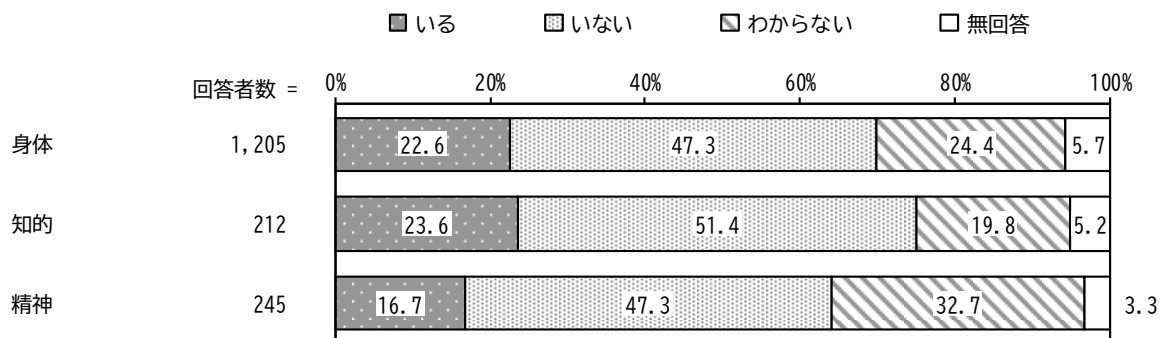
「いる」の割合が21.9%、「いない」の割合が47.8%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



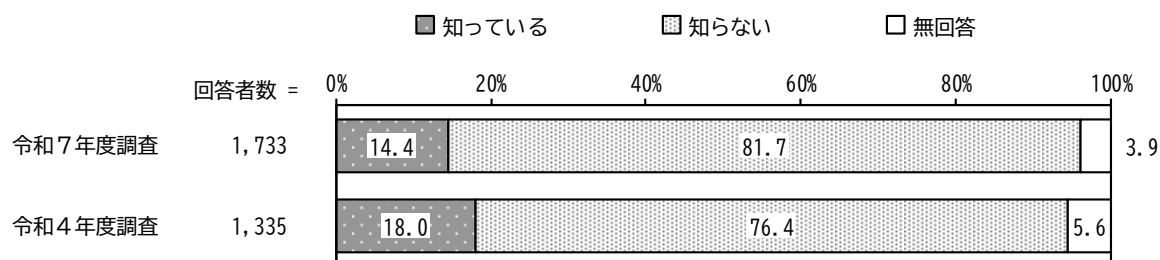
【手帳種類別】

手帳種類別にみると、精神で「いる」の割合が低くなっており、知的で「いない」の割合が高くなっています。



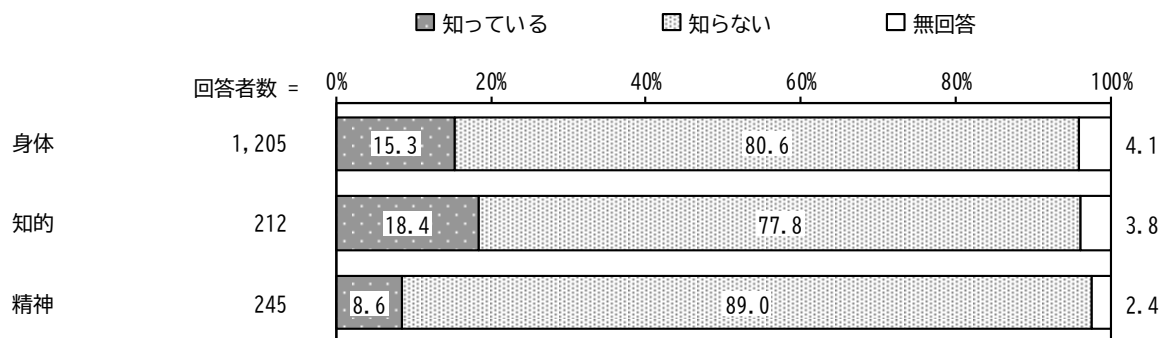
問 35 あなたは、宇治市で行っている「災害時避難行動要支援者支援事業」を知っていますか。(1つに○)

「知っている」の割合が14.4%、「知らない」の割合が81.7%となっています。
令和4年度調査と比較すると、「知らない」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

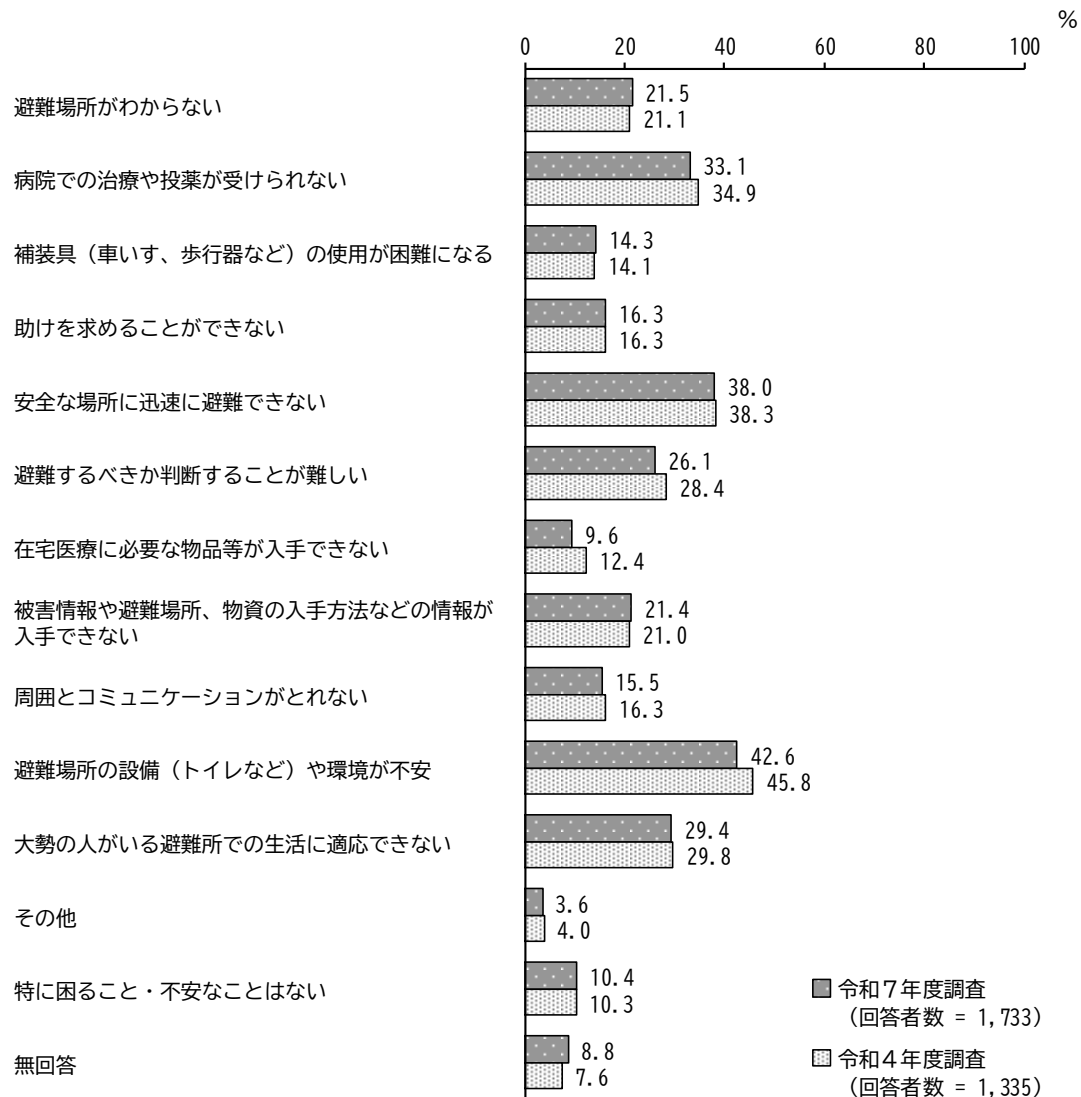
手帳種類別にみると、知的で「知っている」の割合が高く、精神で「知らない」の割合が高くなっています。



問 36 地震や水害、火事等の災害時に、あなたが困ることや不安なことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「避難場所の設備（トイレなど）や環境が不安」の割合が 42.6%と最も高く、次いで「安全な場所に迅速に避難できない」の割合が 38.0%、「病院での治療や投薬が受けられない」の割合が 33.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「避難場所の設備（トイレなど）や環境が不安」、知的で「避難するべきか判断することが難しい」、精神で「病院での治療や投薬が受けられない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	避難場所がわからない	病院での治療や投薬が 受けられない	補装具（車いす、歩行 器など）の使用が困難 になる	助けを求めることがで きない	安全な場所に迅速に避 難できない	避難するべきか判断す ることが難しい	在宅医療に必要な物品 等が入手できない
全 体	1,733	21.5	33.1	14.3	16.3	38.0	26.1	9.6
身体	1,205	16.3	33.0	17.3	12.2	39.5	19.8	10.4
知的	212	42.0	21.7	8.5	39.6	41.5	52.8	5.7
精神	245	27.3	47.3	2.9	16.7	27.3	35.1	8.6

区分	被害情報や避難場所、 物資の入手方法などの 情報が入手できない	周囲とコミュニケーション がとれない	避難場所の設備（トイ レなど）や環境が不安	大勢の人がいる避難所 での生活に適応できな い	その他	特に困ること・不安な ことはない	無回 答
全 体	21.4	15.5	42.6	29.4	3.6	10.4	8.8
身体	19.7	9.4	43.8	23.6	3.2	11.0	10.0
知的	28.8	43.9	37.7	43.4	4.2	9.0	5.2
精神	23.7	22.4	42.0	45.3	5.7	9.8	6.1

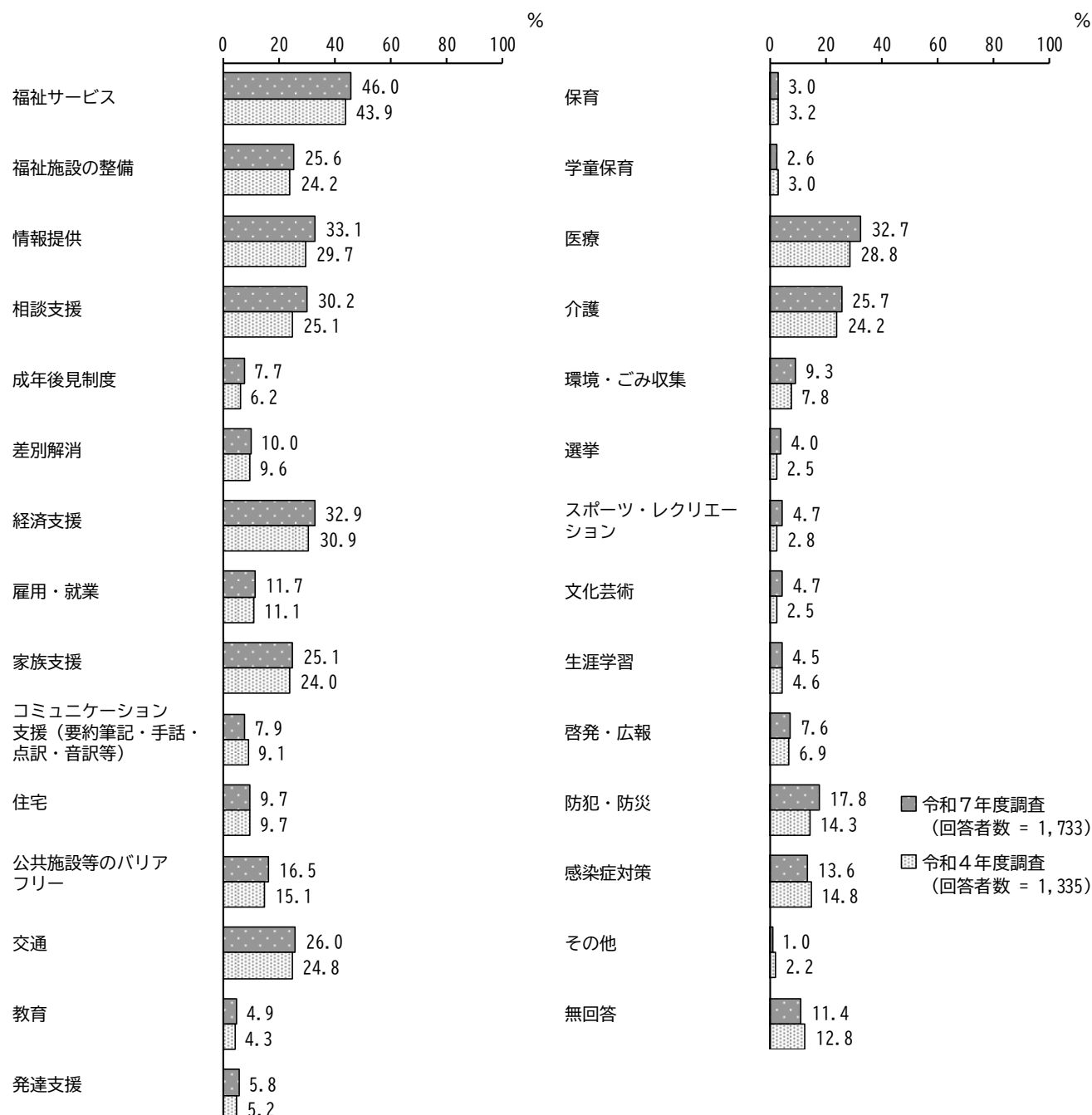
12. 宇治市の今後の施策に向けて

最後に、宇治市の障害福祉施策に対し期待していることや必要だと思うことについてお聞きます。

★障害のある人の福祉の充実のために、今後宇治市で力を入れて取り組んでほしい分野は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「福祉サービス」の割合が46.0%と最も高く、次いで「情報提供」の割合が33.1%、「経済支援」の割合が32.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「相談支援」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体、知的で「福祉サービス」、精神で「経済支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	福祉サービス	福祉施設の整備	情報提供	相談支援	成年後見制度	差別解消	経済支援	雇用・就業	家族支援
全 体	1,733	46.0	25.6	33.1	30.2	7.7	10.0	32.9	11.7	25.1
身体	1,205	44.0	23.7	32.8	26.9	4.6	5.6	28.9	6.3	23.5
知的	212	54.7	39.2	34.0	34.4	24.1	22.2	30.7	20.3	33.0
精神	245	47.8	23.7	37.6	41.6	10.2	21.6	55.5	31.4	27.3

区分	コミュニケーション支援 (要約筆記・手話・点訳・音訳等)	住宅	公共施設等のバリアフリー	交通	教育	発達支援	保育	学童保育	医療	介護
全 体	7.9	9.7	16.5	26.0	4.9	5.8	3.0	2.6	32.7	25.7
身体	7.3	7.4	18.3	26.8	3.0	2.9	2.7	2.4	33.2	27.2
知的	7.5	13.2	10.8	20.3	10.4	14.6	3.8	2.8	23.6	18.4
精神	10.6	16.7	9.8	25.3	11.0	12.7	4.5	4.1	39.2	23.3

区分	環境・ごみ収集	選挙	スポーツ・レクリエーション	文化芸術	生涯学習	啓発・広報	防犯・防災	感染症対策	その他	無回答
全 体	9.3	4.0	4.7	4.7	4.5	7.6	17.8	13.6	1.0	11.4
身体	9.5	3.2	3.4	4.1	3.7	6.7	17.3	13.8	1.1	12.6
知的	6.1	7.1	12.7	5.2	3.3	9.9	21.2	12.3	0.5	8.5
精神	10.6	5.3	4.5	9.0	10.6	11.8	18.0	14.7	1.6	7.3

★最後に、宇治市の障害福祉施策に対するご意見等について自由に記載してください。

自由記述欄にご記入いただいた意見総数は、387 件でした。意見を要約して以下に記載します。

1 移動手段・交通機関の充実に関して

- 利用する際に事前連絡が必要な公共交通があるが、もっと好きなタイミングで気軽に乗れると良い。
- ヘルパー事業所に車いすのまま乗れるスロープ付の車があり、移動支援に使えると外出機会が増える。
- バス等の公共交通の便の数や範囲を増やしてほしい。
- 宇治市は坂道が多く、家の近所には店もなく不便である。乗合タクシーや巡回バスを出してほしい。
- 公共交通を利用する際、障害者手帳を出して窓口で精算しないといけないのが不便。ICOCA の電子チャージ（定期券）も可能にしてほしい。
- 交通手段が利用できない人やパソコンを利用できない人もいる。色々な制度や支援があっても、利用が難しいと感じる。
- 市役所や図書館などへ行くのが不便。交通手段がないので利用できない。タクシー券の配布やミニバスを通らせてもらいたい。
- 介護者に車を運転してもらっているが、車の運転が出来なくなった場合、移動手段に不安がある。「ほないこ Car」等、一部の地域のみ運行されている『のりあい交通事業』を一層強化いただきたい。
- 行事等が行なわれる時に移動手段として、市の車を利用出来るようにしてほしい。
- 補装具などの判定所が城陽市のアクセスの悪い場所にあってとても不便。せめて宇治市で受けられるようお願いしたい。市役所も不便な所にあるので乗り合いタクシーや交通費の補助があると助かる。
- 公共的な移動（バス等）による病院や買物等への手段が少ない（無い）。公共バス（コミュニティバス）の実施をお願いしたい。
- 市役所に行くのが不便である。駅からも遠くバス等を利用しないと行く事ができない。
- 公共交通の充実、歩道の整備などをしてほしい。
- スーパーなどへタクシーで行くとお金がかかるので、買物サービス車を出してほしい。
- バスの減便など、移動手段の確保が年々厳しくなっているように思う。
- 福祉タクシー券の利用可能者の範囲が狭い。
- 福祉有償運送が充実していない。
- 自力での移動手段が徒歩かタクシーしかないため、外出の機会が減る。公共交通手段（バス）の充実、障害の有無に関わらず高齢化の進む宇治市には必要なものだと思う。

2 バリアフリー環境の整備に関して

- どの駐車場でも横に広い障害者用駐車場はあるが、縦に長い駐車場がない。
- 公共施設のトイレを洋式に替えてほしい。
- 最近、公園にあるベンチが次々撤去されている。足が悪く休憩したいが、座れない。
- 商業施設等の障害者専用駐車場スペースに、障害者でない人が駐車しないように指導してほしい。
- 歩道に段差があったり、でこぼこしていて危ない場所が多いので、整備してほしい。
- 宇治市は段差のある住宅が多いと思う。電動リフトがレンタルで利用できればありがたい。
- 市役所の多機能トイレにフィッティングボードを設置してほしい（大人の着替え用：オムツなど）。
- お年寄りの人や身体の不自由な人は朝のゴミ捨てが大変なので、各家に収集してもらいたい。

- 黄檗駅にようやくエレベーターがついたが、遅すぎると思う。意識が低いことが施策を遅らせる。理解を深めることを第一に考えてほしい。
- バスの乗降する時、高さが高くて乗れない場合がある。すべての交通機関が乗りやすくなると、少しは外出するのがおっくうにならないと思う。
- 外でも内でも、階段に手すりがついていると歩きやすい。家庭内ならば、補助棒がほしい。
- 狭小な道路・路地が多く存在し、歩行者が安心して通行できない所が多数ある。歩道の整備や、車の通行の制限（一方通行化など）を進めていく必要がある。
- 平等院付近の川沿いなどの道は見栄えの良い石で舗装をされていて美しいが、でこぼこした材質のため車椅子やベビーカーに振動が伝わりやすく通りにくい。機能性についても考慮してほしい。
- 市内のバリアフリーマップがあると行ける場所が分かりやすくて良いと思う。

3 現状の福祉施策全般に関して

- 町内会によって福祉施策への取り組み方が異なっており、行政から町内会等への働きかけを期待する。
- 宇治市は他市と比べ福祉が充実していると思う。
- 在宅介護生活に入って7年が経過しました。日頃よりいろいろ支援を受けて感謝しかない。
- 障害の特性に応じた就労移行支援について、配慮が必要な知的障害者へ福祉サービスがあるということは素晴らしく、これからも継続すれば頼りになると思う。
- 他市と比べて、障害福祉分野が良いと言われているが、障害者に優しい町は、市民にとっても住みやすい町だと思う。これからも、きめ細やかな施策をお願いしたい。
- 子どもを保育園に入れるときに手帳が使えるのが、助かった。
- 他市にいたときと違い、宇治市では自分を人として尊重し、困ったらすぐに支援してくれます。障害をもっても1人暮らしが安心してできるよう、これからも福祉サービスをお願いしたい。

4 将来への不安（親亡き後・高齢化・単身生活）に関する支援に関して

- 今は配偶者がいるので、この先のことは年齢的にどうなるか不安。
- 今は何とか自分の事が出来ているが、今後はどうなるのか考えられない時が来ると心配である。もし体調が悪くなって動けなくなったらどうして暮らしていったらいいか非常に不安。
- 現在は介助なしで生活しているが、介助が必要となった時に手助けになる市の支援の受け方などのサービスを確認したいと思う。
- 子どもが一人になった時、親として不安がある。安心して障害のある子（や人）が暮らせる社会にしてもらいたいと思う。
- 親に介護してもらうことができなくなった時、どうすれば良いか分からない。
- 10年位前から成年後見制度の取り組みを気にかけていた。やっと自治体を取り上げるようになったこと、本当によかったと思う。
- 親の老化とともに生活に支障がでてくると思うので、いざという時に頼りになる身近な自治体の協力体制が必要。
- 現在は自分の事はできるが、明日どうなるかわからない。年齢的に不安な日々が続いている。
- 老老介護の先がわからない。良い知恵を貸してほしい。
- 親亡き後の生活、本人の老後の生活が安心して出来るようにと思う。
- 主人も障害者であり2人暮らし。片方が倒れた時など、不安な事もある。今は何とか暮らせているが、年金しか収入がないので、これから先不安に思う。

5 広報・情報提供に関して

- 難聴で補聴器の支援をうけているが、市で支援があることを知らなかったのも、市からいろいろな支援についての情報を発信してほしい。
- 障害福祉施策の特集編を作成してほしい。
- 孤独死の後処理の情報がほしい。
- 宇治市の障害福祉施策の内容を知らない。第8期の施策を勉強したい。障害福祉施策や計画内容を市民にわかりやすく説明してほしい。
- 市の窓口や民生委員の細やかな情報収集と支援を手厚くお願いしたい。
- 宇治市でやっていることを大々的に箇条書きにして PR すべきだと思う。
- 利用できるサービスがわかりにくい。手続きが複雑。情報が少ない。市のホームページがわかりにくい。
- 障害があっても普通の人みたいに生活したい。もっと情報がほしい。
- 宇治市の障害福祉施策があまりわからない。
- 障害福祉サービスや行政の取組について、情報共有がまだまだである。
- 障害福祉課の職員は丁寧に対応してくださっているが、福祉サービスを受ける流れがよくわからないところがある。受けられるサービスや支援について、わかりやすいパンフレットなどを各家庭に配ってほしい。窓口でも教えてほしい。

6 相談体制の充実・手続きの簡略化に関して

- 障害福祉サービスを利用したいが、どのようにして手続き、または相談したら良いかわからない。
- 障害福祉サービスと介護保険とで使えるサービスが別々に色々あって、把握している人がいないと利用できないのが不便だと思う。
- 先の事を考えると、やはり相談できる窓口があるのが心強いと思う。
- いろいろな福祉施策を考えてくださっているのがわかったが、親が高齢になり相談などに行った時にきちんと対応していただきたい。
- 市が積極的に向きあって、相談にのってほしい。
- 療育手帳の電子化をしてほしい。
- 障害の手続きに時間がかかり過ぎ。
- 手話通訳と要約筆記をつけてほしい。
- 本人がほとんどできないので、親亡き後の支援の事について相談支援を充実させてほしい。
- 目、耳、足が不自由なため付き添いがほしい。代弁してくれる方に自分の意志をわかってほしい。
- 耳が聞こえないので難しい言葉が理解できない。
- 相談しやすい・利用しやすいを念頭において施策を行ってほしい。
- 介護者も 70 歳を超え、自分の体調、病気などでこの先どうなるのかと毎日が不安。気軽に相談できる窓口があれば助かる。
- 窓口の一本化。休日窓口の開設。親切な対応をしてほしい。
- どんな事でも気軽に相談できる環境になると良いと思う。

7 施設及び居宅福祉サービスに関して

- 肢体不自由児は重くて大変なので、入浴介助の支援は、作業所で入れてもらえると助かる。
- 自閉症児に対する教育を、作業所やヘルパーなどに広く充実させてほしい。

- 今後一人になって自立した生活が出来なくなった時でも、在宅で出来るだけ長く暮らしたいと思うので、訪問介護の充実を望む。
- 親亡き後、施設以外で生き生きと暮らせ、安心して楽しい場所がほしい。手帳や区分に関係なく本人の望むグループホームを宇治市で建ててほしい。
- どのサービスも利用料が高く、希望する日に対応してもらえなかったり、介助者の体調不良時など緊急時に利用できずに困っている。介護者も介助者も無理なく生活したい。
- 施設入所支援のサービスを受けながら、行動援護も利用できるようにしてほしい。
- 施設の日中一時支援を増やしてほしい。
- 高齢になり入浴が気になっている。利用出来る施設の充実を望む。
- 65歳以降も障害福祉サービスを使えるようにしてほしい。グループホームの新設・日中一時支援の事業所が減っているので増やしてほしい。
- 子どもが1人になるので、グループホームや入所施設など具体的な対応を考えてほしい。
- 居宅であっても施設であっても個人の幸せのために柔軟に利用できるサービスになってほしい。福祉サービスは充実してきているので、次は使い勝手のいいようにしてほしい。
- グループホームの増設と負担金額の減額に全力で取り組んでいただきたい。
- 福祉サービスや経済支援を今後も充実していただけると助かる。
- 障害者が無料で優先的に利用できる施設がほしい。障害の有無に関係なく参加できるインクルーシブなイベントを開催してほしい。
- 発達障害の人が受けられるサービスの充実と、発達障害の人向けの自助グループの創設に力を入れて取り組んでいただけるとありがたい。
- 放デイや高齢者施設はたくさんあるのに、18歳～65歳までが利用できるデイサービスが少ない。
- 見守りサービスを充実させてほしい。
- グループホーム立ち上げへの支援や協力をしてほしい。
- 収入が少ないので、安く住める障害者向けの住宅を作してほしい。

8 経済的支援・各種割引制度・助成の拡充に関して

- 電車やタクシーの割引などを充実させてほしい。
- 福祉タクシー、ガソリン券は助かるが、金額が少なくあまり意味がないと思う。簡易書留で届くのも受け取るのが大変なので普通郵便にしてほしい。
- 補聴器について、交換時に支援をいただきたい。
- どの障害者手帳であっても、電車・バスを無料にしてほしい。
- 医療費の助成やタクシーチケットのサービスはとても助かっている。
- 障害者手帳をもっている家庭は所得にかかわらず水道料金を半額にしていきたい。
- 公共交通サービス・タクシー代を負担してもらえない。(京都市と比べてサービスが悪すぎる)。
- 入院保証人がいなくなった時、宇治市の支援がほしい。民間では高額過ぎます。
- 病院等への交通費の支援がほしい。
- 自立支援医療を受けているが、二次障害に対しての薬は3割負担になってしまい毎月困っている。
- おむつ代、タクシー代等が高くなる。
- 収入が無いので生きるのに難儀している。就職を斡旋していただきたい。
- 日常生活用具の給付を簡単にしてほしい。医者や診断書などにお金がかかり、時間がかかる。
- プッシュ型行政サービスの充実。自立支援医療受給者証の更新時等に、診断書料の補助がほしい。
- 通院時には常にタクシーを利用しているが、もう少し減額してもらえると経済的に助かる。

- 医療費助成の対象を広げてほしい。
- 精神障害者保健福祉手帳3級でも、すべてのタクシーで1割引にしてほしい。
- ストーマ装具の値上げが著しいので、給付基準額を増やしてほしい。
- 聴覚障害で補聴器を使っているが、補聴器の購入や修理にかかる費用が大きい。補助金の金額を現在の2倍にアップしていただけたらと思う。
- 狭心症、糖尿病の検査料金などにかかる、病院への支払いが大変です。
- 京都市のように、地下鉄も障害者割引が使えるようにしてほしい。
- インフルエンザ、コロナ予防ワクチン注射について、障害者は無料にしてほしい。
- 公共交通を利用するしかないので、交通費をもう少し軽減してもらえると助かる。
- 年金が少ない中、医療費2割負担はつらい。
- 経済的に後見人等を付けられるかどうかかわからない。療育手帳Bでは受けられる支援があまり無いように思う。
- 障害者の手当だけでは、生きていけない。その上、税金も高いので辛い。1人では、理解も出来ないし、この世の中が不安過ぎて生きにくい。

9 障害に対する社会の理解に関して

- 宇治市民の一人ひとりが障害者に対する理解と、思いやりを持てるような行政の環境づくりの政策を行ってもらえるよう希望する。障害者にやさしいまちづくりを推進してほしい。
- 社会福祉の現場では、虐待、差別が根強く残っている。
- 他府県と比べ、京都府の学校は障害に対して閉鎖的だと感じた。学校の先生も支援学校も小、中学校の先生方も障害者への理解が少ない。色々な障害がある事を理解して教育してほしいと思う。
- 知的障害者の親同士の集まりがあれば良いと思う。
- 公的機関はいろいろな面で整備されていると思う。私のような“見えない障害”に対する配慮についても考えてほしい。
- まだまだ不平等で偏見や憤りを感じることも多い。施設等でも気分の良くない対応を受けることがある。同じ1人の人間として生活していける環境や人材の確保、市によって違う制度の差などの改善を心から願う。
- 聴覚障害は、見た目でわからない。行政の方、医療関係者が積極的に個々の障害者の現況を把握して、個々のニーズに対応したサービスを届けていただきたいと思う。一定のマニュアル・基準は必要ですが、属性だけで判断しないで、障害も個人差があることを前提に対応していただきたい。

10 教育・啓発活動に関して

- 学校教育の中でもっと障害に対することを考える必要があると思う。
- 本人に合うコミュニケーションを取る方法、本人に対する具体的な支援を充実してほしい。学校において、コミュニケーションの教育にも力を入れてほしい。絵、写真などを使ったコミュニケーションツールを使用してほしい。支援員の人たちにも使う事を考えてほしい。
- 年少の時から教育を充実してほしい。
- 障害者専用駐車場を利用する人や、障害者のステッカーを貼った車について、本当にそうなのか疑問な人も多いので、啓発やパトロールをしてほしい。
- 障害についての理解を深めようという社会の啓発がもっと必要である。

- 施設の整備が障害者への直接的な支援となるが、人を育てることをもっと大切にしてほしいと思う。市民等への啓発、学校等での障害への理解、そして、特に障害者に関わる人（施設職員、介助者、ヘルパー等）が、いかに障害を理解し、障害者に関わってくださるかが大切だと思う。そのための取り組みをよりしっかりしてほしいと思う。

11 医療と介護の連携に関して

- 宇治市の障害福祉は良くしていただいているが、最近介護と医療の垣根によく悩まされる。本人からすれば介護も医療も身体に不具合があるのは変わりなく、行政の立場でなく被保険者を中心に運営してほしい場面がある。

12 福祉人材の育成と確保に関して

- 職員全員が手話を取得出るようになってほしい。
- 完全入所を希望しているが、なかなか施設が見つからない。知的重度障害に対応できる介護人材の増員と、施設の増設を希望する。
- 重度の障害のある方の高齢化や、保護者の高齢化、支援員不足などのたくさんの問題があるが、宇治市と一緒に支えられたらと思う。
- ケアマネジャーの質の低下が著しいので、その教育を充実させてほしい。
- 作業所支援員の募集、育成の強化を望む。

13 防災・災害時における避難支援体制に関して

- 避難行動要支援者名簿の登録に行ったので、安心して生活出来る。
- 手指（利き手）が不自由な者、歩行困難な者、自力で車イスに移乗できない者の災害時の対応方法、手段等のマニュアルなど、知りたい情報を入手する方法がわからない。
- 地震が起こった時の避難場所を明確にしてほしい。
- 災害時に避難することが出来ないで、どうするか心配である。
- 避難場所が学校等の広い場所の場合、何も無いところで座る、立ち上がる事が困難。椅子でもあれば、それを支えにして行える。
- 聴覚障害者は、家の外で災害に関する放送等があっても、ほとんど聞こえないので心配である。

14 その他

- 宇治市のゴミの仕分けが知的障害の人や視覚障害者には判断が難しいので、もっと簡単にできないかと思う。
- 金銭的に自立が難しいので補助金などで補填してほしい。仕事でも普通に働けているのに給料が障害者なので安く、同一労働同一賃金に反しているので何とかしてほしい。
- 市による直接の雇用をしてほしい（可能であれば在宅勤務）。
- 今のところ一般企業に就労出来ているが、フルタイムの勤務は難しく就労に制限もあるため、経済的な支援を拡大していただけると助かる。
- 選挙の投票は自宅に来てほしい。

15 アンケートに関して

- アンケート調査をされて、どのように反映されているのか解りにくい。それほど調査前と変わらない事が多いかと思う。調査をもっと活かしてほしい。
- このアンケートや回答を点字やメールで出来るようにしてほしい。回答を口に出してすると他者に内容が知られてしまう。プライバシーの保護が必要である。
- アンケート内容について、理解できていない所があり、回答もわかりにくい所があった。
- アンケートをする時に障害の特性に合わせた質問をしてほしい。音で聞かないといけないので自分と違う障害の事を読みとばす事ができず、答えたい項目にたどり着くのにもものすごく時間がかかった。
- アンケートの設問があまり良くないと思いました。障害福祉と高齢者が必要としていることを一緒に考えることは違うと思う。
- このアンケートはボリュームがあり、回答には失語症の本人への説明がかなり大変であった。このアンケートが宇治市の障害福祉計画策定にどのように活用され施策に反映されるのかをお示しいただきたい。

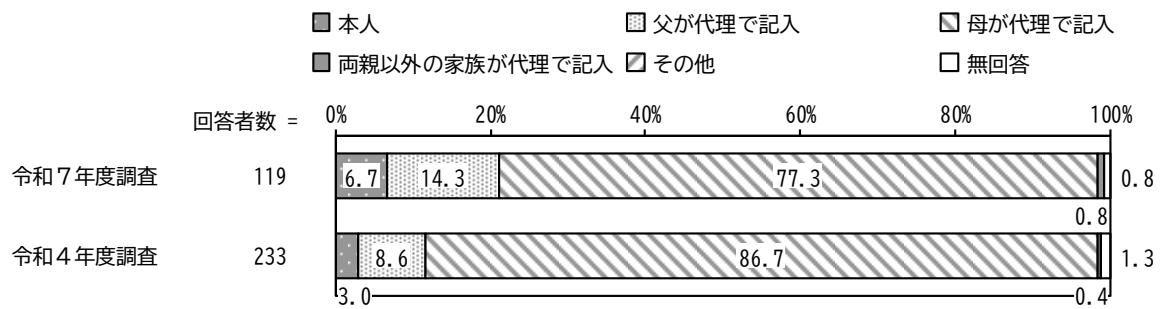
Ⅲ 障害児用(調査票B)

1. あなたのことについて

問1 この調査票にご記入いただく方はどなたですか。(1つに○)

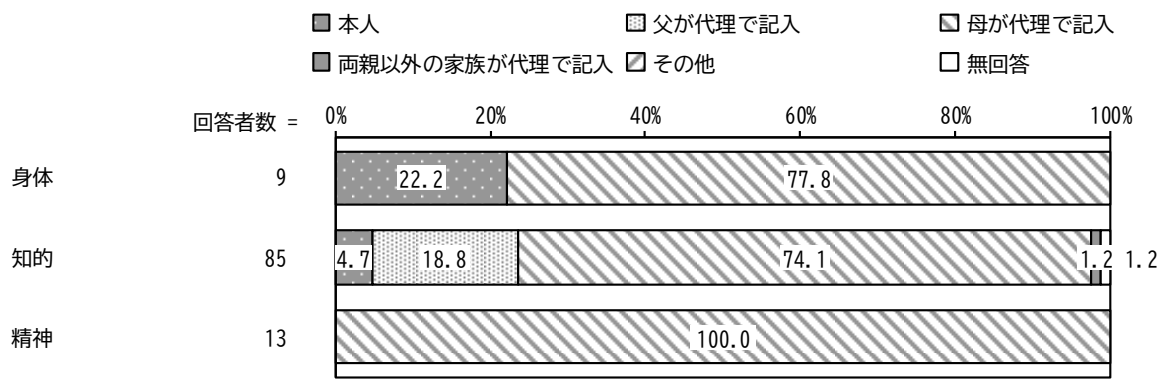
「母が代理で記入」の割合が77.3%と最も高く、次いで「父が代理で記入」の割合が14.3%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「父が代理で記入」の割合が増加しています。一方、「母が代理で記入」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、全区分で「母が代理で記入」の割合が最も高くなっています。次いで、身体で「本人」の割合が高く、知的で「父が代理で記入」の割合が高くなっています。精神で「母が代理で記入」以外の回答はありませんでした。

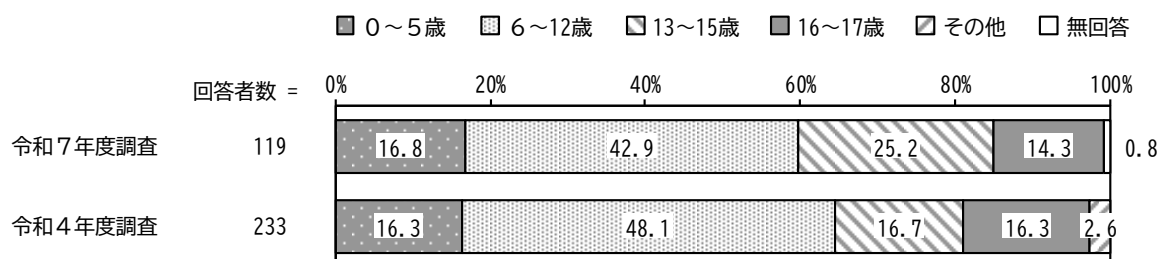


問2 令和8（2026）年1月1日現在のあなたの年齢と性別をお答えください。

年齢

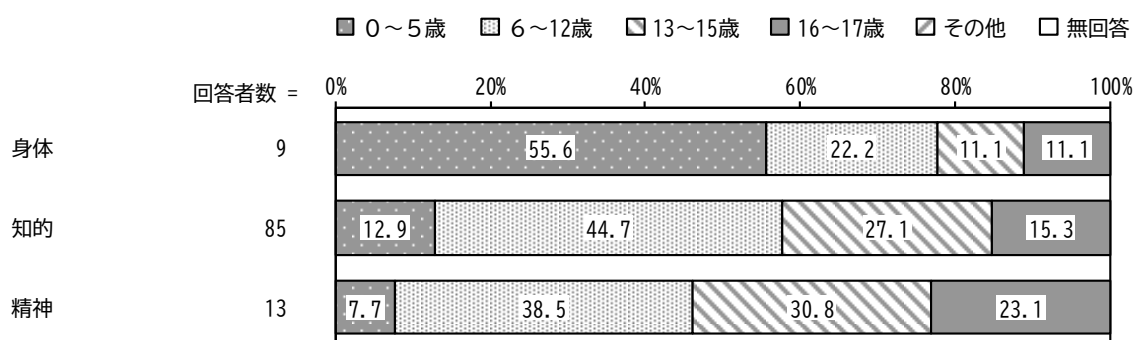
「6～12歳」の割合が42.9%と最も高く、次いで「13～15歳」の割合が25.2%、「0～5歳」の割合が16.8%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「13～15歳」の割合が増加しています。一方、「6～12歳」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

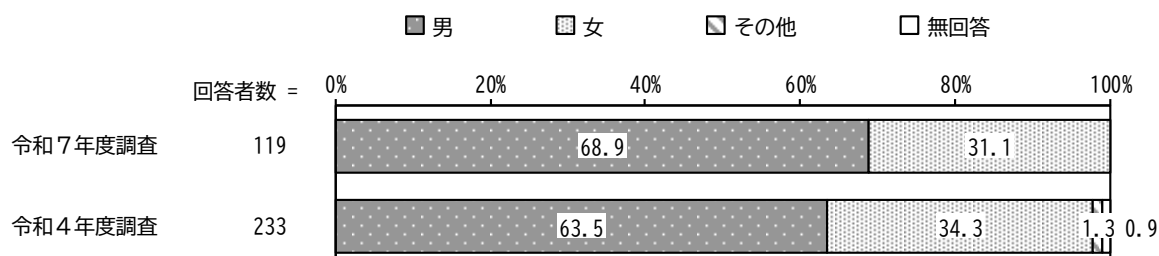
手帳種類別にみると、身体で「0～5歳」、知的と精神で「6～12歳」の割合が高くなっています。



性別

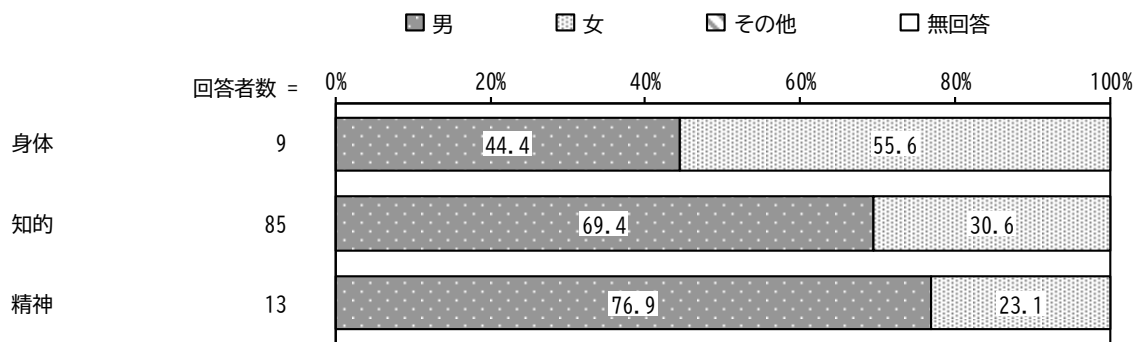
「男」の割合が68.9%、「女」の割合が31.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「男」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

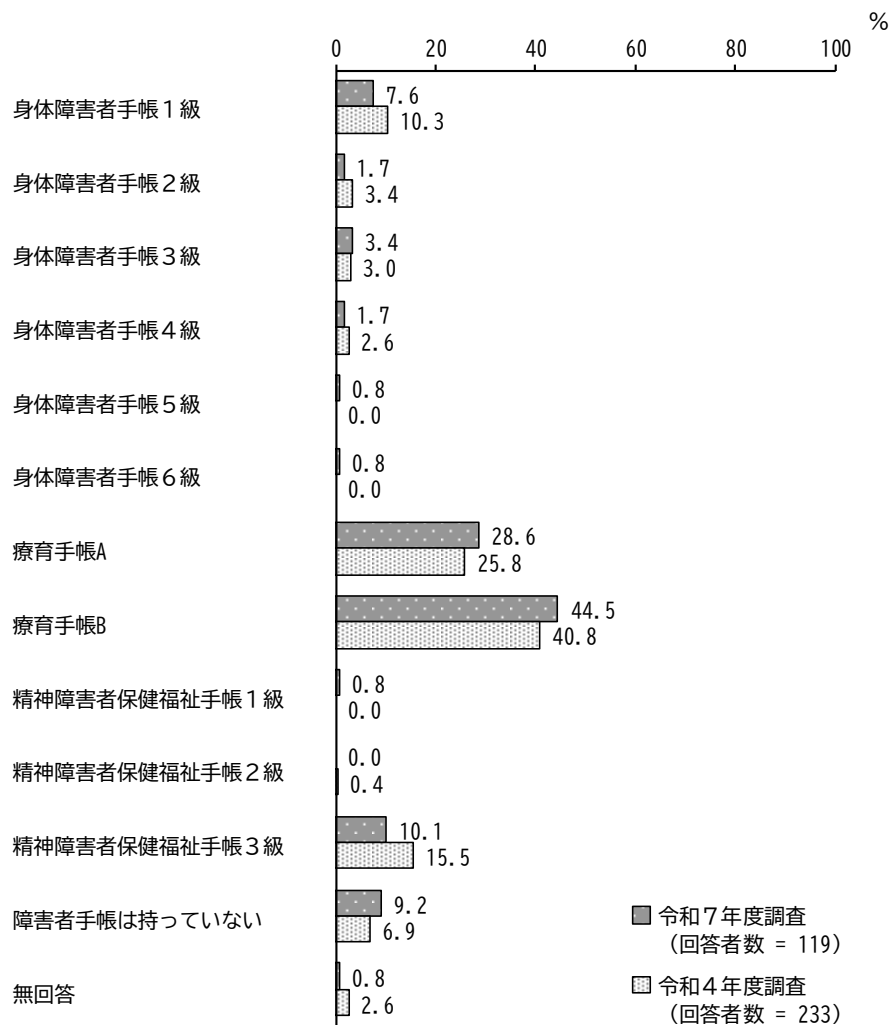
手帳種類別にみると、知的と精神で「男」の割合が高くなっています。



問3 あなたがおもちの手帳はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

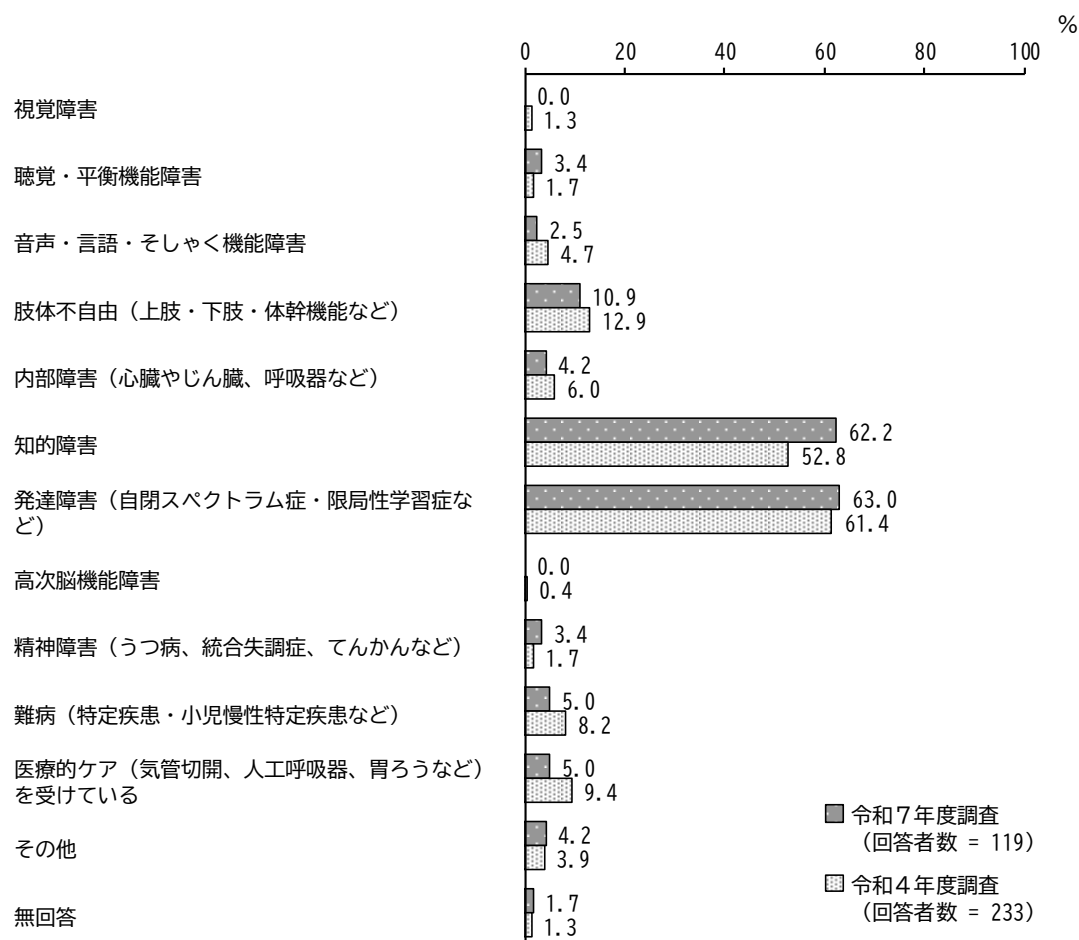
「療育手帳 B」の割合が 44.5%と最も高く、次いで「療育手帳 A」の割合が 28.6%、「精神障害者保健福祉手帳 3 級」の割合が 10.1%となっています。

令和 4 年度調査と比較すると、「精神障害者保健福祉手帳 3 級」の割合が減少しています。



問4 あなたは、どのような障害がありますか。(あてはまるものすべてに○)

「発達障害（自閉スペクトラム症・限局性学習症など）」の割合が63.0%と最も高く、次いで「知的障害」の割合が62.2%、「肢体不自由（上肢・下肢・体幹機能など）」の割合が10.9%となっています。
令和4年度調査と比較すると、「知的障害」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、手帳種類別にみると、該当区分の障害以外については、身体で「医療的ケア（気管切開、人工呼吸器、胃ろうなど）を受けている」、知的で「発達障害（自閉スペクトラム症・限局性学習症など）」、精神で「知的障害」の割合が高くなっています。

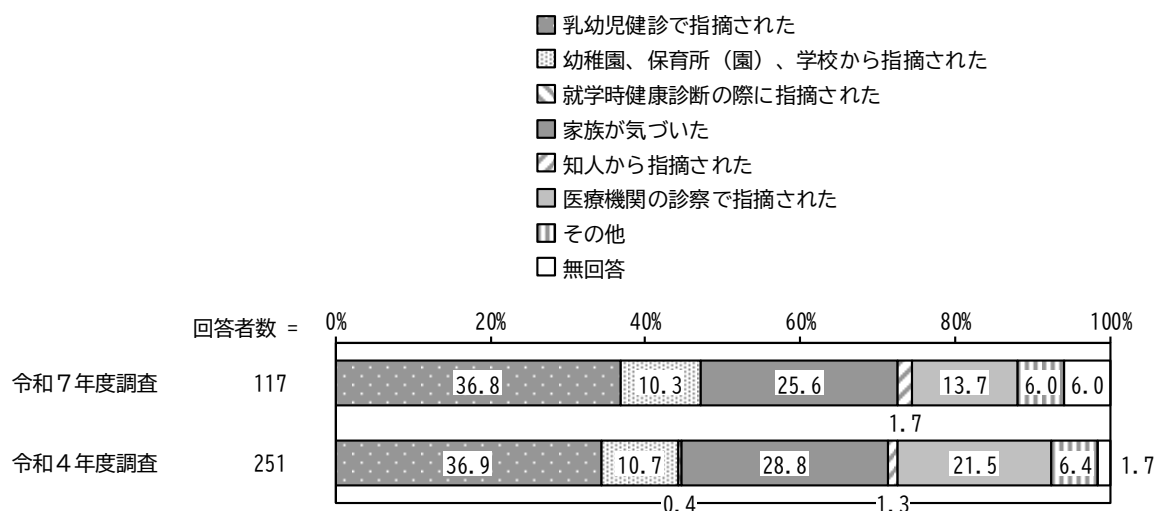
単位：％

区分	回答者数（件）	視覚障害	聴覚・平衡機能障害	音声・言語・そしゃく機能障害	肢体不自由（上肢・下肢・体幹機能など）	内部障害（心臓やじん臓、呼吸器など）	知的障害	発達障害（自閉スペクトラム症・限局性学習症など）	高次脳機能障害	精神障害（うつ病、統合失調症、てんかんなど）	難病（特定疾患・小児慢性特定疾患など）	医療的ケア（気管切開、人工呼吸器、胃ろうなど）を受けている	その他	無回答
全 体	119	0.0	3.4	2.5	10.9	4.2	62.2	63.0	0.0	3.4	5.0	5.0	4.2	1.7
身体	9	0.0	11.1	11.1	55.6	44.4	11.1	0.0	0.0	11.1	22.2	33.3	22.2	0.0
知的	85	0.0	3.5	2.4	9.4	0.0	81.2	62.4	0.0	1.2	2.4	2.4	2.4	2.4
精神	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.8	92.3	0.0	15.4	7.7	0.0	7.7	0.0

問5 問4で回答したことに気づいたきっかけは何ですか。また、それはあなたが何歳のころですか。（1つに○）

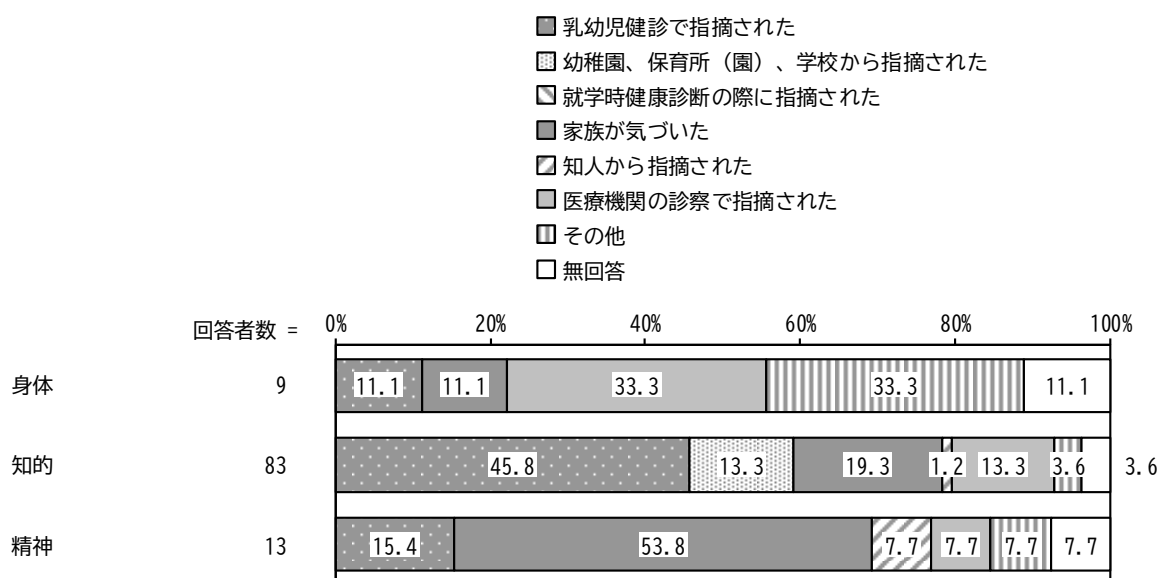
「乳幼児健診で指摘された」の割合が36.8%と最も高く、次いで「家族が気づいた」の割合が25.6%、「医療機関の診察で指摘された」の割合が13.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「医療機関の診察で指摘された」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

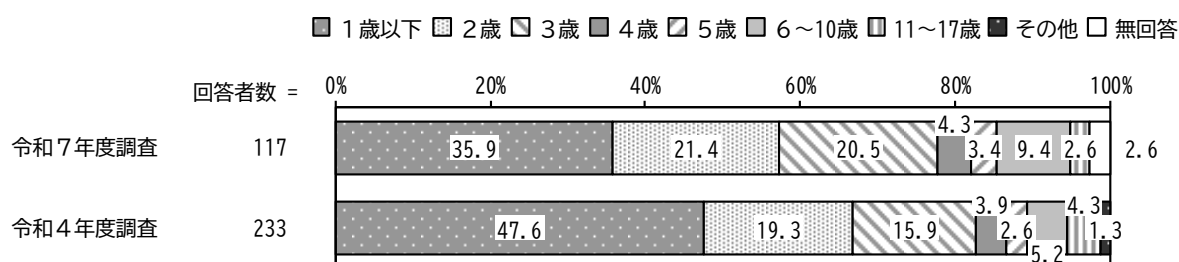
手帳種類別にみると、身体で「医療機関の診察で指摘された」「その他」、知的で「乳幼児健診で指摘された」、精神で「家族が気づいた」の割合が高くなっています。



【年齢別】

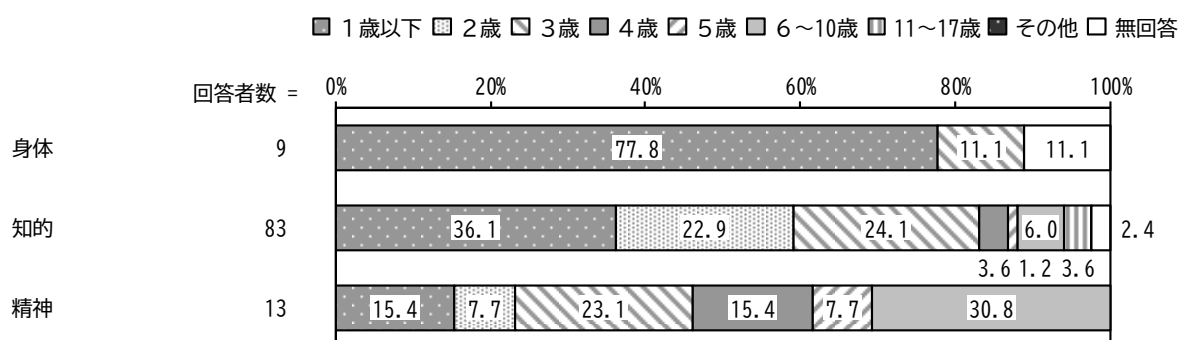
「1歳以下」の割合が35.9%と最も高く、次いで「2歳」の割合が21.4%、「3歳」の割合が20.5%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「1歳以下」の割合が減少しています。



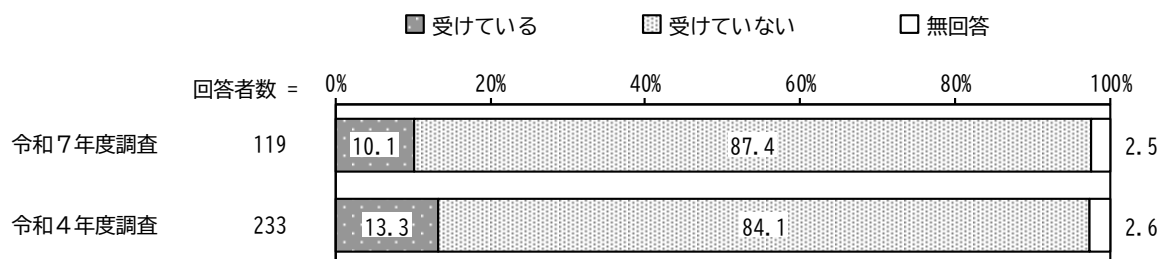
【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体と知的で「1歳以下」、精神で「6～10歳」の割合が高くなっています。



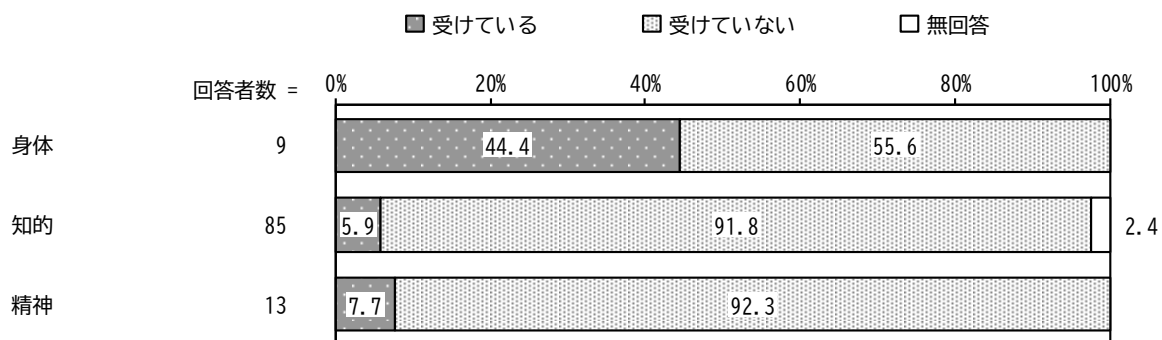
問6 あなたは現在、医療的ケアを受けていますか。(1つに○)

「受けている」の割合が10.1%、「受けていない」の割合が87.4%となっています。
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「受けている」の割合が高くなっています。

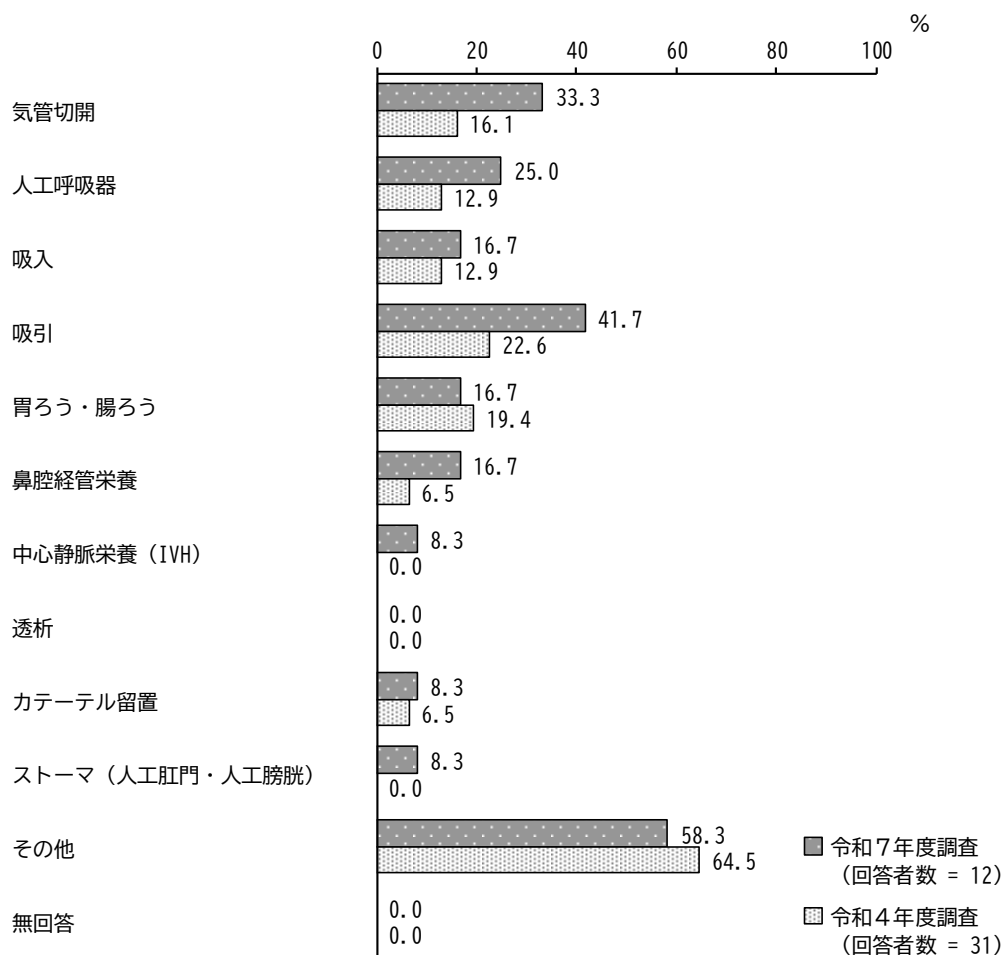


問7 【問6で「受けている」を選択された方にお聞きします。】

あなたが現在受けている医療的ケアをお答えください。（あてはまるものすべてに○）

「吸引」の割合が41.7%と最も高く、次いで「気管切開」の割合が33.3%、「人工呼吸器」の割合が25.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「気管切開」「人工呼吸器」「吸引」「鼻腔経管栄養」「中心静脈栄養（IVH）」「ストーマ（人工肛門・人工膀胱）」の割合が増加しています。



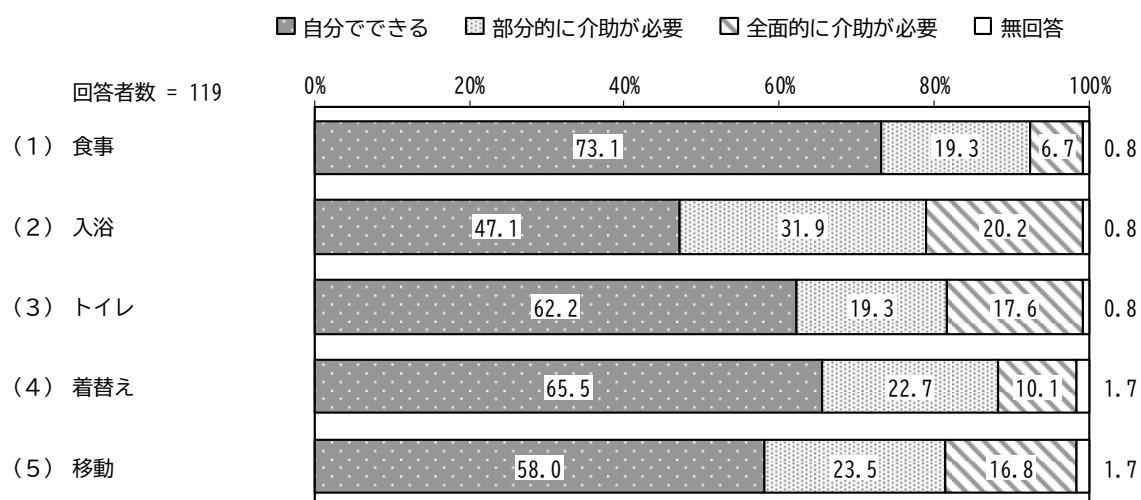
【手帳種類別】

単位：％

区分	回答者数(件)	気管切開	人工呼吸器	吸入	吸引	胃ろう・腸ろう	鼻腔経管栄養	中心静脈栄養（IVH）	透析	カテーテル留置	ストーマ（人工肛門・人工膀胱）	その他	無回答
全 体	12	33.3	25.0	16.7	41.7	16.7	16.7	8.3	0.0	8.3	8.3	58.3	0.0
身体	4	75.0	75.0	50.0	75.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0
知的	5	20.0	0.0	0.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0
精神	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

問8 あなたは次の（１）～（５）のことを自分でできますか。
（それぞれの項目について１つに○）

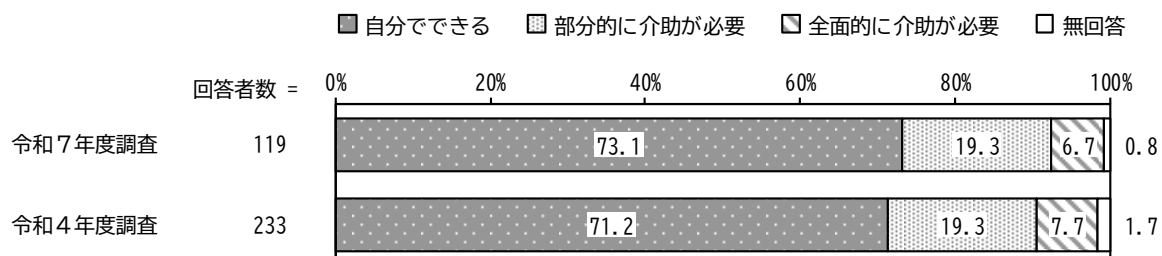
『（１）食事』で「自分でできる」が、『（２）入浴』で「部分的に介助が必要」「全面的に介助が必要」が高くなっています。



（１）食事

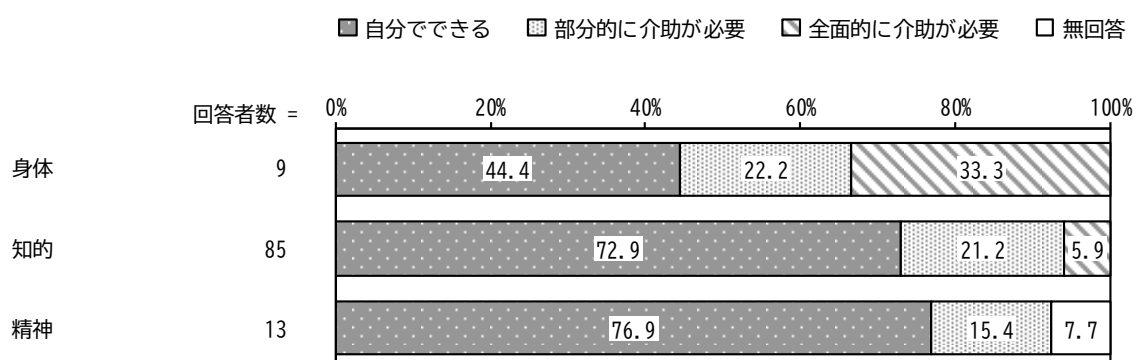
【経年比較】

令和４年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

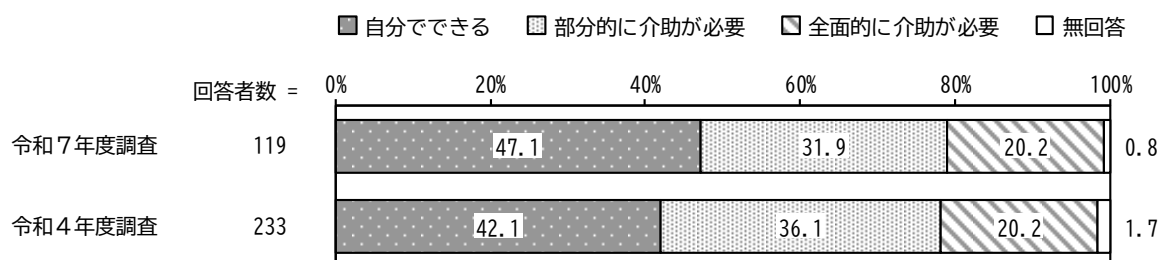
手帳種類別にみると、全区分で「自分でできる」の割合が最も高くなっています。次いで、身体で「全面的に介助が必要」、知的、精神で「部分的に介助が必要」の割合が高くなっています。



(2) 入浴

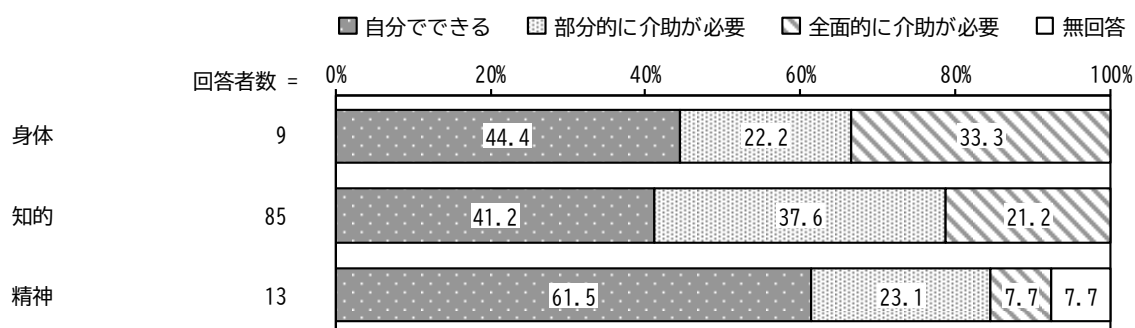
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

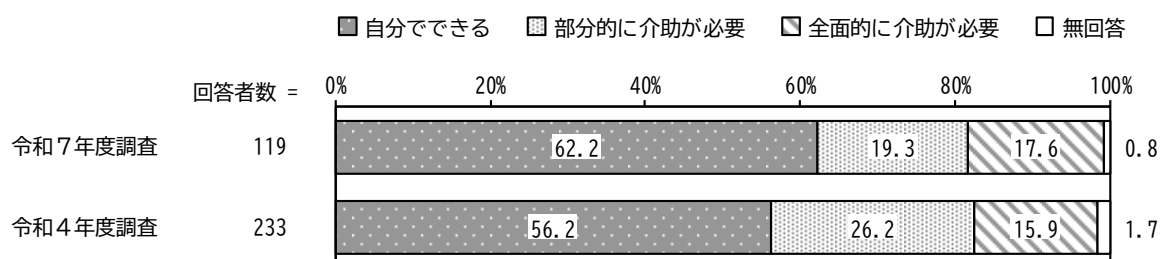
手帳種類別にみると、全区分で「自分でできる」の割合が最も高くなっています。次いで、身体で「全面的に介助が必要」、知的、精神で「部分的に介助が必要」の割合が高くなっています。



(3) トイレ

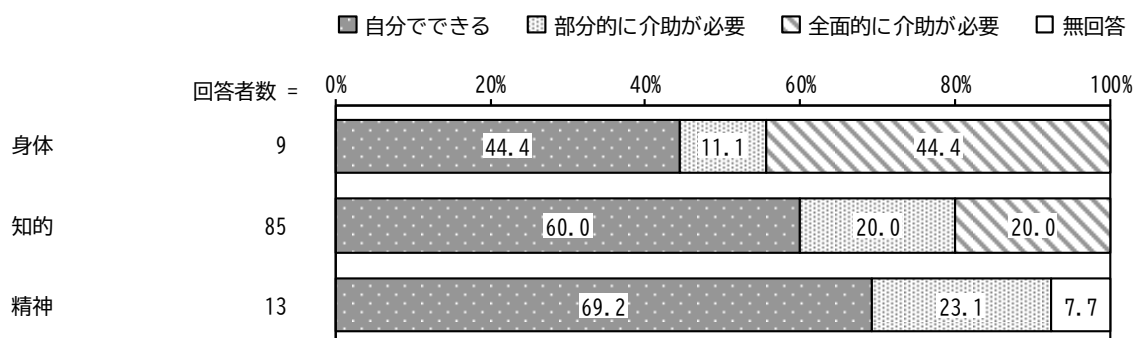
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「自分でできる」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

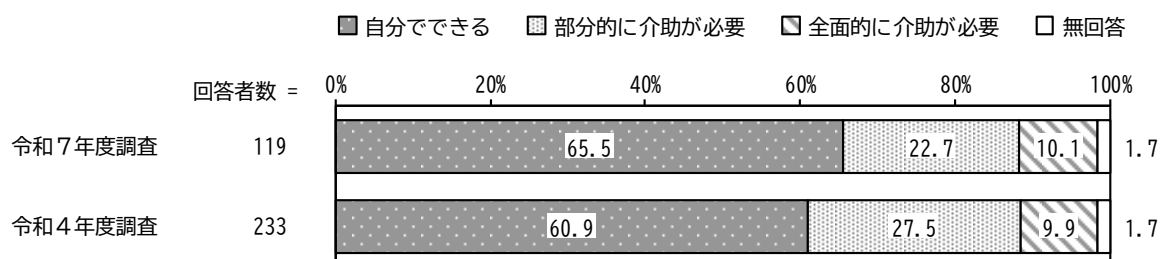
手帳種類別にみると、全区分で「自分でできる」、身体で「全面的に介助が必要」の割合が高くなっています。



(4) 着替え

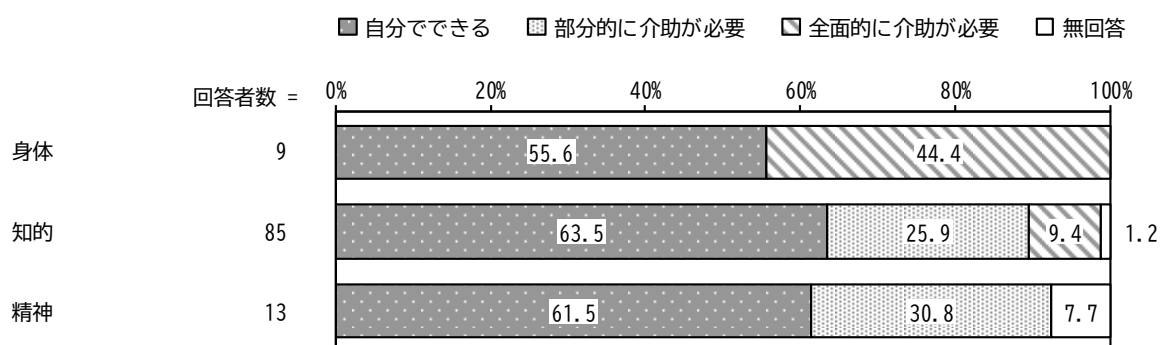
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

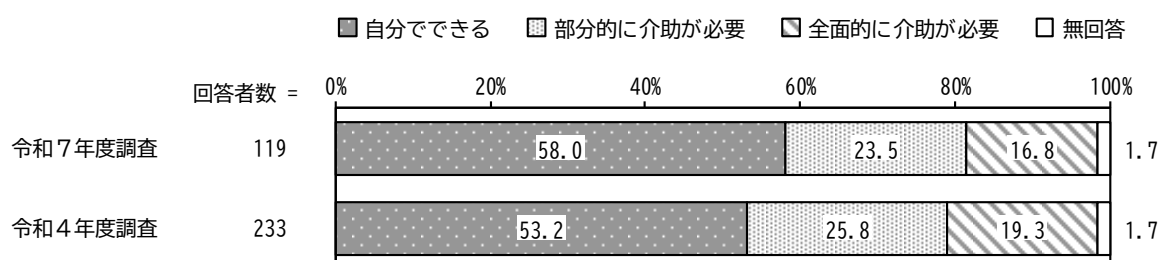
手帳種類別にみると、全区分で「自分でできる」の割合が最も高くなっています。次いで、身体で「全面的に介助が必要」、知的、精神で「部分的に介助が必要」の割合が高くなっています。



(5) 移動

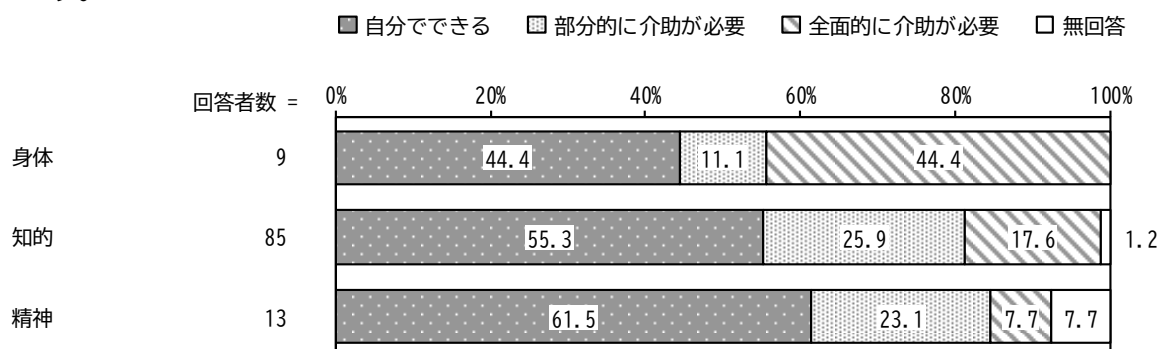
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

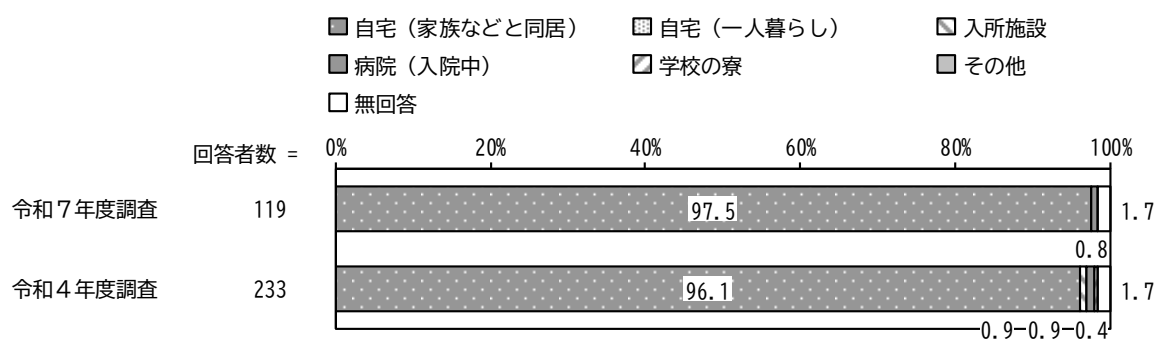
手帳種類別にみると、全区分で「自分でできる」、身体で「全面的に介助が必要」の割合が高くなっています。



2. 暮らし・住まいについて

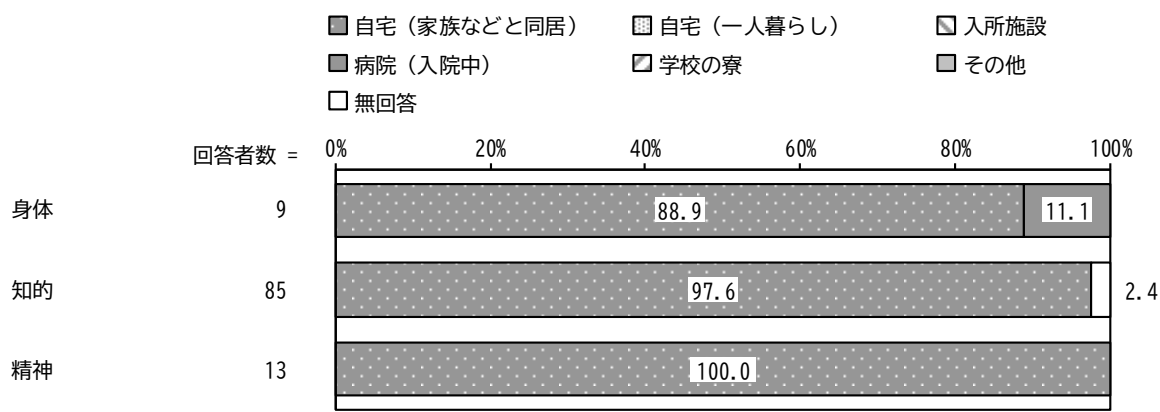
問9 あなたが現在、暮らしている場所はどこですか。(1つに○)

「自宅（家族などと同居）」の割合が97.5%と最も高くなっています。
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

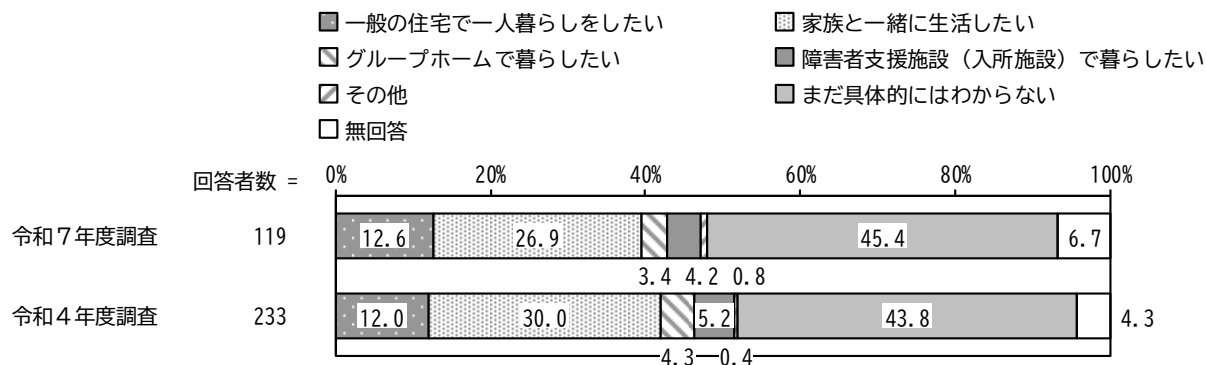
手帳種類別にみると、全区分で「自宅（家族などと同居）」の割合が最も高くなっています。次いで、身体で「病院（入院中）」の割合が高くなっています。



問10 あなたは将来（大人になったあと）、どのような暮らしをしたいと思いますか。
（1つに○）

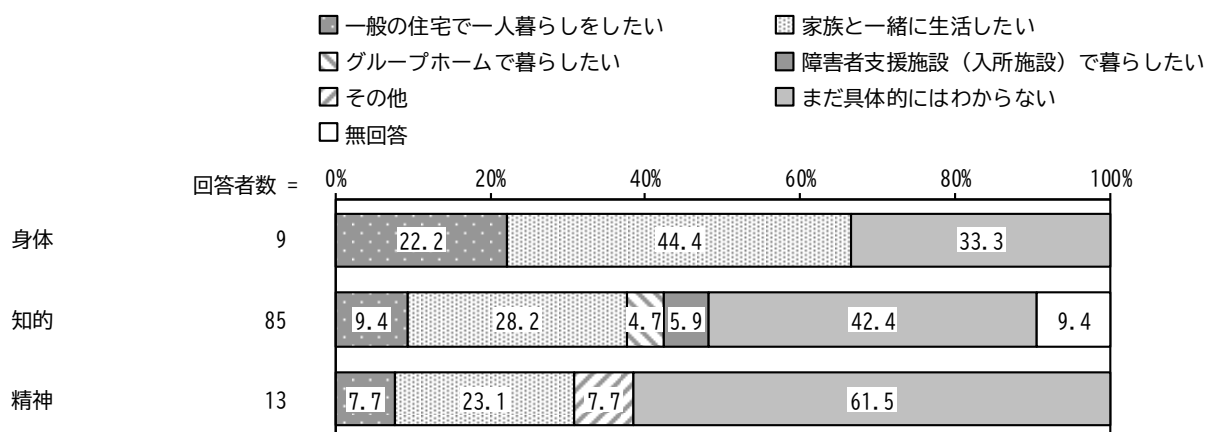
「家族と一緒に生活したい」の割合が26.9%と最も高く、次いで「一般の住宅で一人暮らしをしたい」の割合が12.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

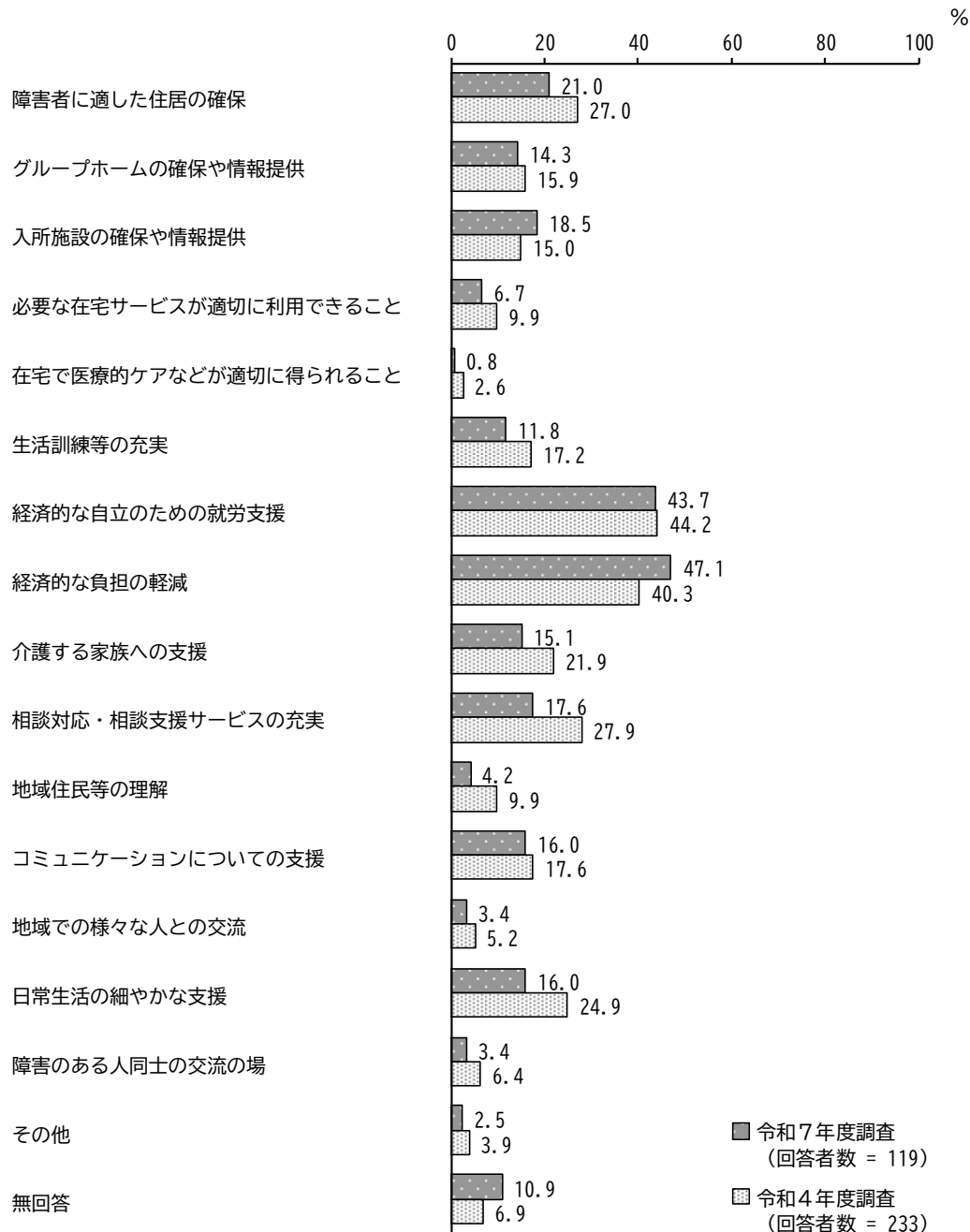
手帳種類別にみると、身体で「家族と一緒に生活したい」、知的と精神で「まだ具体的にはわからない」の割合が高くなっています。



問 11 あなたが将来、希望する暮らしを送るために、どのような支援があればよいと思いますか。（3つまでに○）

「経済的な負担の軽減」の割合が 47.1%と最も高く、次いで「経済的な自立のための就労支援」の割合が 43.7%、「障害者に適した住居の確保」の割合が 21.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「経済的な負担の軽減」の割合が増加しています。一方、「障害者に適した住居の確保」「生活訓練等の充実」「介護する家族への支援」「相談対応・相談支援サービスの充実」「地域住民等の理解」「日常生活の細やかな支援」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体と知的で「経済的な負担の軽減」、精神で「経済的な自立のための就労支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	障害者に適した住居の確保	グループホームの確保や情報提供	入所施設の確保や情報提供	必要な在宅サービスが適切に利用できること	在宅で医療的ケアなどが適切に得られること	生活訓練等の充実	経済的な自立のための就労支援	経済的な負担の軽減
全 体	119	21.0	14.3	18.5	6.7	0.8	11.8	43.7	47.1
身体	9	11.1	11.1	11.1	22.2	0.0	22.2	44.4	55.6
知的	85	25.9	17.6	24.7	5.9	1.2	12.9	40.0	41.2
精神	13	15.4	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	61.5	53.8

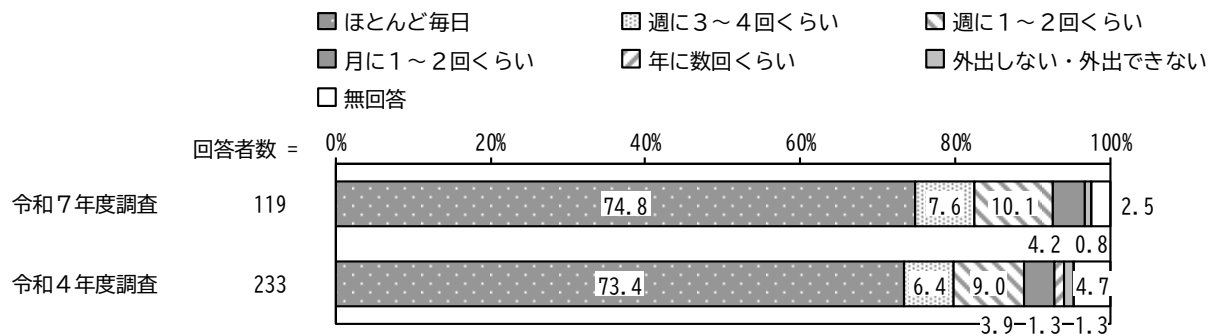
区分	介護する家族への支援	相談対応・相談支援サービスの充実	地域住民等の理解	コミュニケーションについての支援	地域での様々な人との交流	日常生活の細やかな支援	障害のある人同士の交流の場	その他	無回答
全 体	15.1	17.6	4.2	16.0	3.4	16.0	3.4	2.5	10.9
身体	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1	33.3	0.0	0.0	11.1
知的	18.8	15.3	4.7	9.4	1.2	15.3	2.4	3.5	10.6
精神	7.7	23.1	0.0	46.2	7.7	7.7	0.0	0.0	15.4

3. 外出について

問 12 あなたはどれくらいの頻度で外出していますか。(1つに○)

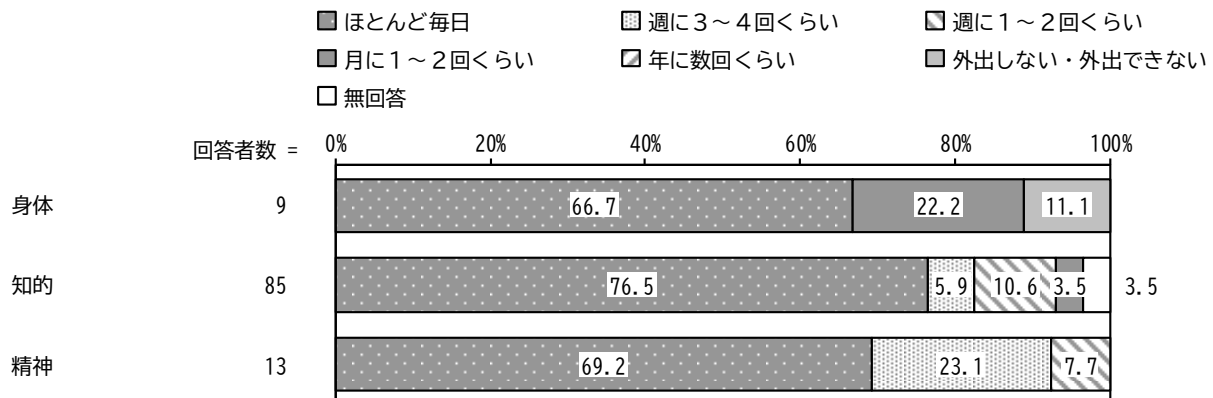
「ほとんど毎日」の割合が74.8%と最も高く、次いで「週に1～2回くらい」の割合が10.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

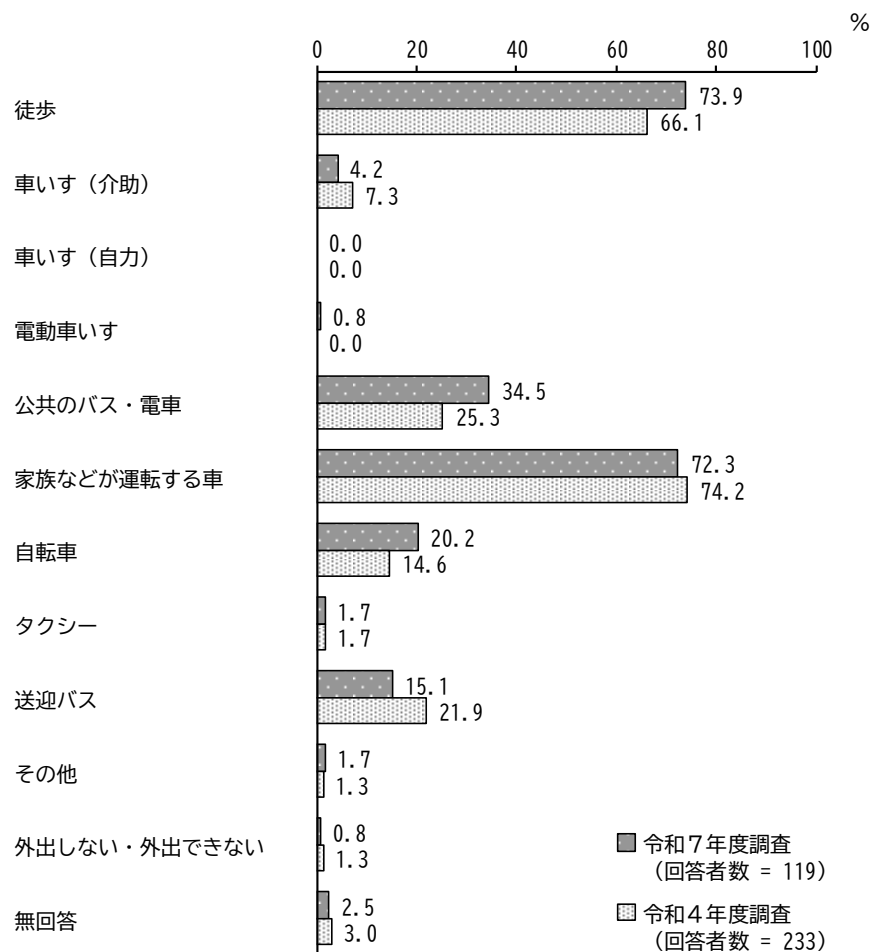
手帳種類別にみると、全区分で「ほとんど毎日」の割合が最も高くなっています。次いで、身体で「月に1～2回くらい」、知的で「週に1～2回くらい」、精神で「週に3～4回くらい」の割合が高くなっています。



問 13 あなたは外出するとき、どの移動手段を使っていますか。（3つまでに○）

「徒歩」の割合が 73.9%と最も高く、次いで「家族などが運転する車」の割合が 72.3%、「公共のバス・電車」の割合が 34.5%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「徒歩」「公共のバス・電車」「自転車」の割合が増加しています。一方、「送迎バス」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「家族などが運転する車」、知的と精神で「徒歩」の割合が高くなっています。

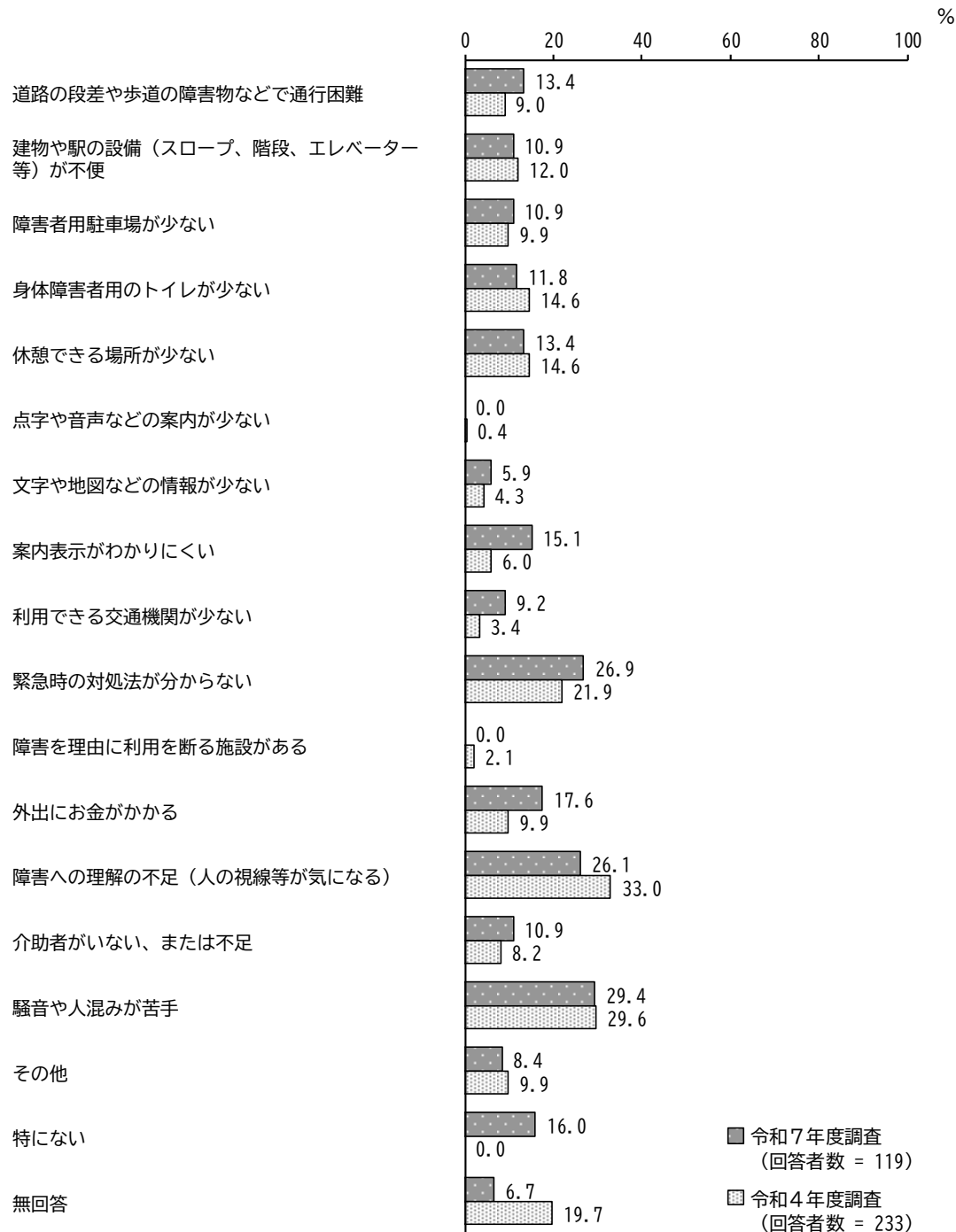
単位：％

区分	回答者数 (件)	徒歩	車いす (介助)	車いす (自力)	電動車いす	公共のバス・電車	家族などが運転する車	自転車	タクシー	送迎バス	その他	外出しない・外出できない	無回答
全 体	119	73.9	4.2	0.0	0.8	34.5	72.3	20.2	1.7	15.1	1.7	0.8	2.5
身体	9	44.4	0.0	0.0	11.1	22.2	66.7	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0
知的	85	71.8	5.9	0.0	0.0	35.3	70.6	17.6	1.2	20.0	1.2	0.0	3.5
精神	13	100.0	0.0	0.0	0.0	38.5	61.5	46.2	0.0	7.7	7.7	0.0	0.0

問 14 あなたが外出時に、不便に感じたり困ることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「騒音や人混みが苦手」の割合が 29.4%と最も高く、次いで「緊急時の対処法が分からない」の割合が 26.9%、「障害への理解の不足（人の視線等が気になる）」の割合が 26.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「案内表示がわかりにくい」「利用できる交通機関が少ない」「外出にお金がかかる」の割合が増加しています。一方、「障害への理解の不足（人の視線等が気になる）」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「道路の段差や歩道の障害物などで通行困難」、知的で「騒音や人混みが苦手」、精神で「緊急時の対処法が分からない」「外出にお金がかかる」「障害への理解の不足（人の視線等が気になる）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	道路の段差や歩道の障害物などで通行困難	建物や駅設備（スロープ、階段、エレベーター等）が不便	障害者用駐車場が少ない	身体障害者用のトイレが少ない	休憩できる場所が少ない	点字や音声などの案内が少ない	文字や地図などの情報が少ない	案内表示がわかりにくい	利用できる交通機関が少ない
全 体	119	13.4	10.9	10.9	11.8	13.4	0.0	5.9	15.1	9.2
身体	9	44.4	22.2	33.3	0.0	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0
知的	85	12.9	12.9	11.8	16.5	11.8	0.0	7.1	12.9	9.4
精神	13	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	15.4	7.7

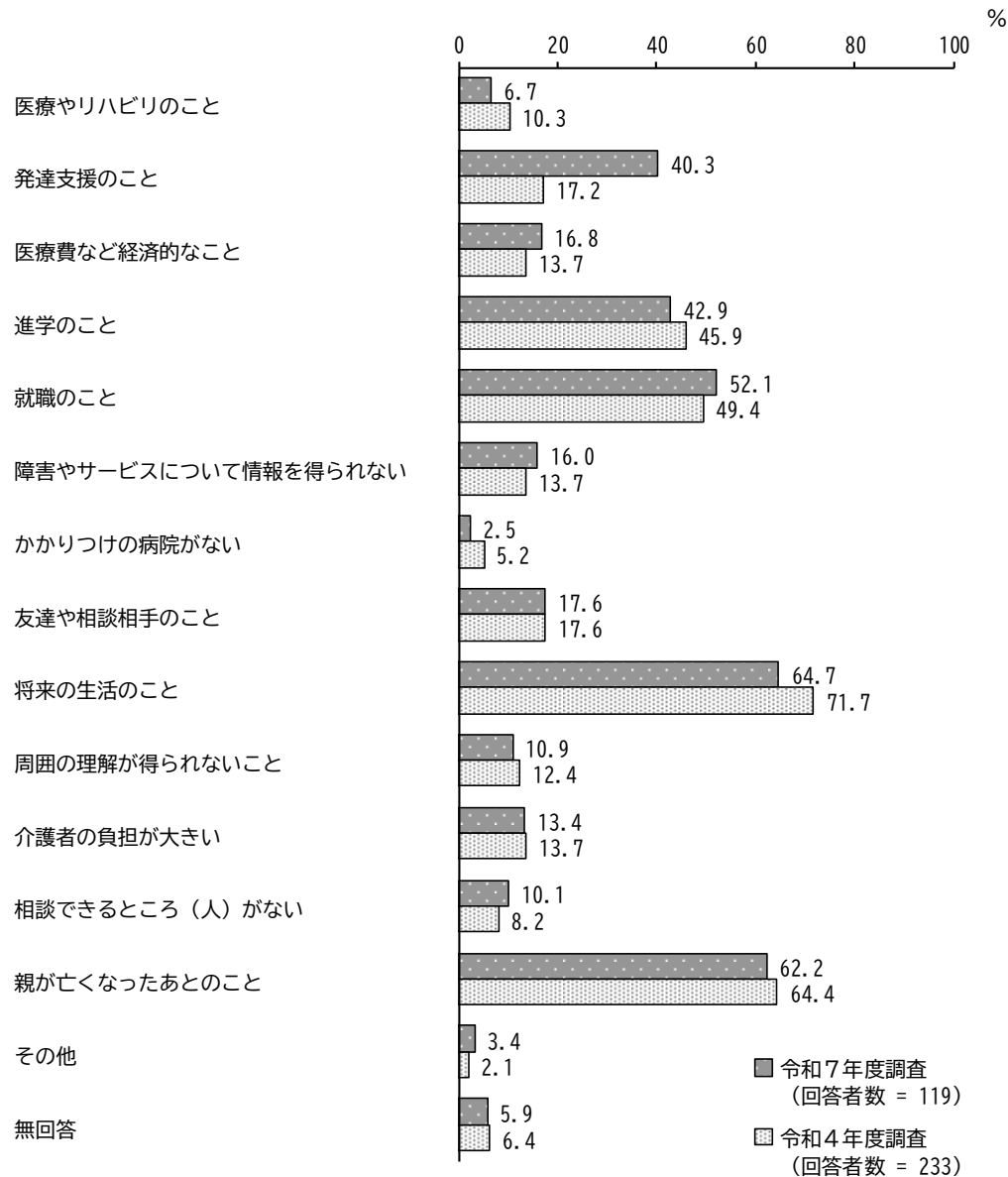
区分	緊急時の対処法が分からない	障害を理由に利用を断る施設がある	外出にお金がかかる	障害への理解の不足（人の視線等が気になる）	介助者がいない、または不足	手 騒音や人混みが苦手	その他	特にない	無回答
全 体	26.9	0.0	17.6	26.1	10.9	29.4	8.4	16.0	6.7
身体	11.1	0.0	0.0	11.1	22.2	11.1	22.2	22.2	0.0
知的	29.4	0.0	18.8	30.6	11.8	34.1	4.7	11.8	8.2
精神	23.1	0.0	23.1	23.1	7.7	7.7	15.4	30.8	0.0

4. 相談支援について

問 15 あなたは、現在の生活で困っていることや不安に思っていることがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「将来の生活のこと」の割合が 64.7%と最も高く、次いで「親が亡くなったあとのこと」の割合が 62.2%、「就職のこと」の割合が 52.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「発達支援のこと」の割合が増加しています。一方、「将来の生活のこと」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体と知的で「将来の生活のこと」、知的で「親が亡くなったあとのこと」、精神で「進学のこと」の割合が高くなっています。

単位：％

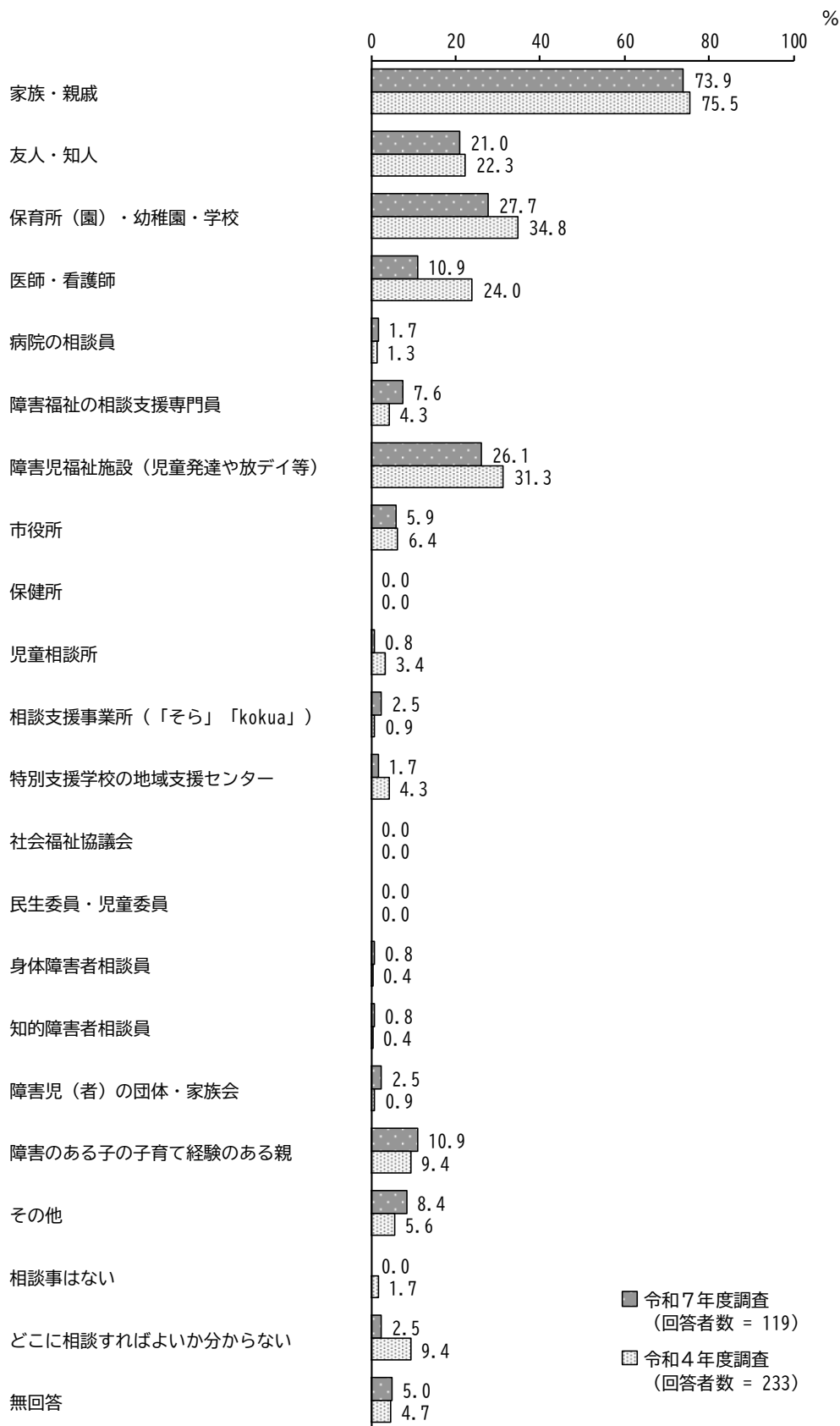
区分	回答者数 (件)	医療やリハビリの こと	発達支援のこと	医療費など経済的 なこと	進学のこと	就職のこと	障害やサービスに ついて情報を得ら れない	かかりつけの病院 がない
全 体	119	6.7	40.3	16.8	42.9	52.1	16.0	2.5
身体	9	33.3	33.3	33.3	44.4	55.6	11.1	0.0
知的	85	4.7	38.8	15.3	34.1	48.2	15.3	2.4
精神	13	7.7	46.2	7.7	61.5	46.2	23.1	0.0

区分	友達や相談相手の こと	将来の生活のこと	周囲の理解が得ら れないこと	介護者の負担が大 きい	相談できるところ (人) がない	親が亡くなったあ とのこと	その他	無回答
全 体	17.6	64.7	10.9	13.4	10.1	62.2	3.4	5.9
身体	11.1	66.7	0.0	0.0	11.1	33.3	0.0	0.0
知的	12.9	65.9	11.8	16.5	7.1	65.9	4.7	8.2
精神	38.5	38.5	15.4	7.7	23.1	38.5	0.0	0.0

問16 あなたは、悩みや困ったことを相談するのは誰（どこ）ですか。（3つまでに○）

「家族・親戚」の割合が73.9%と最も高く、次いで「保育所（園）・幼稚園・学校」の割合が27.7%、「障害児福祉施設（児童発達や放デイ等）」の割合が26.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「保育所（園）・幼稚園・学校」「医師・看護師」「障害児福祉施設（児童発達や放デイ等）」「どこに相談すればよいか分からない」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、全区分で「家族・親戚」の割合が最も高くなっています。次いで、身体で「友人・知人」「医師・看護師」、知的で「保育所（園）・幼稚園・学校」、精神で「障害児福祉施設（児童発達や放デイ等）」「障害児（者）の団体・家族会」の割合が高くなっています。

単位：％

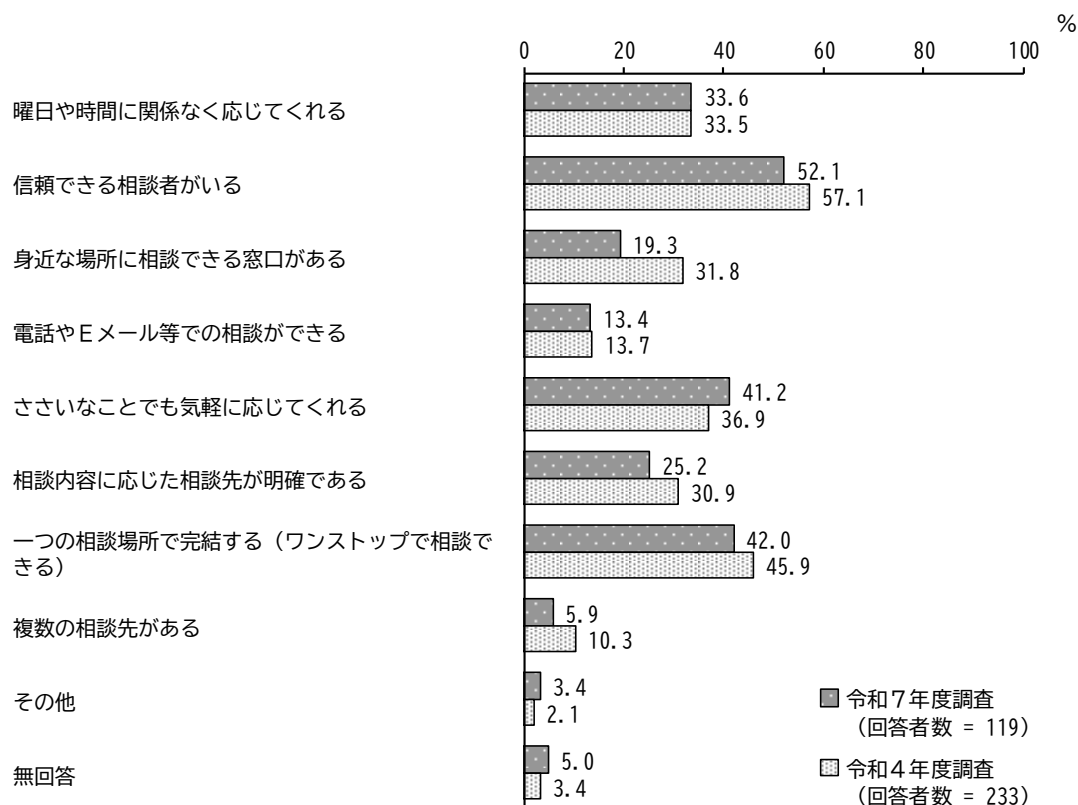
区分	回答者数 (件)	家族・親戚	友人・知人	保育所（園）・幼稚園・学校	医師・看護師	病院の相談員	障害福祉の相談支援専門員	障害児福祉施設（児童発達や放デイ等）	市役所	保健所	児童相談所	相談支援事業所（「そら」・「kokorua」）
全 体	119	73.9	21.0	27.7	10.9	1.7	7.6	26.1	5.9	0.0	0.8	2.5
身体	9	88.9	33.3	11.1	33.3	0.0	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	11.1
知的	85	71.8	23.5	35.3	9.4	2.4	8.2	29.4	5.9	0.0	1.2	2.4
精神	13	84.6	7.7	7.7	7.7	0.0	7.7	15.4	7.7	0.0	0.0	0.0

区分	特別支援学校の地域支援センター	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	身体障害者相談員	知的障害者相談員	障害児（者）の団体・家族会	障害のある子どもの子育て経験のある親	その他	相談事はない	どこに相談すればよいか分からない	無回答
全 体	1.7	0.0	0.0	0.8	0.8	2.5	10.9	8.4	0.0	2.5	5.0
身体	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0
知的	1.2	0.0	0.0	1.2	1.2	1.2	15.3	7.1	0.0	3.5	2.4
精神	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	0.0	23.1	0.0	0.0	7.7

問 17 行政や専門機関で、相談しやすい体制をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまでに○）

「信頼できる相談者がいる」の割合が 52.1%と最も高く、次いで「一つの相談場所で完結する（ワンストップで相談できる）」の割合が 42.0%、「ささいなことでも気軽に応じてくれる」の割合が 41.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「身近な場所に相談できる窓口がある」「相談内容に応じた相談先が明確である」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「曜日や時間に関係なく応じてくれる」「一つの相談場所で完結する（ワンストップで相談できる）」、知的と精神で「信頼できる相談者がいる」、の割合が高くなっています。

単位：％

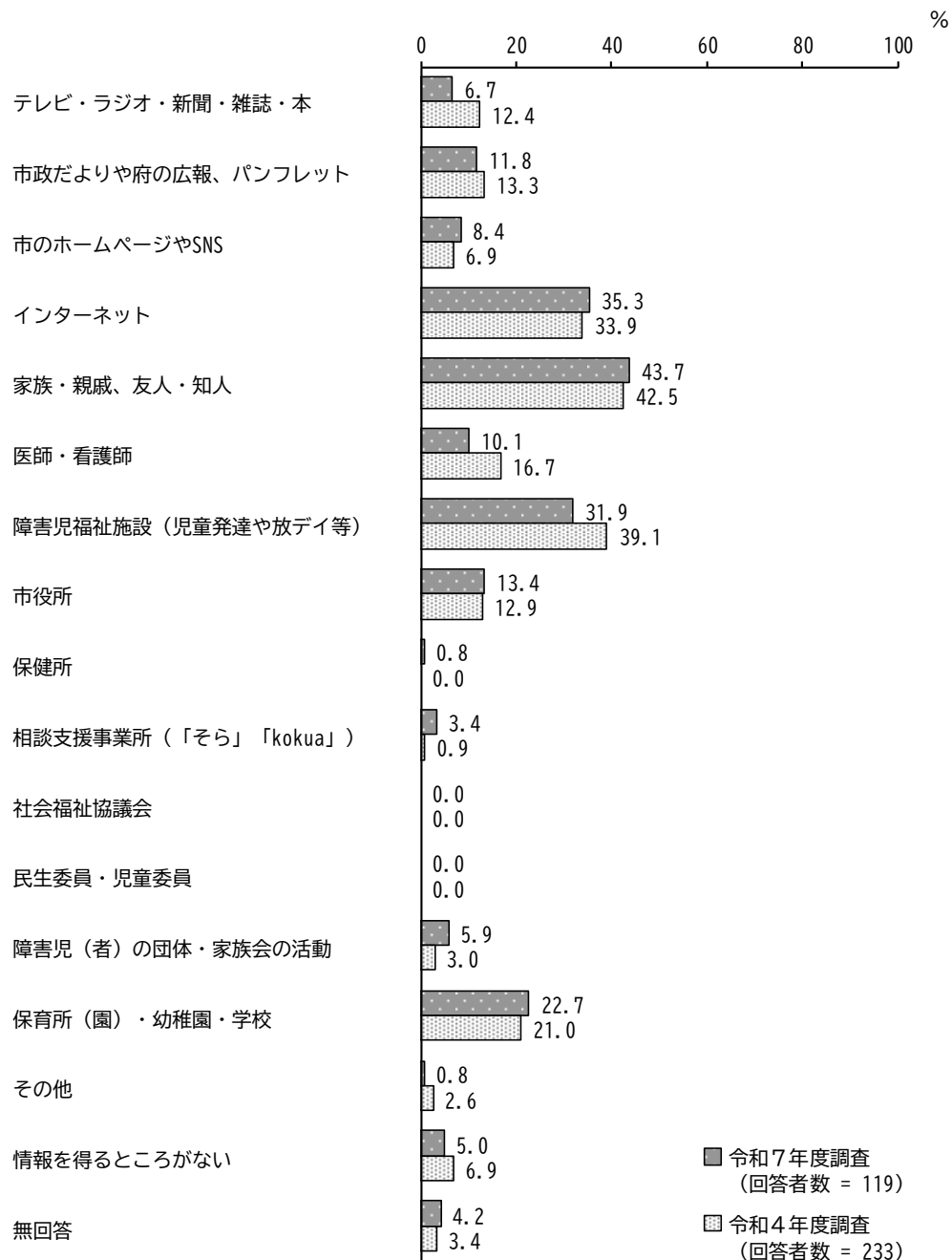
区分	回答者数（件）	曜日や時間に関係なく応じてくれる	信頼できる相談者がいる	身近な場所に相談できる窓口がある	電話やEメール等での相談ができる	ささいなことでも気軽に応じてくれる	相談内容に応じた相談先が明確である	一つの相談場所で完結する（ワンストップで相談できる）	複数の相談先がある	その他	無回答
全 体	119	33.6	52.1	19.3	13.4	41.2	25.2	42.0	5.9	3.4	5.0
身体	9	44.4	33.3	22.2	11.1	22.2	11.1	44.4	11.1	0.0	22.2
知的	85	40.0	49.4	21.2	11.8	41.2	27.1	42.4	5.9	4.7	3.5
精神	13	7.7	69.2	15.4	15.4	46.2	23.1	53.8	0.0	0.0	0.0

5. 情報の入手について

問 18 あなたは、障害のことや福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。
(3つまでに○)

「家族・親戚、友人・知人」の割合が 43.7%と最も高く、次いで「インターネット」の割合が 35.3%、「障害児福祉施設（児童発達や放デイ等）」の割合が 31.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・本」「医師・看護師」「障害児福祉施設（児童発達や放デイ等）」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、全区分で「家族・親戚、友人・知人」の割合が最も高くなっています。次いで、身体と精神で「インターネット」、身体で「医師・看護師」、知的で「障害児福祉施設（児童発達や放デイ等）」の割合が高くなっています。

単位：％

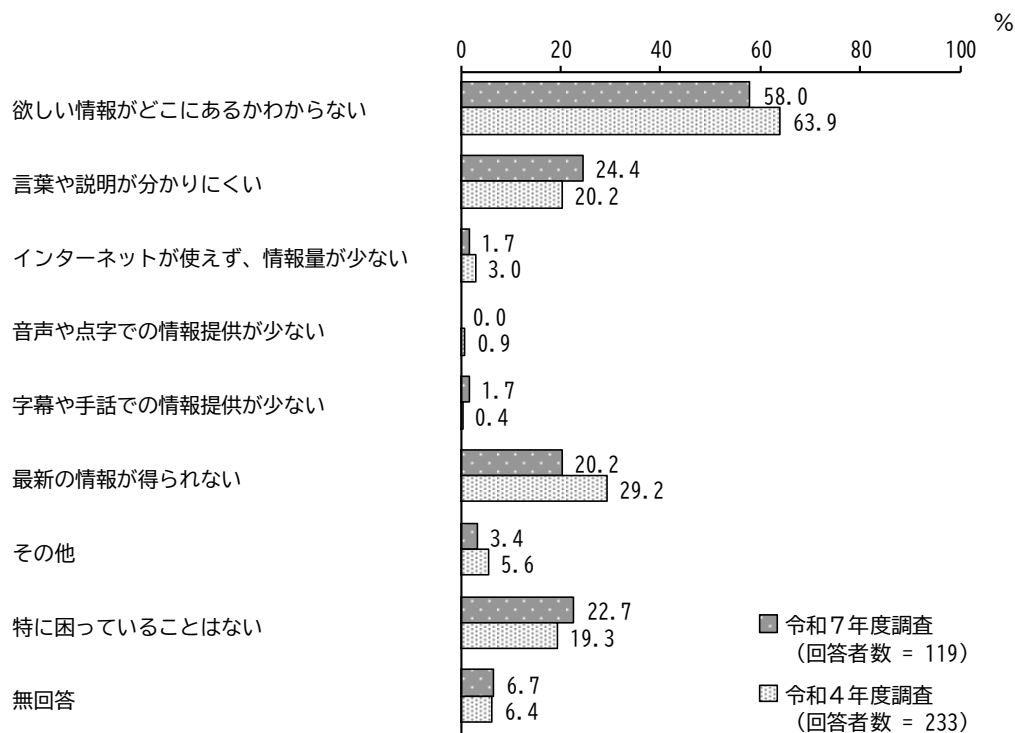
区分	回答者数 (件)	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・本	市政だよりや府の広報、パンフレット	市のホームページやSNS	インターネット	家族・親戚、友人・知人	医師・看護師	障害児福祉施設（児童発達や放デイ等）	市役所
全 体	119	6.7	11.8	8.4	35.3	43.7	10.1	31.9	13.4
身体	9	0.0	0.0	0.0	33.3	55.6	33.3	11.1	22.2
知的	85	5.9	14.1	8.2	35.3	42.4	5.9	38.8	12.9
精神	13	0.0	0.0	15.4	38.5	46.2	7.7	15.4	7.7

区分	保健所	相談支援事業所（「Nursing Room」）	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	障害児（者）の団体・家族会の活動	保育所（園）・幼稚園・学校	その他	情報を得るところがない	無回答
全 体	0.8	3.4	0.0	0.0	5.9	22.7	0.8	5.0	4.2
身体	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1
知的	0.0	2.4	0.0	0.0	3.5	25.9	1.2	5.9	4.7
精神	7.7	7.7	0.0	0.0	15.4	15.4	0.0	0.0	0.0

問 19 福祉等に関する情報の入手について、困っていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「欲しい情報がどこにあるかわからない」の割合が 58.0%と最も高く、次いで「言葉や説明が分かりにくい」の割合が 24.4%、「最新の情報が得られない」の割合が 20.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「欲しい情報がどこにあるかわからない」「最新の情報が得られない」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、全区分で「欲しい情報がどこにあるかわからない」の割合が最も高くなっています。次いで、身体と知的で「最新の情報が得られない」、知的と精神で「言葉や説明が分かりにくい」、の割合が高くなっています。

単位：％

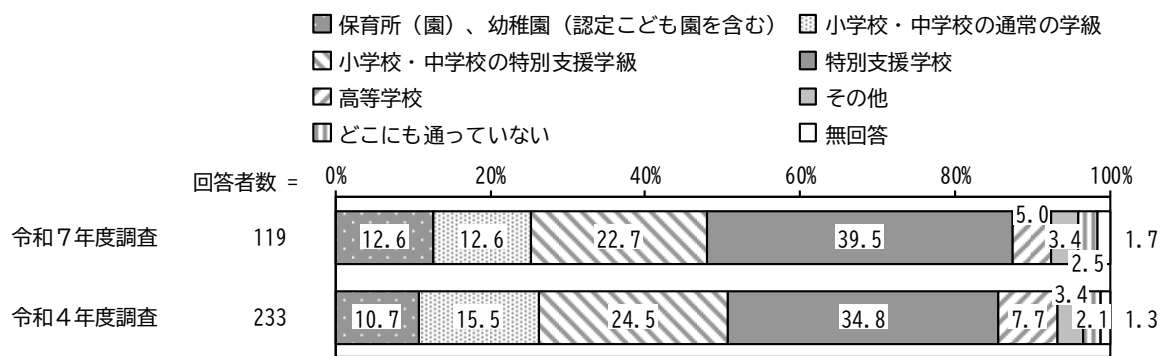
区分	回答者数(件)	欲しい情報がどこにあるかわからない	言葉や説明が分かりにくい	インターネットが使えず、情報量が少ない	音声や点字での情報提供が少ない	字幕や手話での情報提供が少ない	最新の情報が得られない	その他	特に困っていることはない	無回答
全 体	119	58.0	24.4	1.7	0.0	1.7	20.2	3.4	22.7	6.7
身体	9	44.4	11.1	0.0	0.0	11.1	22.2	11.1	33.3	0.0
知的	85	58.8	23.5	1.2	0.0	0.0	23.5	2.4	20.0	9.4
精神	13	69.2	23.1	0.0	0.0	7.7	7.7	7.7	23.1	0.0

6. 教育・余暇の過ごし方について

問 20 あなたが現在、在籍している学校や学級をお答えください。（1つに○）

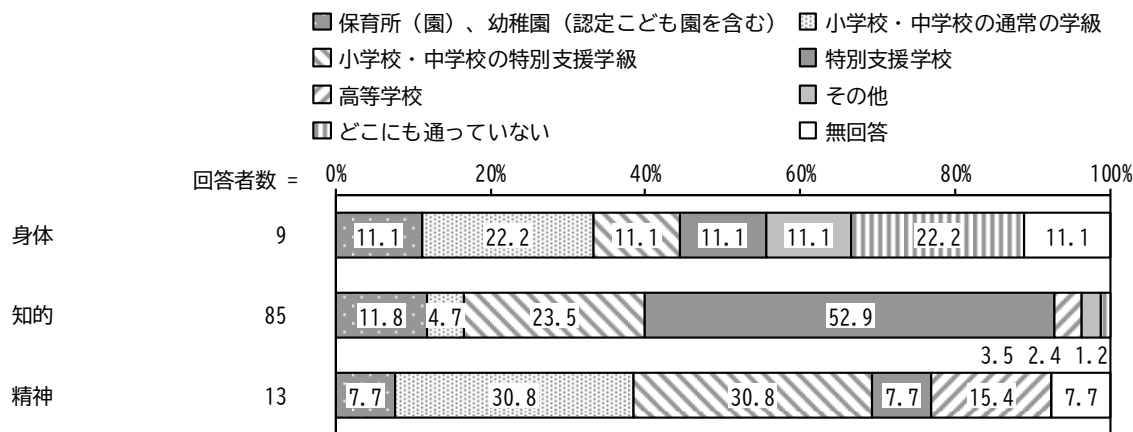
「特別支援学校」の割合が 39.5%と最も高く、次いで「小学校・中学校の特別支援学級」の割合が 22.7%、「保育所（園）、幼稚園（認定こども園を含む）」の割合が 12.6% となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

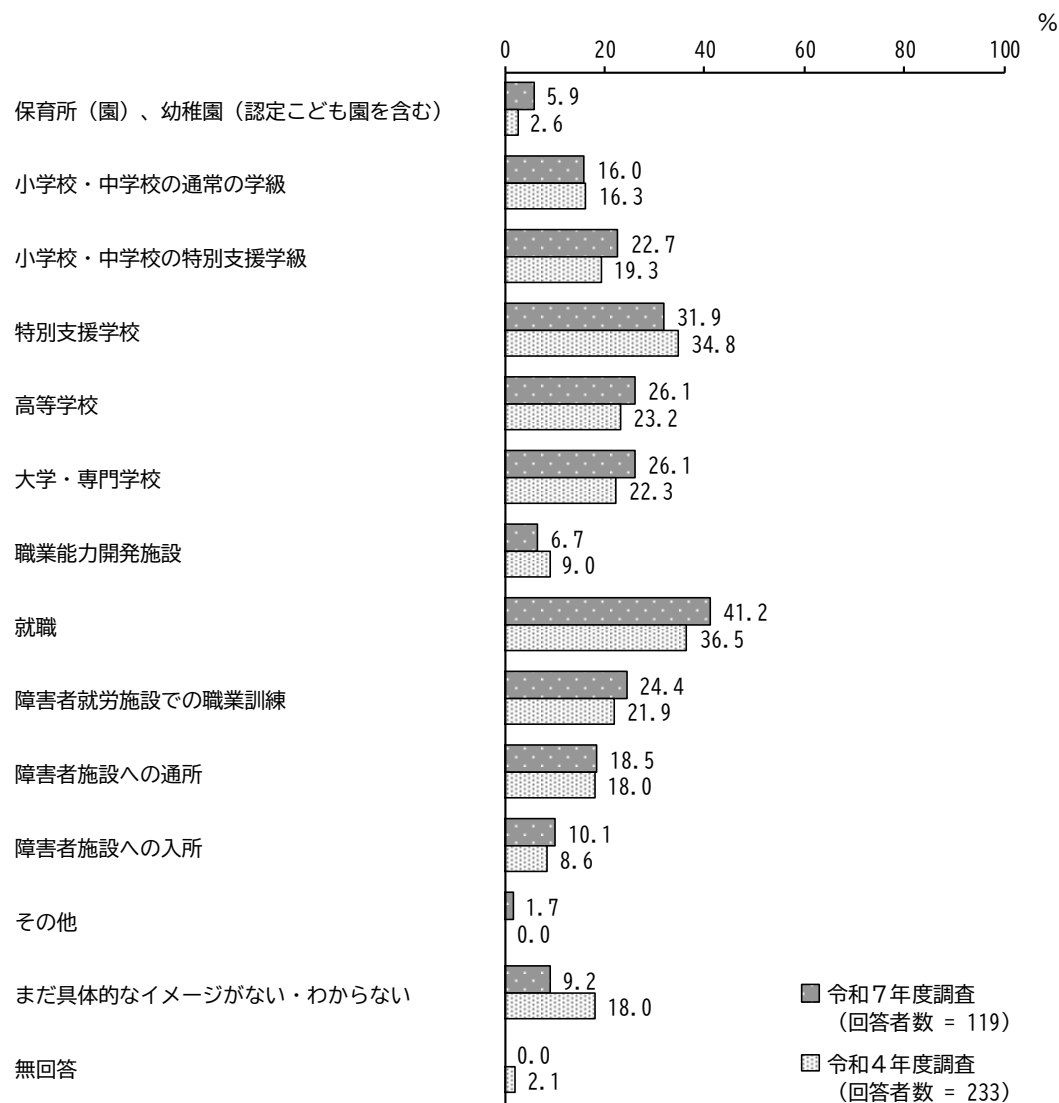
手帳種類別にみると、身体で「小学校・中学校の通常の学級」「どこにも通っていない」、知的で「特別支援学校」、精神で「小学校・中学校の通常の学級」「小学校・中学校の特別支援学級」の割合が高くなっています。



問 21 あなたは今後どのような進路を希望しますか。今後数年のことも含め、将来にわたり希望する進路を全てお答えください。（あてはまるものすべてに○）

「就職」の割合が 41.2%と最も高く、次いで「特別支援学校」の割合が 31.9%、「高等学校」、「大学・専門学校」の割合が 26.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「就職」、知的で「特別支援学校」、精神で「高等学校」の割合が高くなっています。

単位：％

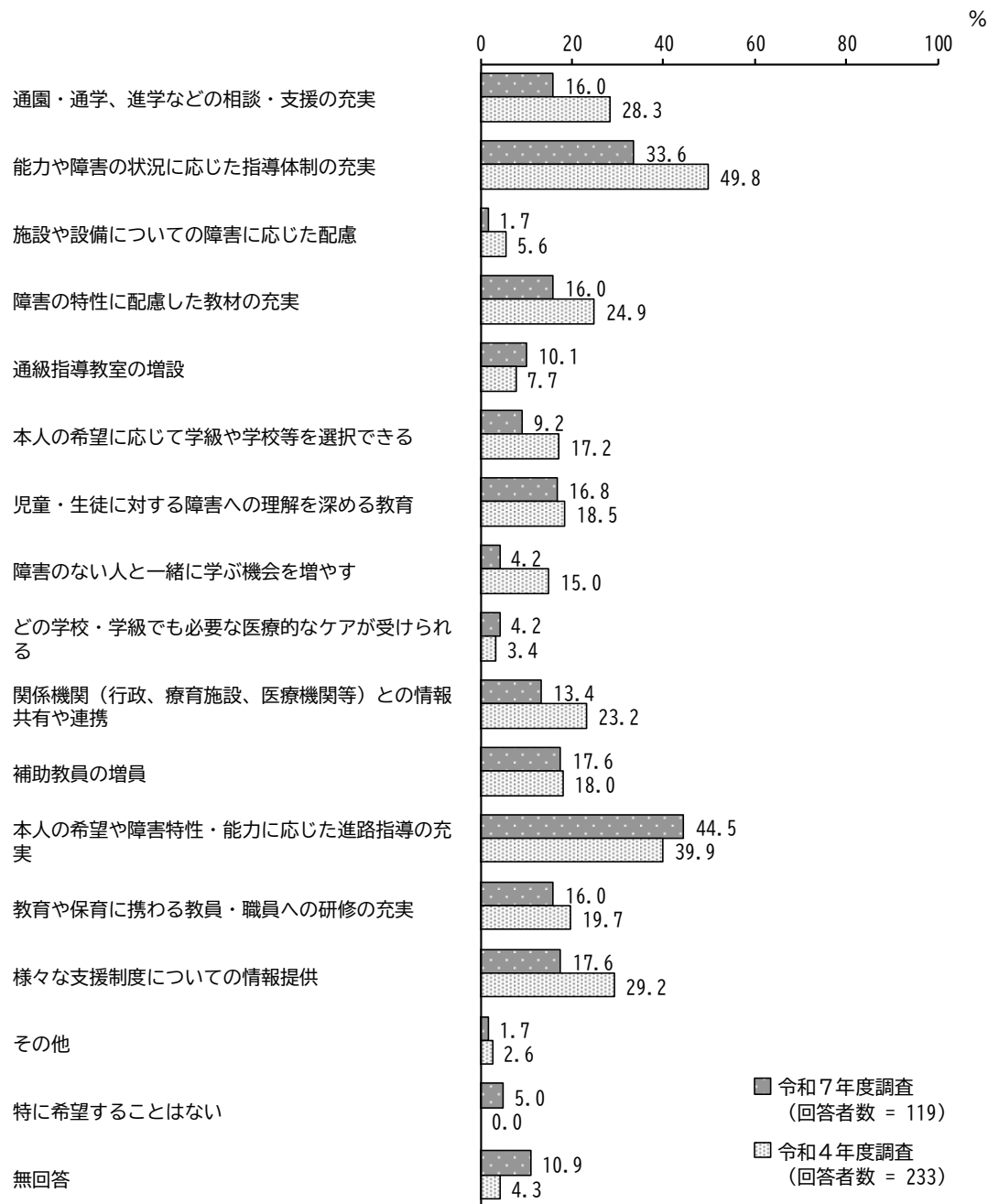
区分	回答者数 (件)	保育所(園)、幼稚園 (認定こども園を含む)	小学校・中学校の 通常の学級	小学校・中学校の特 別支援学級	特別支援学校	高等学校	大学・専門 学校	職業能力開発施設
全 体	119	5.9	16.0	22.7	31.9	26.1	26.1	6.7
身体	9	44.4	22.2	33.3	22.2	44.4	44.4	0.0
知的	85	2.4	11.8	17.6	38.8	16.5	12.9	7.1
精神	13	0.0	15.4	46.2	23.1	53.8	46.2	7.7

区分	就職	障害者就労施設で の職業訓練	障害者施設への通 所	障害者施設への入 所	その他	まだ具体的なイメージ がない・わからない	無回答
全 体	41.2	24.4	18.5	10.1	1.7	9.2	0.0
身体	66.7	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知的	35.3	30.6	24.7	14.1	1.2	11.8	0.0
精神	46.2	7.7	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0

問 22 現在または今後在籍する保育所（園）や幼稚園、学校に望むことは、どのようなことですか。（3つまでに○）

「本人の希望や障害特性・能力に応じた進路指導の充実」の割合が 44.5%と最も高く、次いで「能力や障害の状況に応じた指導体制の充実」の割合が 33.6%、「補助教員の増員」、「様々な支援制度についての情報提供」の割合が 17.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「通園・通学、進学などの相談・支援の充実」「能力や障害の状況に応じた指導体制の充実」「障害の特性に配慮した教材の充実」「本人の希望に応じて学級や学校等を選択できる」「障害のない人と一緒に学ぶ機会を増やす」「関係機関（行政、療育施設、医療機関等）との情報共有や連携」「様々な支援制度についての情報提供」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、全区分で「本人の希望や障害特性・能力に応じた進路指導の充実」、身体で「能力や障害の状況に応じた指導体制の充実」「障害のない人と一緒に学ぶ機会を増やす」「関係機関（行政、療育施設、医療機関等）との情報共有や連携」「教育や保育に携わる教員・職員への研修の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	通園・通学、進学などの相談・支援の充実	能力や障害の状況に応じた指導体制の充実	施設や設備についての障害に応じた配慮	障害の特性に配慮した教材の充実	通級指導教室の増設	本人の希望に応じて学級や学校等を選択できる	児童・生徒に対する障害への理解を深める教育	障害のない人と一緒に学ぶ機会を増やす
全 体	119	16.0	33.6	1.7	16.0	10.1	9.2	16.8	4.2
身体	9	11.1	22.2	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	22.2
知的	85	17.6	38.8	1.2	16.5	4.7	7.1	16.5	3.5
精神	13	0.0	15.4	0.0	23.1	30.8	7.7	23.1	0.0

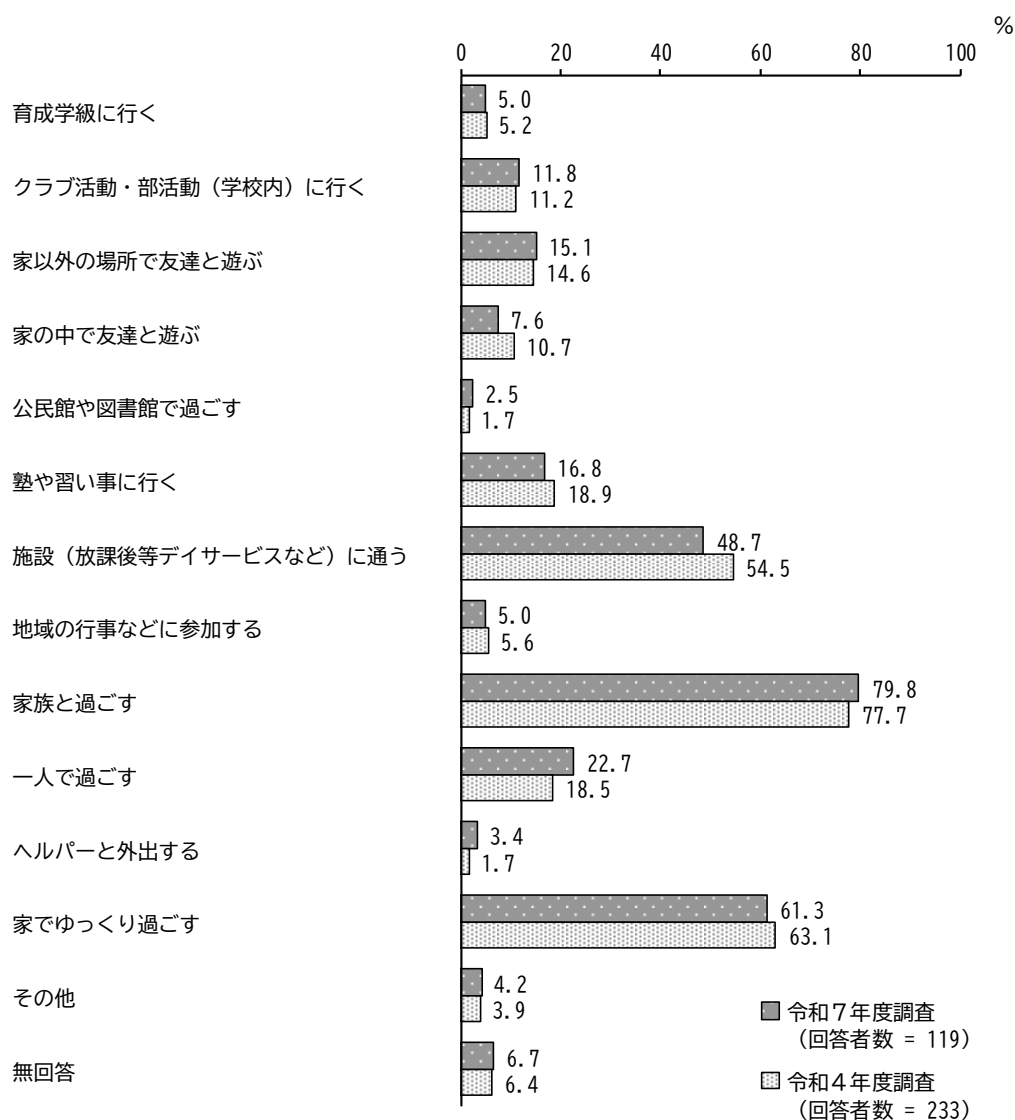
区分	どの学校・学級でも必要な医療的なケアが受けられる	関係機関（行政、療育施設、医療機関等）との情報共有や連携	補助教員の増員	本人の希望や障害特性・能力に応じた進路指導の充実	教育や保育に携わる教員・職員への研修の充実	様々な支援制度についての情報提供	その他	特に希望することはない	無回答
全 体	4.2	13.4	17.6	44.5	16.0	17.6	1.7	5.0	10.9
身体	11.1	22.2	11.1	22.2	22.2	11.1	11.1	0.0	11.1
知的	3.5	16.5	17.6	44.7	14.1	21.2	1.2	7.1	10.6
精神	7.7	0.0	23.1	53.8	23.1	15.4	0.0	0.0	7.7

問 23 あなたは、学校等の放課後や休日など、学校等以外の時間は、（１）現在、どのように過ごしていますか。また、（２）今後、どのように過ごしたいですか。
（あてはまるものすべてに○）

（１）現在の過ごし方

「家族と過ごす」の割合が 79.8%と最も高く、次いで「家でゆっくり過ごす」の割合が 61.3%、「施設（放課後等デイサービスなど）に通う」の割合が 48.7%となっています。

令和４年度調査と比較すると、「施設（放課後等デイサービスなど）に通う」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、全区分で「家族と過ごす」の割合が最も高くなっています。次いで、全区分で「家でゆっくり過ごす」の割合が高くなっています。

単位：％

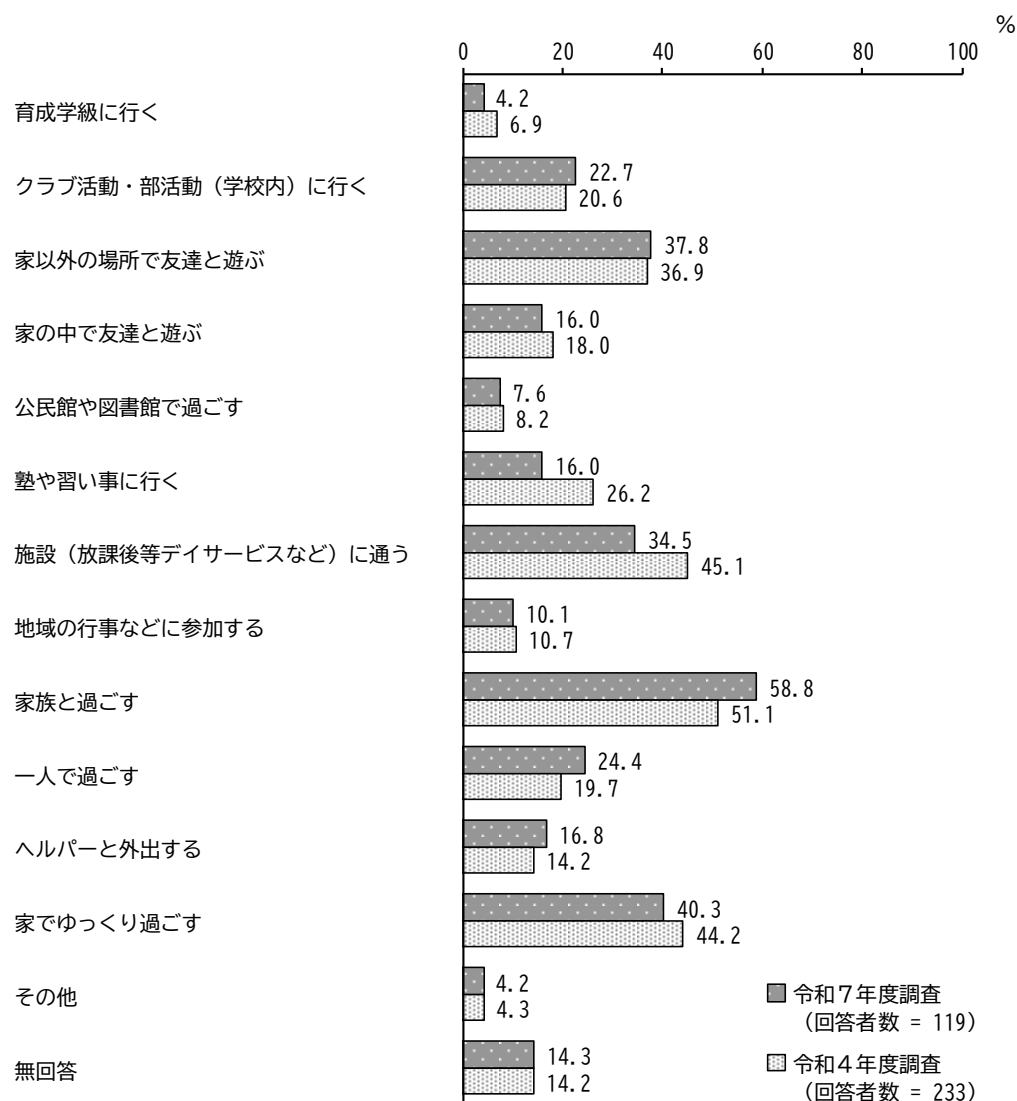
区分	回答者数 (件)	育成学級に行く	クラブ活動・部活動 (学校内)に行く	家以外の場所で友 達と遊ぶ	家の中で友達と遊 ぶ	公民館や図書館で 過ごす	塾や習い事に行く	施設(放課後等デイ サービスなど)に通 う
全 体	119	5.0	11.8	15.1	7.6	2.5	16.8	48.7
身体	9	0.0	11.1	0.0	22.2	0.0	22.2	11.1
知的	85	4.7	8.2	14.1	5.9	1.2	12.9	57.6
精神	13	7.7	15.4	23.1	0.0	0.0	23.1	30.8

区分	地域の行事などに 参加する	家族と過ごす	一人で過ごす	ヘルパーと外出す る	家でゆっくり過 す	その他	無回答
全 体	5.0	79.8	22.7	3.4	61.3	4.2	6.7
身体	0.0	88.9	33.3	0.0	55.6	11.1	0.0
知的	3.5	80.0	15.3	4.7	61.2	3.5	5.9
精神	7.7	76.9	46.2	0.0	61.5	0.0	15.4

(2) 今後の希望

「家族と過ごす」の割合が58.8%と最も高く、次いで「家でゆっくり過ごす」の割合が40.3%、「家以外の場所で友達と遊ぶ」の割合が37.8%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「家族と過ごす」の割合が増加しています。一方、「塾や習い事に行く」「施設（放課後等デイサービスなど）に通う」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「家以外の場所で友達と遊ぶ」、知的と精神で「家族と過ごす」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	育成学級に行く	クラブ活動・部活動 (学校内)に行く	家以外の場所で友 達と遊ぶ	家の中で友達と遊 ぶ	公民館や図書館で 過ごす	塾や習い事に行く	施設(放課後等デイ サービスなど)に通 う
全 体	119	4.2	22.7	37.8	16.0	7.6	16.0	34.5
身体	9	11.1	33.3	55.6	22.2	11.1	11.1	11.1
知的	85	4.7	16.5	32.9	12.9	5.9	11.8	37.6
精神	13	0.0	53.8	46.2	15.4	7.7	15.4	23.1

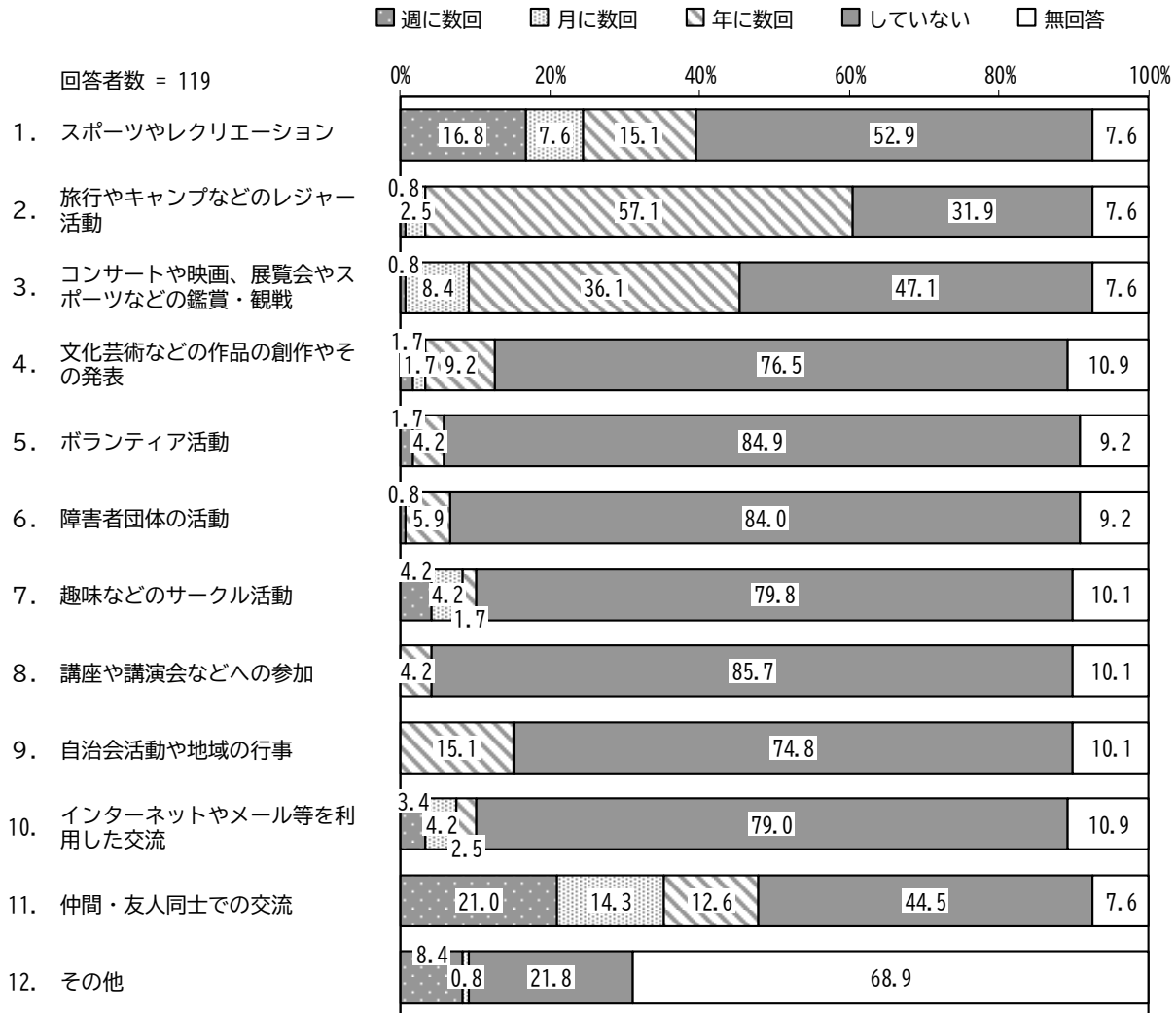
区分	地域の行事などに 参加する	家族と過ごす	一人で過ごす	ヘルパーと外出す る	家でゆっくり過ご す	その他	無回答
全 体	10.1	58.8	24.4	16.8	40.3	4.2	14.3
身体	22.2	44.4	11.1	22.2	22.2	11.1	11.1
知的	9.4	57.6	20.0	20.0	36.5	3.5	11.8
精神	0.0	69.2	38.5	7.7	53.8	0.0	23.1

7. 地域・社会活動について

問 24 あなたは学業以外の活動として、次の1～12のことを（１）現在、どれくらいの頻度でしていますか。また、（２）今後、したいですか。（現在していることも含めて）

（１）現在の状況（それぞれの項目につき１つに○）

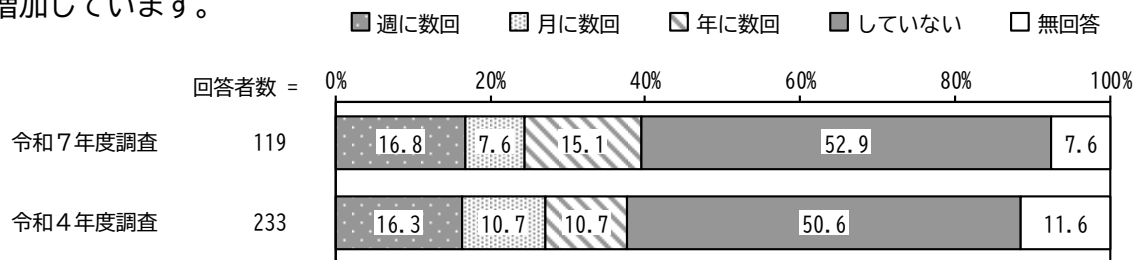
『11. 仲間・友人同士での交流』で「週に数回」「月に数回」が、『2. 旅行やキャンプなどのレジャー活動』で「年に数回」が、『8. 講座や講演会などへの参加』で「していない」が高くなっています。



1. スポーツやレクリエーション

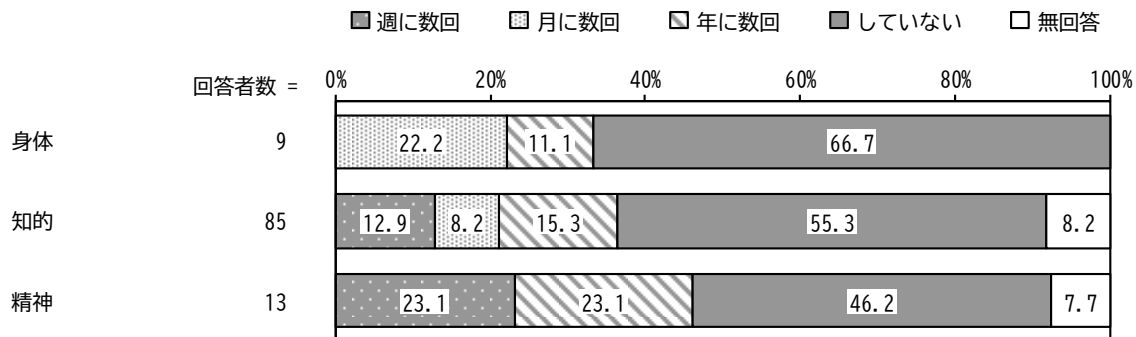
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「週に数回」「月に数回」「年に数回」を合わせた“している”の割合が増加しています。



【手帳種類別】

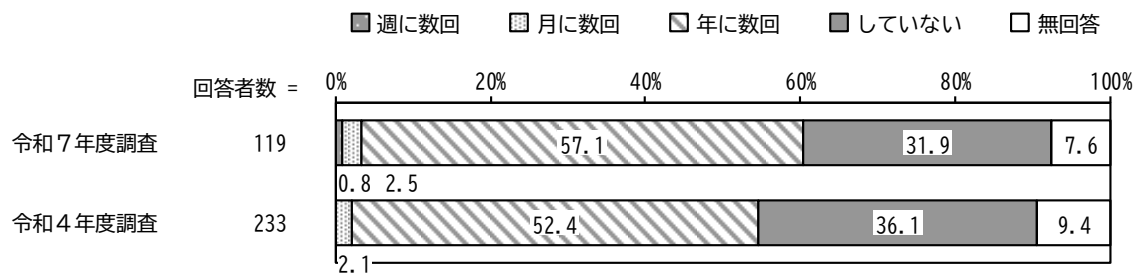
手帳種類別にみると、精神において“している”の割合が高くなっています。



2. 旅行やキャンプなどのレジャー活動

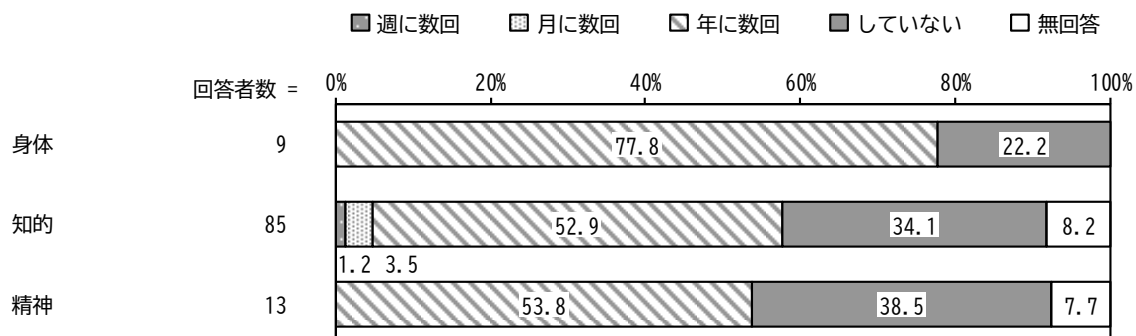
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



【手帳種類別】

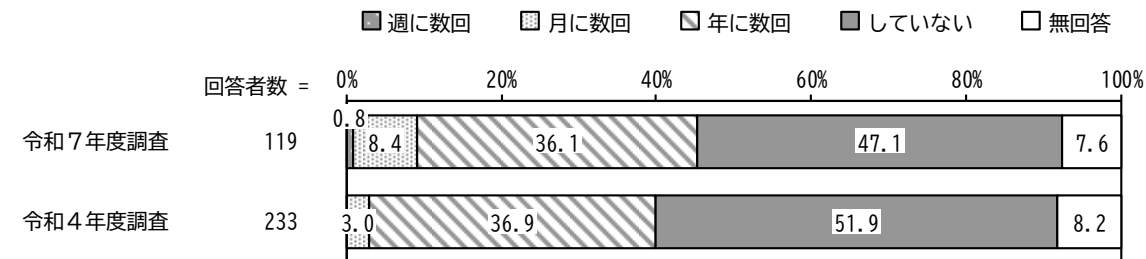
手帳種類別にみると、身体において“している”の割合が高くなっています。



3. コンサートや映画、展覧会やスポーツなどの鑑賞・観戦

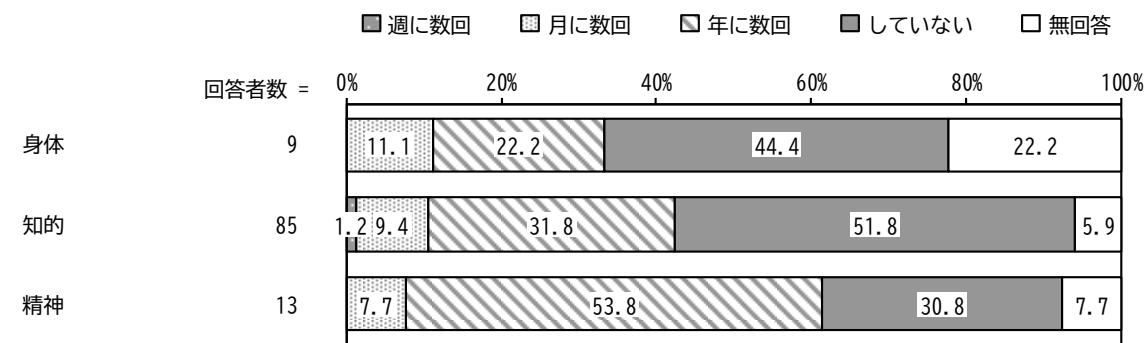
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



【手帳種類別】

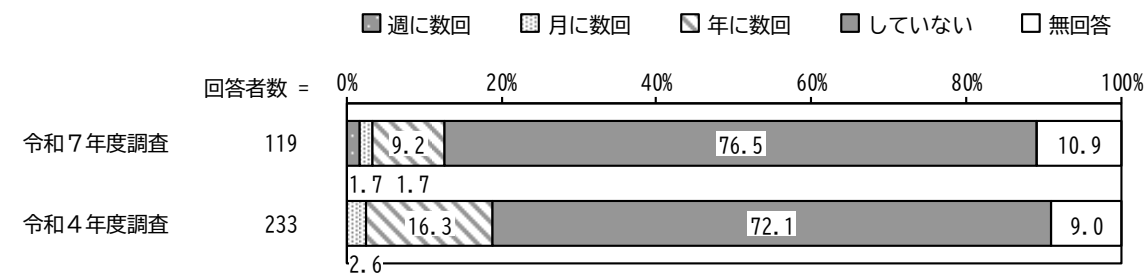
手帳種類別にみると、精神において“している”の割合が高くなっています。



4. 文化芸術などの作品の創作やその発表

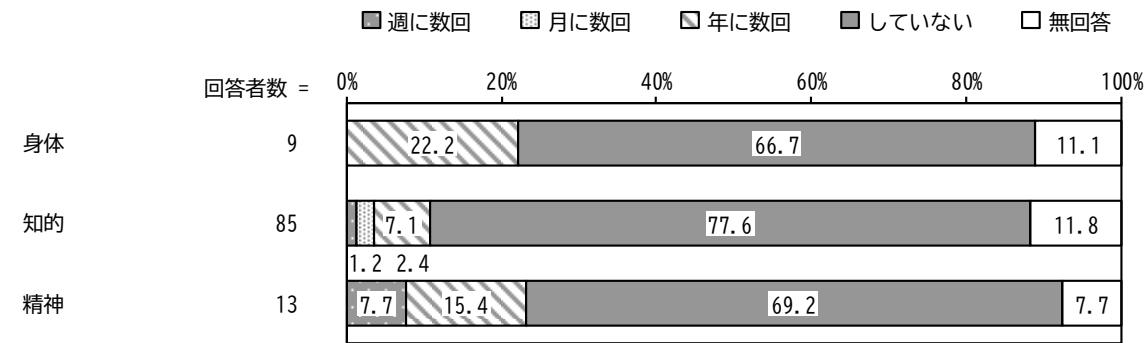
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が減少しています。



【手帳種類別】

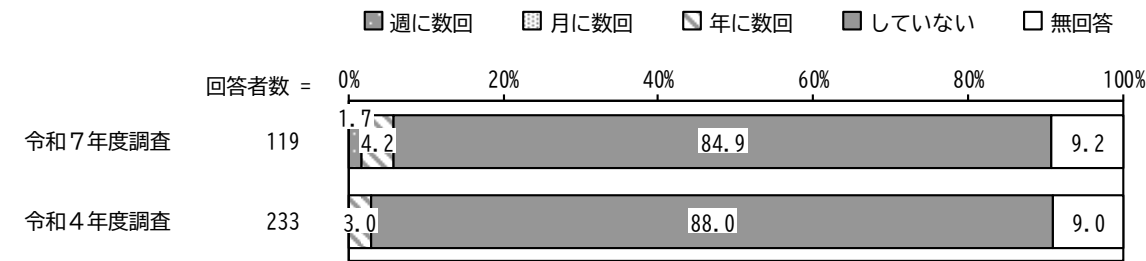
手帳種類別にみると、身体、精神において“している”の割合が高くなっています。



5. ボランティア活動

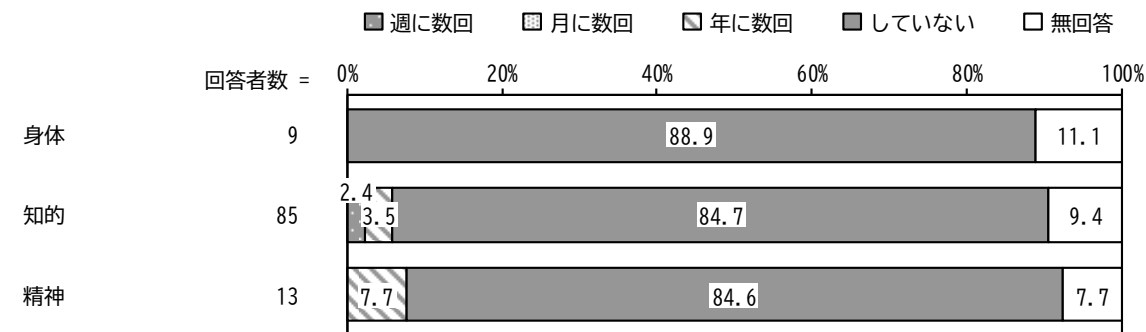
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



【手帳種類別】

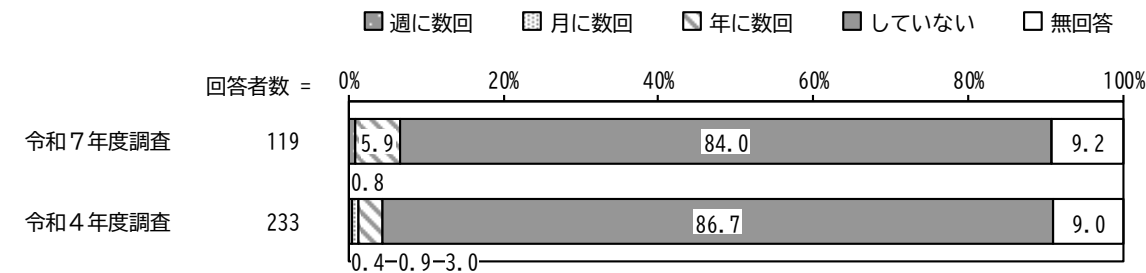
手帳種類別にみると、知的と精神において“している”の割合が高くなっています。身体において“している”の回答は、ありませんでした。



6. 障害者団体の活動

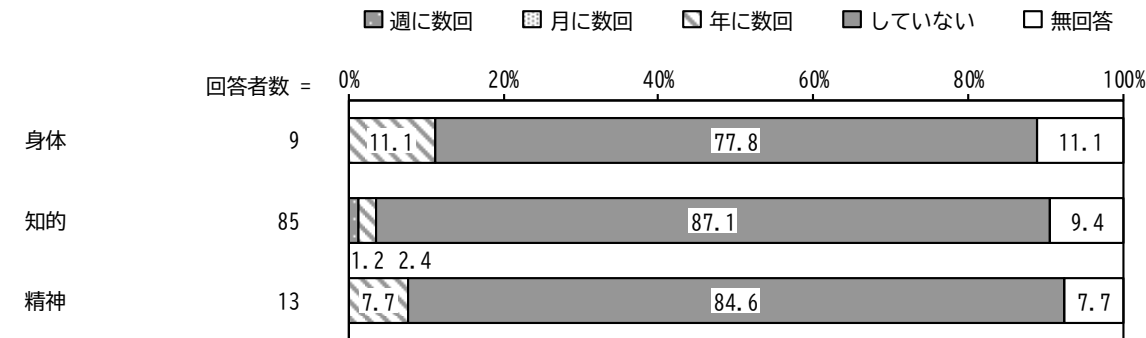
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



【手帳種類別】

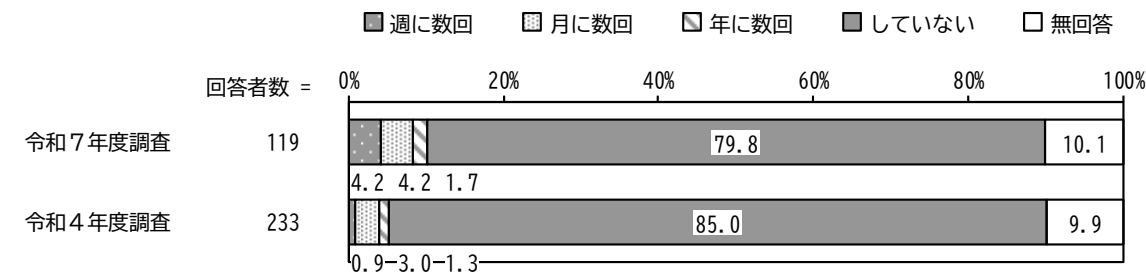
手帳種類別にみると、身体と精神において“している”の割合が高くなっています。



7. 趣味などのサークル活動

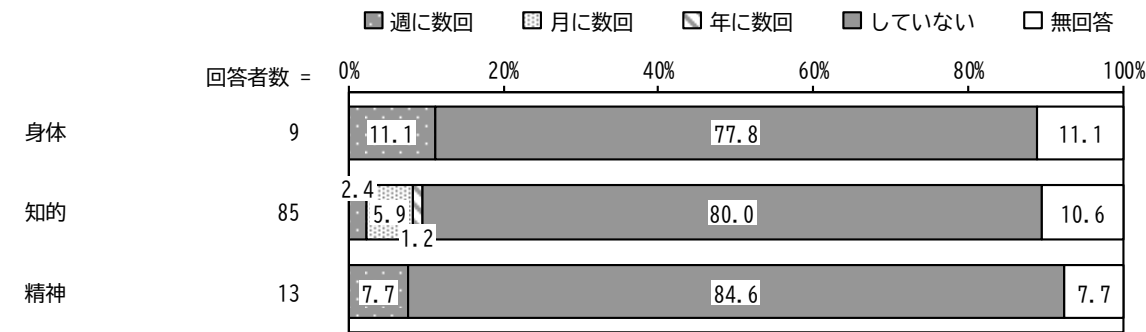
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



【手帳種類別】

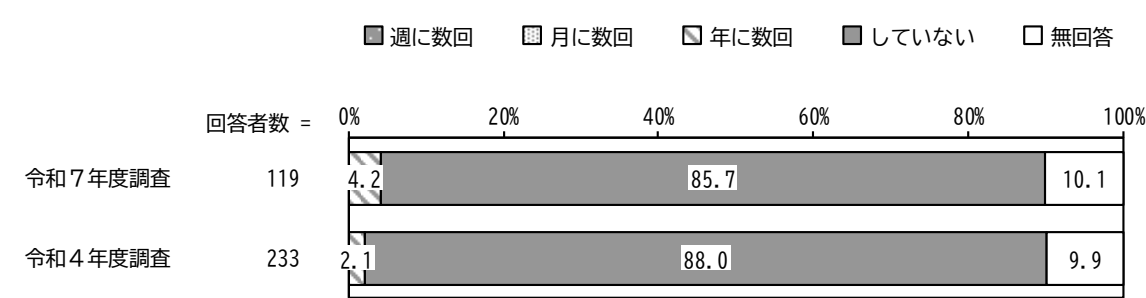
手帳種類別にみると、身体において“している”の割合が高くなっています。



8. 講座や講演会などへの参加

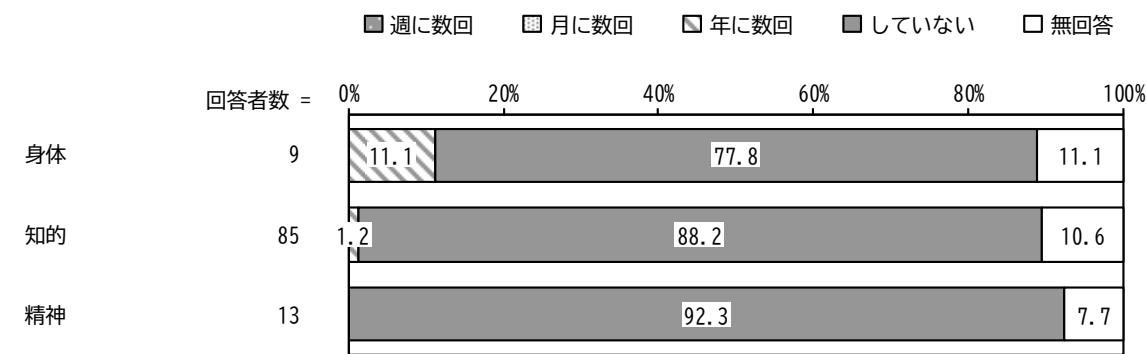
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



【手帳種類別】

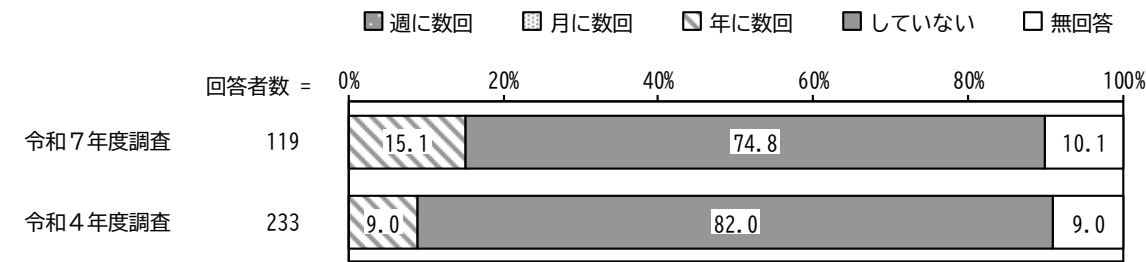
手帳種類別にみると、身体において“している”の割合が高くなっています。精神において“している”の回答は、ありませんでした。



9. 自治会活動や地域の行事

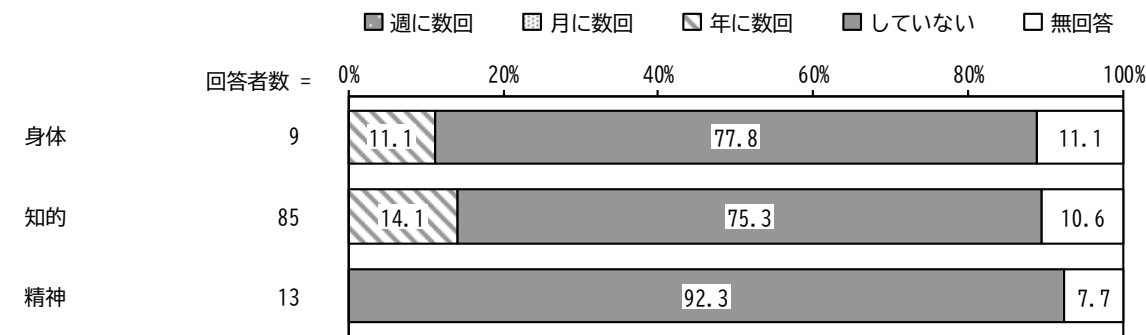
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



【手帳種類別】

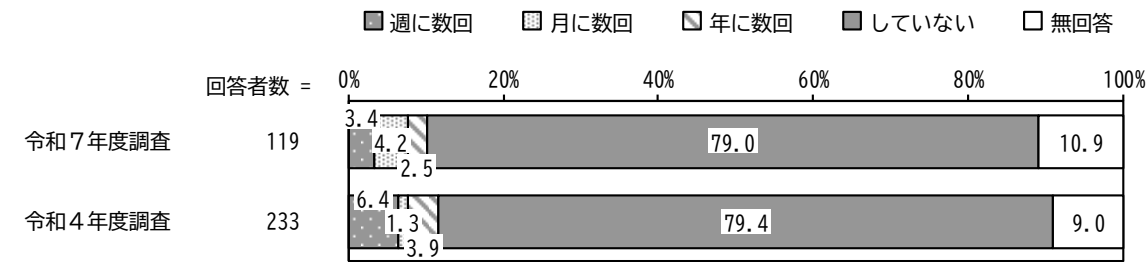
手帳種類別にみると、身体と精神において“している”の割合が高くなっています。精神において“している”の回答は、ありませんでした。



10. インターネットやメール等を利用した交流

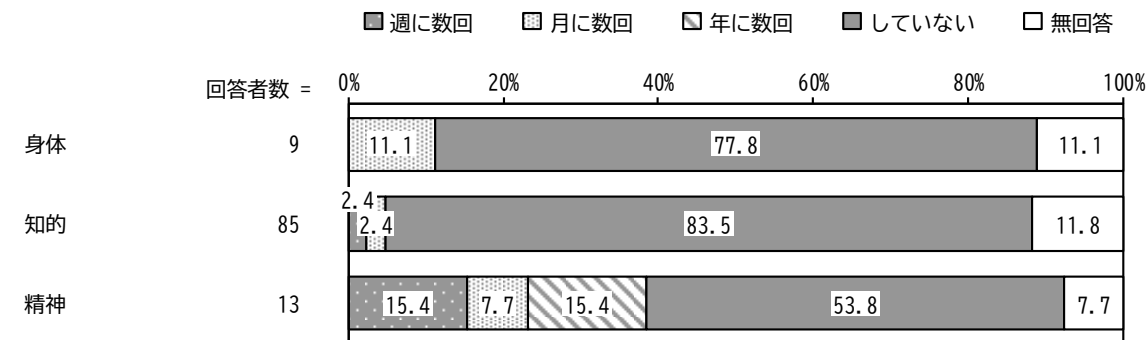
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が減少しています。



【手帳種類別】

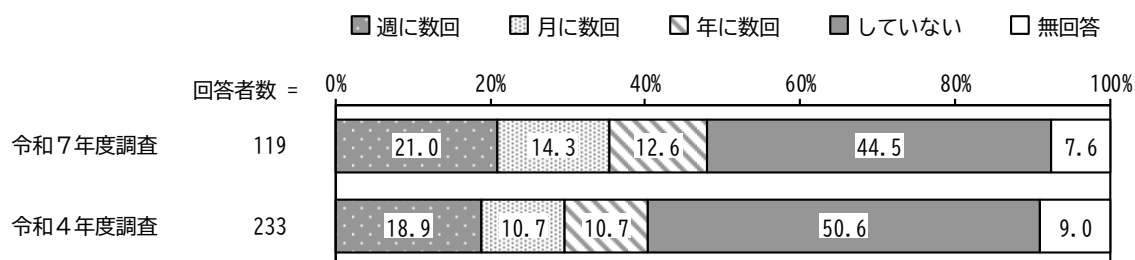
手帳種類別にみると、精神において“している”の割合が高くなっています。



11. 仲間・友人同士での交流

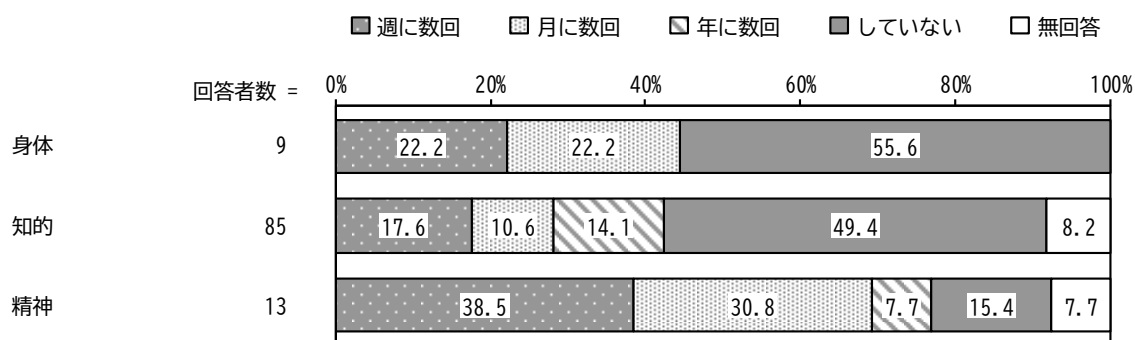
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



【手帳種類別】

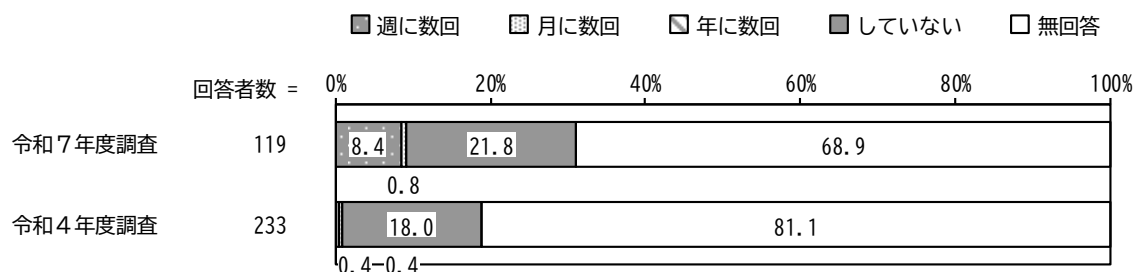
手帳種類別にみると、精神において“している”の割合が高くなっています。



12. その他

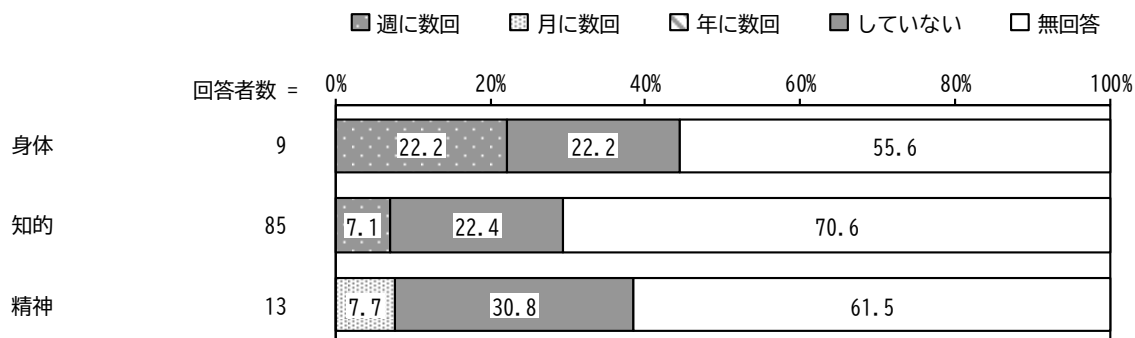
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体において“している”の割合が高くなっています。

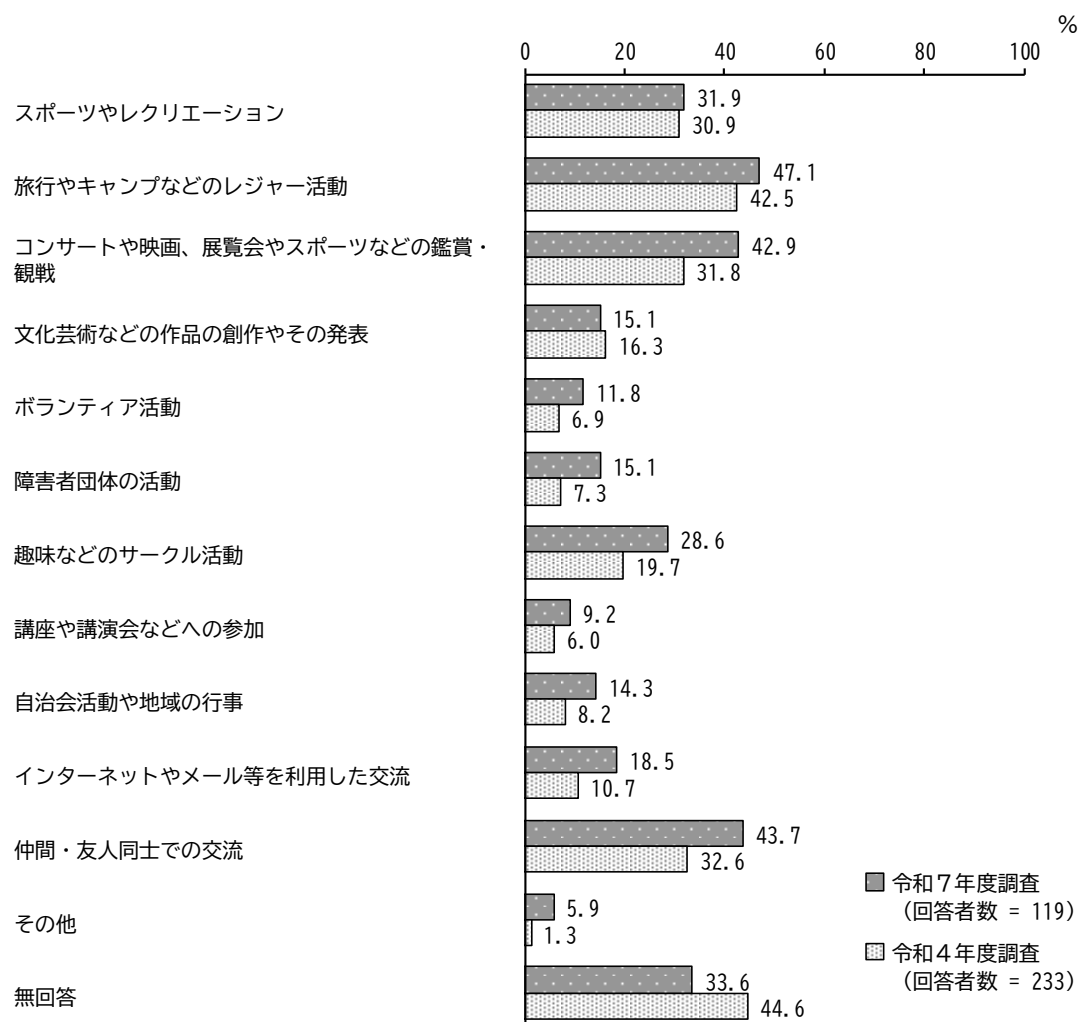


<その他意見> ・買い物に行く ・自費でリハビリに通っている

(2) 今後したいこと（あてはまるものすべてに○）

「旅行やキャンプなどのレジャー活動」の割合が 47.1%と最も高く、次いで「仲間・友人同士での交流」の割合が 43.7%、「コンサートや映画、展覧会やスポーツなどの鑑賞・観戦」の割合が 42.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「コンサートや映画、展覧会やスポーツなどの鑑賞・観戦」「障害者団体の活動」「趣味などのサークル活動」「自治会活動や地域の行事」「インターネットやメール等を利用した交流」「仲間・友人同士での交流」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「コンサートや映画、展覧会やスポーツなどの鑑賞・観戦」、知的と精神で「旅行やキャンプなどのレジャー活動」、精神で「仲間・友人同士での交流」の割合が高くなっています。

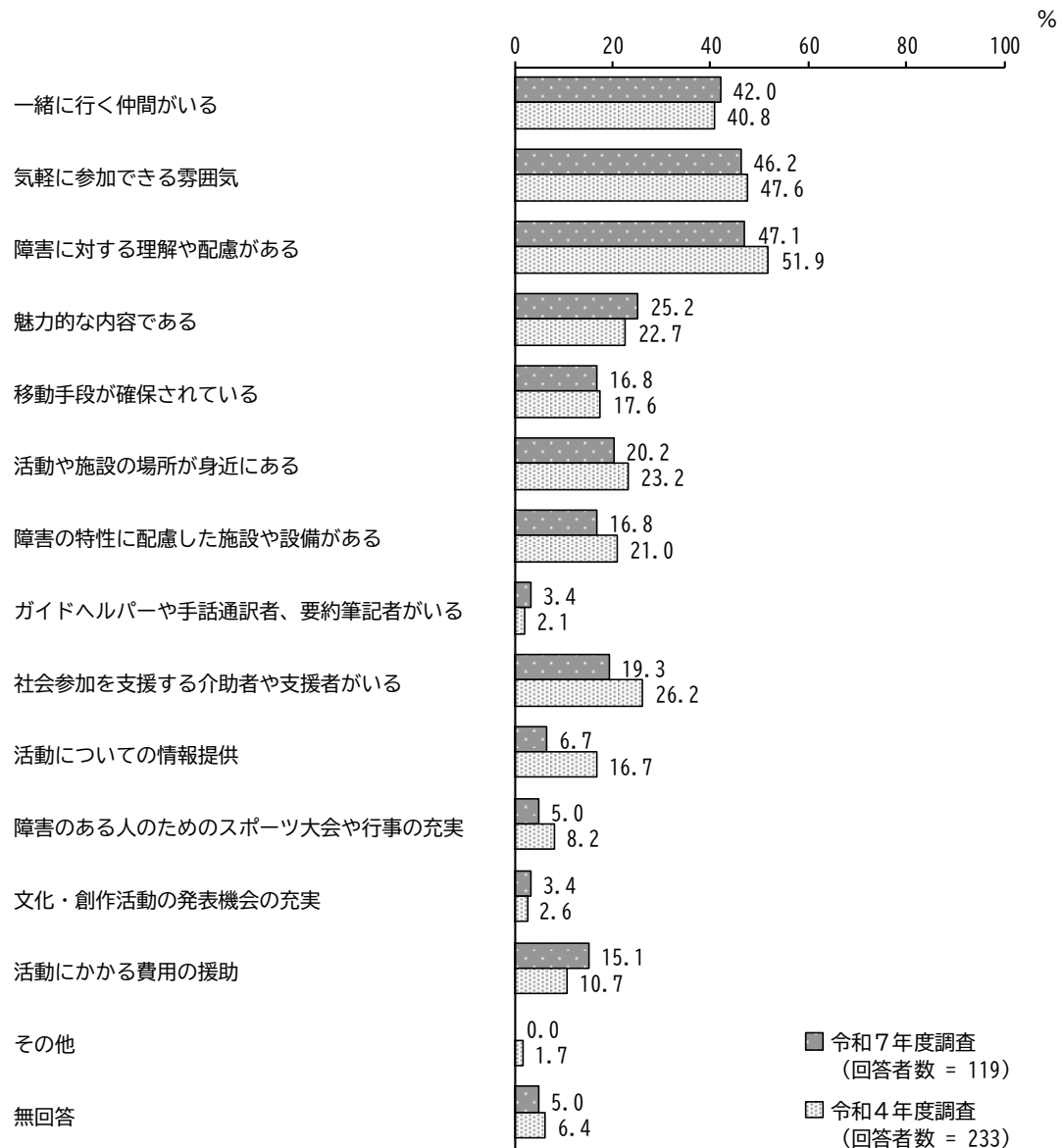
単位：％

区分	回答者数（件）	スポーツやレクリエーション	旅行やキャンプなどのレジャー活動	コンサートや映画、展覧会やスポーツなどの鑑賞・観戦	文化芸術などの作品の創作やその発表	ボランティア活動	障害者団体の活動	趣味などのサークル活動	講座や講演会などへの参加	自治会活動や地域の行事	インターネットやメール等を利用した交流	仲間・友人同士での交流	その他	無回答
全 体	119	31.9	47.1	42.9	15.1	11.8	15.1	28.6	9.2	14.3	18.5	43.7	5.9	33.6
身体	9	44.4	44.4	66.7	44.4	0.0	11.1	33.3	22.2	33.3	33.3	44.4	0.0	22.2
知的	85	31.8	44.7	40.0	12.9	12.9	16.5	28.2	7.1	11.8	14.1	41.2	4.7	34.1
精神	13	15.4	46.2	38.5	7.7	7.7	7.7	15.4	0.0	0.0	15.4	46.2	15.4	38.5

問 25 障害のある人が地域・社会活動に参加しやすくなるために、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまでに○）

「障害に対する理解や配慮がある」の割合が 47.1%と最も高く、次いで「気軽に参加できる雰囲気」の割合が 46.2%、「一緒に行く仲間がいる」の割合が 42.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「社会参加を支援する介助者や支援者がいる」「活動についての情報提供」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、全区分で「障害に対する理解や配慮がある」、精神で「一緒に行く仲間がいる」「気軽に参加できる雰囲気」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	一緒に行く仲間が いる	気軽に参加できる 雰囲気	障害に対する理解 や配慮がある	魅力的な内容であ る	移動手段が確保さ れている	活動や施設の場所 が身近にある	障害の特性に配慮 した施設や設備が ある
全 体	119	42.0	46.2	47.1	25.2	16.8	20.2	16.8
身体	9	11.1	33.3	66.7	11.1	33.3	22.2	22.2
知的	85	42.4	43.5	48.2	20.0	20.0	23.5	18.8
精神	13	53.8	53.8	53.8	46.2	0.0	7.7	7.7

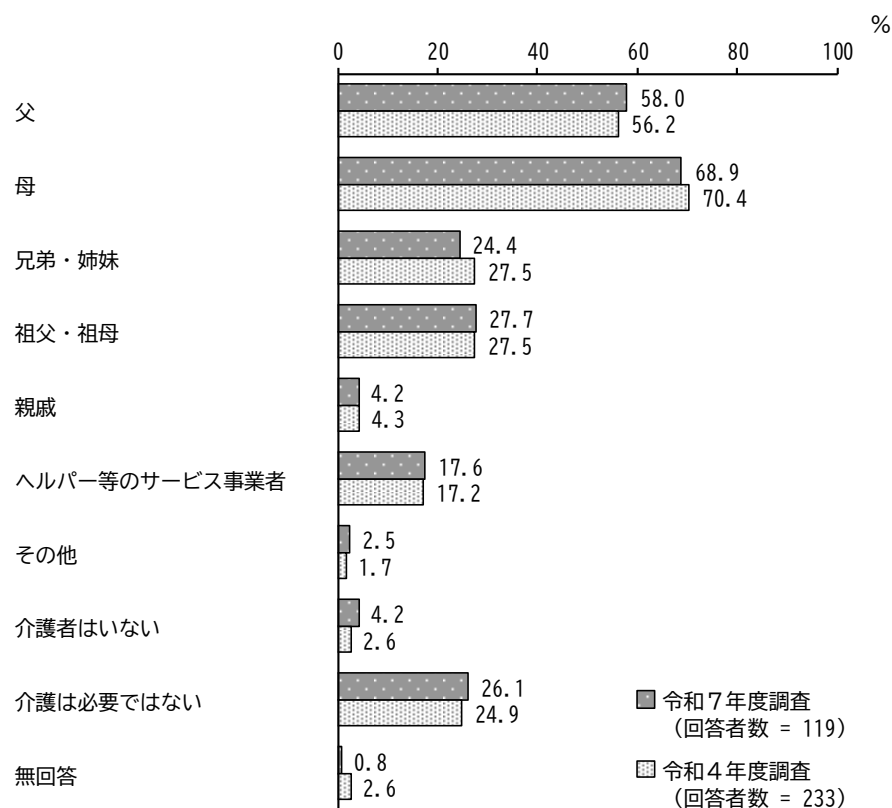
区分	ガイドヘルパーや 手話通訳者 要約筆 記者がいる	社会参加を支援す る介助者や支援者 がいる	活動について的情 報提供	障害のある人のた めのスポーツ大会 や行事の充実	文化・創作活動の発 表機会の充実	活動にかかる費用 の援助	その他	無回答
全 体	3.4	19.3	6.7	5.0	3.4	15.1	0.0	5.0
身体	11.1	33.3	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0
知的	2.4	18.8	9.4	5.9	2.4	11.8	0.0	4.7
精神	7.7	23.1	0.0	0.0	15.4	30.8	0.0	0.0

8. 介護の状況について

問 26 あなたの介護に関わっているすべての方をお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

「母」の割合が 68.9%と最も高く、次いで「父」の割合が 58.0%、「祖父・祖母」の割合が 27.7% となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体と知的で「母」、精神で「介護は必要ではない」の割合が高くなっています。

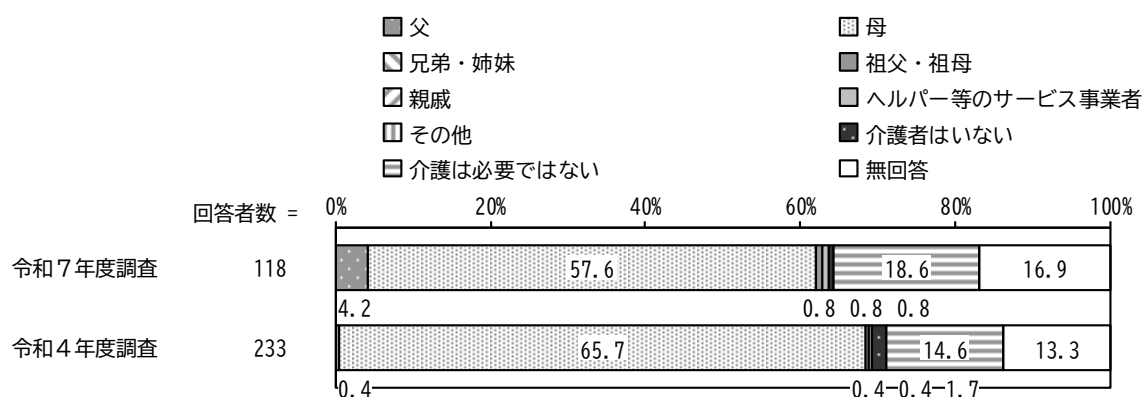
単位：％

区分	回答者数 (件)	父	母	兄弟・姉妹	祖父・祖母	親戚	ヘルパー等のサービス事業者	その他	介護者はいない	介護は必要ではない	無回答
全 体	119	58.0	68.9	24.4	27.7	4.2	17.6	2.5	4.2	26.1	0.8
身体	9	88.9	100.0	55.6	44.4	0.0	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0
知的	85	56.5	70.6	23.5	28.2	4.7	20.0	1.2	4.7	23.5	1.2
精神	13	46.2	46.2	15.4	15.4	0.0	7.7	7.7	0.0	53.8	0.0

問 27 問 26 で回答した人のうち、あなたを主に介護しているのはどなたですか。
(1つに○)

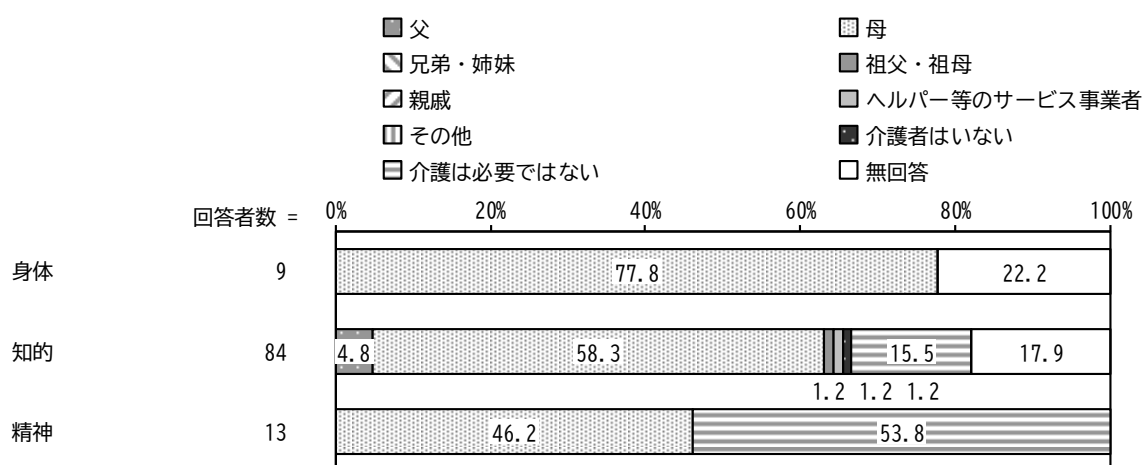
「母」の割合が57.6%と最も高くなっています。

令和4年度調査と比較すると、「母」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

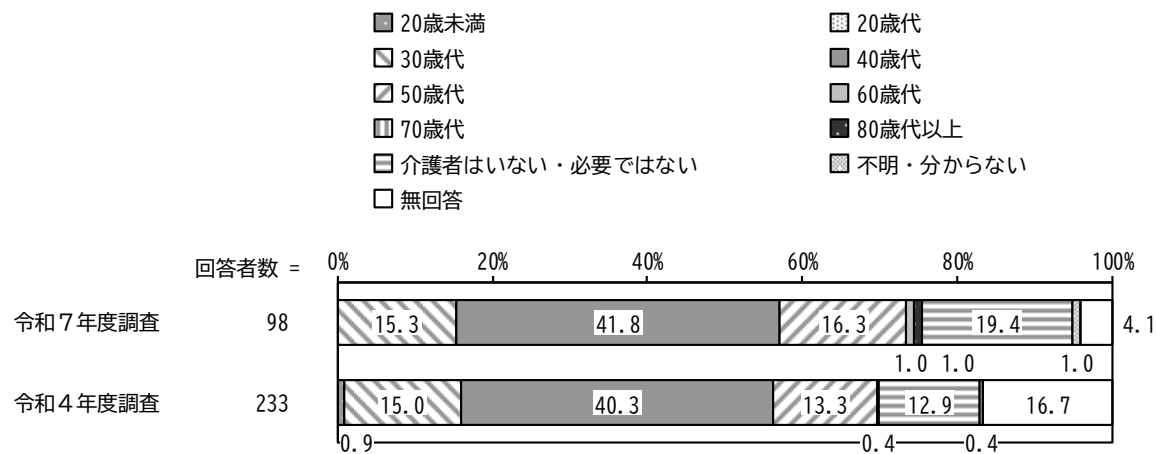
手帳種類別にみると、身体と知的で「母」、精神で「介護は必要ではない」の割合が高くなっています。



問 28 問 27 で回答した、あなたを主に介護をしている方の年齢はおいくつですか。
(1つに○)

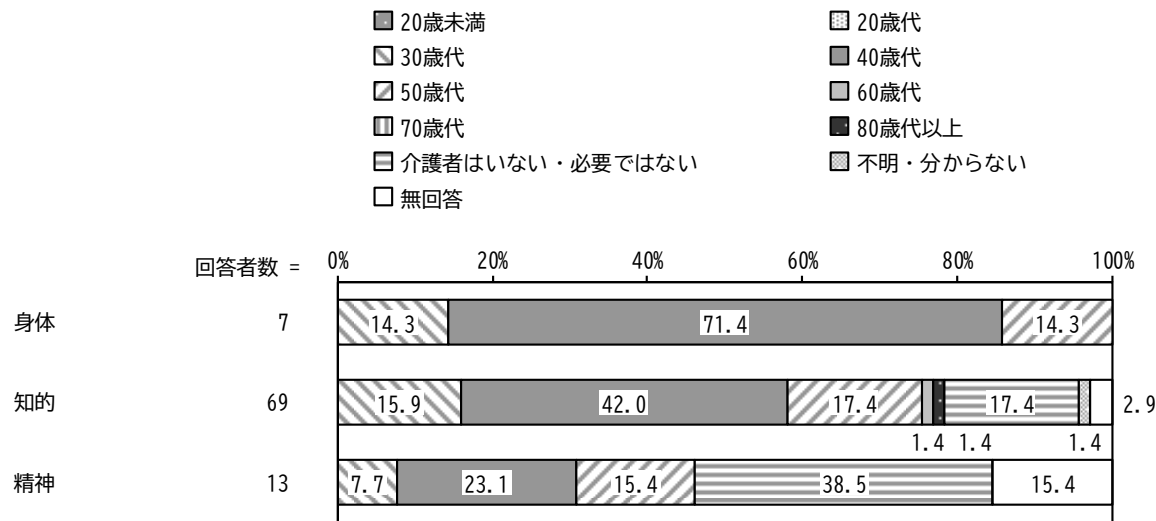
「40 歳代」の割合が 41.8%と最も高く、次いで「介護者はいない・必要ではない」の割合が 19.4%、「50 歳代」の割合が 16.3%となっています。

令和 4 年度調査と比較すると、「介護者はいない・必要ではない」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体と知的で「40 歳代」精神で「介護者はいない・必要ではない」の割合が高くなっています。

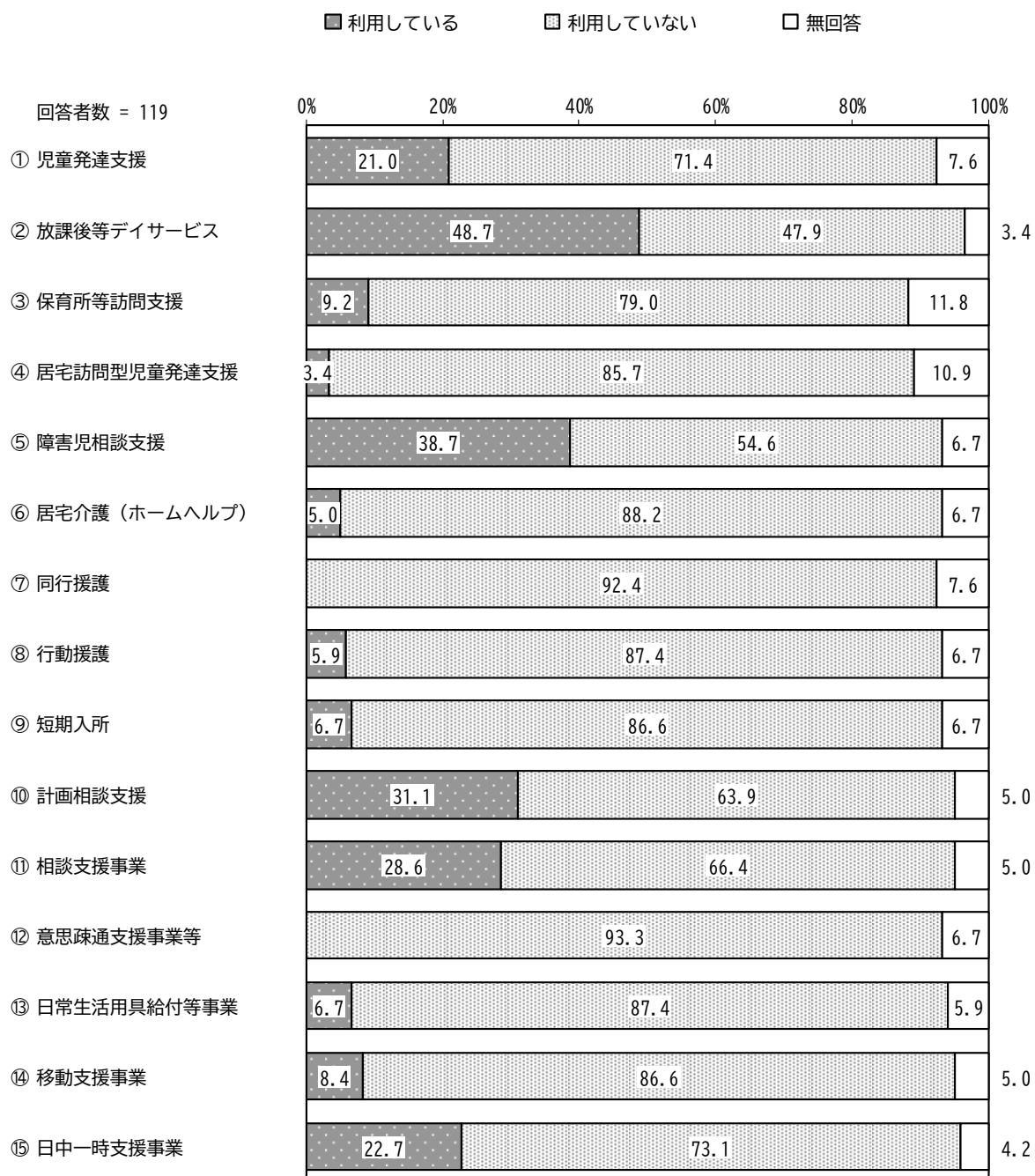


9. 障害児通所サービス・障害福祉サービスの利用について

問 29 あなたは、(1) 次のサービスを利用していますか。また、(2) これから利用したいですか。①～⑮のサービスごとに、「(1) 現在の利用」と「(2) 今後3年以内の利用希望」の両方をお答えください。(番号に○をしてください)

(1) 現在の利用

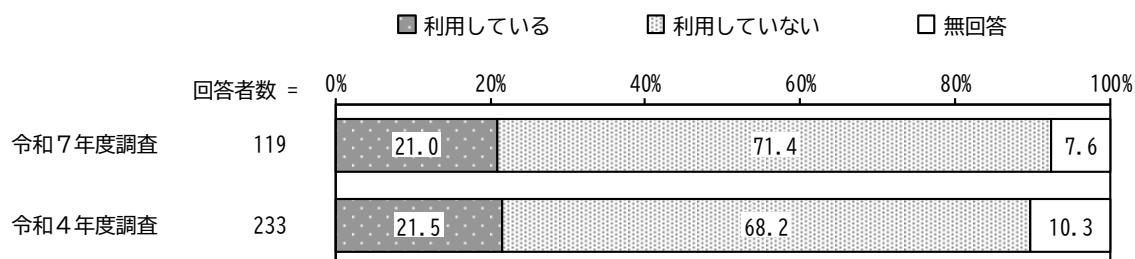
『②放課後等デイサービス』で「利用している」が、『⑫意思疎通支援事業等』で「利用していない」が高くなっています。



①児童発達支援

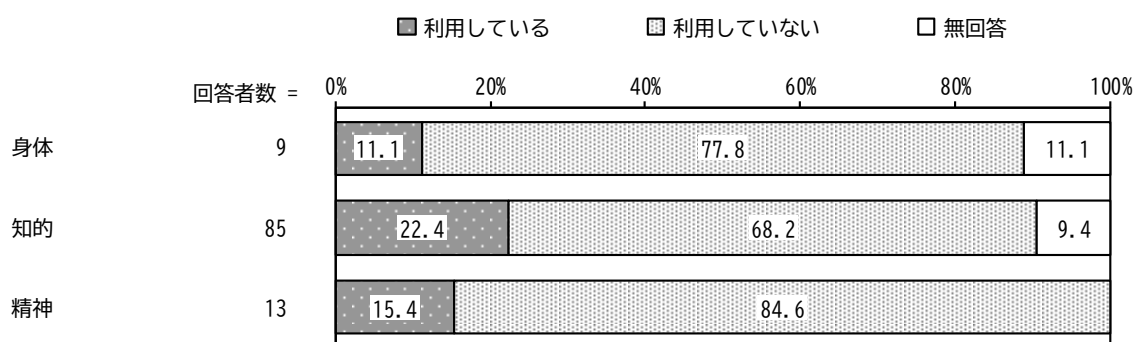
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

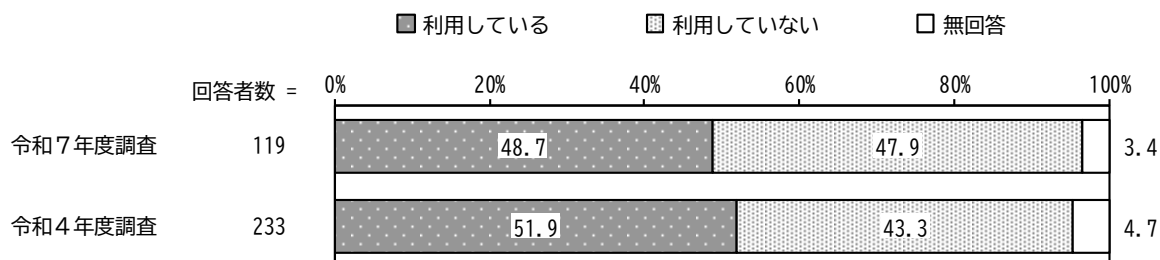
手帳種類別にみると、知的で「利用している」の割合が高くなっています。



②放課後等デイサービス

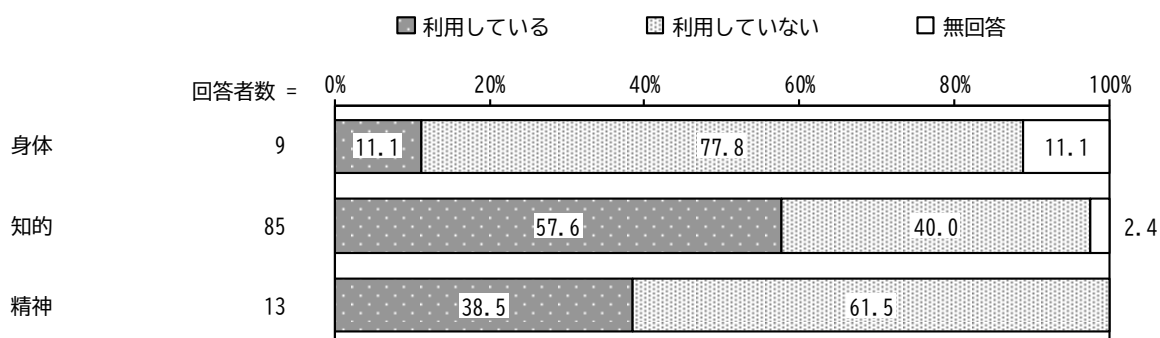
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

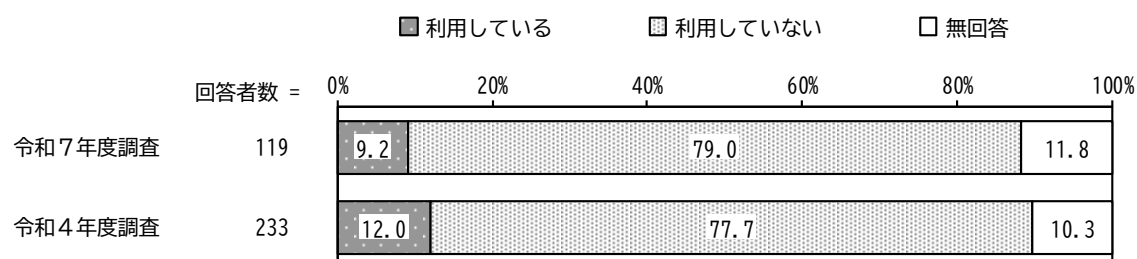
手帳種類別にみると、知的で「利用している」の割合が高く、身体で「利用していない」の割合が高くなっています。



③保育所等訪問支援

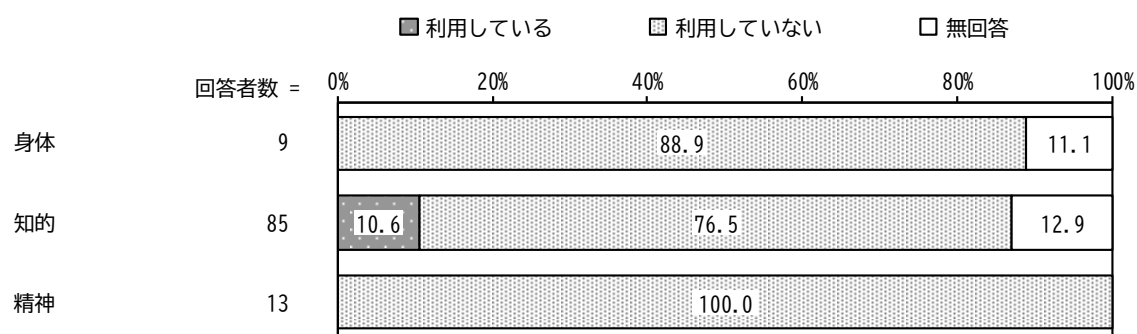
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

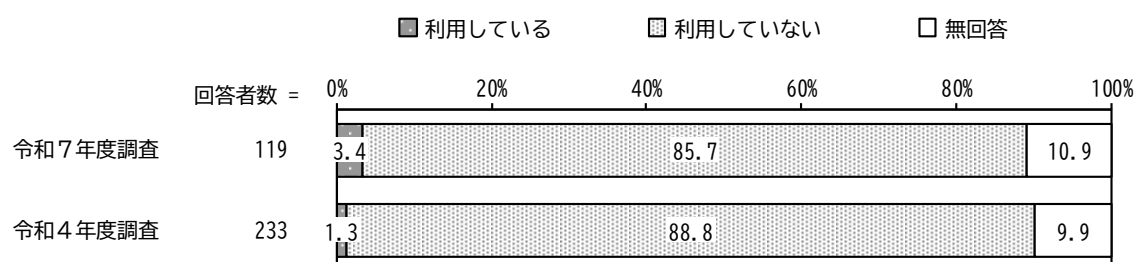
手帳種類別にみると、知的で「利用している」の割合が高くなっています。身体と精神において「利用している」の回答は、ありませんでした。



④居宅訪問型児童発達支援

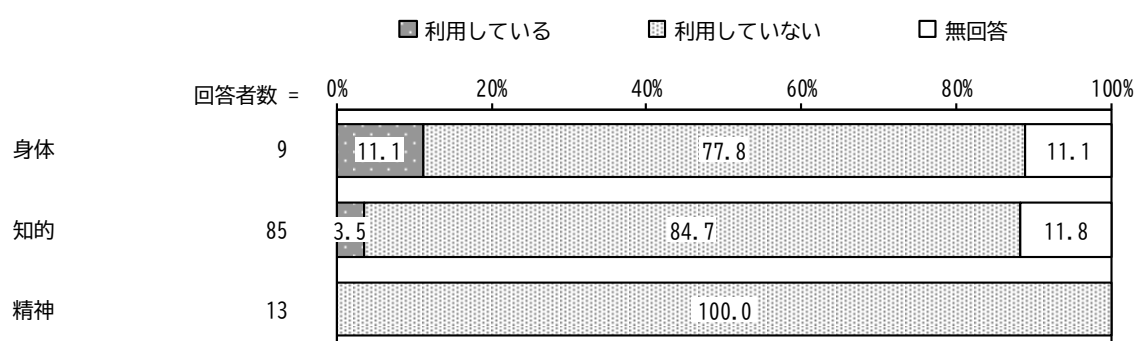
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

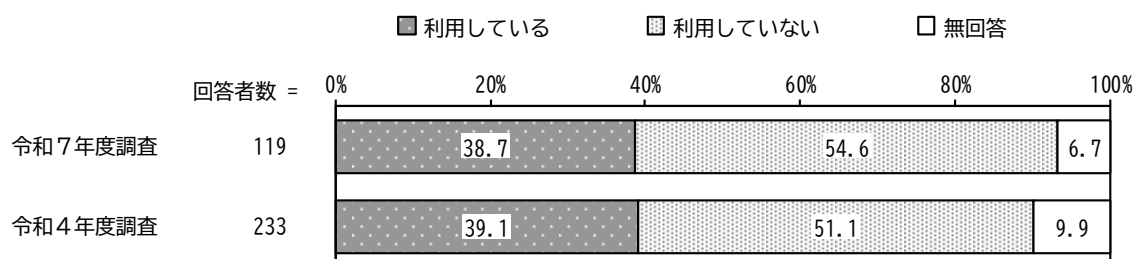
手帳種類別にみると、身体で「利用している」の割合が高くなっています。精神において「利用している」の回答は、ありませんでした。



⑤障害児相談支援

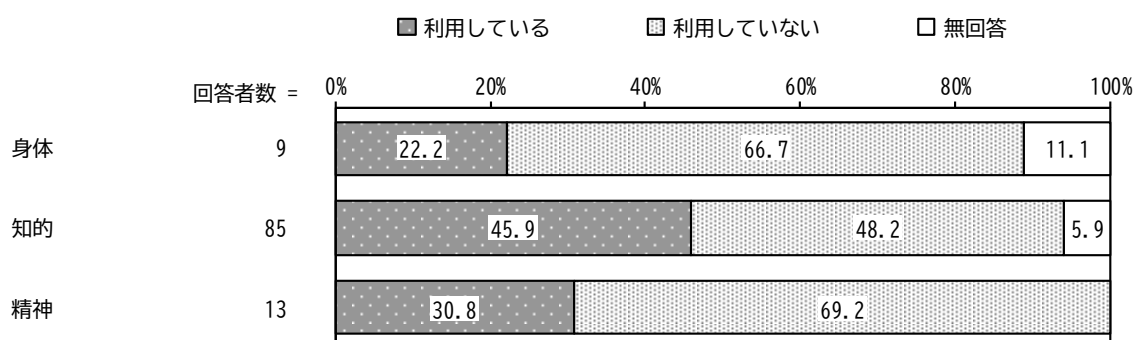
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

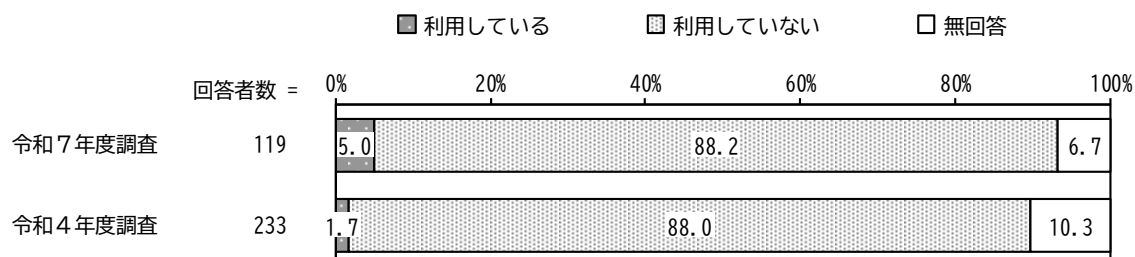
手帳種類別にみると、知的で「利用している」の割合が高くなっています。



⑥居宅介護（ホームヘルプ）

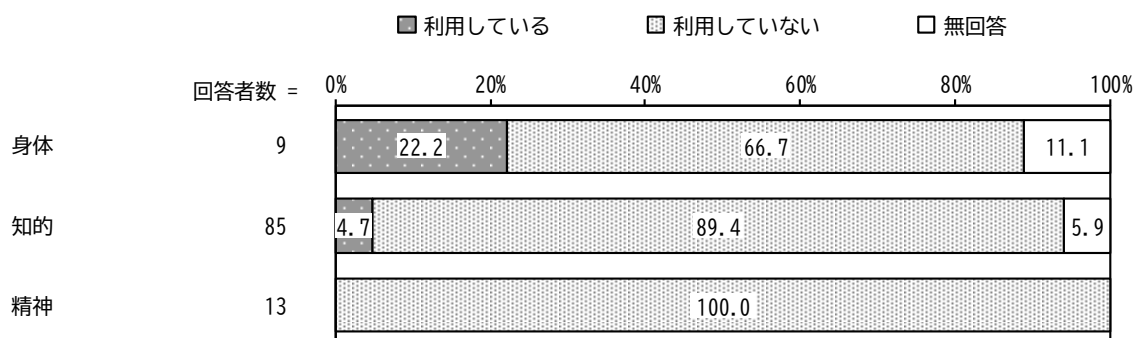
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

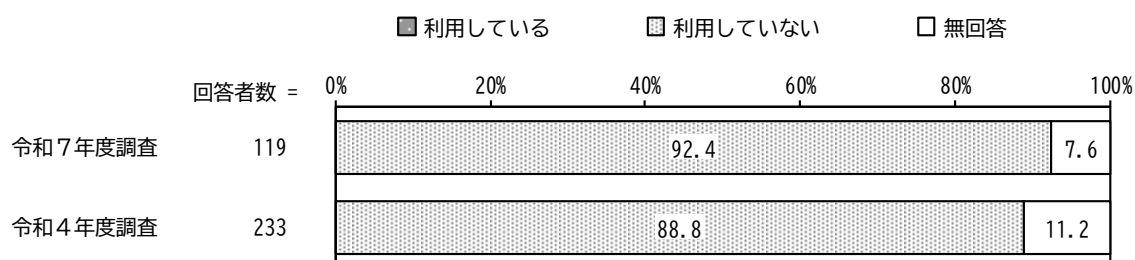
手帳種類別にみると、身体で「利用している」の割合が高くなっています。精神において「利用している」の回答は、ありませんでした。



⑦同行援護

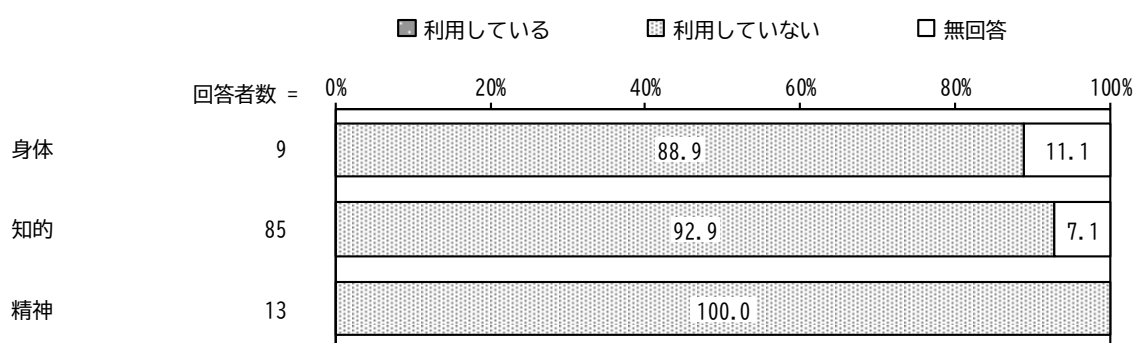
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

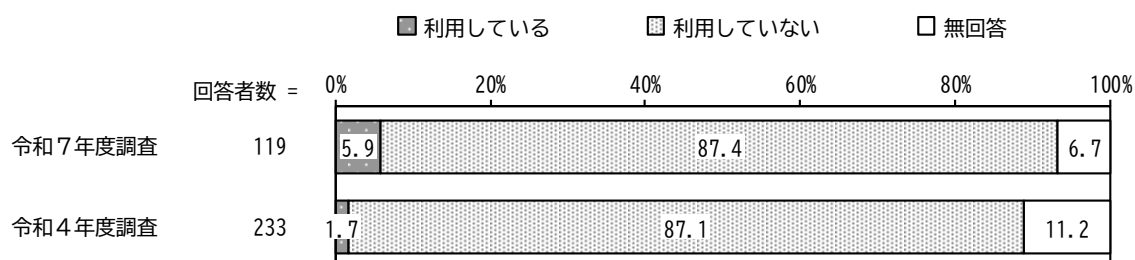
手帳種類別にみると、全区分で「利用している」の回答は、ありませんでした。



⑧行動援護

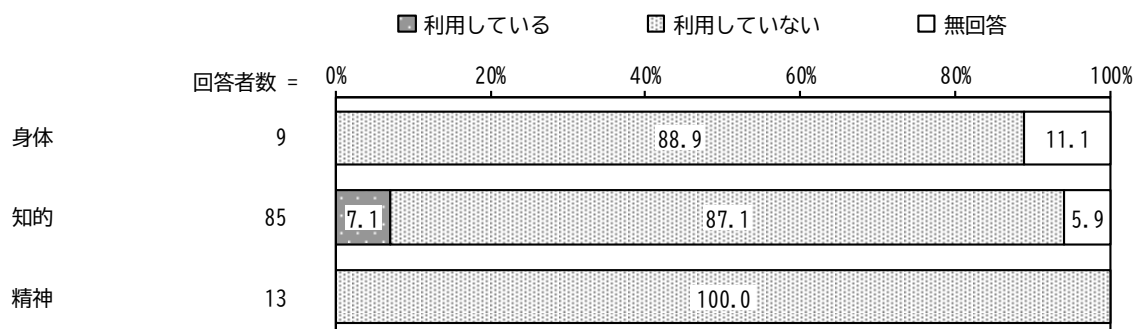
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

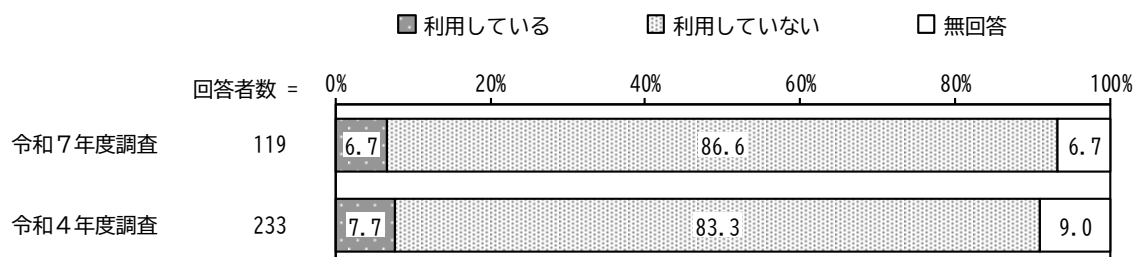
手帳種類別にみると、知的で「利用している」の割合が高くなっています。身体と精神において「利用している」の回答は、ありませんでした。



⑨短期入所

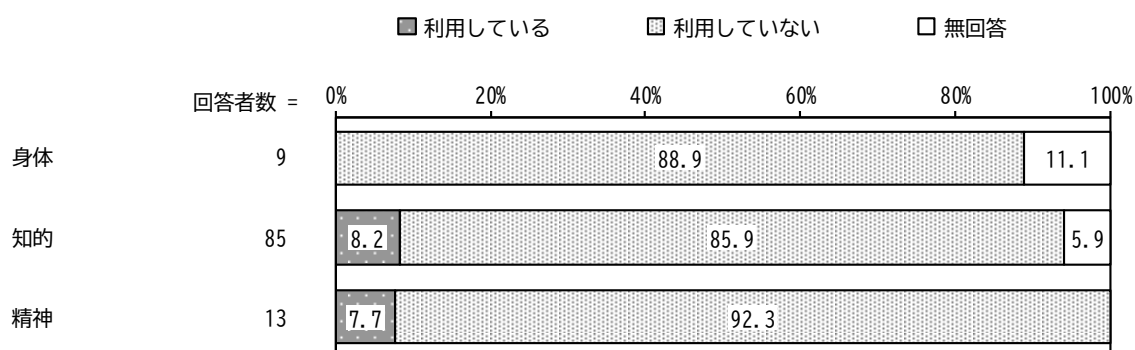
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

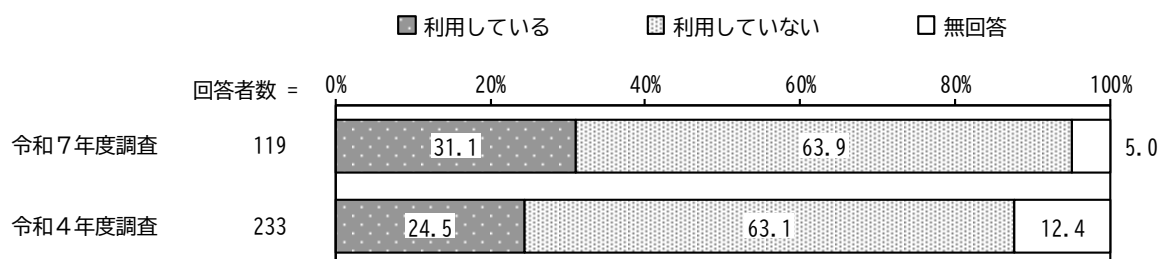
手帳種類別にみると、知的と精神で「利用している」の割合が高くなっています。身体において「利用している」の回答は、ありませんでした。



⑩計画相談支援

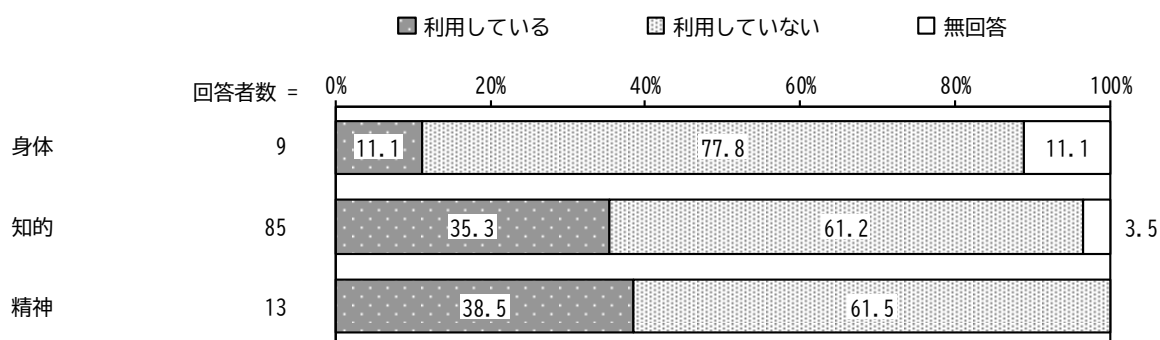
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

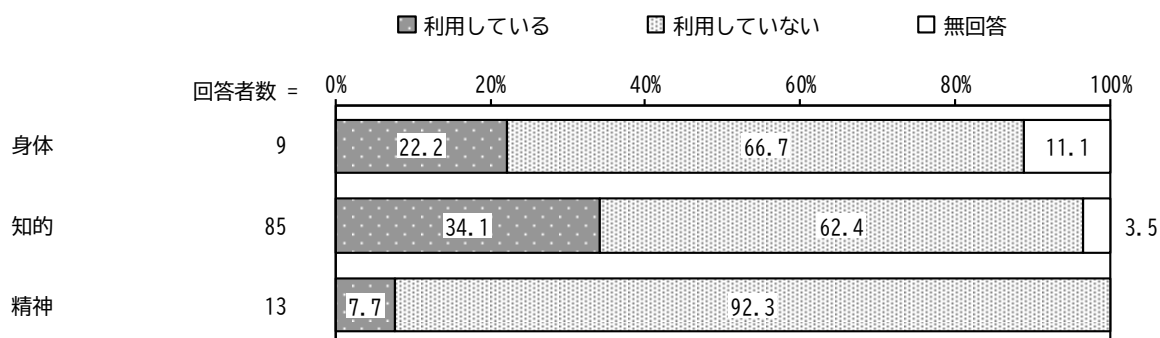
手帳種類別にみると、知的、精神で「利用している」の割合が高くなっています。



⑪相談支援事業

【手帳種類別】

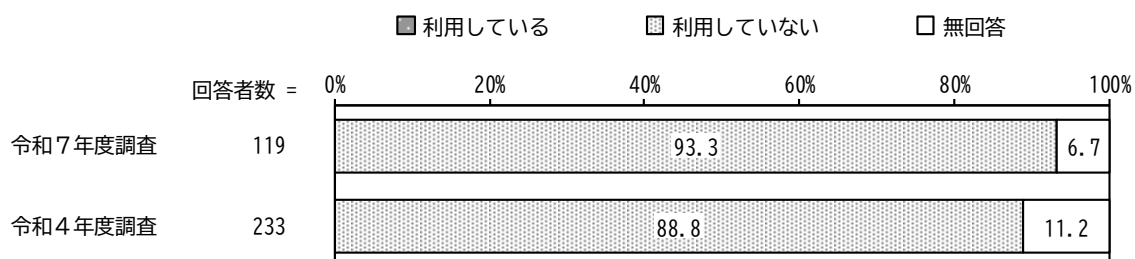
手帳種類別にみると、知的で「利用している」の割合が高くなっています。



⑫意思疎通支援事業等

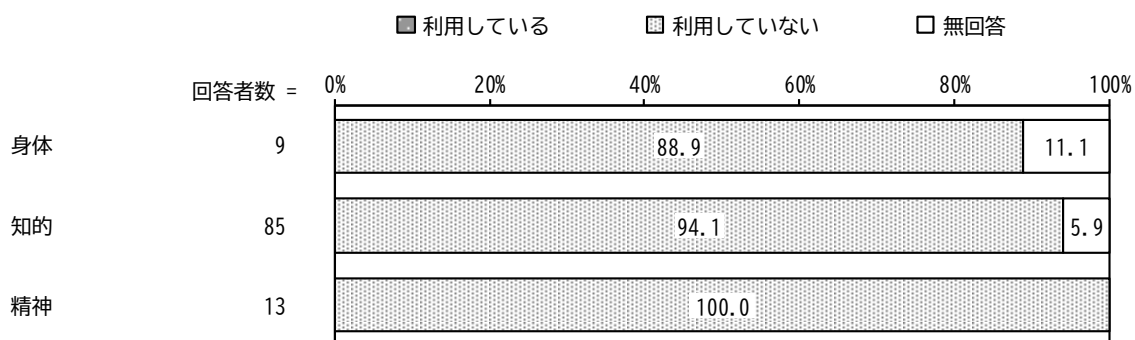
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

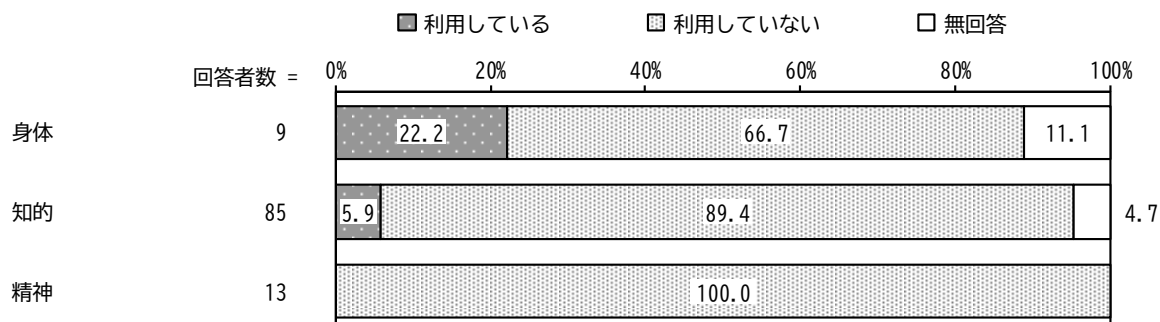
手帳種類別にみると、全区分で「利用している」の回答は、ありませんでした。



⑬日常生活用具給付等事業

【手帳種類別】

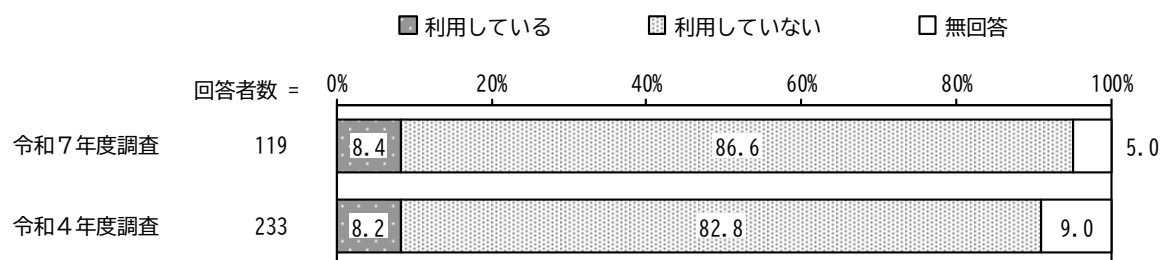
手帳種類別にみると、身体で「利用している」の割合が高くなっています。精神において「利用している」の回答は、ありませんでした。



⑭移動支援事業

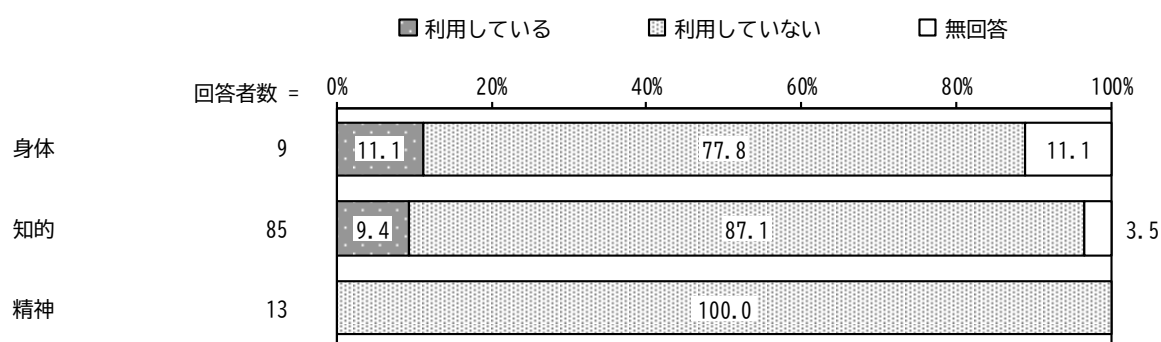
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

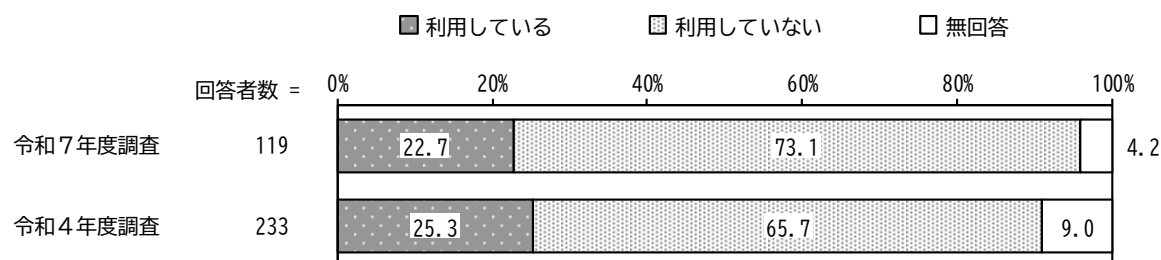
手帳種類別にみると、身体と知的で「利用している」の割合が高くなっています。精神において「利用している」の回答は、ありませんでした。



⑮日中一時支援事業

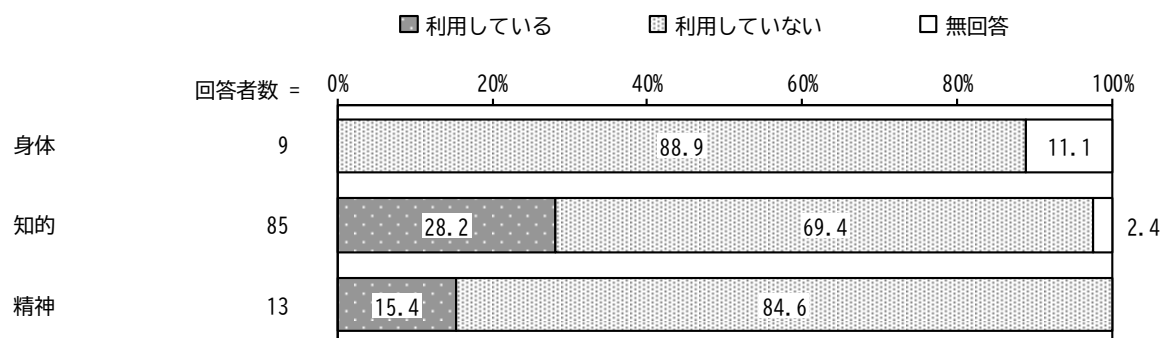
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が減少しています。



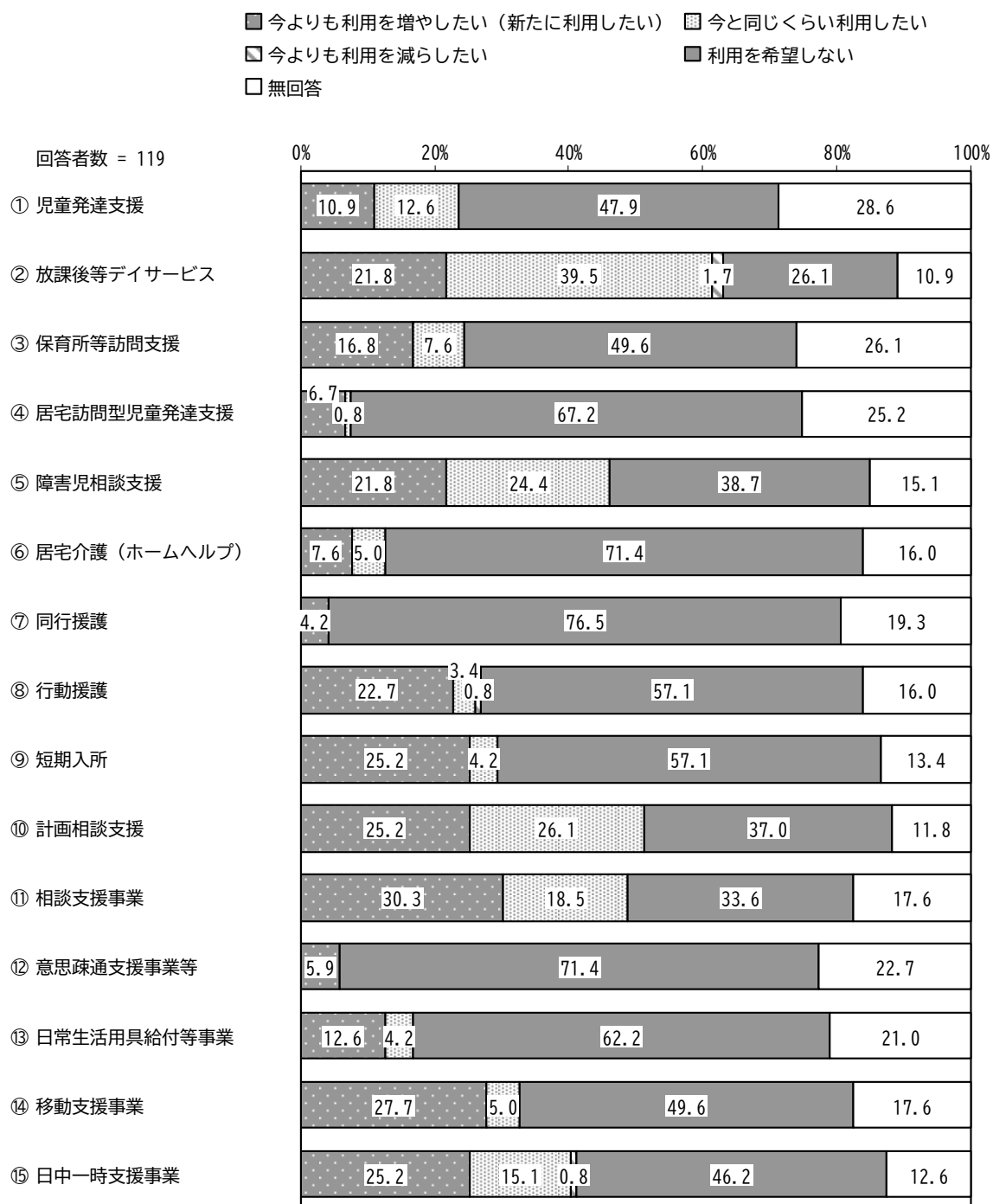
【手帳種類別】

手帳種類別にみると、知的で「利用している」の割合が高くなっています。身体において「利用している」の回答は、ありませんでした。



(2) 今後3年以内の利用希望

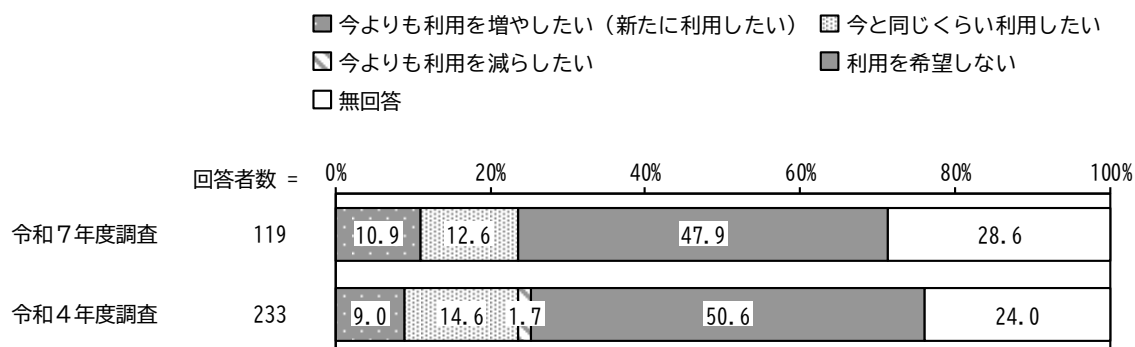
『①相談支援事業』で「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」が、『②放課後等デイサービス』で「今と同じくらい利用したい」「今よりも利用を減らしたい」が、『⑦同行援護』で「利用を希望しない」が高くなっています。



①児童発達支援

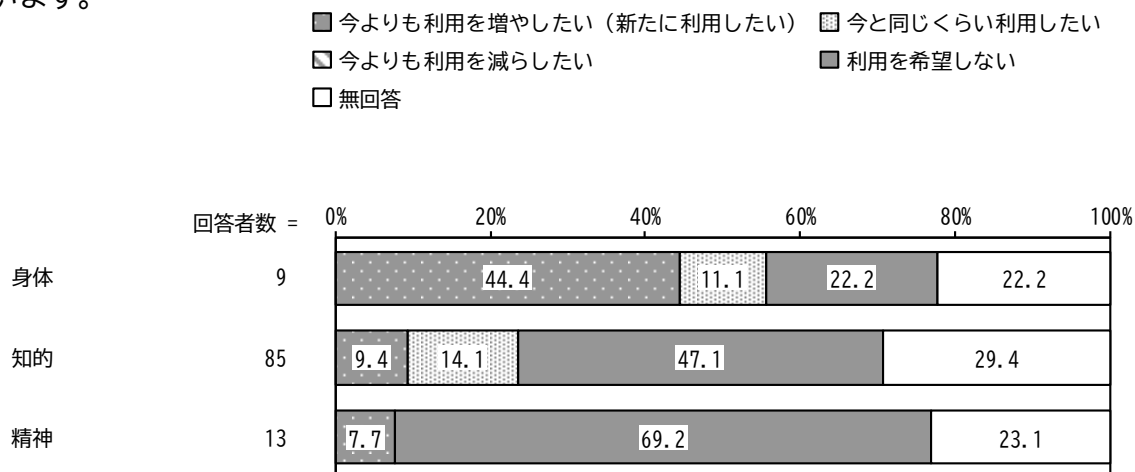
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

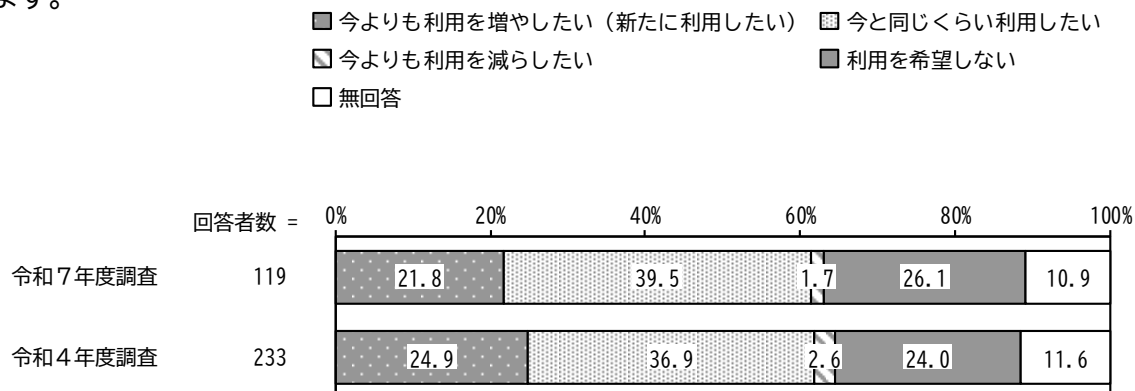
手帳種類別にみると、身体で「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。



②放課後等デイサービス

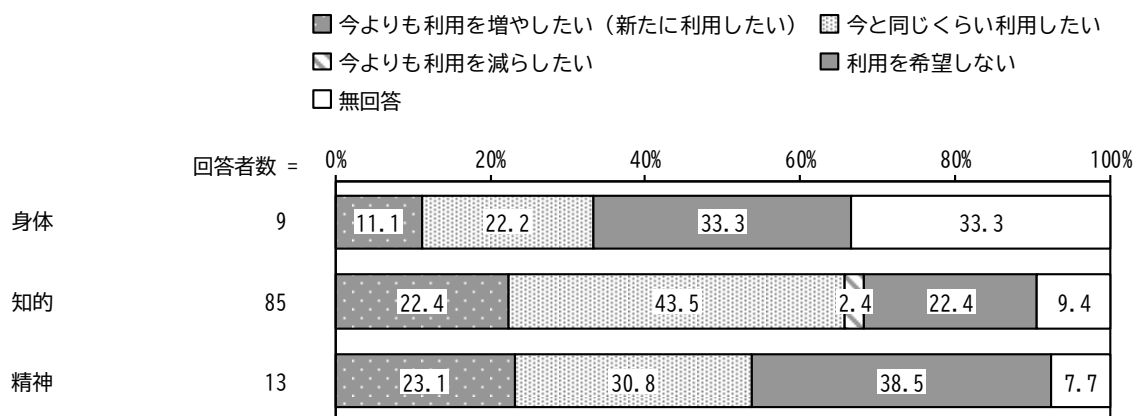
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

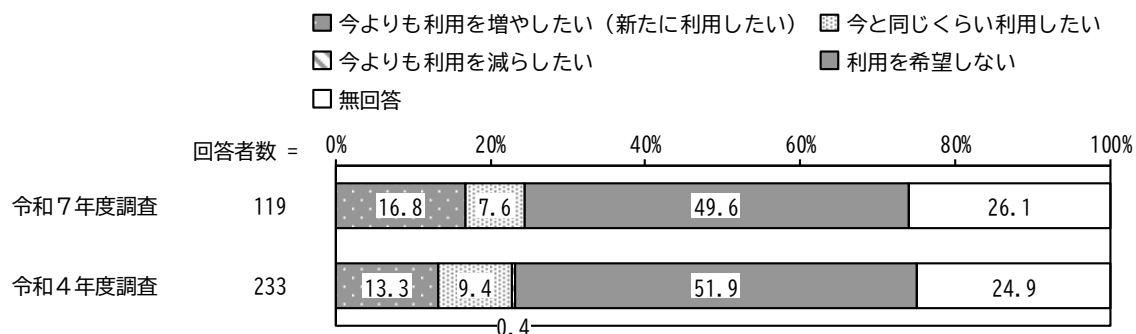
手帳種類別にみると、知的と精神で「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。



③保育所等訪問支援

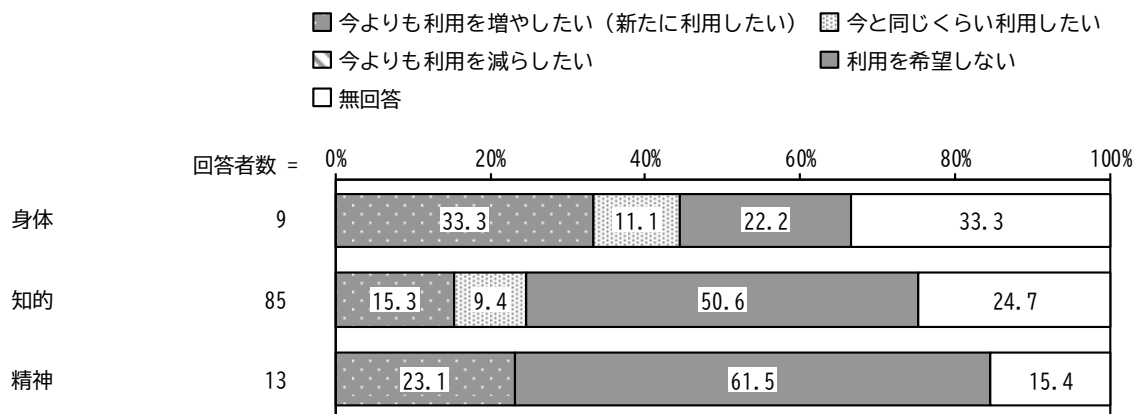
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

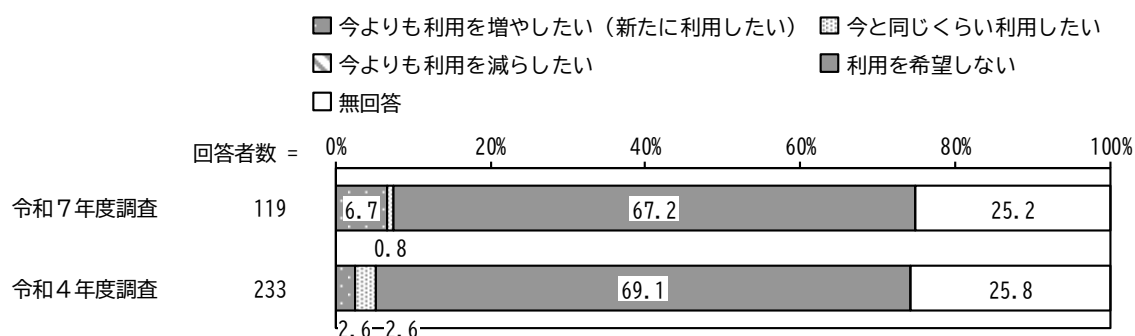
手帳種類別にみると、身体で「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。



④ 居宅訪問型児童発達支援

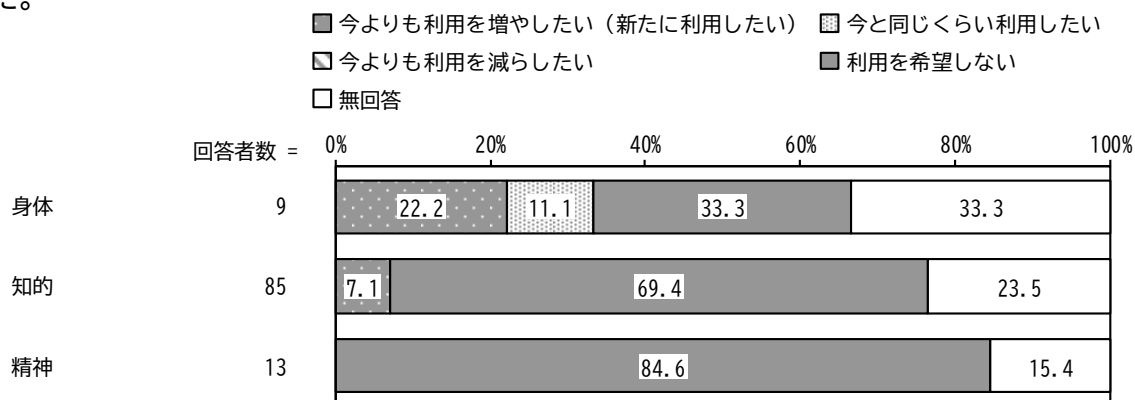
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

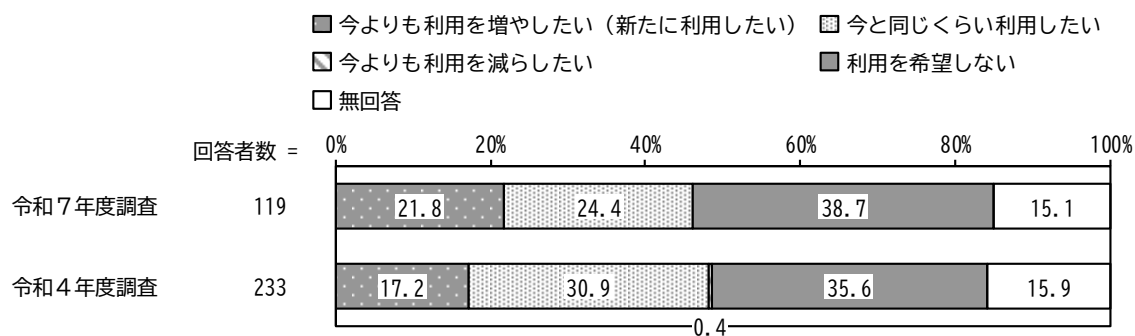
手帳種類別にみると、身体で「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。精神において「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の回答は、ありませんでした。



⑤ 障害児相談支援

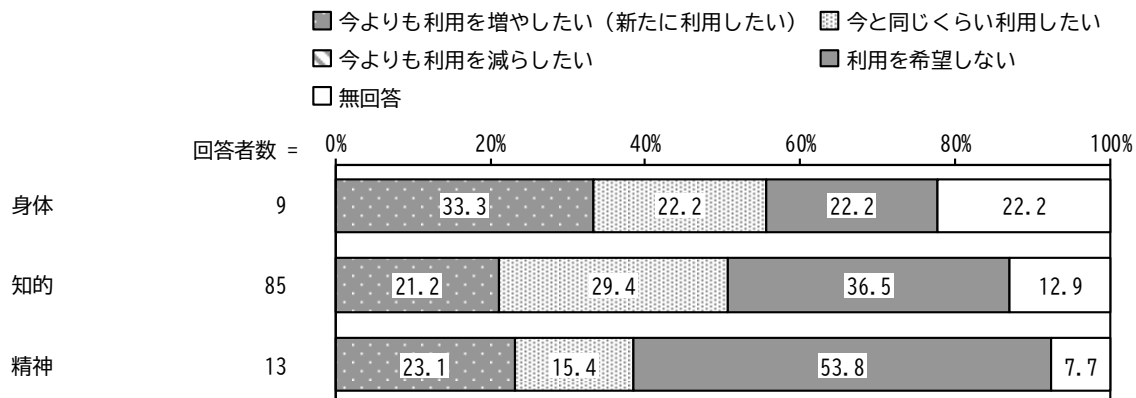
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

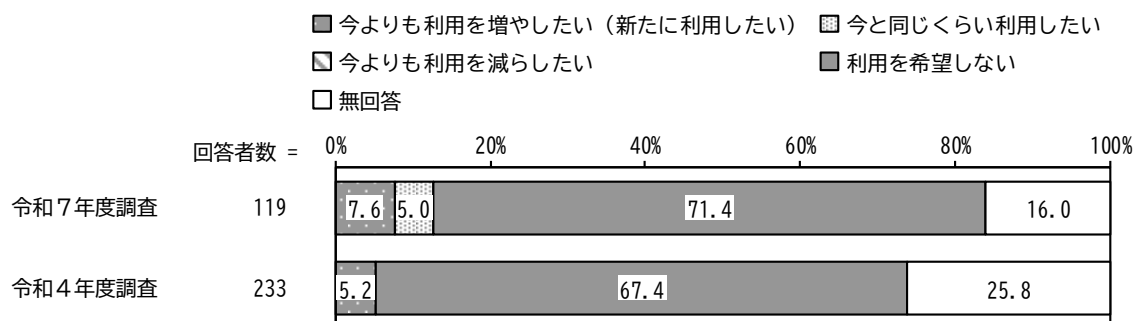
手帳種類別にみると、身体で「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。



⑥居宅介護（ホームヘルプ）

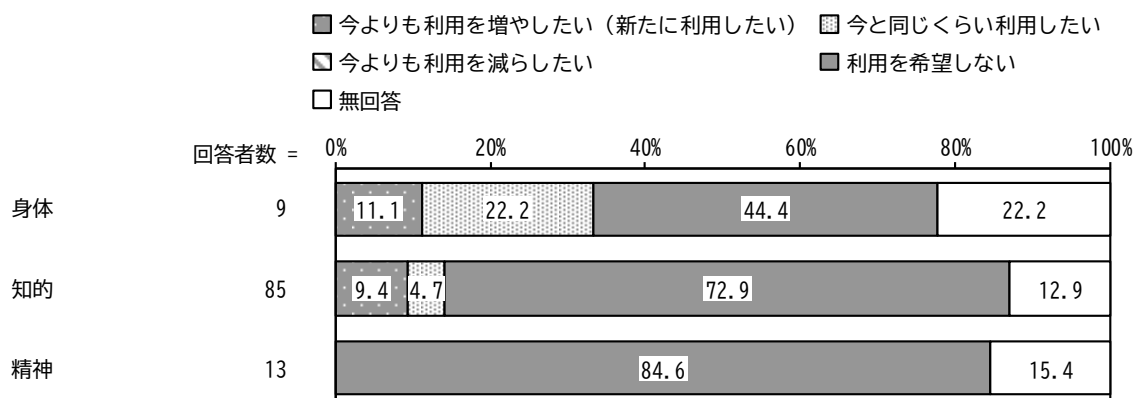
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

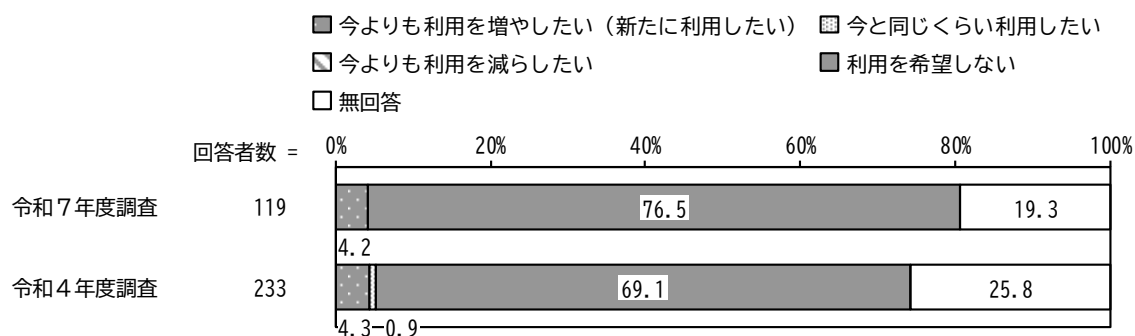
手帳種類別にみると、身体と知的で「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。精神においては「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の回答はありませんでした。



⑦同行援護

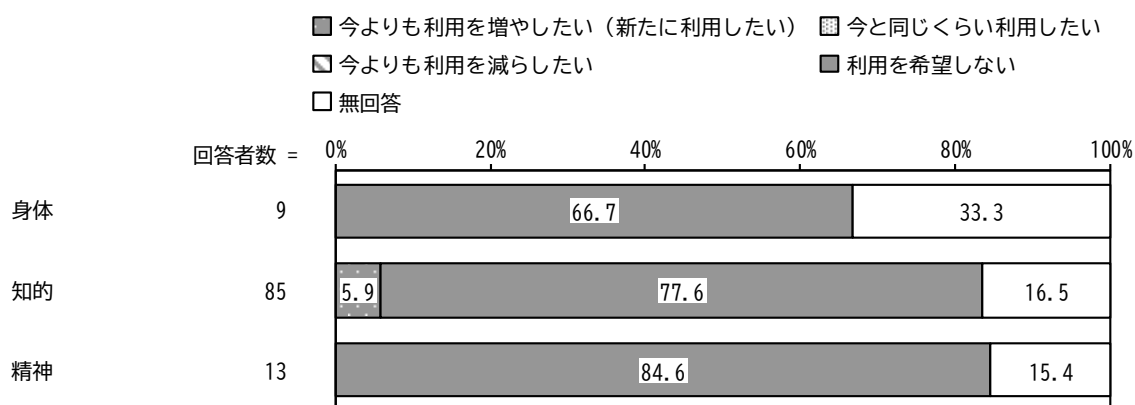
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

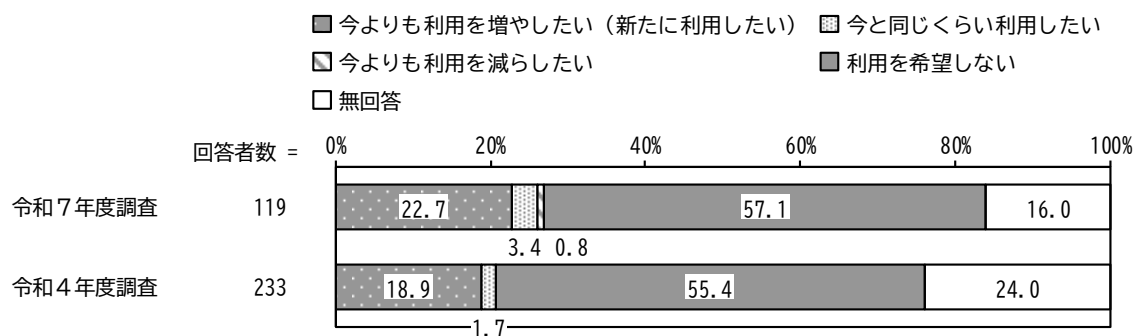
手帳種類別にみると、知的で「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。身体と精神においては「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の回答はありませんでした。



⑧行動援護

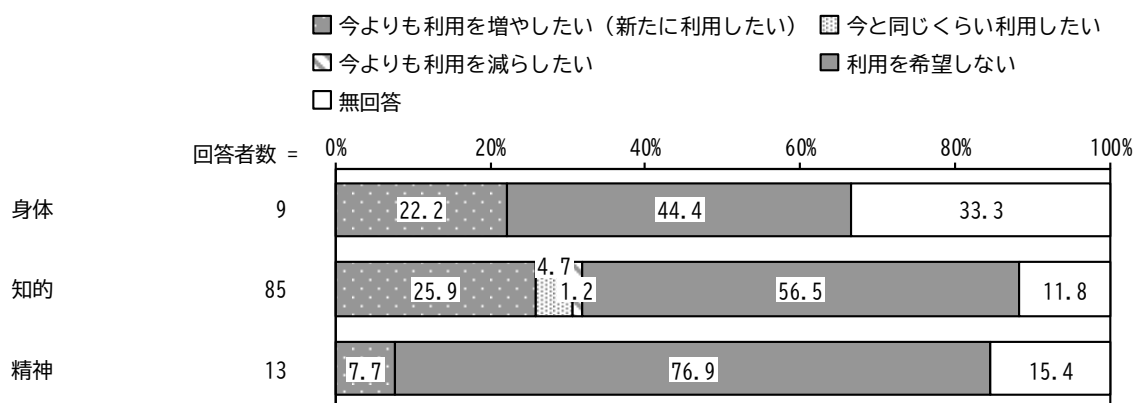
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

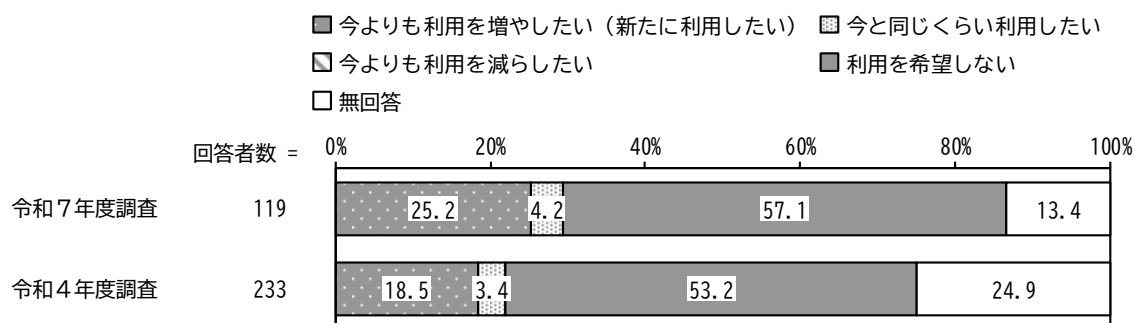
手帳種類別にみると、身体と知的で「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。



⑨短期入所

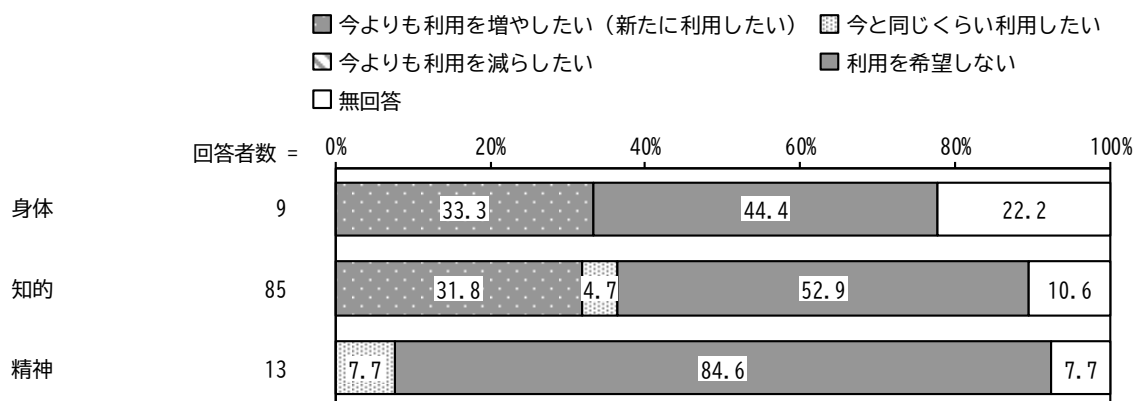
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

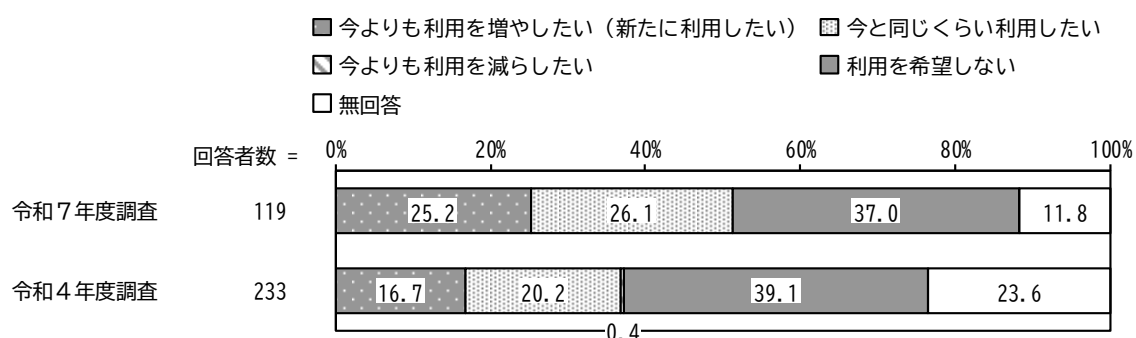
手帳種類別にみると、身体と知的で「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。精神においては「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の回答はありませんでした。



⑩計画相談支援

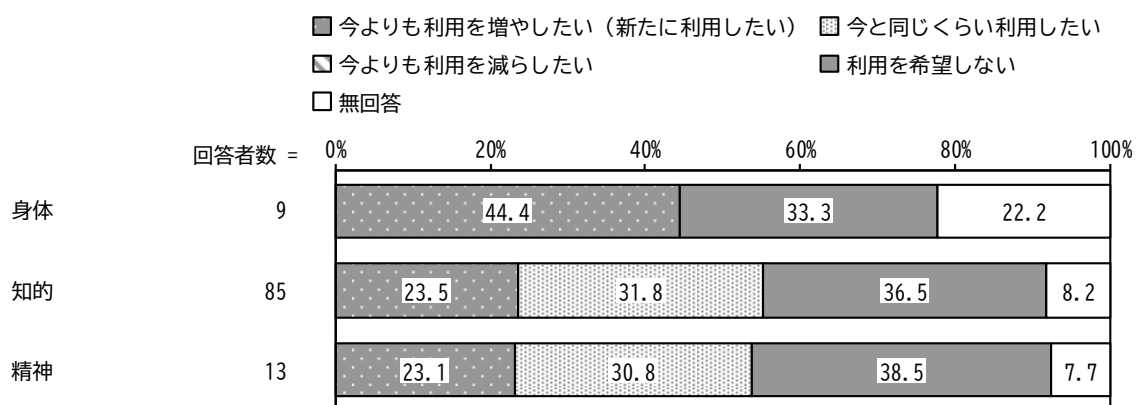
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

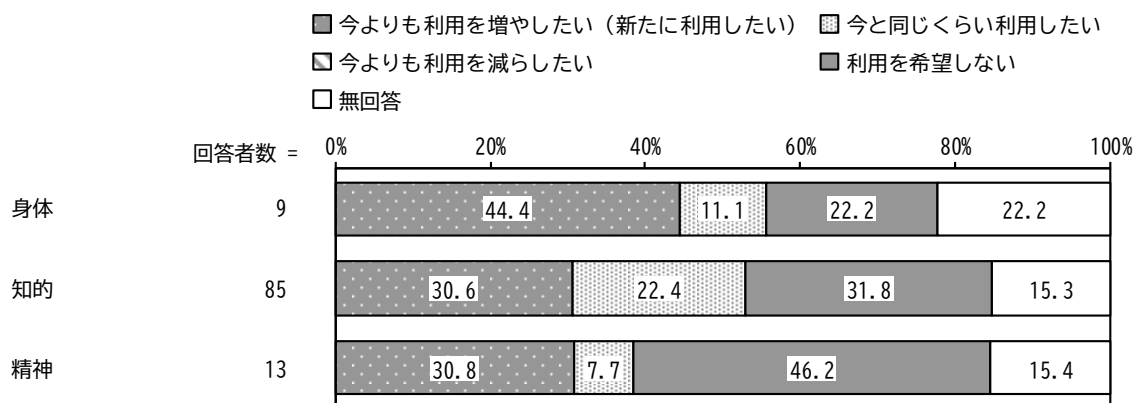
手帳種類別にみると、身体で「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。



⑪相談支援事業

【手帳種類別】

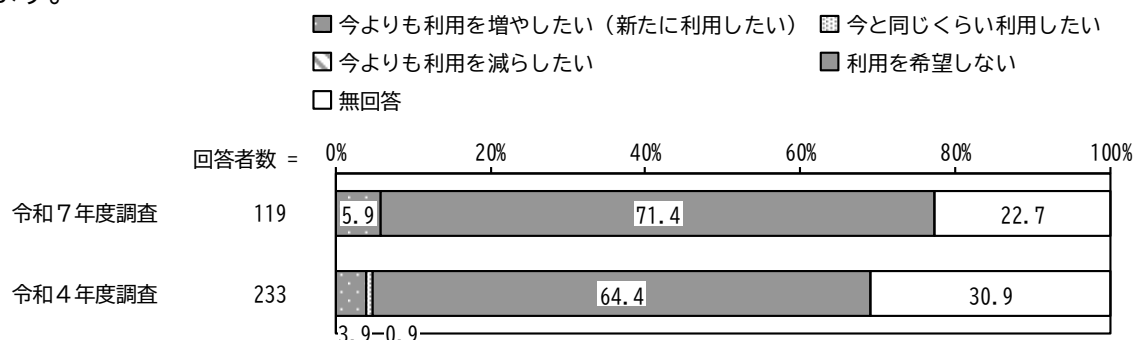
手帳種類別にみると、身体で「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。



⑫意思疎通支援事業等

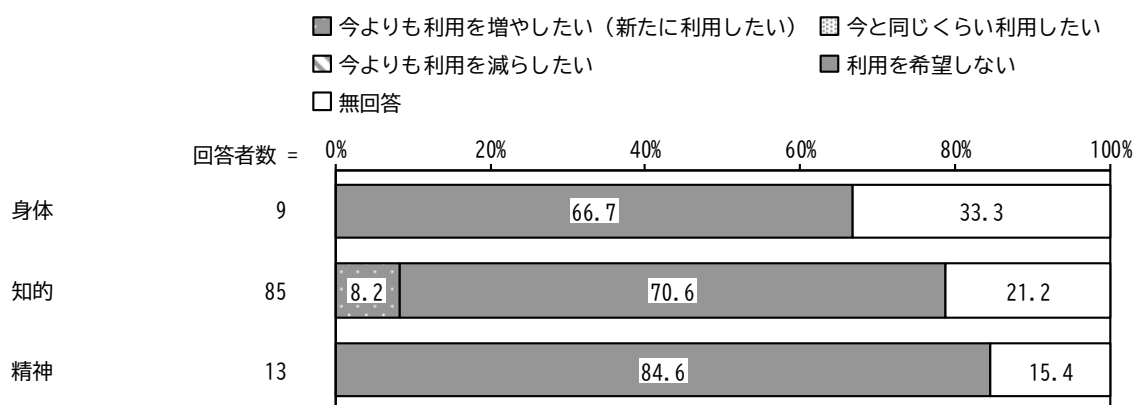
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

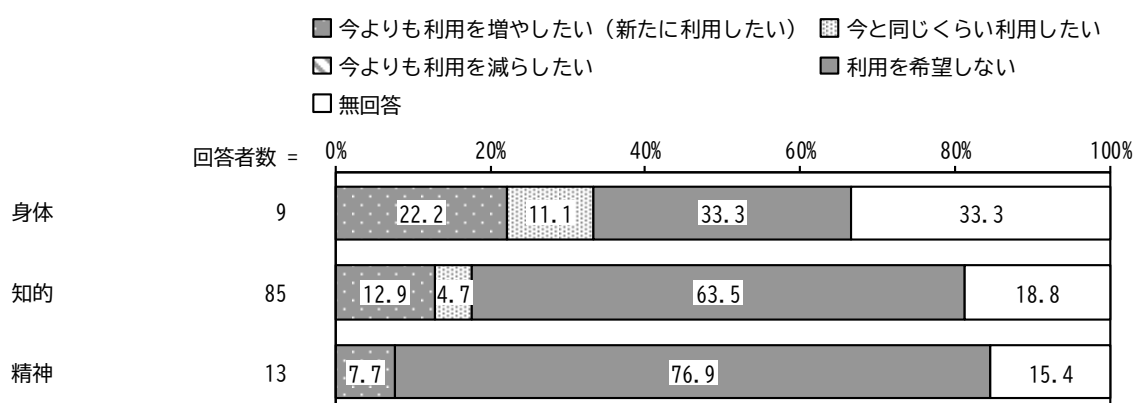
手帳種類別にみると、知的で「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。身体と精神においては「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の回答はありませんでした。



⑬日常生活用具給付等事業

【手帳種類別】

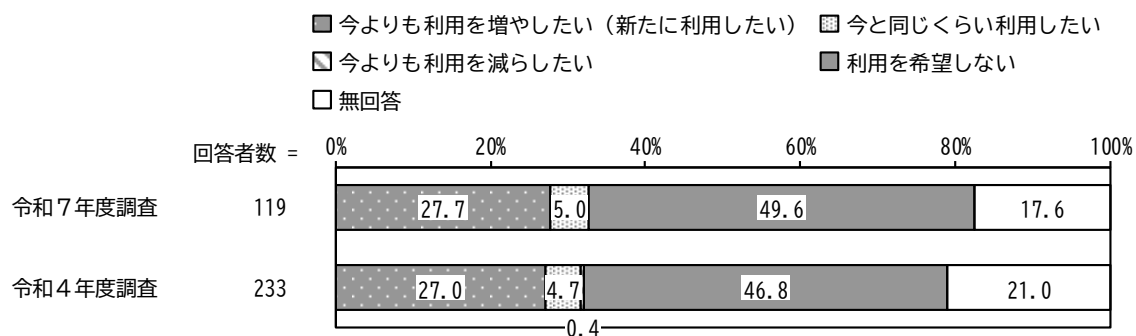
手帳種類別にみると、身体で「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。



⑭移動支援事業

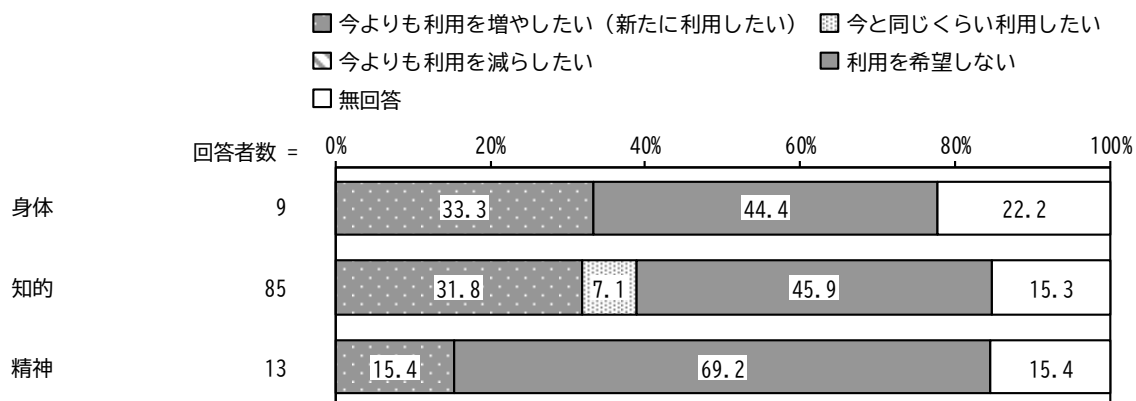
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

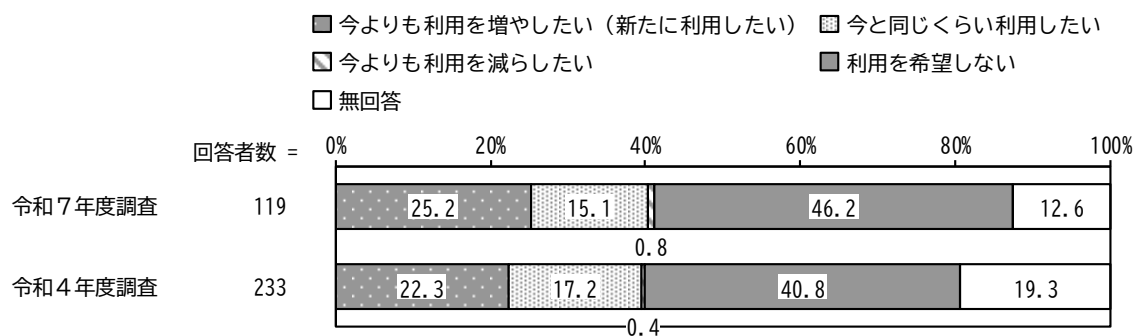
手帳種類別にみると、身体と知的で「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。



⑮日中一時支援事業

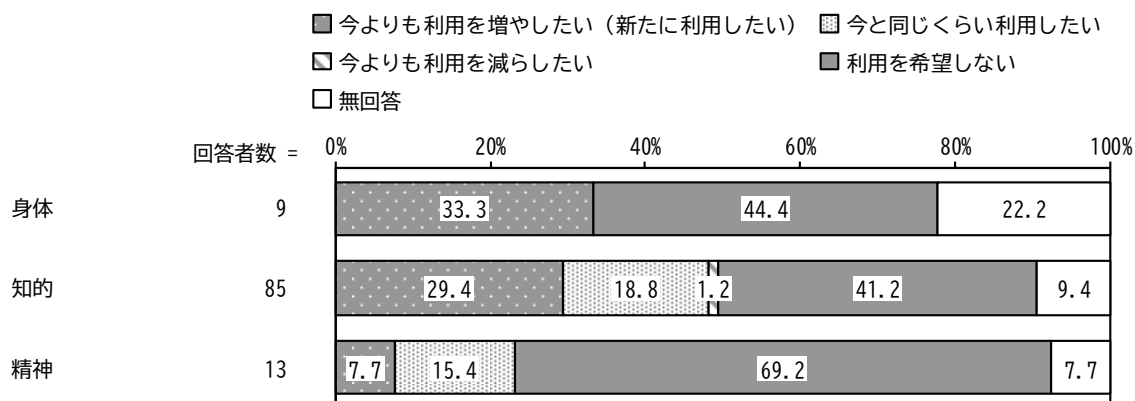
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



【手帳種類別】

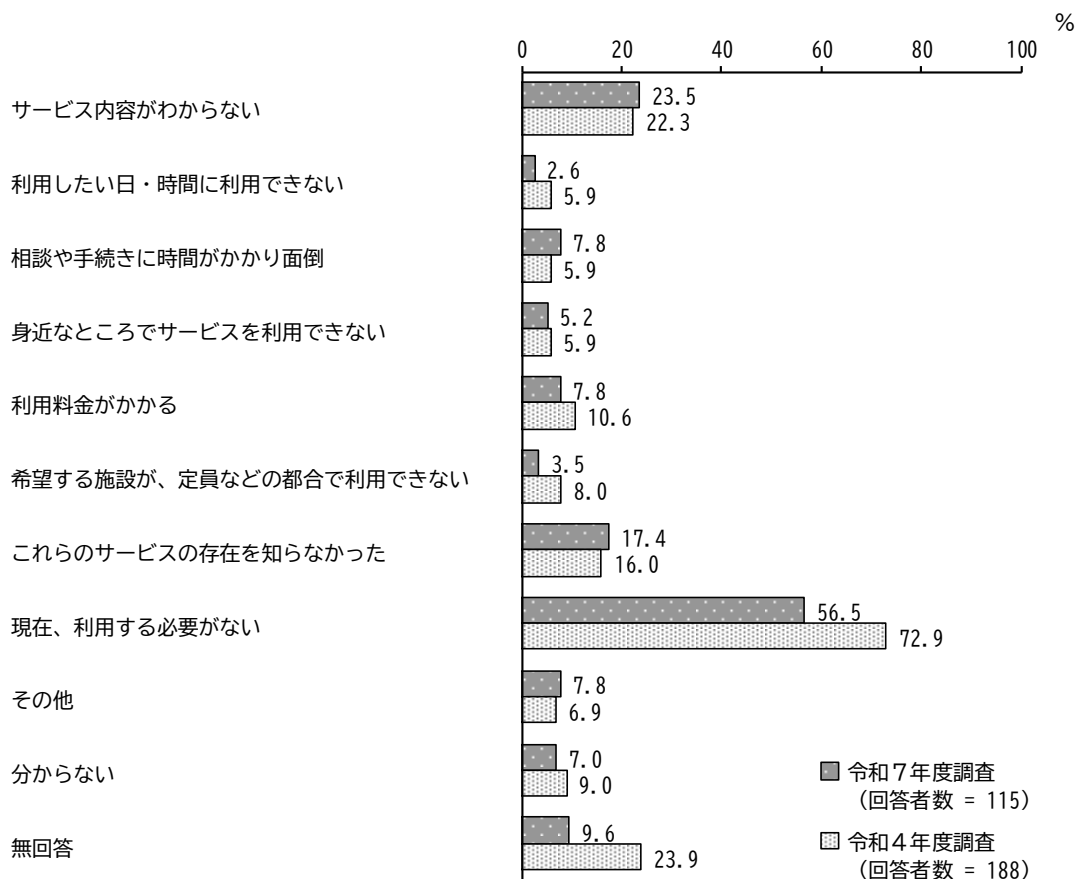
手帳種類別にみると、身体と知的で「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が高くなっています。



問 30 【問 29 のサービスで一つでも（１）現在の利用で「利用していない」、（２）今後３年以内の利用希望で「利用を希望しない」を選択された方にお聞きします。】
現在、利用されていない理由、または今後利用を希望されない理由は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

「現在、利用する必要がない」の割合が 56.5%と最も高く、次いで「サービス内容がわからない」の割合が 23.5%、「これらのサービスの存在を知らなかった」の割合が 17.4%となっています。

令和４年度調査と比較すると、「現在、利用する必要がない」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「これらのサービスの存在を知らなかった」、知的と精神で「現在、利用する必要がない」の割合が高くなっています。

単位：％

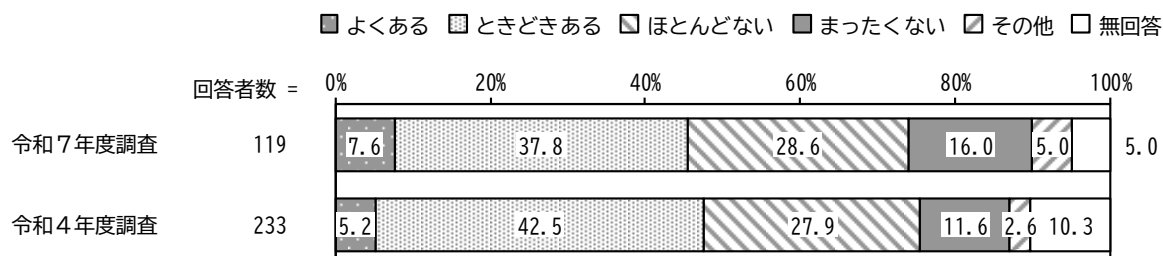
区分	回答者数（件）	サービス内容がわからない	利用したい日・時間に利用できない	相談や手続きに時間がかかり面倒	身近なところでサービスを利用できない	利用料金がかかる	希望する施設が、定員などの都合で利用できない	これらのサービスの存在を知らなかった	現在、利用する必要がない	その他	分からない	無回答
全 体	115	23.5	2.6	7.8	5.2	7.8	3.5	17.4	56.5	7.8	7.0	9.6
身体	8	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	37.5	37.5	0.0	0.0
知的	83	25.3	2.4	9.6	3.6	7.2	4.8	16.9	62.7	4.8	6.0	9.6
精神	13	7.7	7.7	0.0	7.7	7.7	0.0	7.7	38.5	7.7	23.1	7.7

10. 権利擁護について

問 31 あなたは、差別を受けたり、嫌な思いをする（した）ことがありますか。（1つに○）

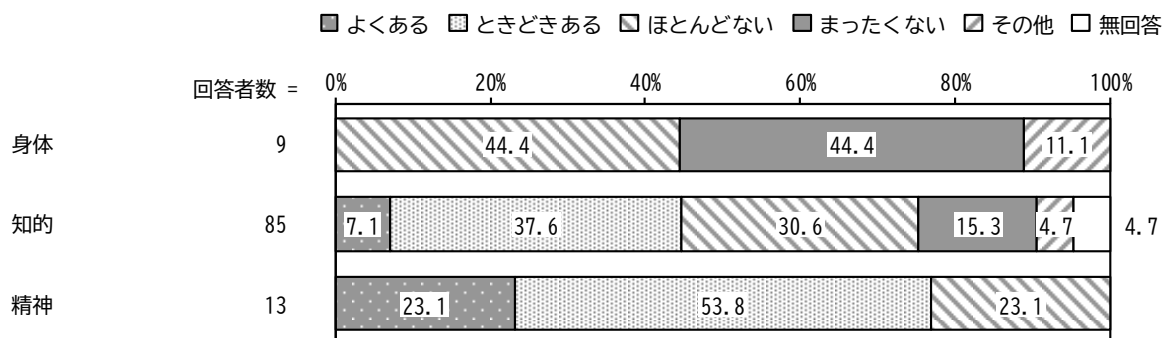
「よくある」「ときどきある」を合わせた“ある”の割合が45.4%、「ほとんどない」「まったくない」を合わせた“ない”の割合が44.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、“ない”の割合が増加しています。



【手帳種類別】

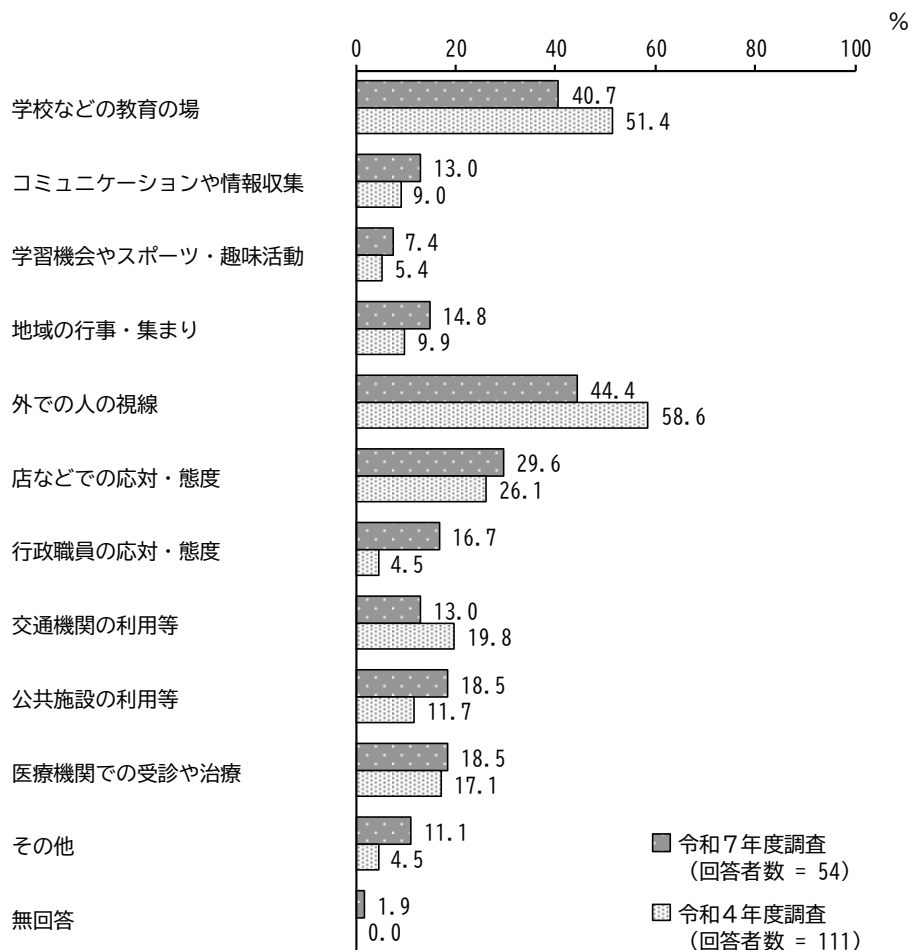
手帳種類別にみると、精神で“ある”の割合が高くなっています。身体で“ある”の回答は、ありませんでした。



問 32 【問 31 で「よくある」「ときどきある」と回答された方にお聞きます】
 具体的にどのような場面で、差別を受けたり、嫌な思いをされましたか。
 （あてはまるものすべてに○）

「外での人の視線」の割合が 44.4%と最も高く、次いで「学校などの教育の場」の割合が 40.7%、「店などでの応対・態度」の割合が 29.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「行政職員の応対・態度」「公共施設の利用等」の割合が増加しています。一方、「学校などの教育の場」「外での人の視線」「交通機関の利用等」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、知的で「外での人の視線」、精神で「学校などの教育の場」の割合が高くなっています。

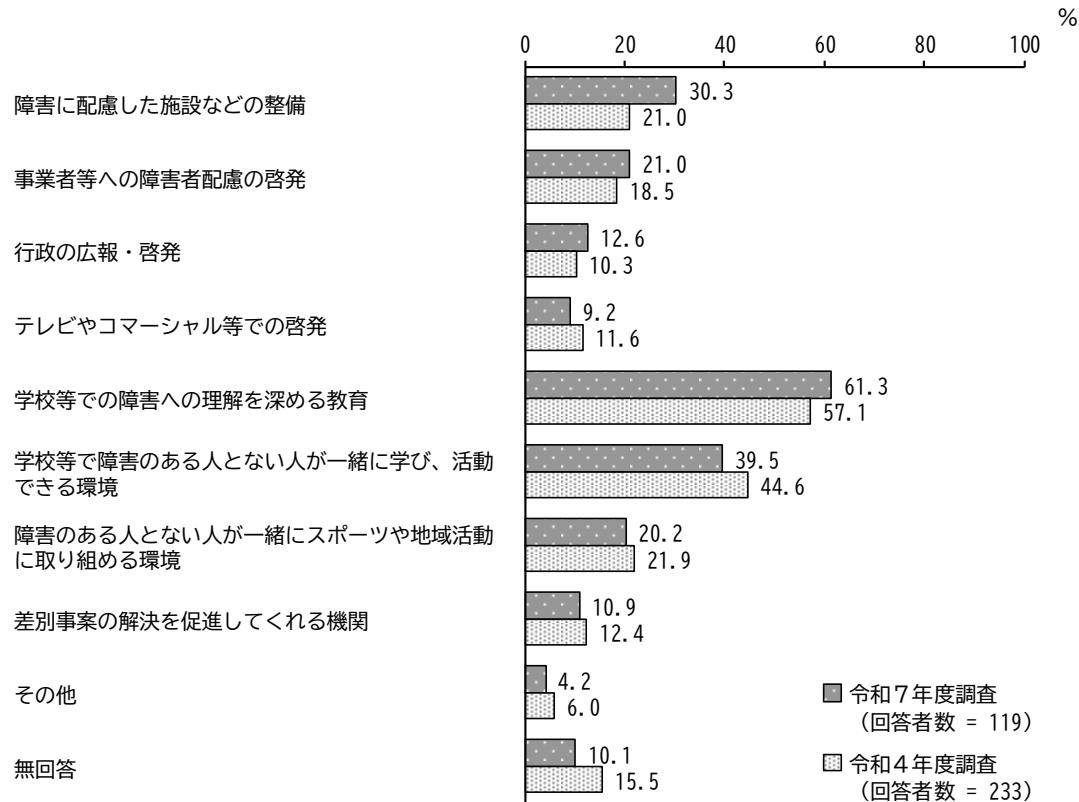
単位：％

区分	回答者数 (件)	学校などの教育の場	コミュニケーションや情報収集	学習機会やスポーツ・趣味活動	地域の行事・集まり	外での人の視線	店などでの応対・態度	行政職員の応対・態度	交通機関の利用等	公共施設の利用等	医療機関での受診や治療	その他	無回答
全 体	54	40.7	13.0	7.4	14.8	44.4	29.6	16.7	13.0	18.5	18.5	11.1	1.9
身体	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知的	38	31.6	10.5	2.6	18.4	52.6	36.8	18.4	18.4	26.3	23.7	10.5	2.6
精神	10	70.0	20.0	20.0	10.0	30.0	20.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0

問 33 障害のある人に対する理解や差別解消のために必要なことは何だと思いますか。
(3つまでに○)

「学校等での障害への理解を深める教育」の割合が 61.3%と最も高く、次いで「学校等で障害のある人となない人が一緒に学び、活動できる環境」の割合が 39.5%、「障害に配慮した施設などの整備」の割合が 30.3%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「障害に配慮した施設などの整備」の割合が増加しています。一方、「学校等で障害のある人となない人が一緒に学び、活動できる環境」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

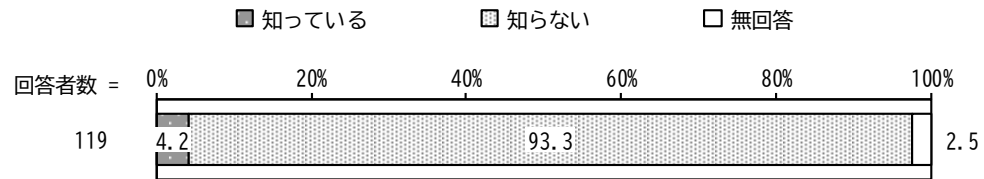
手帳種類別にみると、全区分で「学校等での障害への理解を深める教育」、身体で「学校等で障害のある人となない人が一緒に学び、活動できる環境」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	障害に配慮した施設などの整備	事業者等への障害者配慮の啓発	行政の広報・啓発	テレビやコマーシャル等での啓発	学校等での障害への理解を深める教育	学校等で障害のある人となない人が一緒に学び、活動できる環境	障害のある人となない人が一緒にスポーツや地域活動に取り組める環境	差別事案の解決を促進してくれる機関	その他	無回答
全 体	119	30.3	21.0	12.6	9.2	61.3	39.5	20.2	10.9	4.2	10.1
身体	9	22.2	11.1	11.1	11.1	44.4	44.4	22.2	11.1	11.1	11.1
知的	85	34.1	27.1	15.3	7.1	56.5	40.0	22.4	10.6	2.4	11.8
精神	13	23.1	0.0	0.0	7.7	84.6	38.5	15.4	0.0	0.0	7.7

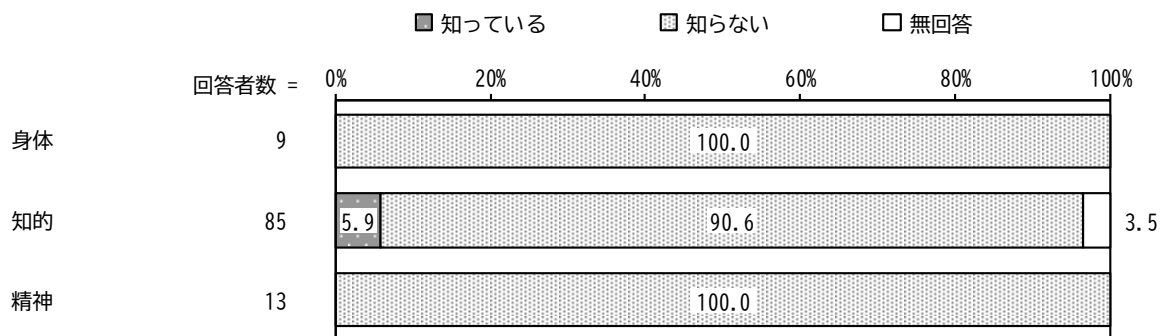
問 34 あなたは、「宇治市障害者・高齢者権利擁護センター」を知っていますか。
(1つに○)

「知っている」の割合が4.2%、「知らない」の割合が93.3%となっています。



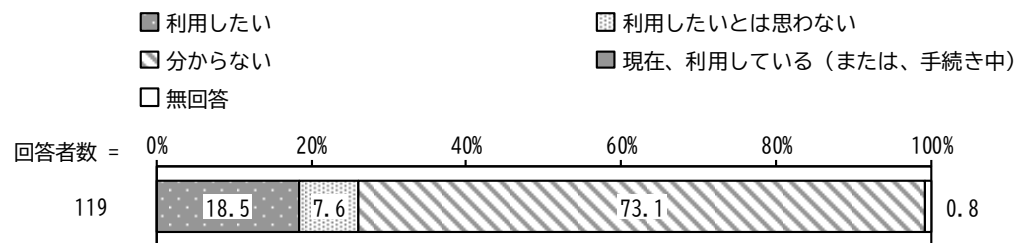
【手帳種類別】

手帳種類別にみると、知的で「知っている」の割合が高くなっています。身体と精神において「知っている」の回答は、ありませんでした。



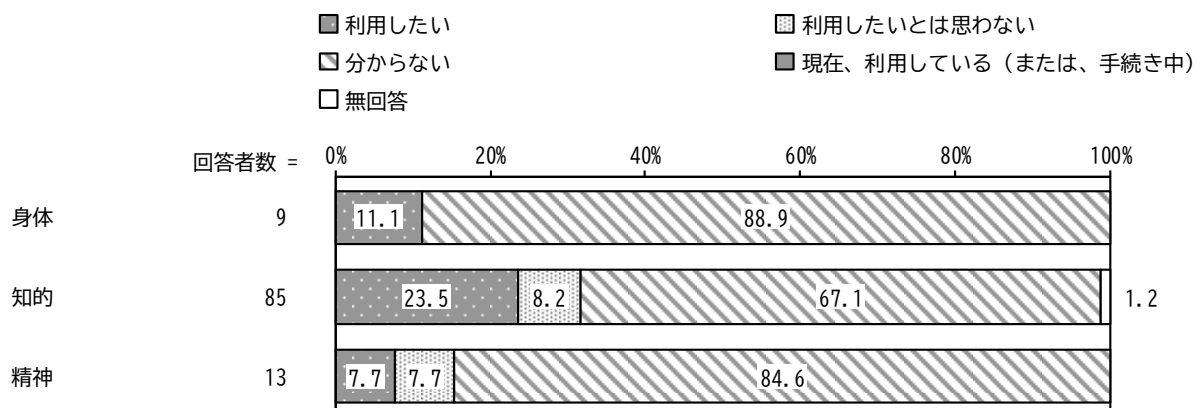
問 35 あなたは、今後、「宇治市障害者・高齢者権利擁護センター」を利用したいですか。
(1つに○)

「利用したい」の割合が18.5%、「利用したいとは思わない」の割合が7.6%となっています。



【手帳種類別】

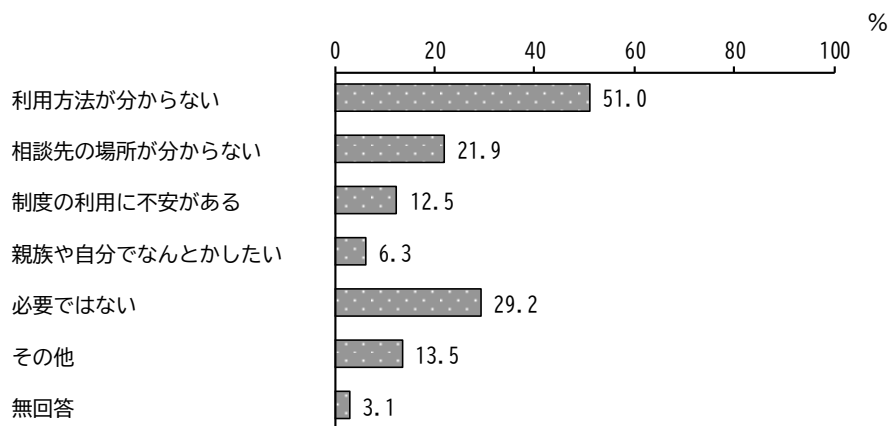
手帳種類別にみると、知的で「利用したい」の割合が高くなっています。



問 36 【問 35 で「利用したいとは思わない」「分からない」を選択された方にお聞きします】
現在のところ、利用を検討されない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「利用方法が分からない」の割合が 51.0%と最も高く、次いで「必要ではない」の割合が 29.2%、「相談先の場所が分からない」の割合が 21.9%となっています。

回答者数 = 96



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体と知的で「利用方法が分からない」、精神で「必要ではない」の割合が高くなっています。

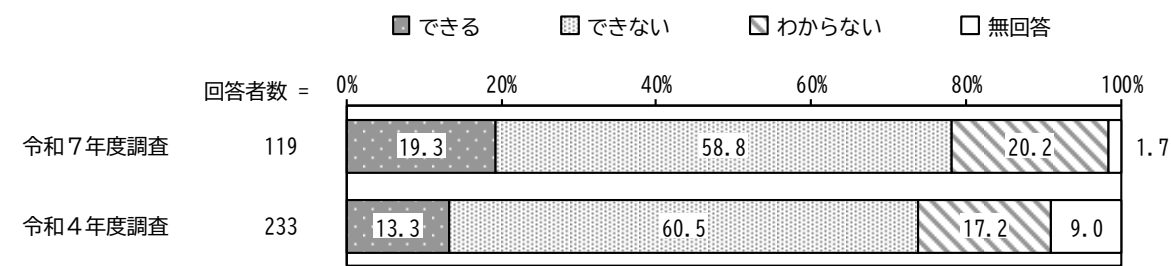
単位：%

区分	回答者数（件）	利用方法が分からない	相談先の場所が分からない	制度の利用に不安がある	親族や自分でなんとかしたい	必要ではない	その他	無回答
全 体	96	51.0	21.9	12.5	6.3	29.2	13.5	3.1
身体	8	50.0	12.5	0.0	0.0	25.0	12.5	12.5
知的	64	53.1	21.9	12.5	7.8	25.0	14.1	1.6
精神	12	41.7	25.0	8.3	8.3	50.0	16.7	0.0

11. 災害時の避難等について

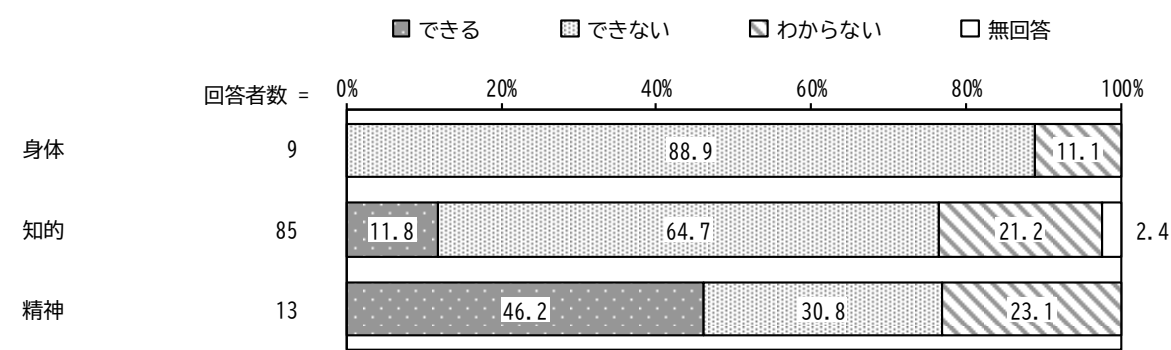
問 37 あなたは地震や水害、火事等の災害時に一人で避難できますか。(1 つに○)

「できる」の割合が 19.3%、「できない」の割合が 58.8%となっています。
令和 4 年度調査と比較すると、「できる」の割合が増加しています。



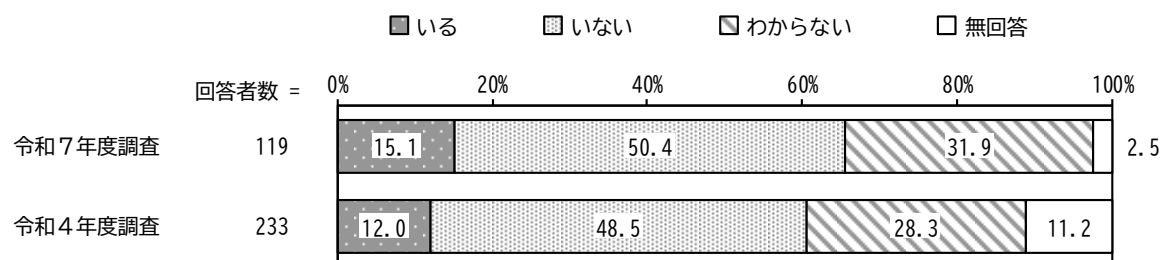
【手帳種類別】

手帳種類別にみると、精神で「できる」の割合が高くなっています。身体において「できる」の回答は、ありませんでした。



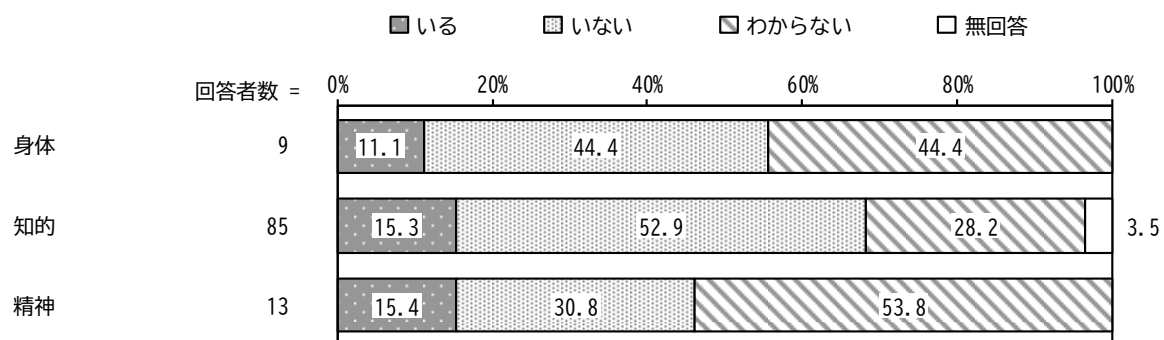
問 38 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、災害時にあなたを助けてくれる人はいますか。(1つに○)

「いる」の割合が15.1%、「いない」の割合が50.4%となっています。
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【手帳種類別】

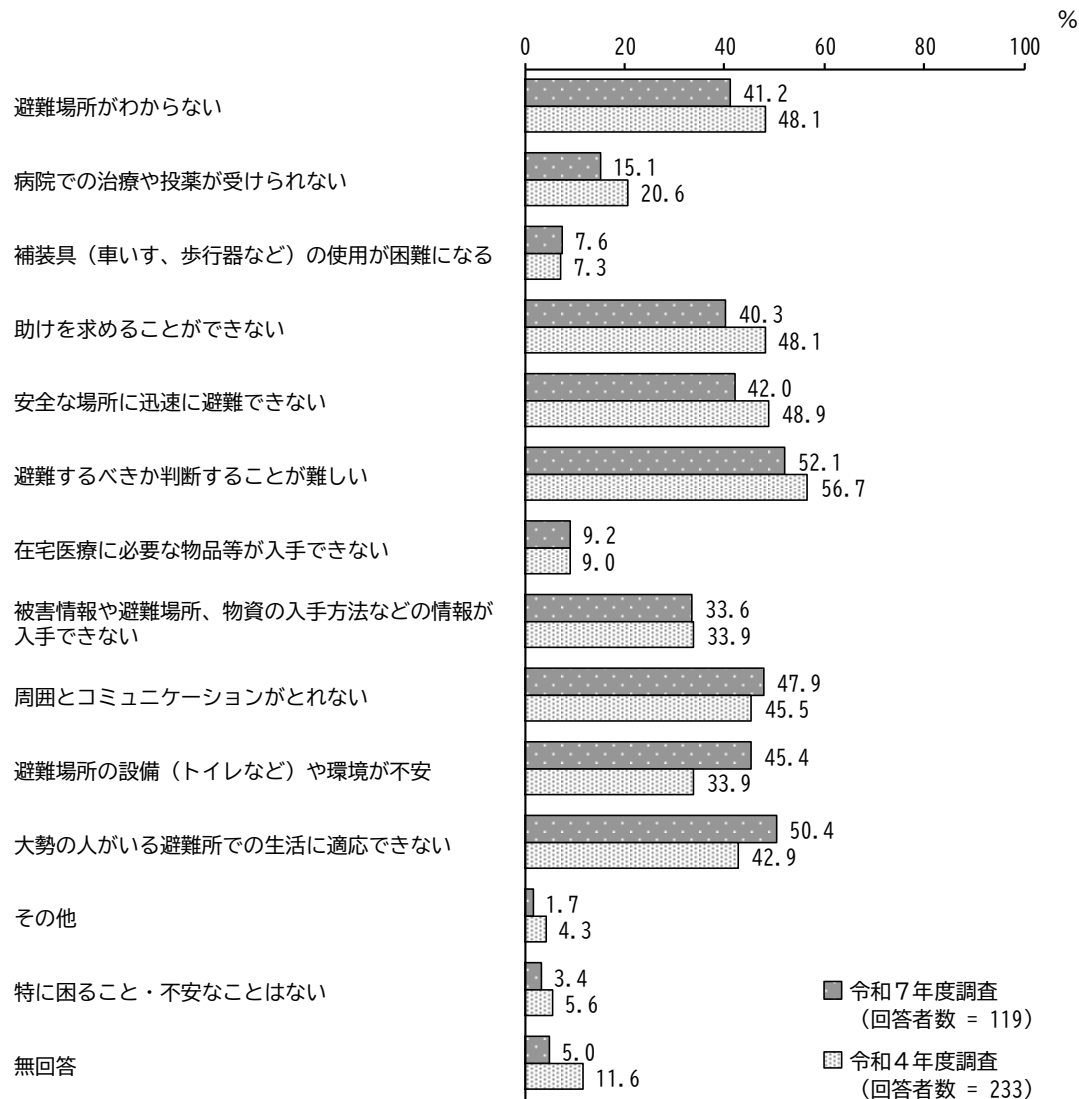
手帳種類別にみると、知的で「いない」の割合が高くなっています。



問 39 地震や水害、火事等の災害時に、あなたが困ることや不安なことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「避難すべきか判断することが難しい」の割合が 52.1%と最も高く、次いで「大勢の人がいる避難所での生活に適応できない」の割合が 50.4%、「周囲とコミュニケーションがとれない」の割合が 47.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「避難場所の設備（トイレなど）や環境が不安」「大勢の人がいる避難所での生活に適応できない」の割合が増加しています。一方、「避難場所がわからない」「病院での治療や投薬が受けられない」「助けを求めることができない」「安全な場所に迅速に避難できない」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「避難場所の設備（トイレなど）や環境が不安」、知的と精神で「避難すべきか判断することが難しい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	避難場所がわからない	病院での治療や投薬が受けられない	補装具（車いす、歩行器など）の使用が困難になる	助けを求めることができない	安全な場所に迅速に避難できない	避難すべきか判断することが難しい	在宅医療に必要な物品等が入手できない
全 体	119	41.2	15.1	7.6	40.3	42.0	52.1	9.2
身体	9	0.0	33.3	22.2	22.2	33.3	11.1	33.3
知的	85	49.4	12.9	8.2	51.8	49.4	55.3	7.1
精神	13	46.2	15.4	0.0	7.7	15.4	53.8	0.0

区分	被害情報や避難場所、物資の入手方法などの情報が入手できない	周囲とコミュニケーションがとれない	避難場所の設備（トイレなど）や環境が不安	大勢の人がいる避難所での生活に適應できない	その他	特に困ること・不安なことはない	無回答
全 体	33.6	47.9	45.4	50.4	1.7	3.4	5.0
身体	0.0	22.2	66.7	33.3	11.1	0.0	0.0
知的	38.8	52.9	44.7	54.1	1.2	3.5	5.9
精神	23.1	38.5	30.8	46.2	0.0	7.7	0.0

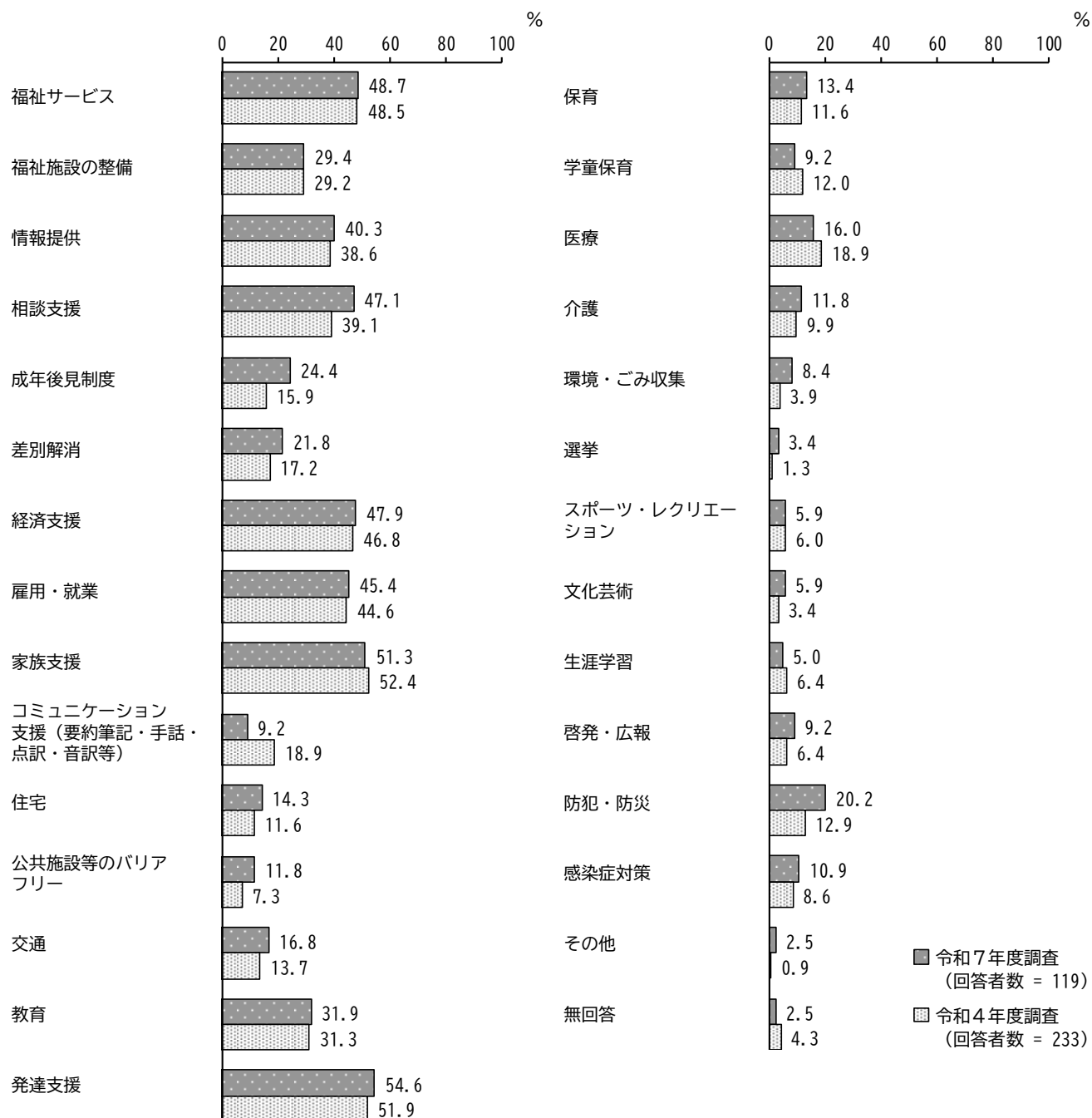
12. 宇治市の今後の施策に向けて

最後に、宇治市の障害福祉施策に対し期待していることや必要だと思うことについてお聞きします。

★障害のある人の福祉の充実のために、今後宇治市で力を入れて取り組んでほしい分野は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「発達支援」の割合が 54.6%と最も高く、次いで「家族支援」の割合が 51.3%、「福祉サービス」の割合が 48.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「相談支援」「成年後見制度」「防犯・防災」の割合が増加しています。一方、「コミュニケーション支援（要約筆記・手話・点訳・音訳等）」の割合が減少しています。



【手帳種類別】

手帳種類別にみると、身体で「経済支援」、知的で「福祉サービス」、精神で「発達支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	福祉サービス	福祉施設の整備	情報提供	相談支援	成年後見制度	差別解消	経済支援	雇用・就業	家族支援
全 体	119	48.7	29.4	40.3	47.1	24.4	21.8	47.9	45.4	51.3
身体	9	33.3	33.3	55.6	33.3	11.1	22.2	88.9	55.6	55.6
知的	85	56.5	32.9	38.8	48.2	29.4	22.4	45.9	47.1	50.6
精神	13	38.5	23.1	30.8	30.8	7.7	23.1	15.4	23.1	53.8

区分	コミュニケーション支援 (要約筆記・手話・点訳・音訳等)	住宅	公共施設等のバリアフリー	交通	教育	発達支援	保育	学童保育	医療	介護
全 体	9.2	14.3	11.8	16.8	31.9	54.6	13.4	9.2	16.0	11.8
身体	0.0	33.3	44.4	33.3	44.4	55.6	55.6	33.3	33.3	44.4
知的	10.6	15.3	10.6	17.6	31.8	50.6	11.8	8.2	15.3	10.6
精神	7.7	0.0	0.0	7.7	23.1	69.2	0.0	7.7	15.4	0.0

区分	環境・ごみ収集	選挙	スポーツ・レクリエーション	文化芸術	生涯学習	啓発・広報	防犯・防災	感染症対策	その他	無回答
全 体	8.4	3.4	5.9	5.9	5.0	9.2	20.2	10.9	2.5	2.5
身体	11.1	11.1	0.0	11.1	11.1	0.0	22.2	22.2	0.0	0.0
知的	9.4	3.5	7.1	5.9	4.7	12.9	20.0	10.6	2.4	3.5
精神	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0

★最後に、宇治市の障害福祉施策に対するご意見等について自由に記載してください。

自由記述欄にご記入いただいた意見総数は、40 件でした。意見を要約して以下に記載します。

1 経済的支援・各種割引制度・助成の拡充に関して

- 給付金等がなさすぎる。もっと支援してほしい。
- 年収により医療費の負担割合が高く、また特児等の手当がストップしている。家族が多く、物価も上昇しているので、年収で制限するのを撤廃してほしいといつも願っている。
- 障害児への補助等に対し、親の収入で制限するのをやめてほしい。
- 療育手帳Bに対しても医療費の補助がほしい。
- 重度の知的障害があり、未だにオムツが必要であるがオムツ代が高い。身体障害者でないと補助が使えないと言われた。
- 経済的な支援が1 番役に立っている。

2 相談・情報提供に関して

- 学校（特別支援学校）を卒業してからのいろいろなサービスや年金の申請方法が分からないので、在学中に分かりやすい情報があれば助かる。
- 困りごとで相談へ行ったが、窓口の担当者により対応が違う場合があり、ほしい情報がもらえずに歯がゆい思いをした。また、係の方がコロコロ代わるので不安になる。それなりの知識を持っている方が担当してほしい。
- 自分で情報を得ないと知らないことばかり。市民一人ひとりに合った支援や制度、福祉サービス等の情報提供を市からしてもらえると助かる。
- 何度も市役所へ行き相談したことがあるが、相談対象外と言われることばかりだった。
- 障害者の利用サービスや学校の支援情報等を、インターネットで調べないとわからないことが多いため、身近に情報が得られる場所を増やしてほしい。
- 放課後等デイサービスの内容等は全て個人で調べないといけないのが大変。費用や送迎の有無等のまとまった案内がほしい。

3 保育所等の受け入れに関して

- 重度障害により、受け入れてくれる保育園がほとんどなかった。重度障害でも保育園に行けて他の子と交流できるようになれば良いと思う。
- 障害のある子でも長時間預けられる保育所ができるような制度を作してほしい。

4 学校教育の支援に関して

- 特別支援学級と通常学級の差を無くし、インクルーシブ教育を充実してほしい。
- 支援学級の補助教員を増員してほしい。また、知的や多動等でクラス分けを明確にしてほしい。
- 中学校で少人数教室を希望したが、教師が少なく、一握りの生徒しか利用できないと断られた。小学校の時は利用できて助かったが残念だった。何か工夫して利用できる生徒を増やしてほしい。
- 公立小学校で適切な配慮と支援を受け、差別もされず毎日学校へ通うことができます。学校関係者には感謝の気持ちしかありません。先生方の負担が少しでも軽くなるよう、細かい配慮が行き届くような少人数学級が実現することを願っている。
- 通っていた小学校に通級指導教室がなく、保護者が車で送迎するのは大変だった。

5 移動手段・交通機関の充実に関して

- 就労の交通費を負担してもらえると市外等の事業所も候補に入れやすい。
- 身体障害者手帳を利用して公共交通に乗る時は、駅員を呼び出すことが必要になるのでスムーズに切符が買えない。もっと簡単に買えるようにしてほしい。
- 住宅地内や店舗の前に停まるコミュニティバスを運行してほしい。
- 宇治市も障害者手帳で京都市営地下鉄や京都市営バスを無料で利用できるようにしてほしい。
- 障害者用のタクシーを運行してほしい。

6 福祉サービスの拡充に関して

- 放課後等デイサービスを利用するにあたり、相談支援員をつけてほしい。
- 入院中にレスパイトサービスを利用したかったが、急なことで対応してもらえなかった。臨機応変に対応できるようにしてほしい。
- 短期入所や行動援護、移動支援などこれから先の自立に向けて使いたいサービスはあるが、施設や人員の問題でなかなか使えていない。施設数等が増えて質の悪いものは困るが、選べるくらいに増えてくれることを願う。

7 福祉施策に関して

- 日常生活用具給付の対象年齢が、3歳以上や、学齢以上なのが不思議である。
- 障害の度合いで福祉サービスが受けられなかったりするので、皆一律にETC割引や医療費の助成等を受けられるようにしてほしい。
- 国から支援を受けられない所に対して自治体でもっと制度を考えてほしい。国がやらないから宇治市もやらないという姿勢が強い。宇治市としてやるべき事をもっとしっかり考えて、だれもが安心して住める市にしてほしい。また、お金や手間をかけてアンケートを取るなら、しっかりと行う事を明確にして実行してほしい。
- 自治会活動の参加が難しいことに対して宇治市から参加免除条件を出してほしい。市が指針を示してくれないと手帳があっても免除されない。
- 他市に住んでいた時よりも手厚く感じている。
- 他市に比べて用具申請や通所利用は許可を得やすいと思っています。それだけでもありがたいことです。

8 成人後・親亡き後の支援に関して

- 小さい子どもの支援は、以前に比べて増えているが、高校生くらいからの支援があまり無く、大人になるともっと無いことが困ります。
- 要支援児が増えるということは、追々要支援者が増えるということ。要支援者や親亡き後の支援が必要な方が、安心して暮らしていけるよう、施設やグループホームを市が先導して作っていただきたい。かつ、災害時に避難が不必要なほど、強固な建物の施設やホームがあると助かります。

9 バリアフリーに関して

- 近鉄伊勢田駅～JR にかけて自動車や自転車の交通量が多いにもかかわらず、府道 69 号線の交差点に歩行者信号がなく、子どもが渡るタイミングが難しい。また朝は自転車が歩道にまで占領しており、安全に渡れない。障害者でも安全に渡れる環境整備をしてほしい。
- 外出先のトイレでいつも困っている。車イス用のトイレにベッドがないとオムツが替えられない。なぜ新しくトイレができて赤ちゃん用のベッドなのか理解できない。一つ大きい長イスとかあるとオムツ替えができる。

10 障害理解・配慮に関して

- 障害があっても差別されない世の中になればと思う。
- 障害福祉施策をもっと身近なものにし、障害の無い人への理解が深まるようお願いする。
- 障害という文字に抵抗がある。

11 災害時支援・避難に関して

- 身体的障害がない場合でも補助金が出るようにしてほしい。災害が起きた際、障害者とその家族が安心して避難できる場所の確保と提供をお願いする。
- 知的障害のある人が安心して避難できる避難所を作してほしい。障害者の保護者同士だと理解し合えることも多いが、大きい声を出したり暴れたりするため、一般的な避難所には行けない。障害のある人向けの避難所を作してほしい。

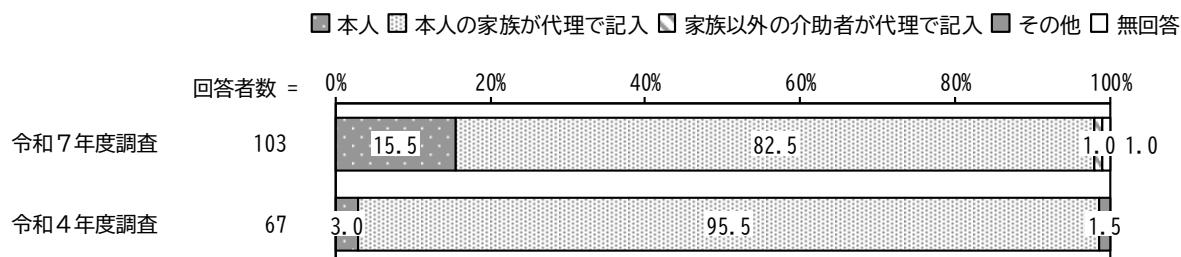
IV 障害福祉サービス等利用者用（調査票C）

1. あなたのことについて（全員にお聞きします）

問1 この調査票にご記入いただく方はどなたですか。（1つに○）

「本人」の割合が15.5%、「本人の家族が代理で記入」の割合が82.5%、「家族以外の介助者が代理で記入」の割合が1.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「本人」の割合が増加しています。一方、「本人の家族が代理で記入」の割合が減少しています。

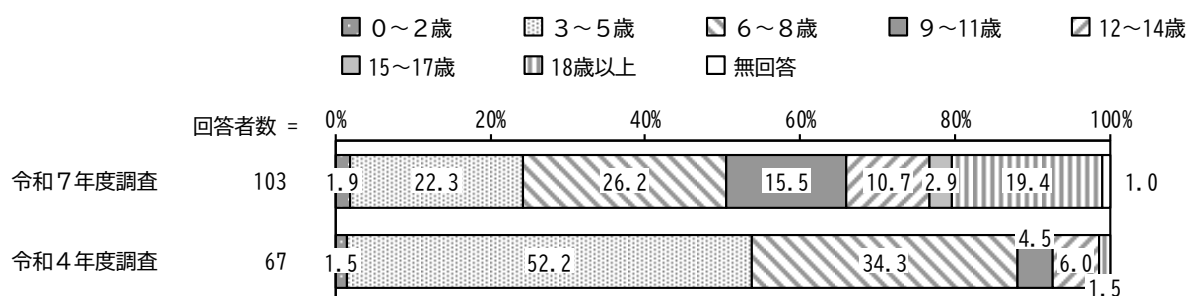


問2 令和8（2026）年1月1日現在のあなたの年齢と性別をお答えください。

年齢

「6～8歳」の割合が26.2%と最も高く、次いで「3～5歳」の割合が22.3%、「18歳以上」の割合が19.4%となっています。

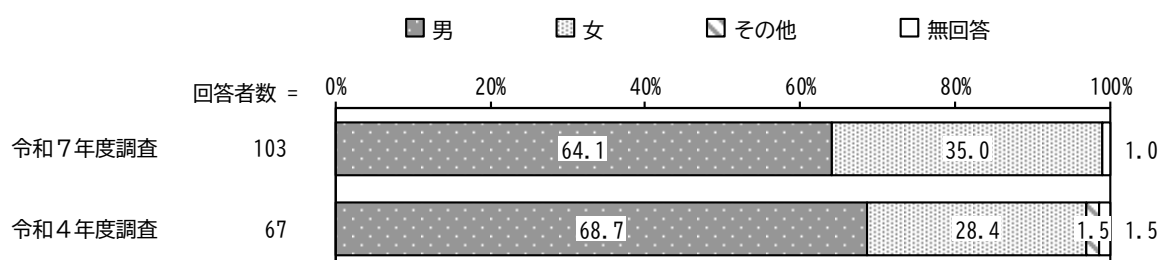
令和4年度調査と比較すると、「9～11歳」「18歳以上」の割合が増加しています。一方、「3～5歳」「6～8歳」の割合が減少しています。



性別

「男」の割合が64.1%、「女」の割合が35.0%となっています。

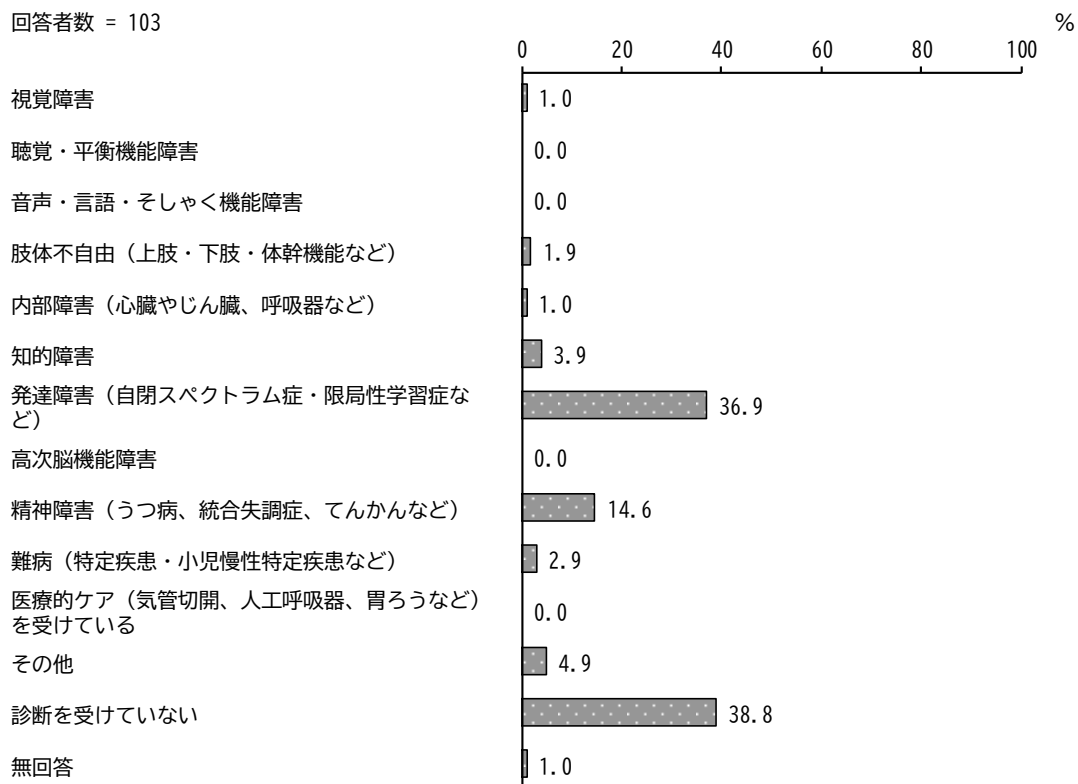
令和4年度調査と比較すると、「女」の割合が増加しています。



問3 あなたは、どのような診断を受けたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

「診断を受けていない」の割合が 38.8%と最も高く、次いで「発達障害（自閉スペクトラム症・限局性学習症など）」の割合が 36.9%、「精神障害（うつ病、統合失調症、てんかんなど）」の割合が 14.6%となっています。

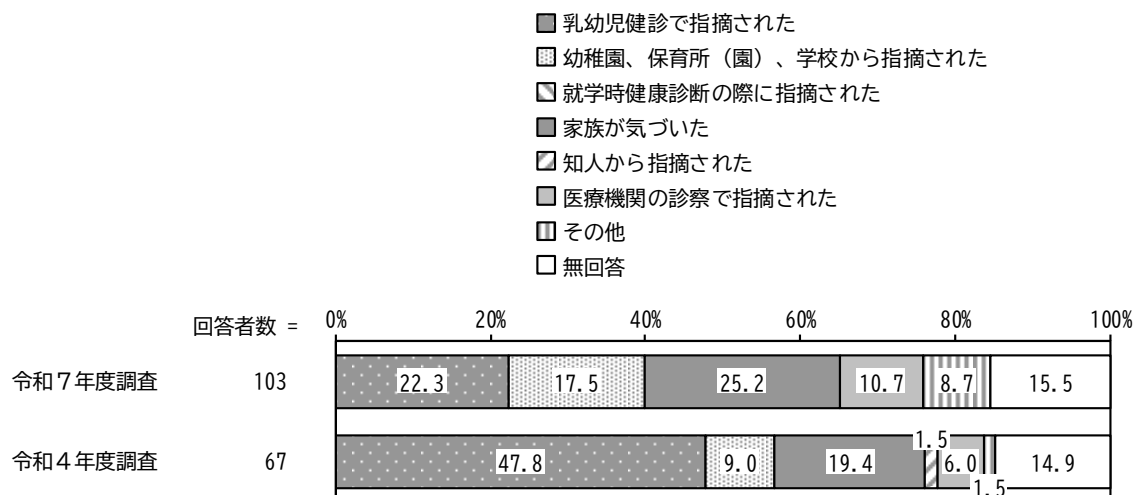
回答者数 = 103



問4 問3で回答したことに気づいたきっかけは何ですか。また、それはあなたが何歳のころですか。（1つに○）

「家族が気づいた」の割合が25.2%と最も高く、次いで「乳幼児健診で指摘された」の割合が22.3%、「幼稚園、保育所（園）、学校から指摘された」の割合が17.5%となっています。

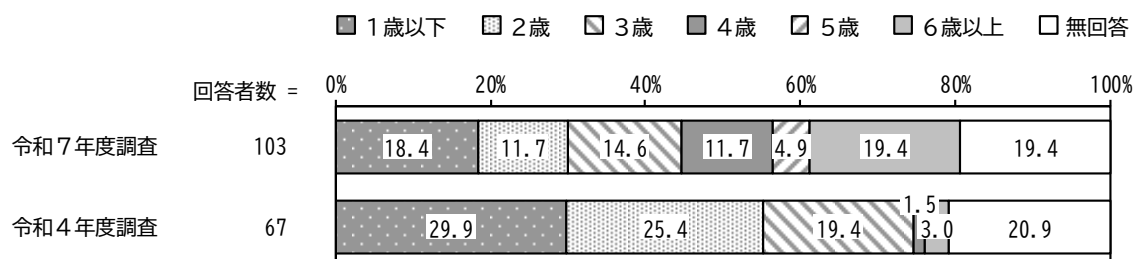
令和4年度調査と比較すると、「幼稚園、保育所（園）、学校から指摘された」「家族が気づいた」の割合が増加しています。一方、「乳幼児健診で指摘された」の割合が減少しています。



気づいた年齢

「6歳以上」の割合が19.4%と最も高く、次いで「1歳以下」の割合が18.4%、「3歳」の割合が14.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「4歳」「6歳以上」の割合が増加しています。一方、「1歳以下」「2歳」の割合が減少しています。

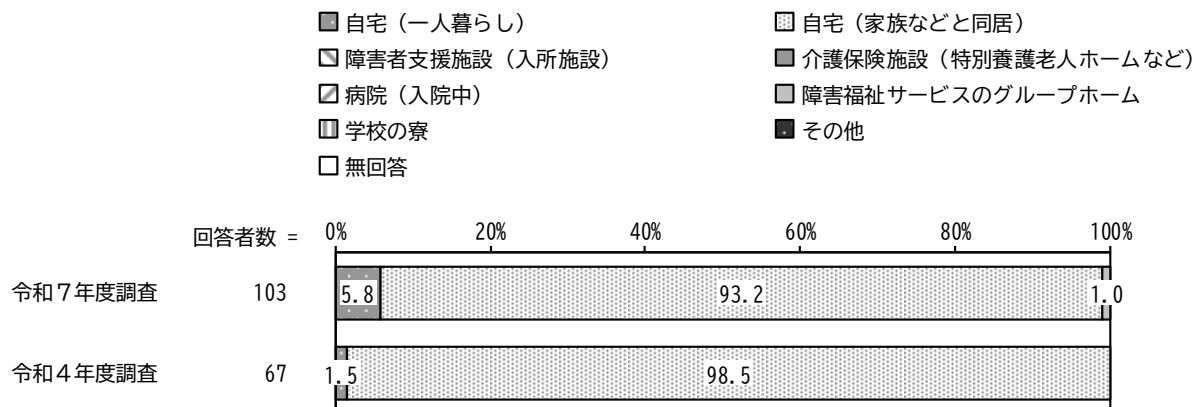


2. 暮らし・住まいについて（全員にお聞きします）

問5 あなたが現在、暮らしている場所はどこですか。（1つに○）

「自宅（家族などと同居）」の割合が93.2%と最も高くなっています。

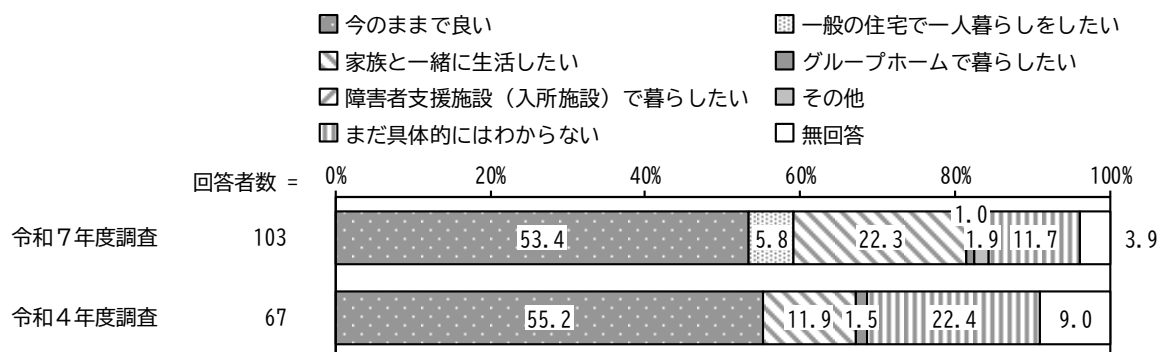
令和4年度調査と比較すると、「自宅（家族などと同居）」の割合が減少しています。



問6 あなたは今後、どのような暮らしをしたいと思いますか。（1つに○）

「今のままで良い」の割合が53.4%と最も高く、次いで「家族と一緒に生活したい」の割合が22.3%となっています。

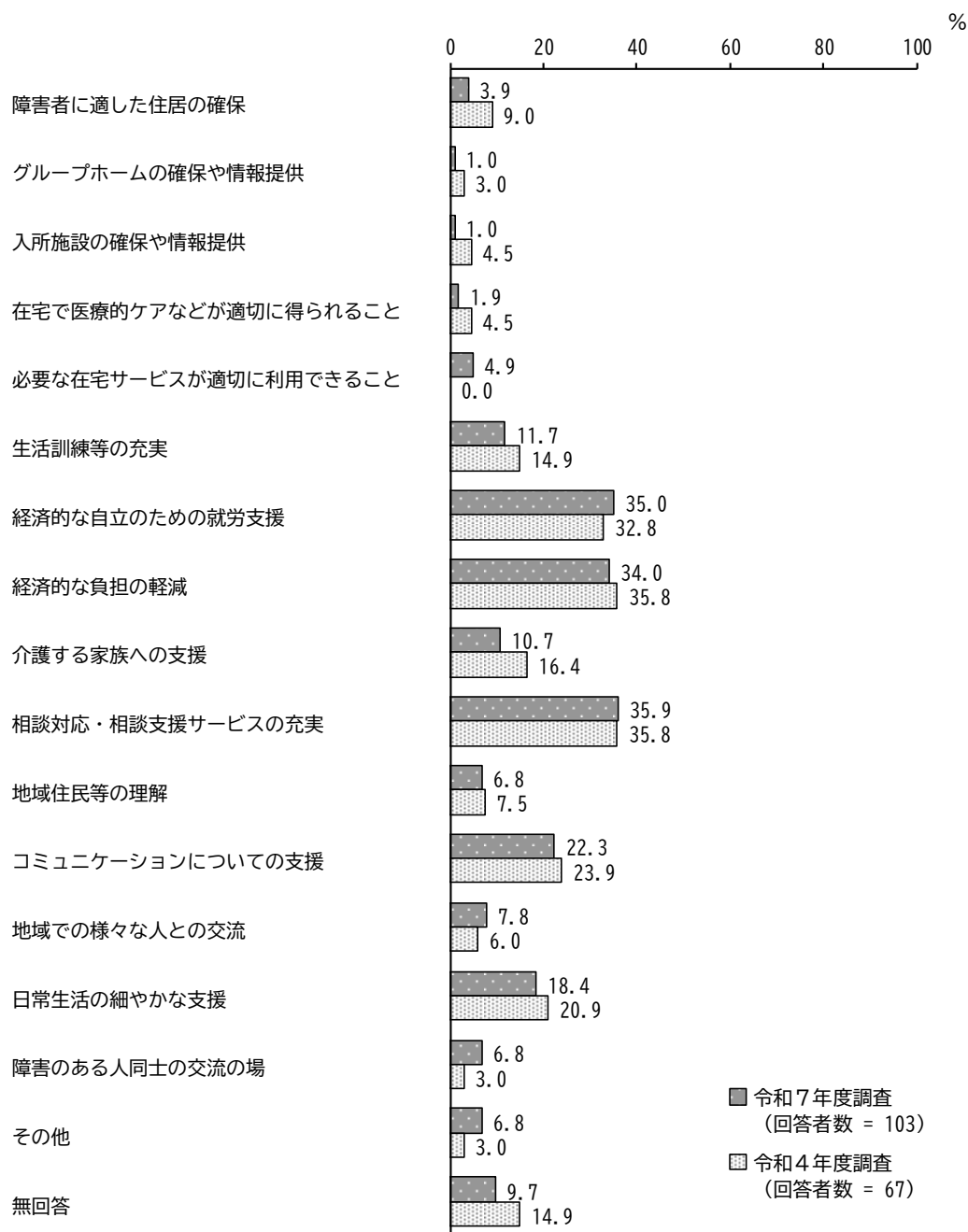
令和4年度調査と比較すると、「一般の住宅で一人暮らしをしたい」「家族と一緒に生活したい」の割合が増加しています。



問7 あなたが今後、希望する暮らしを送るために、どのような支援があればよいと思いますか。(3つまでに○)

「相談対応・相談支援サービスの充実」の割合が 35.9%と最も高く、次いで「経済的な自立のための就労支援」の割合が 35.0%、「経済的な負担の軽減」の割合が 34.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「障害者に適した住居の確保」「介護する家族への支援」の割合が減少しています。

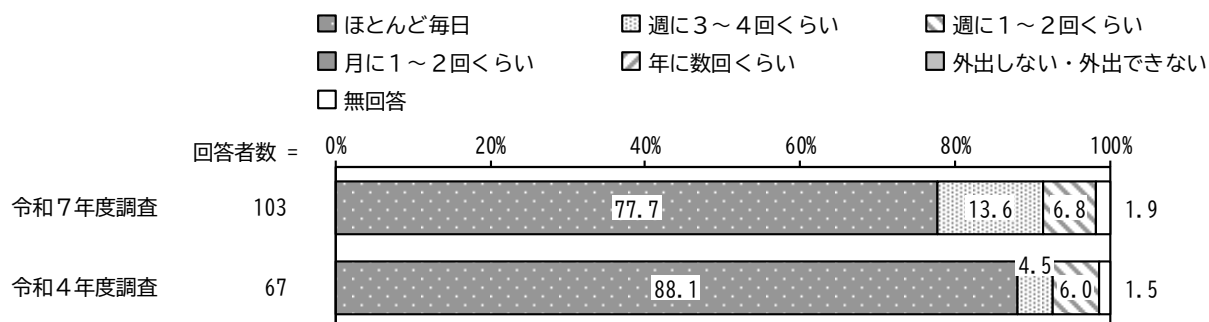


3. 外出について（全員にお聞きします）

問8 あなたはどれくらいの頻度で外出していますか。（1つに○）

「ほとんど毎日」の割合が77.7%と最も高く、次いで「週に3～4回くらい」の割合が13.6%となっています。

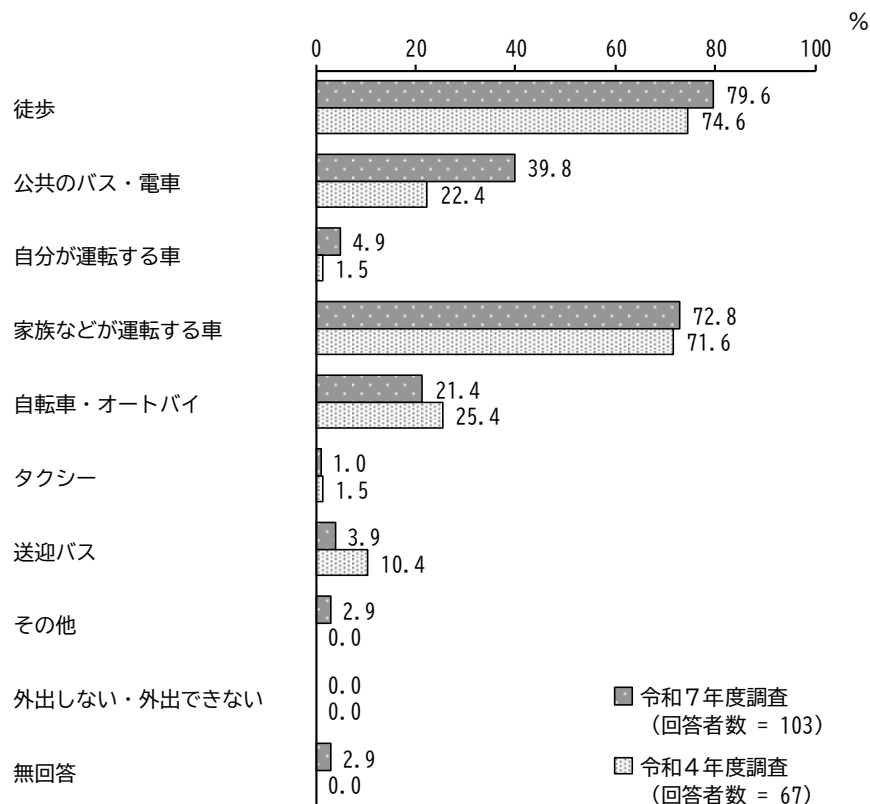
令和4年度調査と比較すると、「週に3～4回くらい」の割合が増加しています。一方、「ほとんど毎日」の割合が減少しています。



問9 あなたは外出するとき、どの移動手段を使っていますか。（3つまでに○）

「徒歩」の割合が79.6%と最も高く、次いで「家族などが運転する車」の割合が72.8%、「公共のバス・電車」の割合が39.8%となっています。

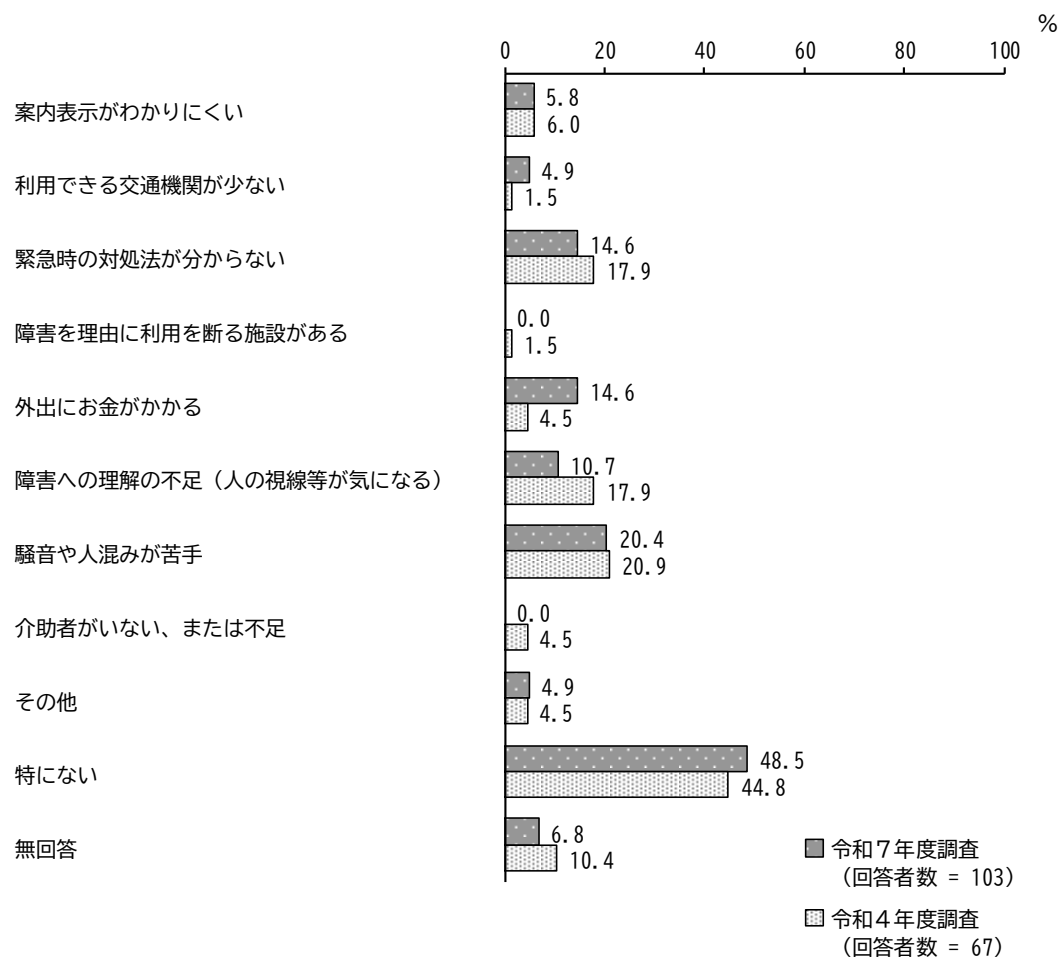
令和4年度調査と比較すると、「公共のバス・電車」の割合が増加しています。一方、「送迎バス」の割合が減少しています。



問10 あなたが外出時に、不便に感じたり、困ることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「騒音や人混みが苦手」の割合が20.4%と最も高く、次いで「緊急時の対処法が分からない」、「外出にお金がかかる」の割合が14.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「外出にお金がかかる」の割合が増加しています。一方、「障害への理解の不足（人の視線等が気になる）」の割合が減少しています。

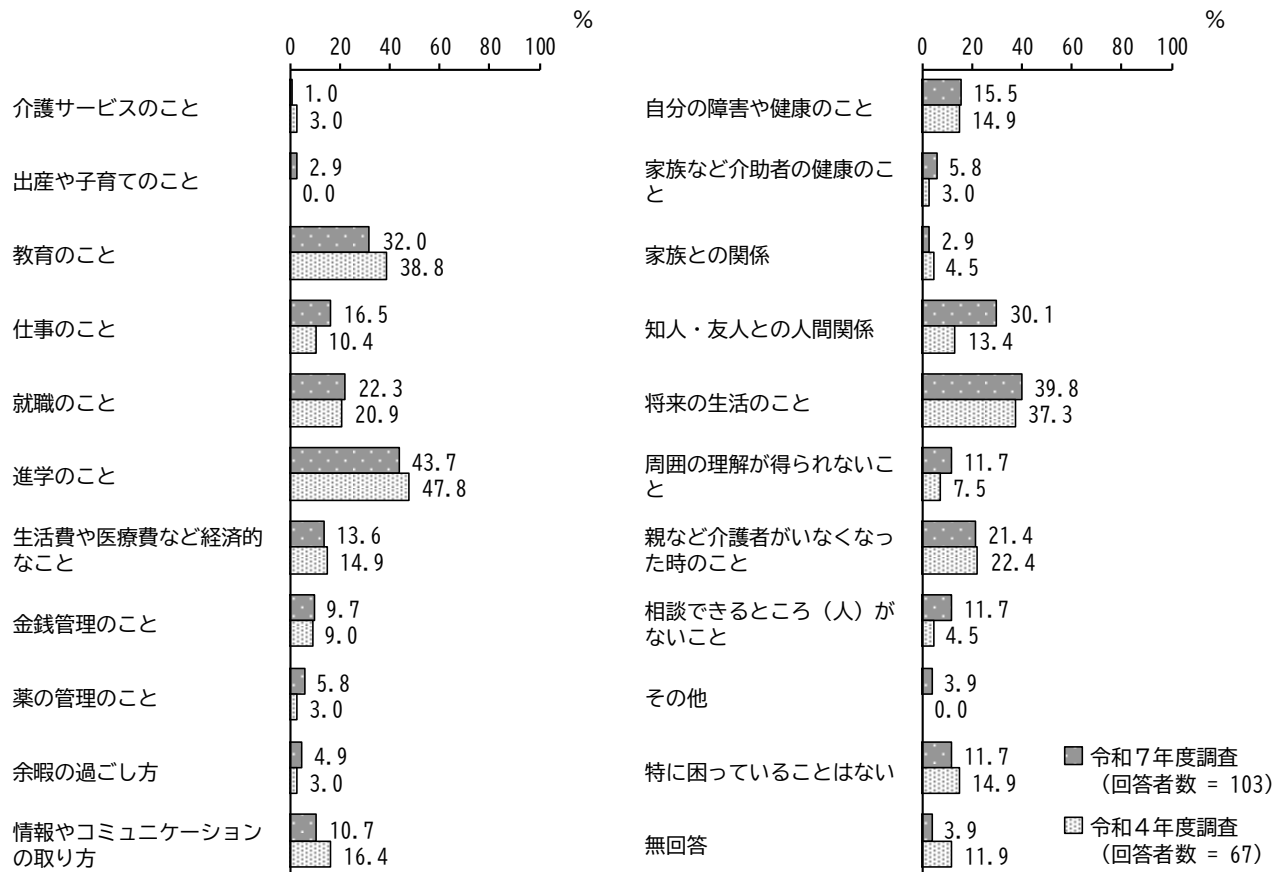


4. 相談支援について（全員にお聞きします）

問 11 あなたは、現在の生活で困っていることや不安に思っていることがありますか。
（あてはまるものすべてに○）

「進学のこと」の割合が 43.7%と最も高く、次いで「将来の生活のこと」の割合が 39.8%、「教育のこと」の割合が 32.0%となっています。

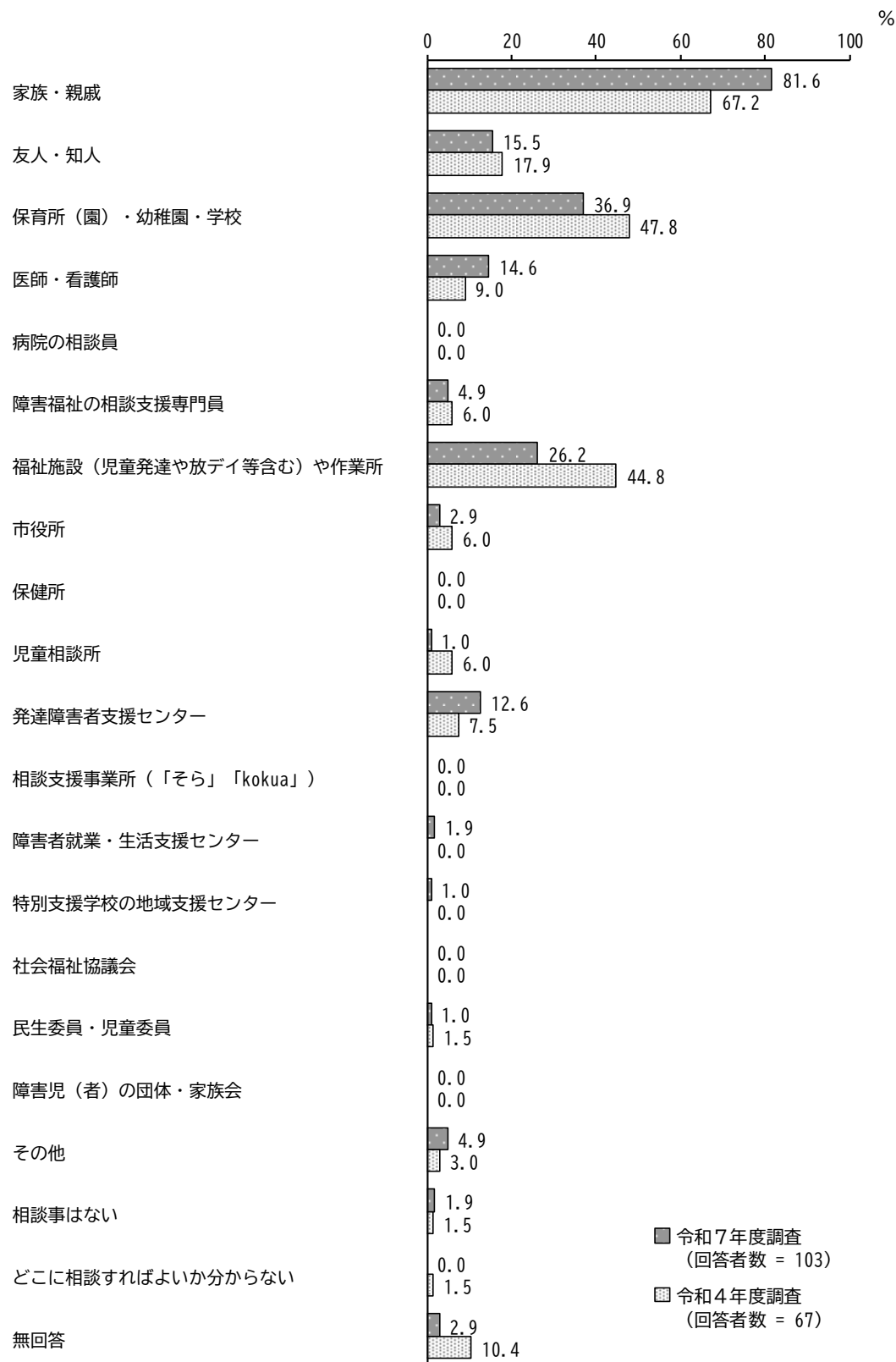
令和4年度調査と比較すると、「仕事のこと」「知人・友人との人間関係」「相談できるところ（人）がないこと」の割合が増加しています。一方、「教育のこと」「情報やコミュニケーションの取り方」の割合が減少しています。



問12 あなたが悩みや困ったことを相談するのは誰（どこ）ですか。（3つまでに○）

「家族・親戚」の割合が81.6%と最も高く、次いで「保育所（園）・幼稚園・学校」の割合が36.9%、「福祉施設（児童発達や放デイ等含む）や作業所」の割合が26.2%となっています。

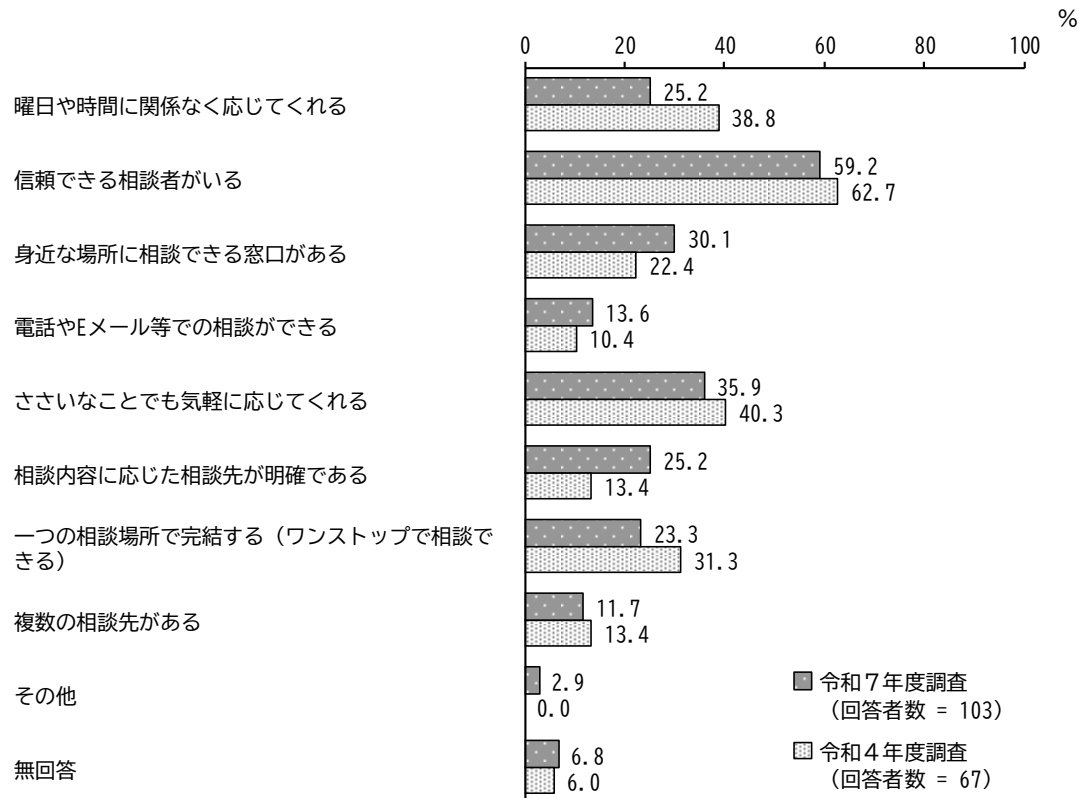
令和4年度調査と比較すると、「家族・親戚」「医師・看護師」「発達障害者支援センター」の割合が増加しています。一方、「保育所（園）・幼稚園・学校」「福祉施設（児童発達や放デイ等含む）や作業所」の割合が減少しています。



問13 行政や専門機関で、相談しやすい体制をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまでに○）

「信頼できる相談者がいる」の割合が59.2%と最も高く、次いで「ささいなことでも気軽に応じてくれる」の割合が35.9%、「身近な場所に相談できる窓口がある」の割合が30.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「身近な場所に相談できる窓口がある」「相談内容に応じた相談先が明確である」の割合が増加しています。一方、「曜日や時間に関係なく応じてくれる」「一つの相談場所で完結する（ワンストップで相談できる）」の割合が減少しています。

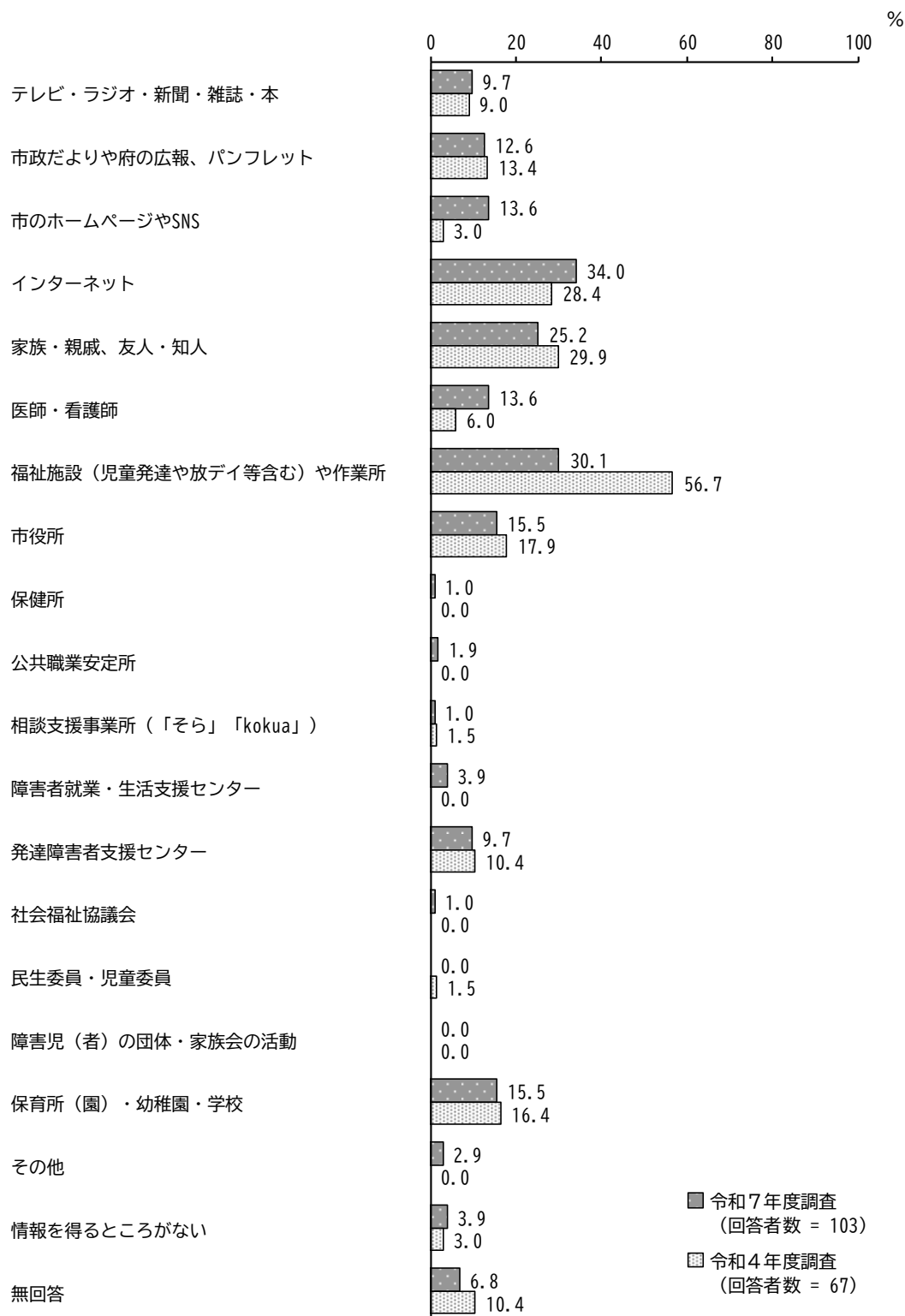


5. 情報の入手について（全員にお聞きします）

問 14 あなたは障害のことや福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。
（3つまでに○）

「インターネット」の割合が 34.0%と最も高く、次いで「福祉施設（児童発達や放デイ等含む）や作業所」の割合が 30.1%、「家族・親戚、友人・知人」の割合が 25.2%となっています。

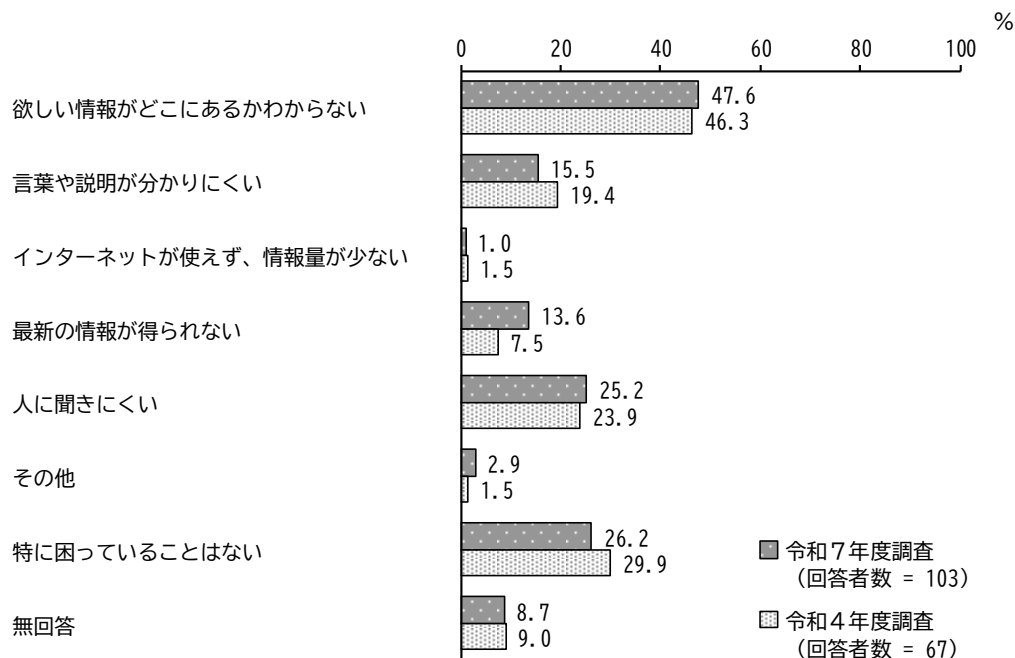
令和4年度調査と比較すると、「市のホームページや SNS」「インターネット」「医師・看護師」の割合が増加しています。一方、「福祉施設（児童発達や放デイ等含む）や作業所」の割合が減少しています。



問 15 福祉等に関する情報の入手について、あなたが困っていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「欲しい情報がどこにあるかわからない」の割合が 47.6%と最も高く、次いで「人に聞きにくい」の割合が 25.2%、「言葉や説明が分かりにくい」の割合が 15.5%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「最新の情報が得られない」の割合が増加しています。



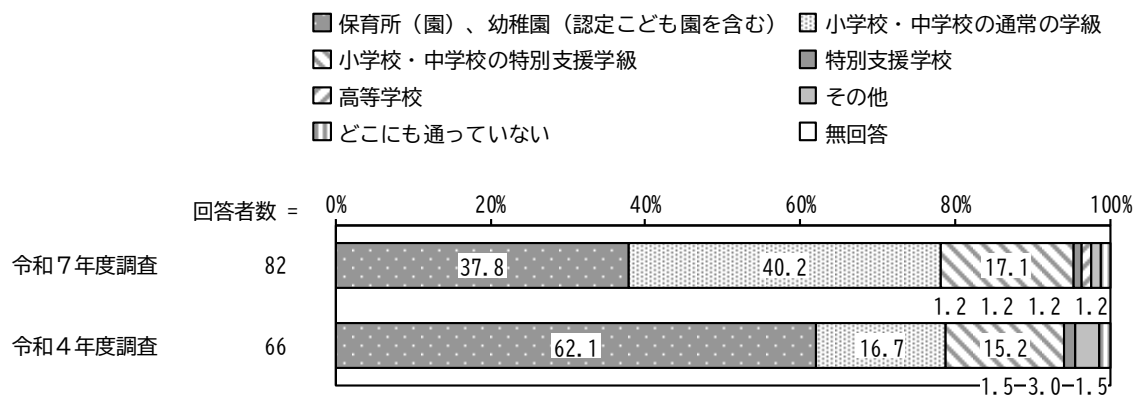
6. 教育・余暇の過ごし方について

【18 歳未満の方にお聞きします】

問 16 あなたが現在、在籍している学校や学級をお答えください。（1 つに○）

「小学校・中学校の通常の学級」の割合が 40.2%と最も高く、次いで「保育所（園）、幼稚園（認定こども園を含む）」の割合が 37.8%、「小学校・中学校の特別支援学級」の割合が 17.1%となっています。

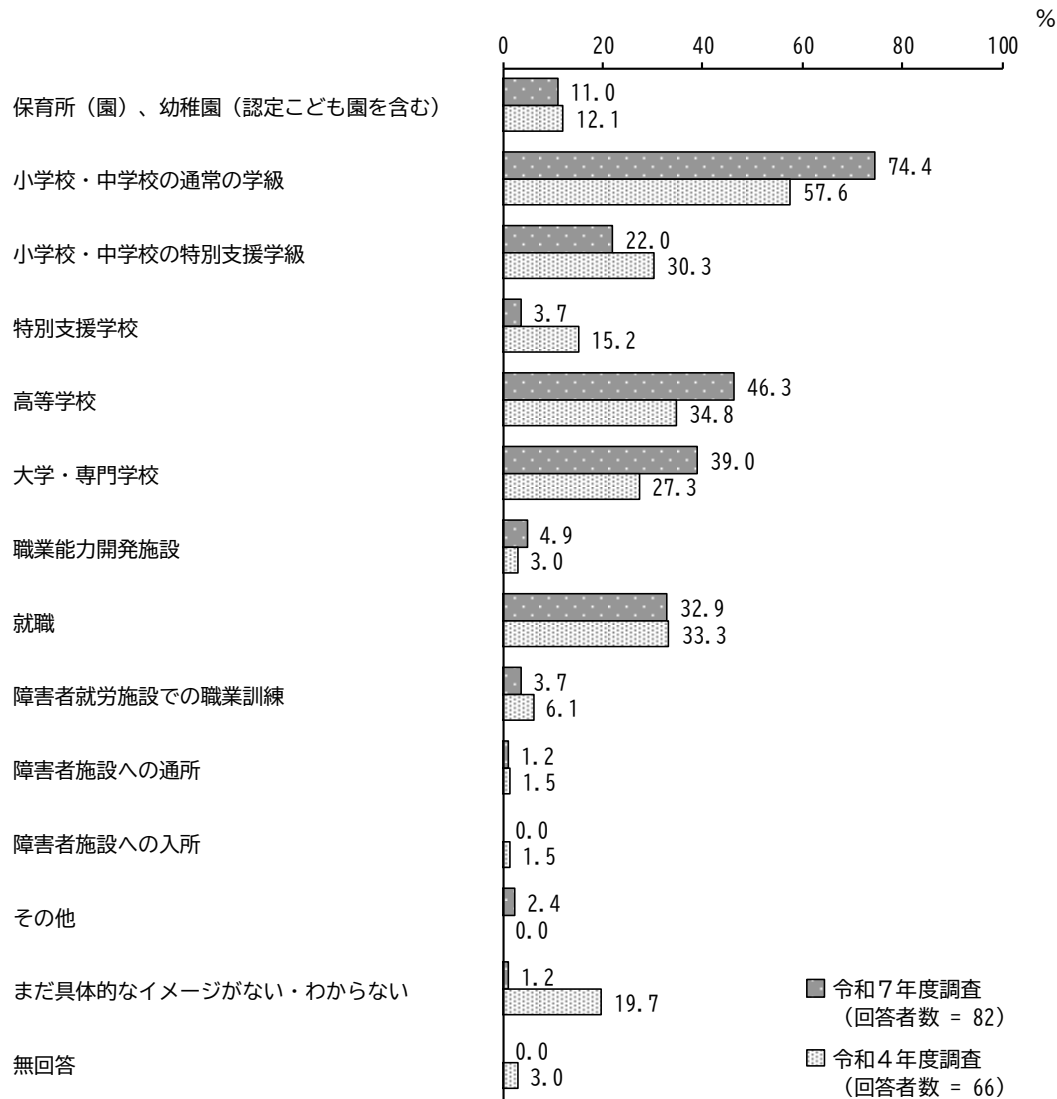
令和 4 年度調査と比較すると、「小学校・中学校の通常の学級」の割合が増加しています。一方、「保育所（園）、幼稚園（認定こども園を含む）」の割合が減少しています。



問 17 あなたは今後どのような進路を希望しますか。今後数年のことも含め、将来にわたり希望する進路を全てお答えください。（あてはまるものすべてに○）

「小学校・中学校の通常の学級」の割合が 74.4%と最も高く、次いで「高等学校」の割合が 46.3%、「大学・専門学校」の割合が 39.0%となっています。

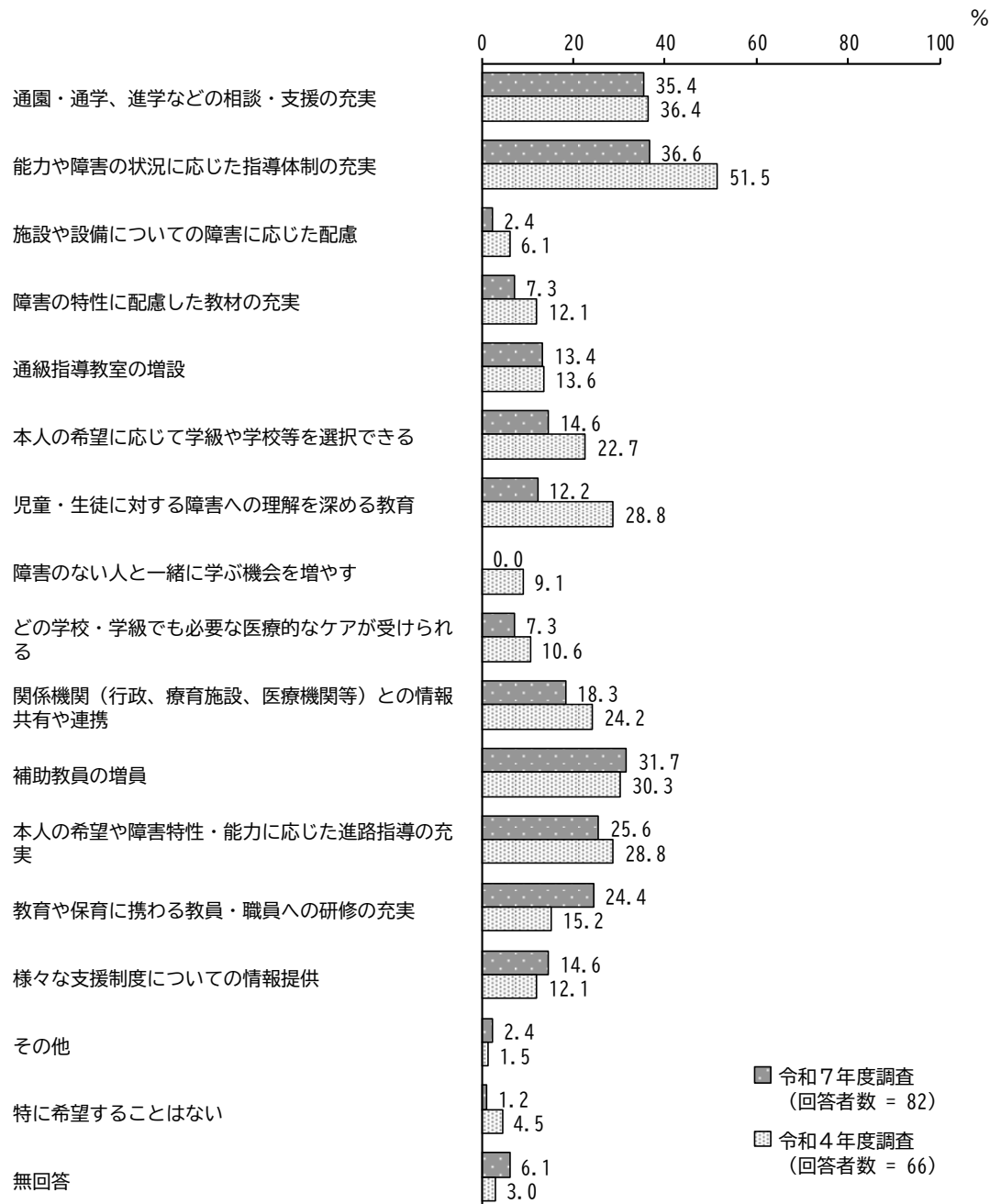
令和4年度調査と比較すると、「小学校・中学校の通常の学級」「高等学校」「大学・専門学校」の割合が増加しています。一方、「小学校・中学校の特別支援学級」「特別支援学校」の割合が減少しています。



問 18 現在または今後在籍する保育所（園）や幼稚園、学校に望むことは、どのようなことですか。（3つまでに○）

「能力や障害の状況に応じた指導体制の充実」の割合が 36.6%と最も高く、次いで「通園・通学、進学などの相談・支援の充実」の割合が 35.4%、「補助教員の増員」の割合が 31.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「教育や保育に携わる教員・職員への研修の充実」の割合が増加しています。一方、「能力や障害の状況に応じた指導体制の充実」「本人の希望に応じて学級や学校等を選択できる」「児童・生徒に対する障害への理解を深める教育」「障害のない人と一緒に学ぶ機会を増やす」「関係機関（行政、療育施設、医療機関等）との情報共有や連携」の割合が減少しています。

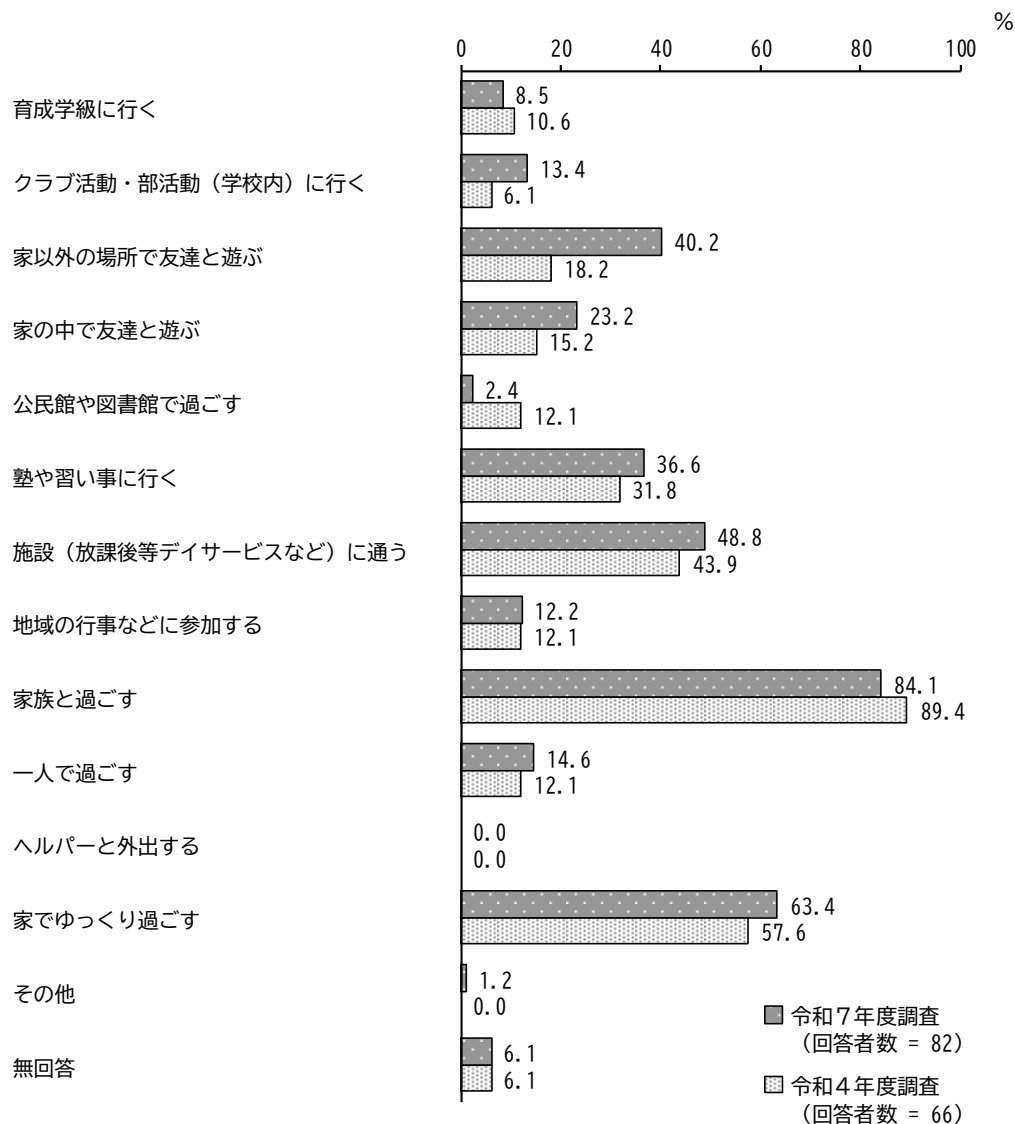


問 19 あなたは、学校等の放課後や休日など、学校等以外の時間は、（１）現在、どのように過ごしていますか。また、（２）今後、どのように過ごしたいですか。
（あてはまるものすべてに○）

（１）現在の過ごし方

「家族と過ごす」の割合が 84.1%と最も高く、次いで「家でゆっくり過ごす」の割合が 63.4%、「施設（放課後等デイサービスなど）に通う」の割合が 48.8%となっています。

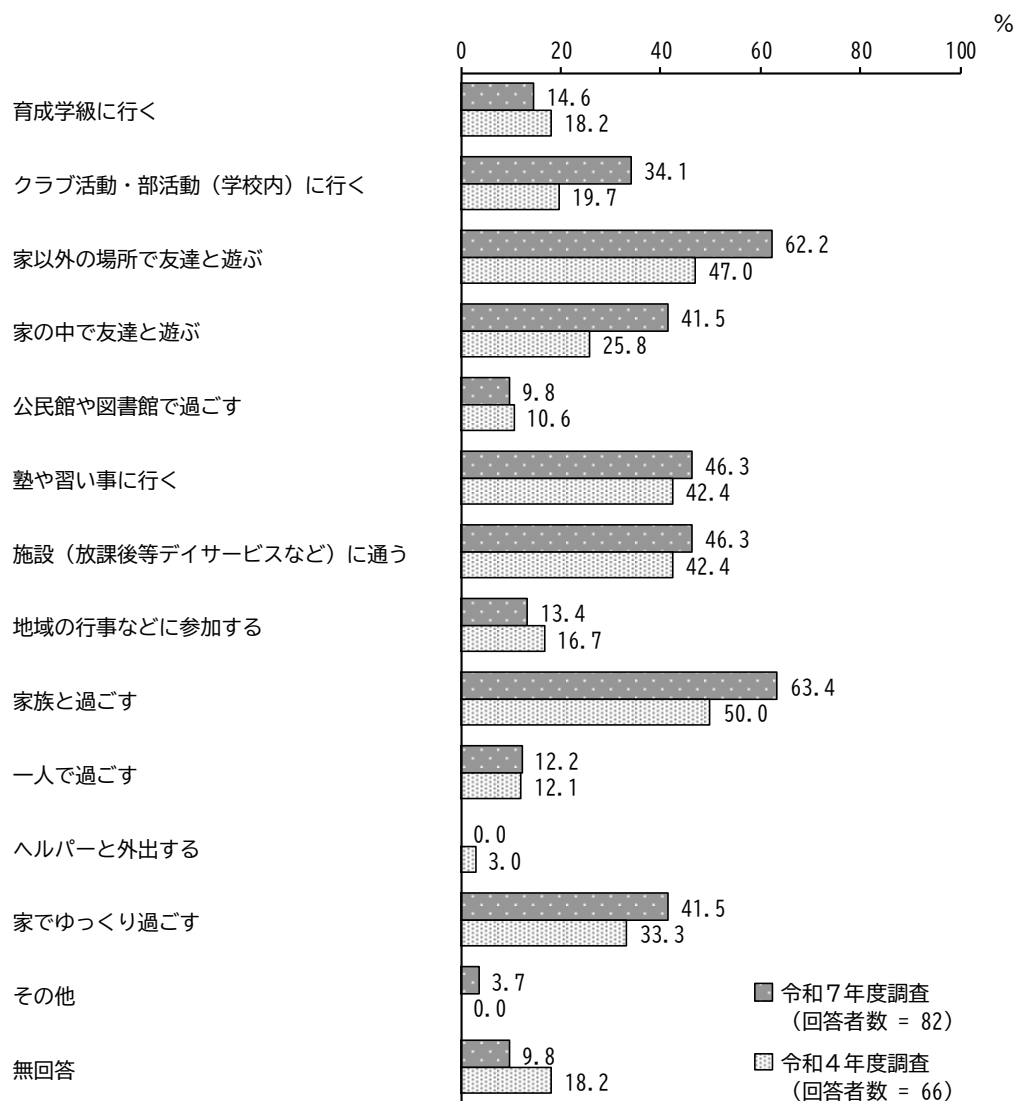
令和４年度調査と比較すると、「クラブ活動・部活動（学校内）に行く」「家以外の場所で友達と遊ぶ」「家の中で友達と遊ぶ」「家でゆっくり過ごす」の割合が増加しています。一方、「公民館や図書館で過ごす」「家族と過ごす」の割合が減少しています。



(2) 今後の希望

「家族と過ごす」の割合が 63.4%と最も高く、次いで「家以外の場所で友達と遊ぶ」の割合が 62.2%、「塾や習い事に行く」「施設（放課後等デイサービスなど）に通う」の割合が 46.3%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「クラブ活動・部活動（学校内）に行く」「家以外の場所で友達と遊ぶ」「家の中で友達と遊ぶ」「家族と過ごす」「家でゆっくり過ごす」の割合が増加しています。



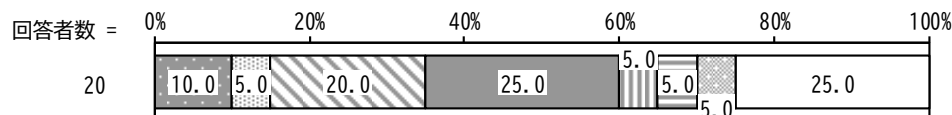
7. 日中の過ごし方や就労について

【18歳以上の方にお聞きします】

問 20 あなたは平日の日中を主にどのように過ごしていますか。（1つに○）

「福祉施設・作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）」の割合が25.0%と最も高く、次いで「掃除、洗濯、調理などの家事をしている」の割合が20.0%、「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている」の割合が10.0%となっています。

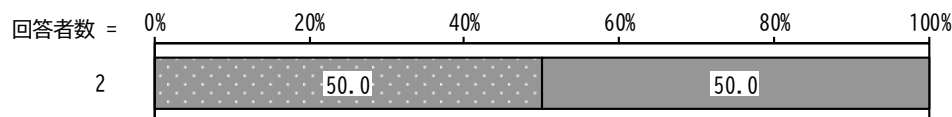
- ☒ 会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている
- ☒ ボランティアなど、収入のない仕事をしている
- ☒ 掃除、洗濯、調理などの家事をしている
- ☒ 福祉施設・作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）
- ☒ 病院などのデイケアに通っている
- ☒ リハビリテーションを受けている
- ☒ 自宅でテレビを見たりゆっくりしたりして過ごしている
- ☒ 入所している施設や病院等で過ごしている
- ☒ 大学、専門学校、職業訓練校などに通っている
- ☒ その他
- ☐ 無回答



問 21 【問 20 で「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている」を選択された方にお聞きします】
どのような雇用形態で働いていますか。（1つに○）

「正職員で、他の職員と勤務条件等に違いはない」、「自営業、農林水産業など」が1件となっています。

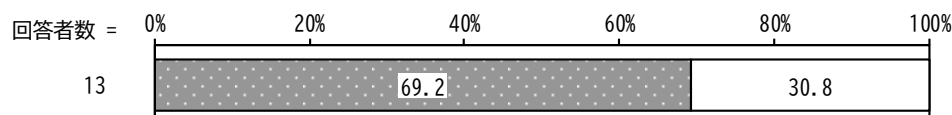
- ☒ 正職員で、他の職員と勤務条件等に違いはない
- ☒ 正職員で、短時間勤務などの合理的配慮がある
- ☒ パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員
- ☒ 自営業、農林水産業など
- ☒ その他
- ☐ 無回答



問 22 【問 20 で「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている」以外を選択された方にお聞きします】
あなたは、今後、収入を得る仕事（福祉的就労以外）をしたいと思いますか。（1つに○）

「収入を得る仕事をしたい」の割合が69.2%となっています。

- ☒ 収入を得る仕事をしたい
- ☒ 収入を得る仕事ができる状態ではない
- ☒ 収入を得る仕事をしたいとは思わない
- ☐ 無回答

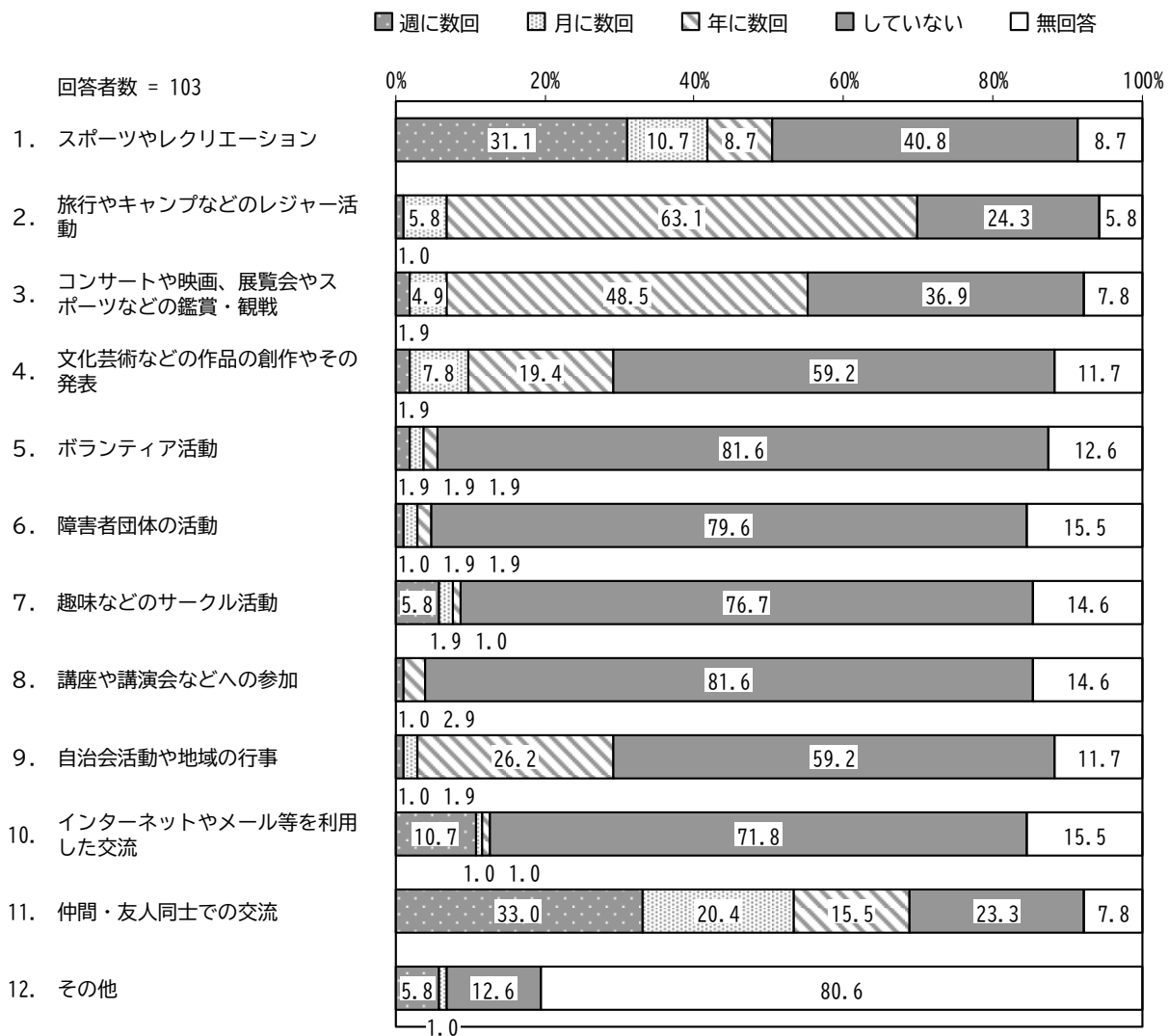


8. 地域・社会活動について（全員にお聞きします）

問 23 あなたは仕事や学業以外の活動として、次の1～12のことを（1）現在、どれくらいの頻度でしていますか。また、（2）今後、したいですか。（現在していることも含めて）

（1）現在の状況（それぞれの項目につき1つに○）

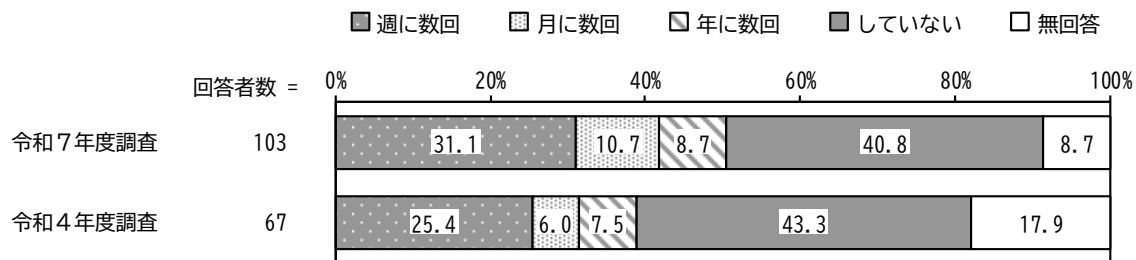
『11. 仲間・友人同士での交流』で「週に数回」「月に数回」が、『2. 旅行やキャンプなどのレジャー活動』で「年に数回」が、『5. ボランティア活動』『8. 講座や講演会などへの参加』で「していない」が高くなっています。



1. スポーツやレクリエーション

【経年比較】

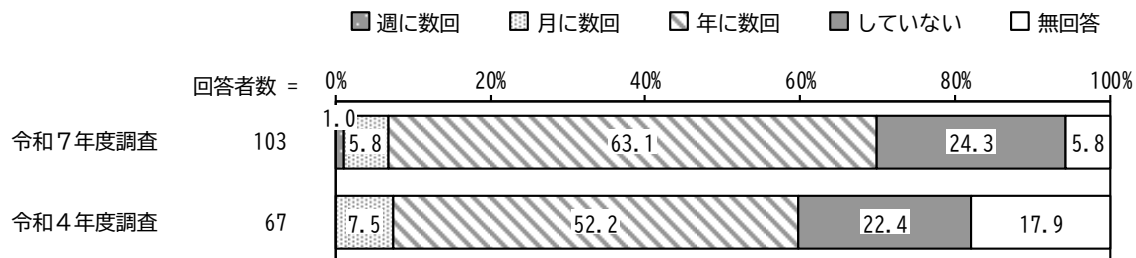
令和4年度調査と比較すると、「週に数回」「月に数回」「年に数回」を合わせた“している”の割合が増加しています。



2. 旅行やキャンプなどのレジャー活動

【経年比較】

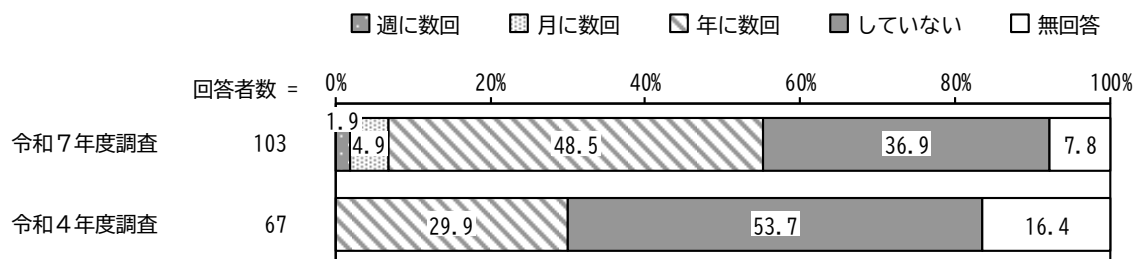
令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



3. コンサートや映画、展覧会やスポーツなどの鑑賞・観戦

【経年比較】

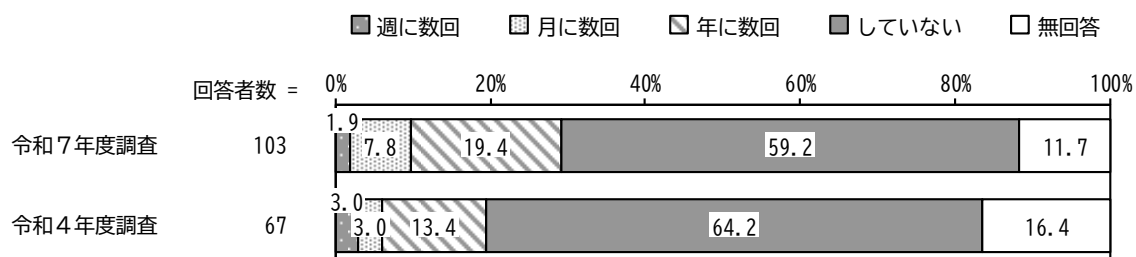
令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



4. 文化芸術などの作品の創作やその発表

【経年比較】

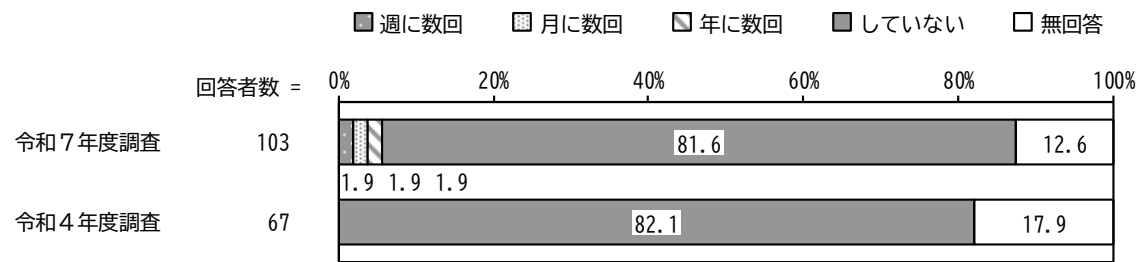
令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



5. ボランティア活動

【経年比較】

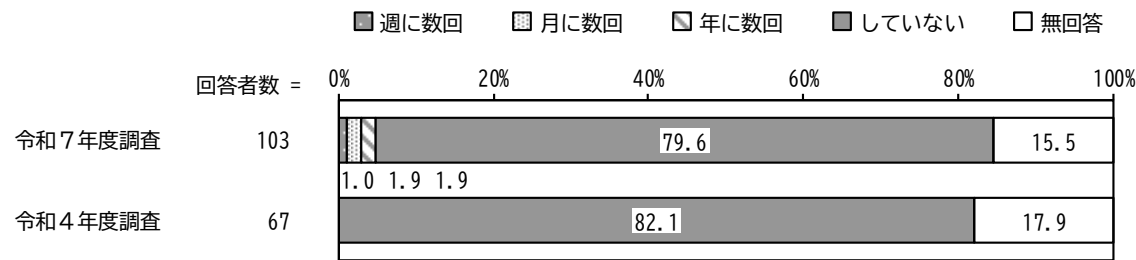
令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



6. 障害者団体の活動

【経年比較】

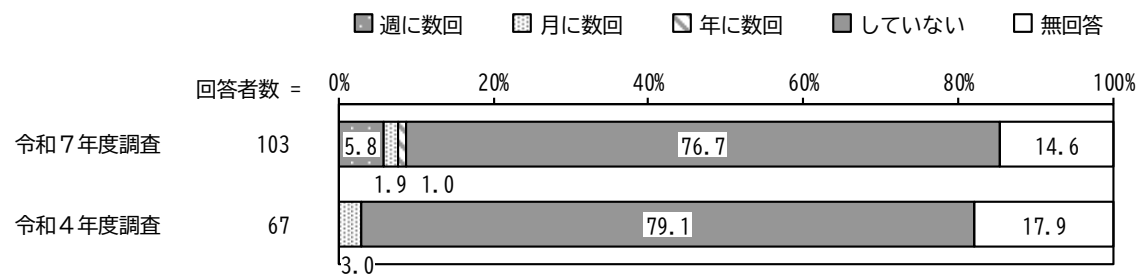
令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



7. 趣味などのサークル活動

【経年比較】

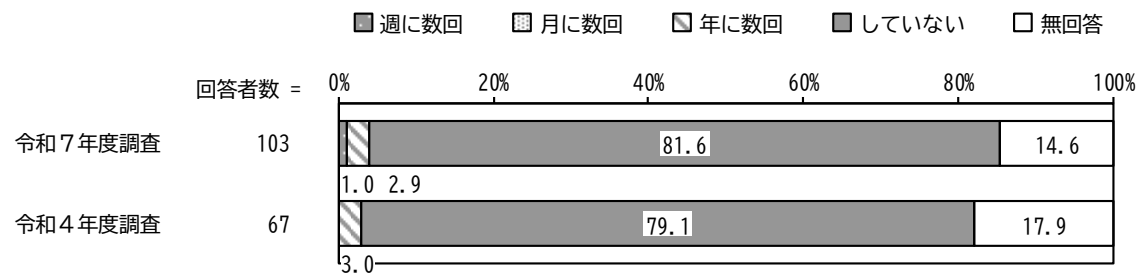
令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



8. 講座や講演会などへの参加

【経年比較】

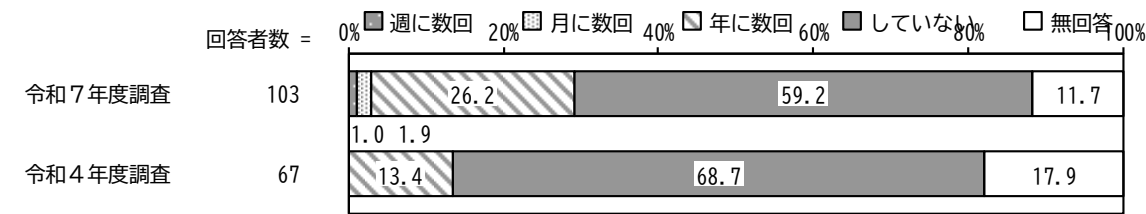
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



9. 自治会活動や地域の行事

【経年比較】

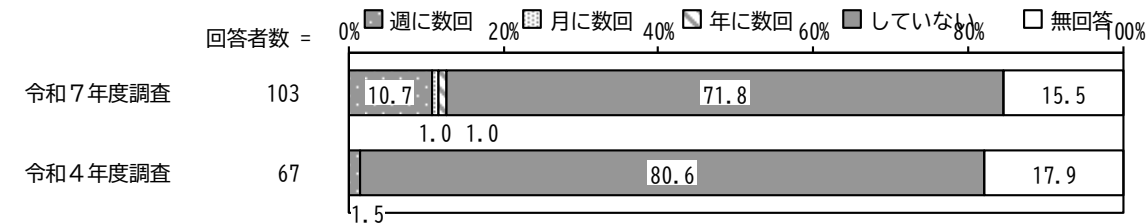
令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



10. インターネットやメール等を利用した交流

【経年比較】

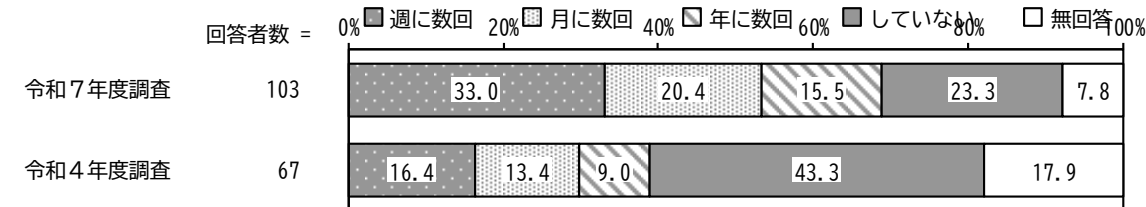
令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



11. 仲間・友人同士での交流

【経年比較】

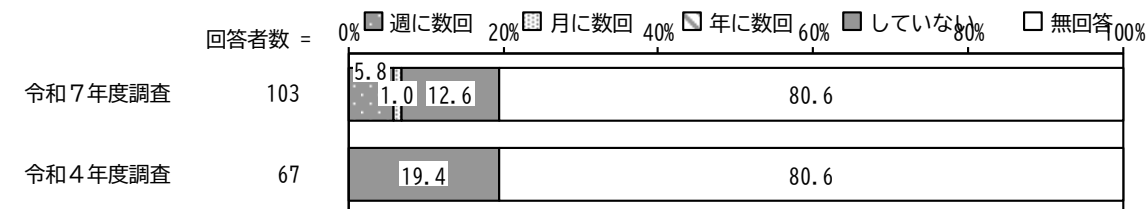
令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



12. その他

【経年比較】

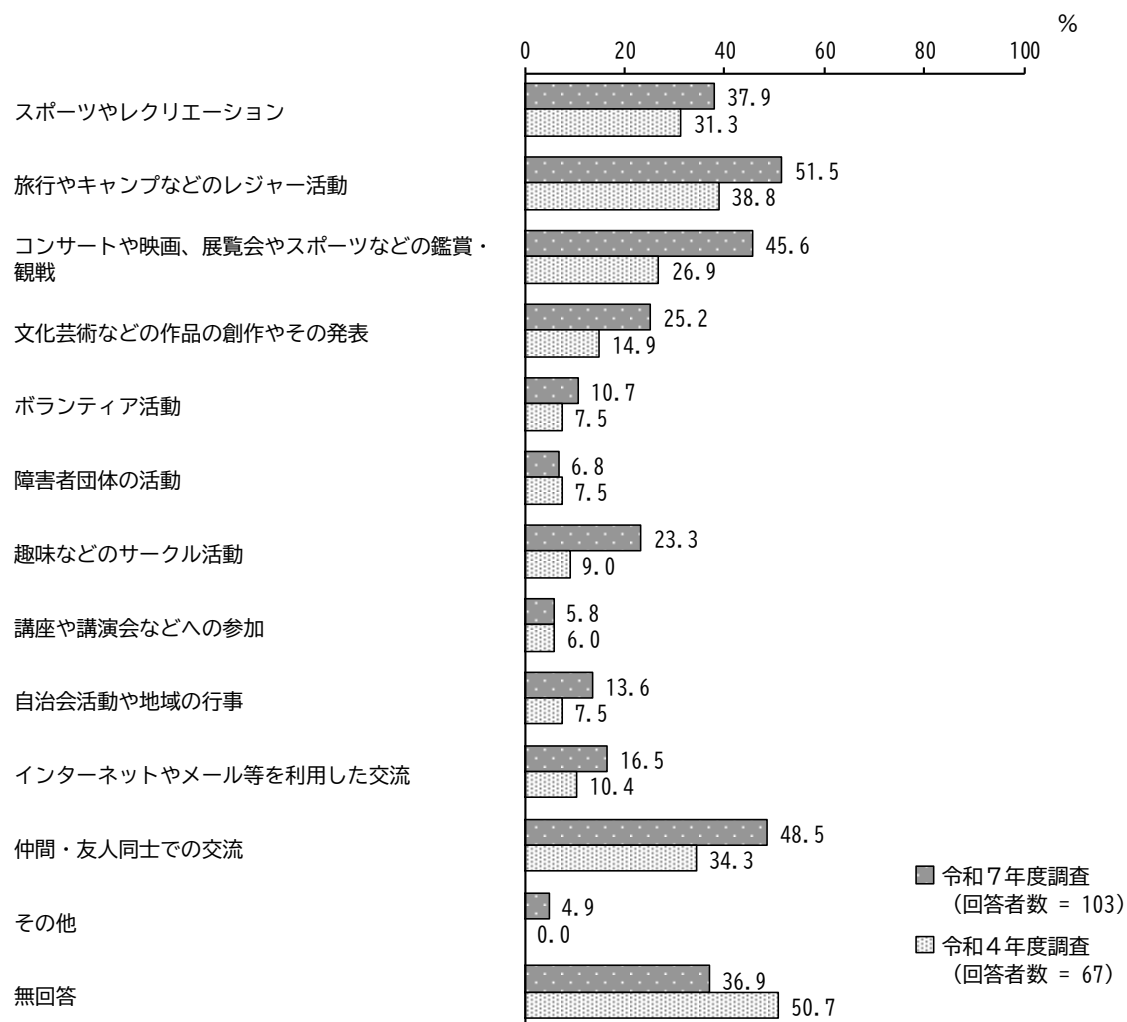
令和4年度調査と比較すると、“している”の割合が増加しています。



(2) 今後したいこと（あてはまるものすべてに○）

「旅行やキャンプなどのレジャー活動」の割合が 51.5%と最も高く、次いで「仲間・友人同士での交流」の割合が 48.5%、「コンサートや映画、展覧会やスポーツなどの鑑賞・観戦」の割合が 45.6%となっています。

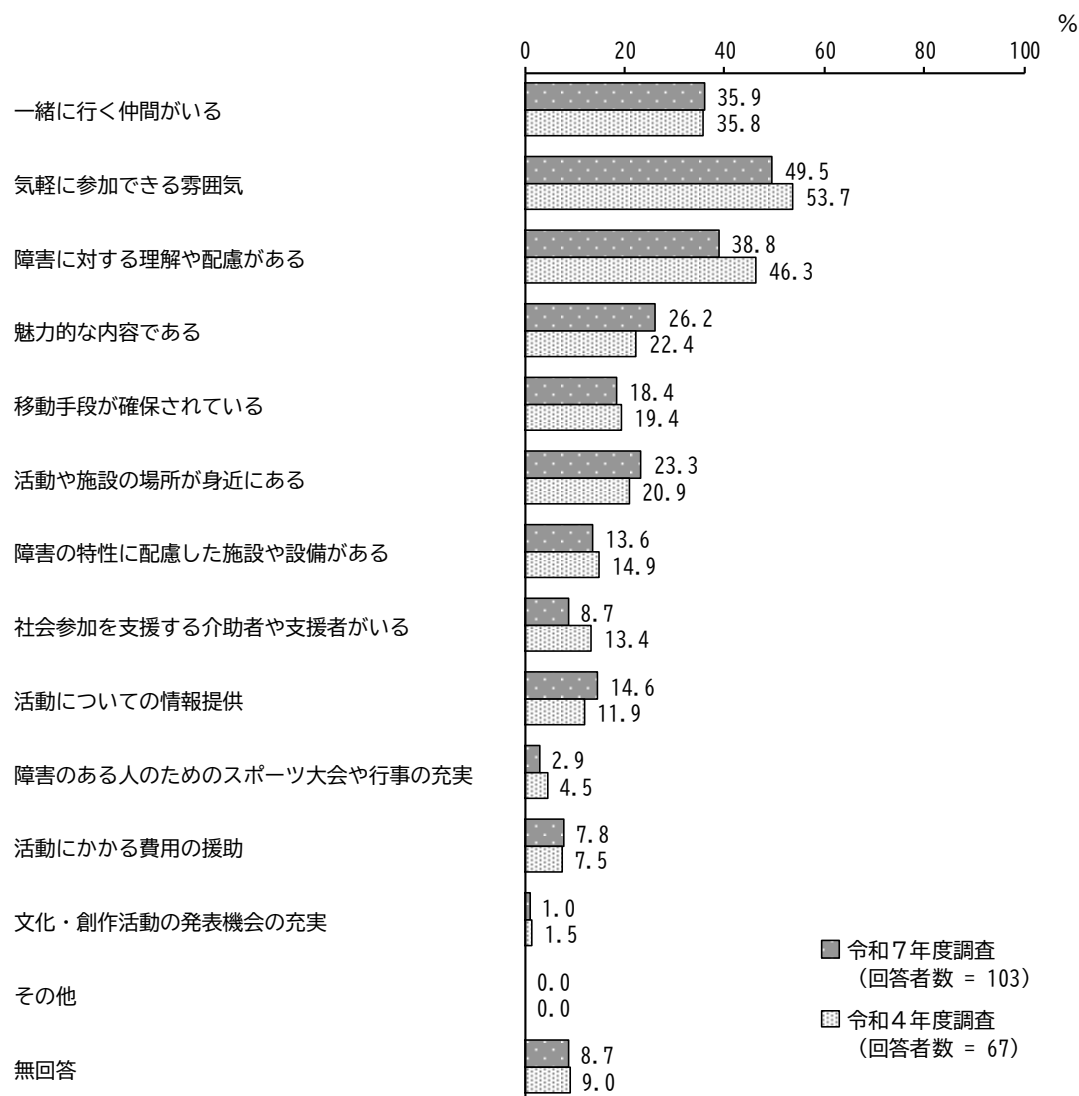
令和4年度調査と比較すると、「旅行やキャンプなどのレジャー活動」「コンサートや映画、展覧会やスポーツなどの鑑賞・観戦」「仲間・友人同士での交流」の割合が増加しています。



問 24 障害のある人が地域・社会活動に参加しやすくなるために、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまでに○）

「気軽に参加できる雰囲気」の割合が49.5%と最も高く、次いで「障害に対する理解や配慮がある」の割合が38.8%、「一緒に行く仲間がいる」の割合が35.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「障害に対する理解や配慮がある」の割合が減少しています。

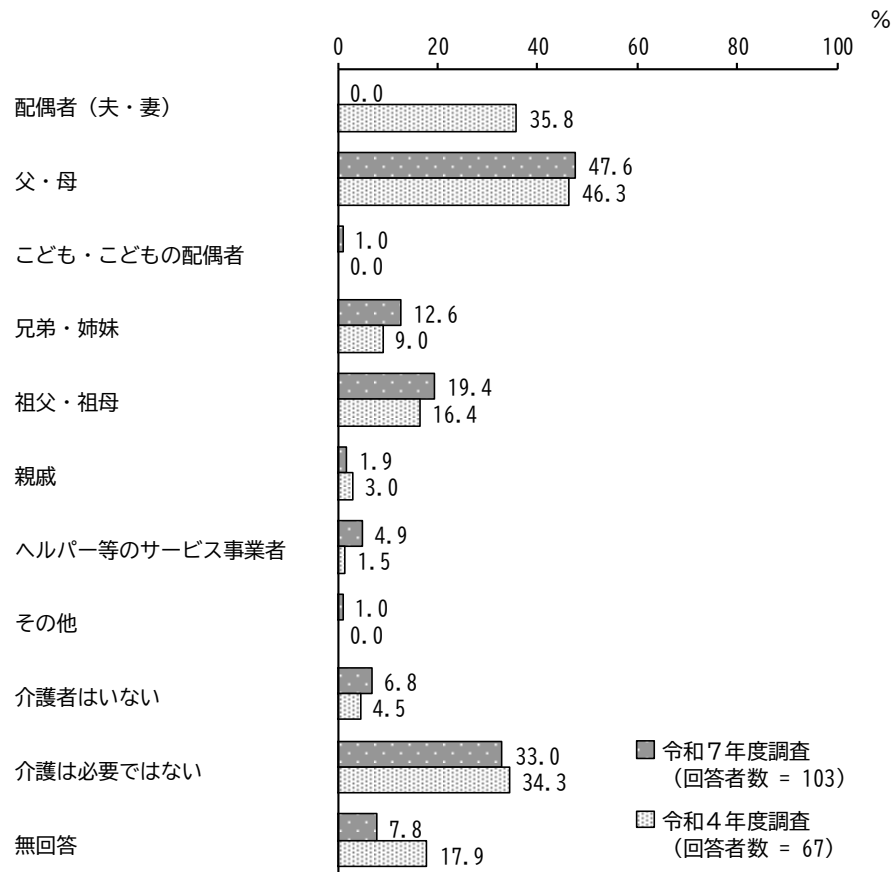


9. 介護の状況について（全員にお聞きします）

問 25 あなたの介護に関わっているすべての方をお答えください。
（あてはまるものすべてに○）

「父・母」の割合が47.6%と最も高く、次いで「祖父・祖母」の割合が19.4%、「兄弟・姉妹」の割合が12.6%となっています。

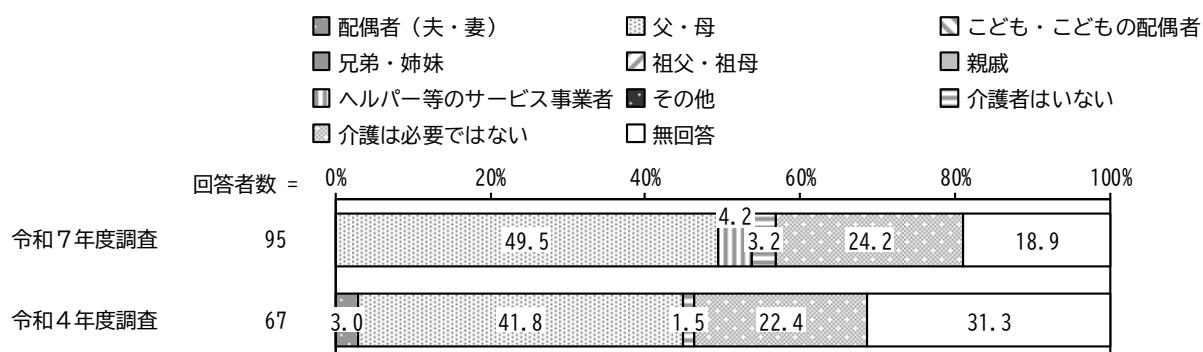
令和4年度調査と比較すると、「配偶者（夫・妻）」の割合が減少しています。



問 26 問 25 で回答した人のうち、あなたを主に介護しているのはどなたですか。
(1 つに○)

「父・母」の割合が 49.5%と最も高くなっています。

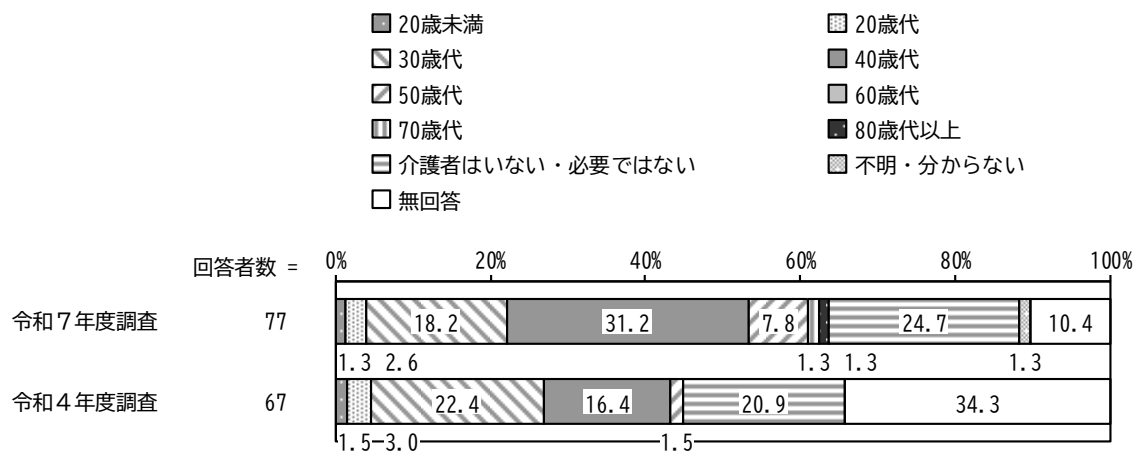
令和 4 年度調査と比較すると、「父・母」の割合が増加しています。



問 27 問 26 で回答した、あなたを主に介護をしている方の年齢はおいくつですか。
(1 つに○)

「40 歳代」の割合が 31.2%と最も高く、次いで「30 歳代」の割合が 18.2%となっています。

令和 4 年度調査と比較すると、「40 歳代」「50 歳代」の割合が増加しています。



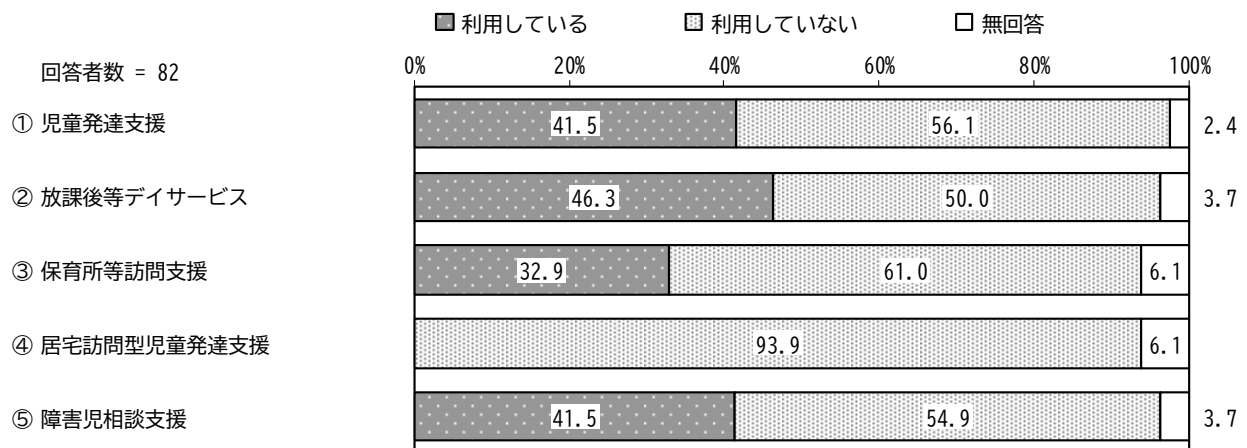
10. 障害児通所サービス・障害福祉サービスの利用について

問 28 あなたは、(1) 次のサービスを利用していますか。また、(2) これから利用したいですか。①～③のサービスごとに、「(1) 現在の利用」と「(2) 今後3年以内の利用希望」の両方をお答えください。(番号に○をしてください)

【①～⑤は 18 歳未満の方がご回答ください】【⑥～⑮は 18 歳以上の方がご回答ください】

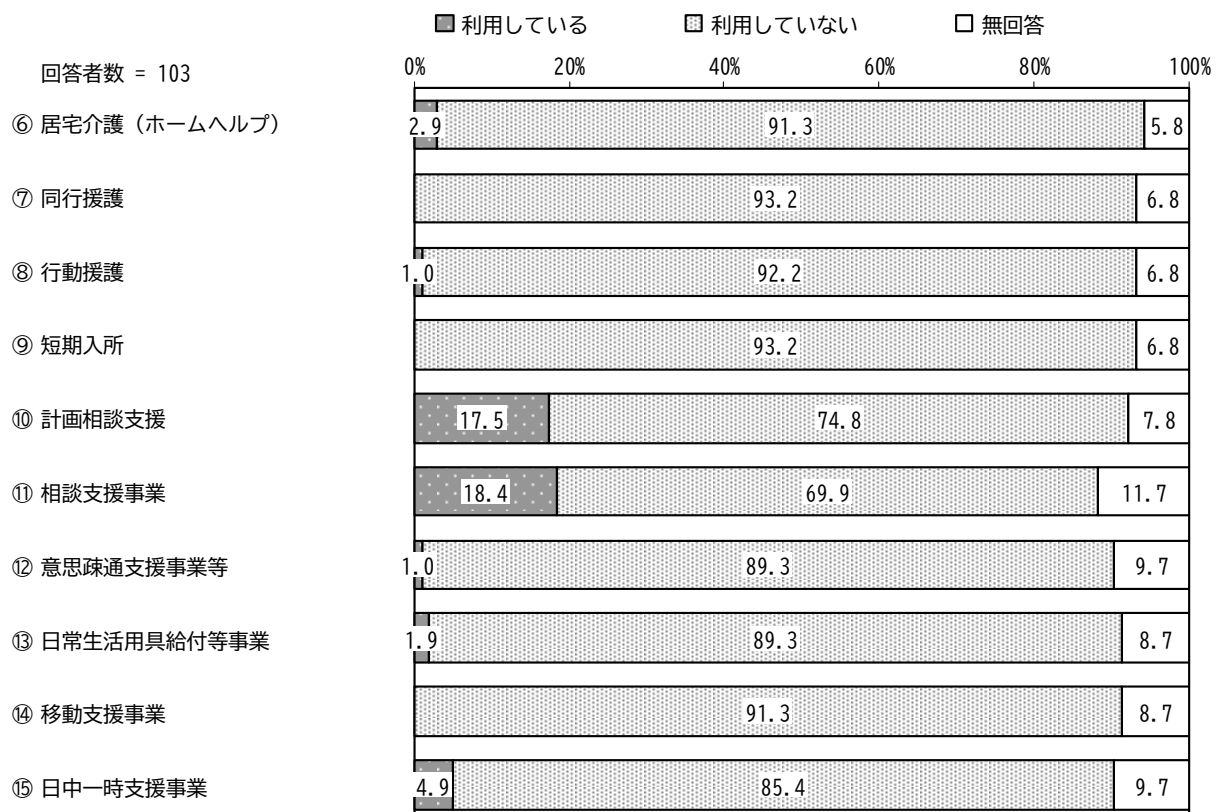
(1) 現在の利用 18 歳未満

『②放課後等デイサービス』で「利用している」が、『④居宅訪問型児童発達支援』で「利用していない」が高くなっています。



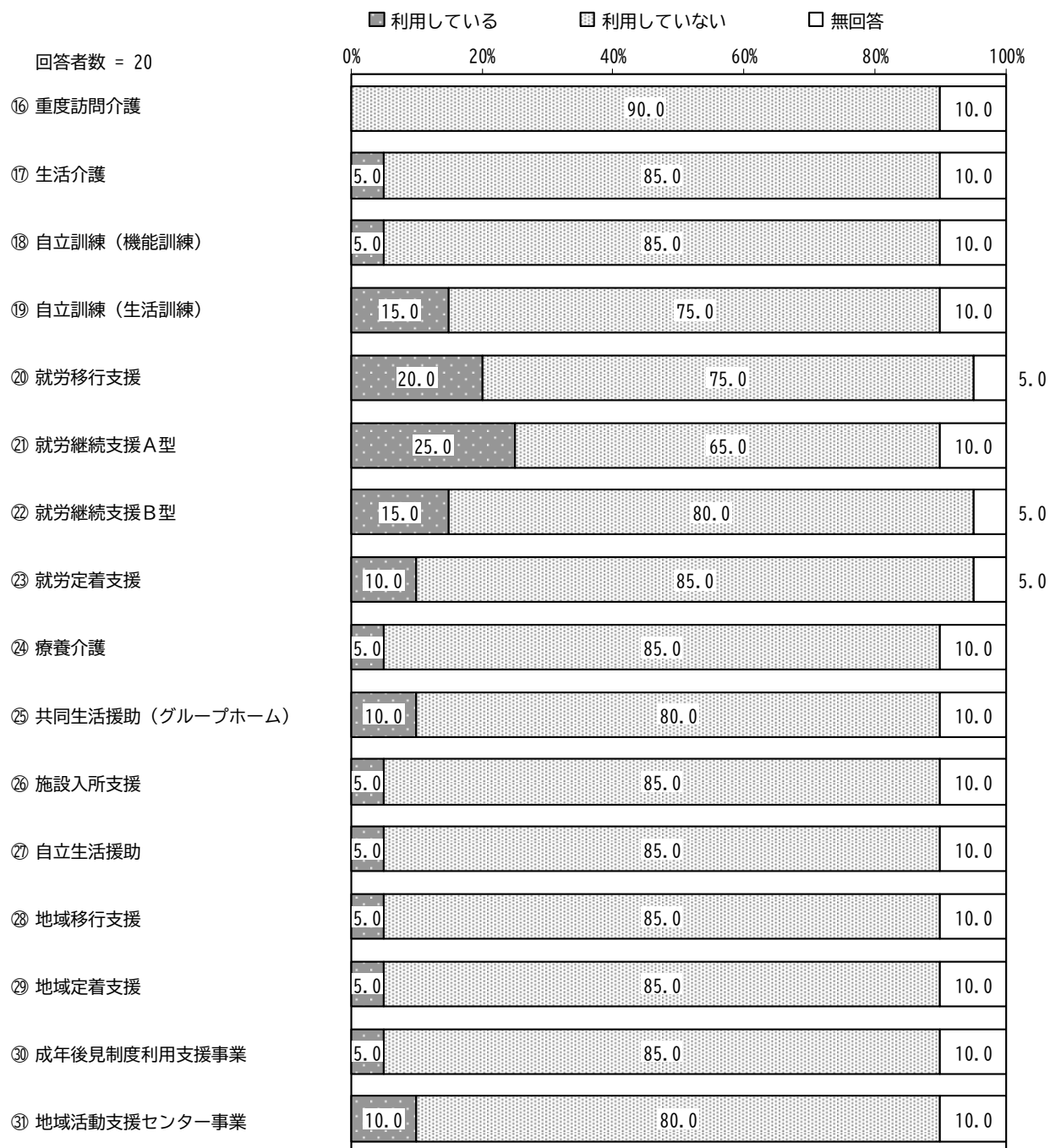
(1) 現在の利用 全年齢

『⑪相談支援事業』で「利用している」が、『⑦同行援護』『⑨短期入所』で「利用していない」が高くなっています。



(1) 現在の利用 18歳以上

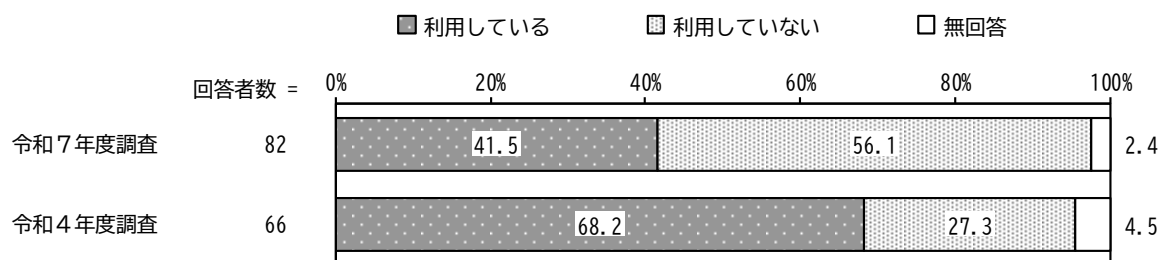
『②就労継続支援A型』で「利用している」が、『⑬重度訪問介護』で「利用していない」が高くなっています。



①児童発達支援

【経年比較】

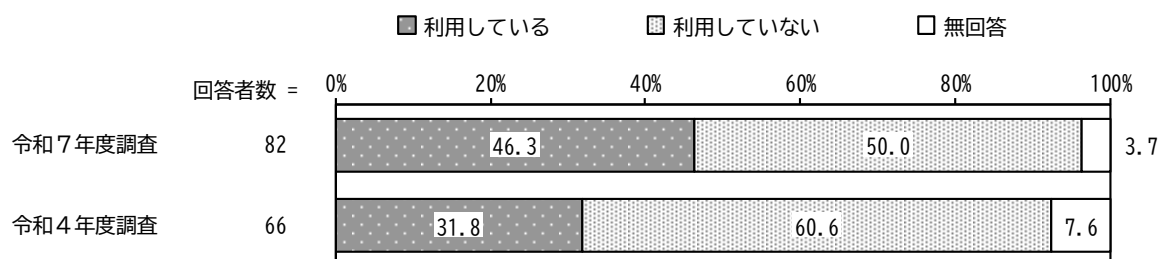
令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が減少しています。



②放課後等デイサービス

【経年比較】

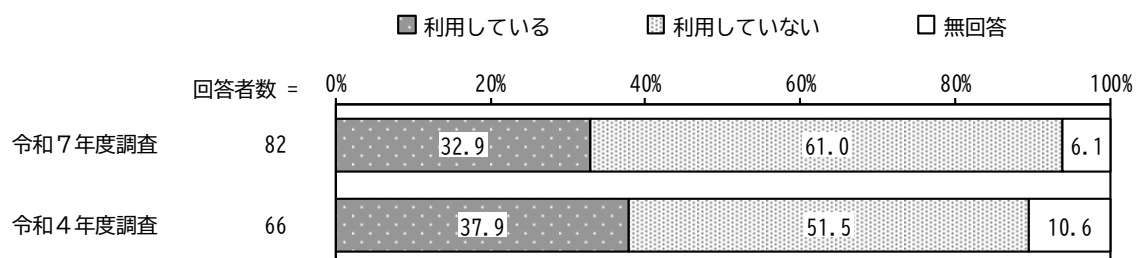
令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が増加しています。



③保育所等訪問支援

【経年比較】

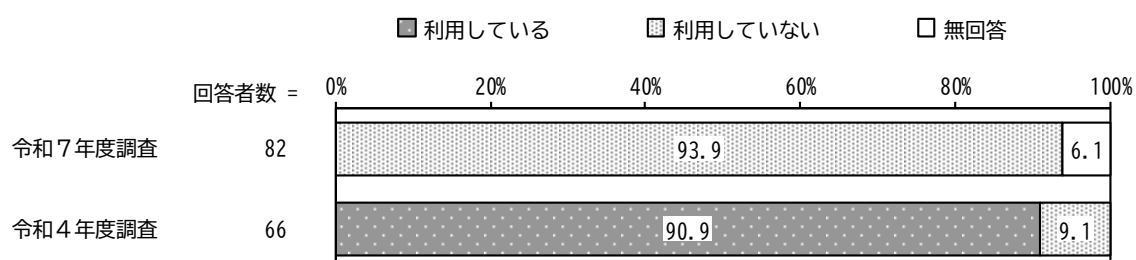
令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が減少しています。



④居宅訪問型児童発達支援

【経年比較】

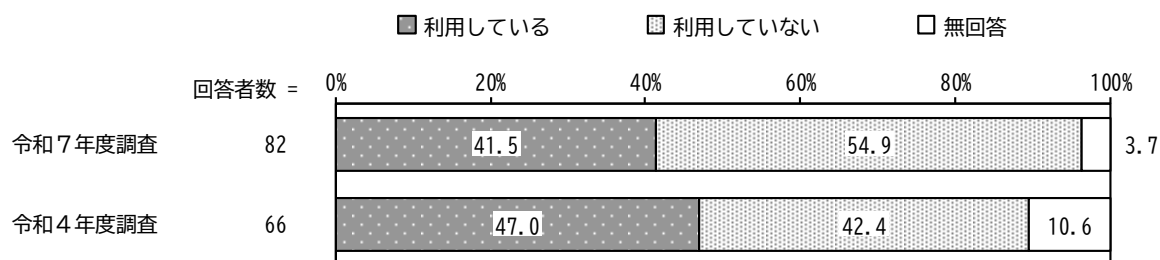
令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が減少しています。



⑤障害児相談支援

【経年比較】

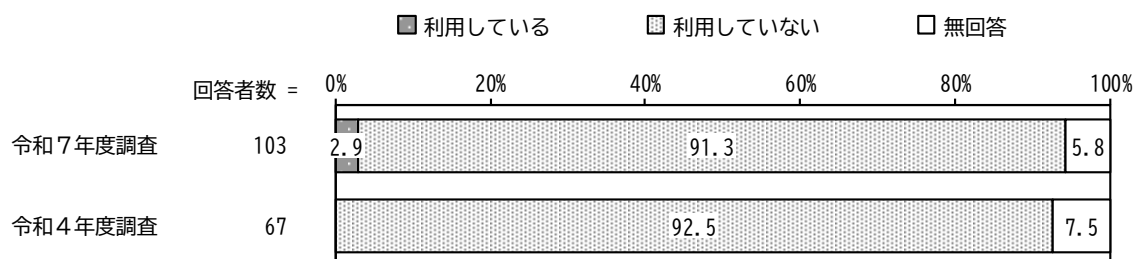
令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が減少しています。



⑥居宅介護（ホームヘルプ）

【経年比較】

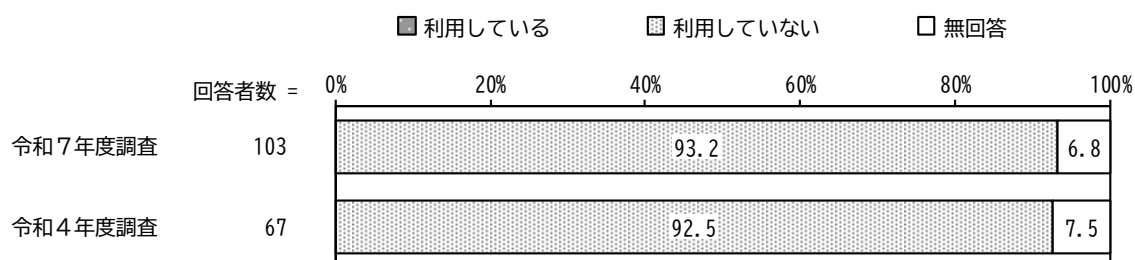
令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が増加しています。



⑦同行援護

【経年比較】

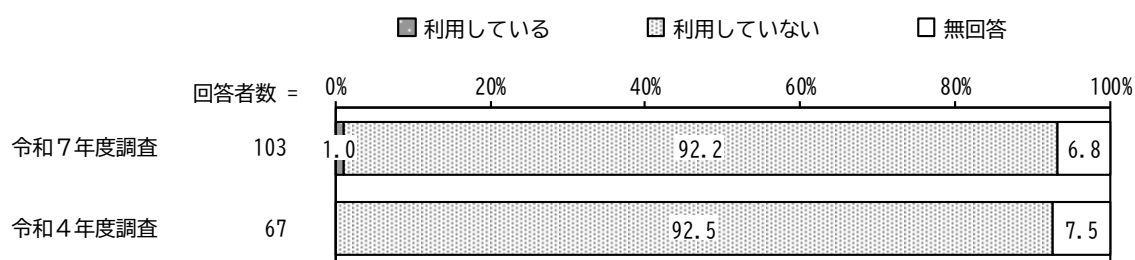
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑧行動援護

【経年比較】

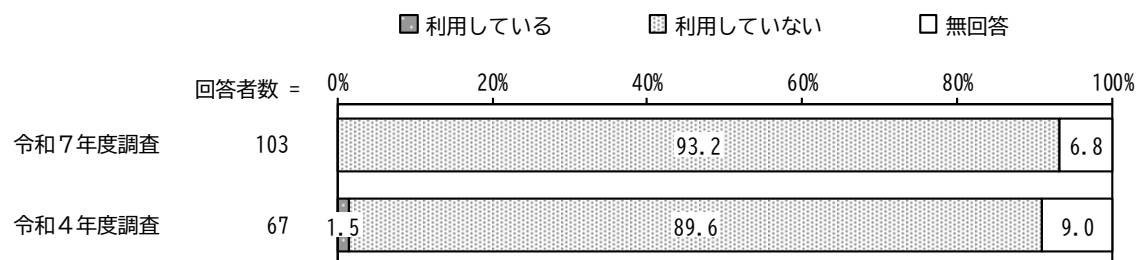
令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が増加しています。



⑨短期入所

【経年比較】

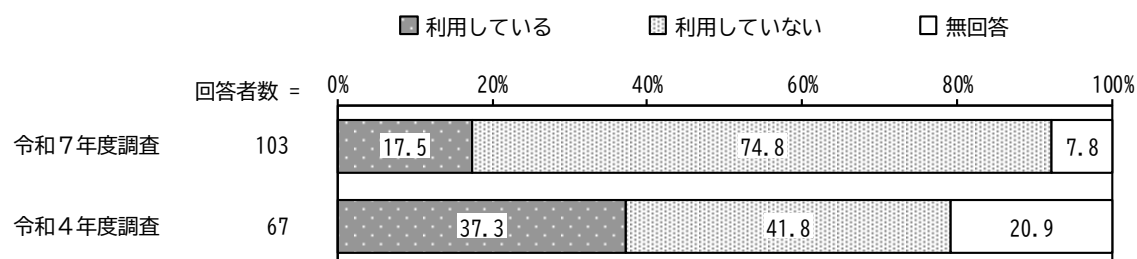
令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が減少しています。



⑩計画相談支援

【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が減少しています。



⑪相談支援事業

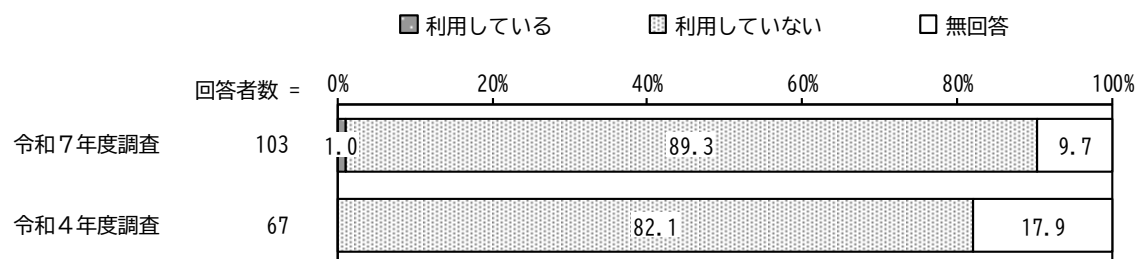
【経年比較】

令和4年度調査には同様の設問がありませんでした。

⑫意思疎通支援事業等

【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が増加しています。



⑬日常生活用具給付等事業

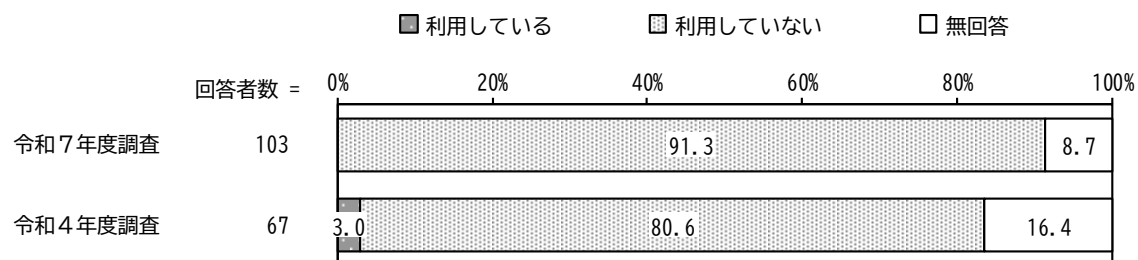
【経年比較】

令和4年度調査には同様の設問がありませんでした。

⑭移動支援事業

【経年比較】

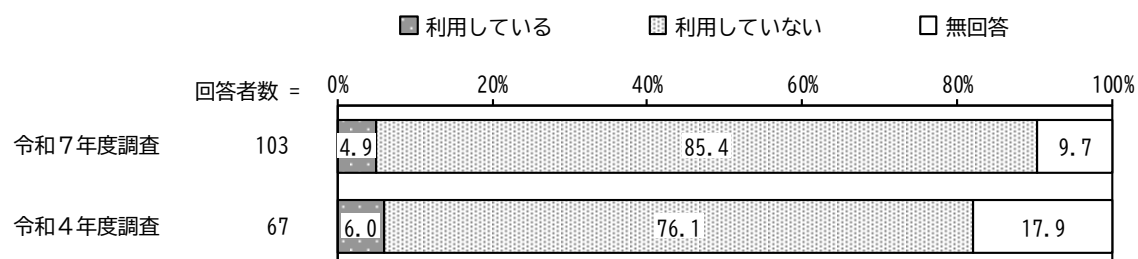
令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が減少しています。



⑮日中一時支援事業

【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用している」の割合が減少しています。

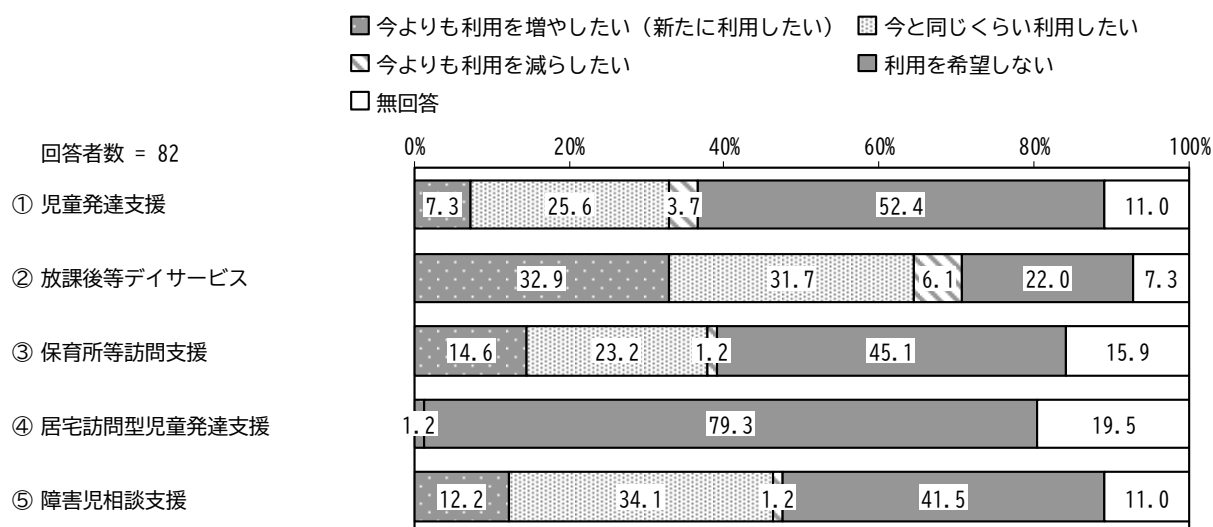


※⑯は、令和4年度調査と調査対象が異なり、比較ができないため掲載していません。

※⑰～⑳は、令和4年度調査の回答者数が1名となっており、比較ができないため掲載していません。

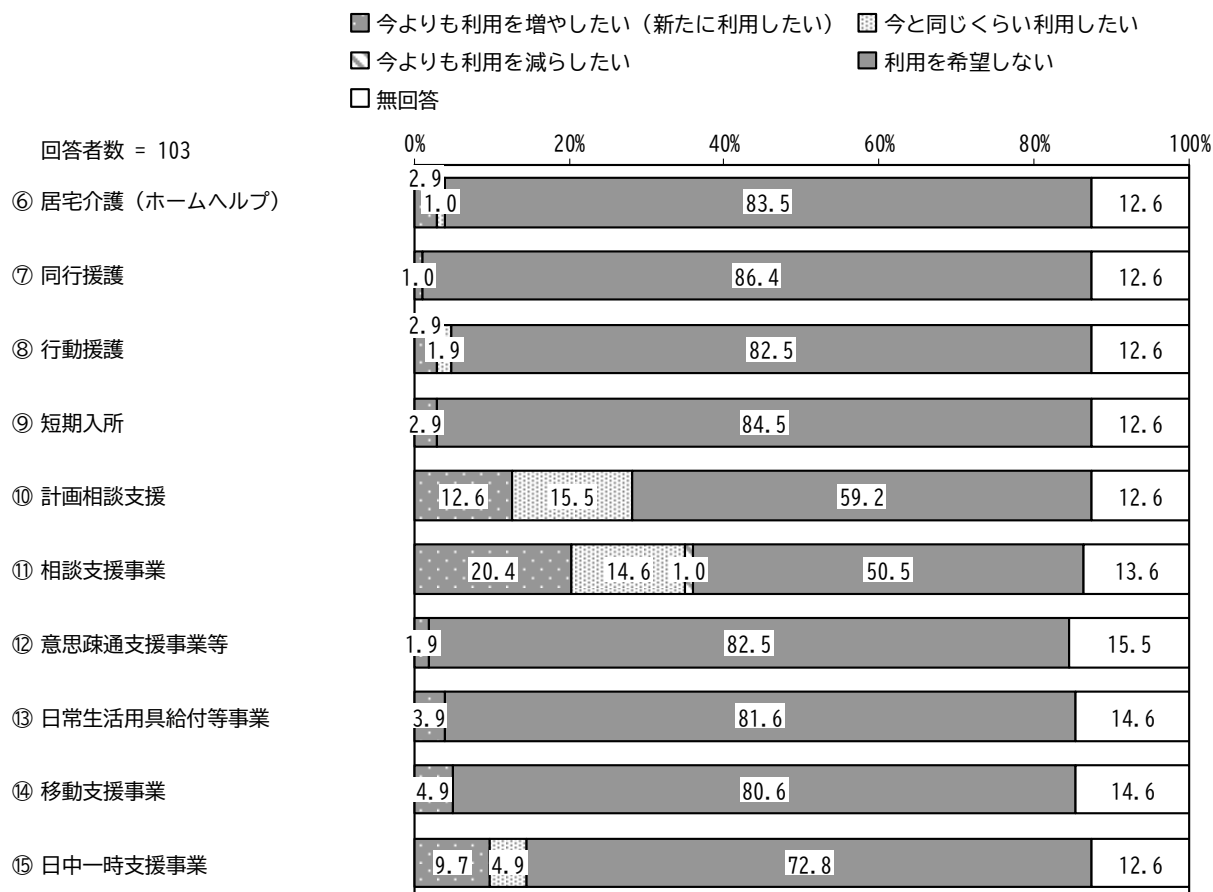
（２）今後３年以内の利用希望 18歳未満

『②放課後等デイサービス』で「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」「今よりも利用を減らしたい」が、『⑤障害児相談支援』で「今と同じくらい利用したい」が、『④居宅訪問型児童発達支援』で「利用を希望しない」が高くなっています。



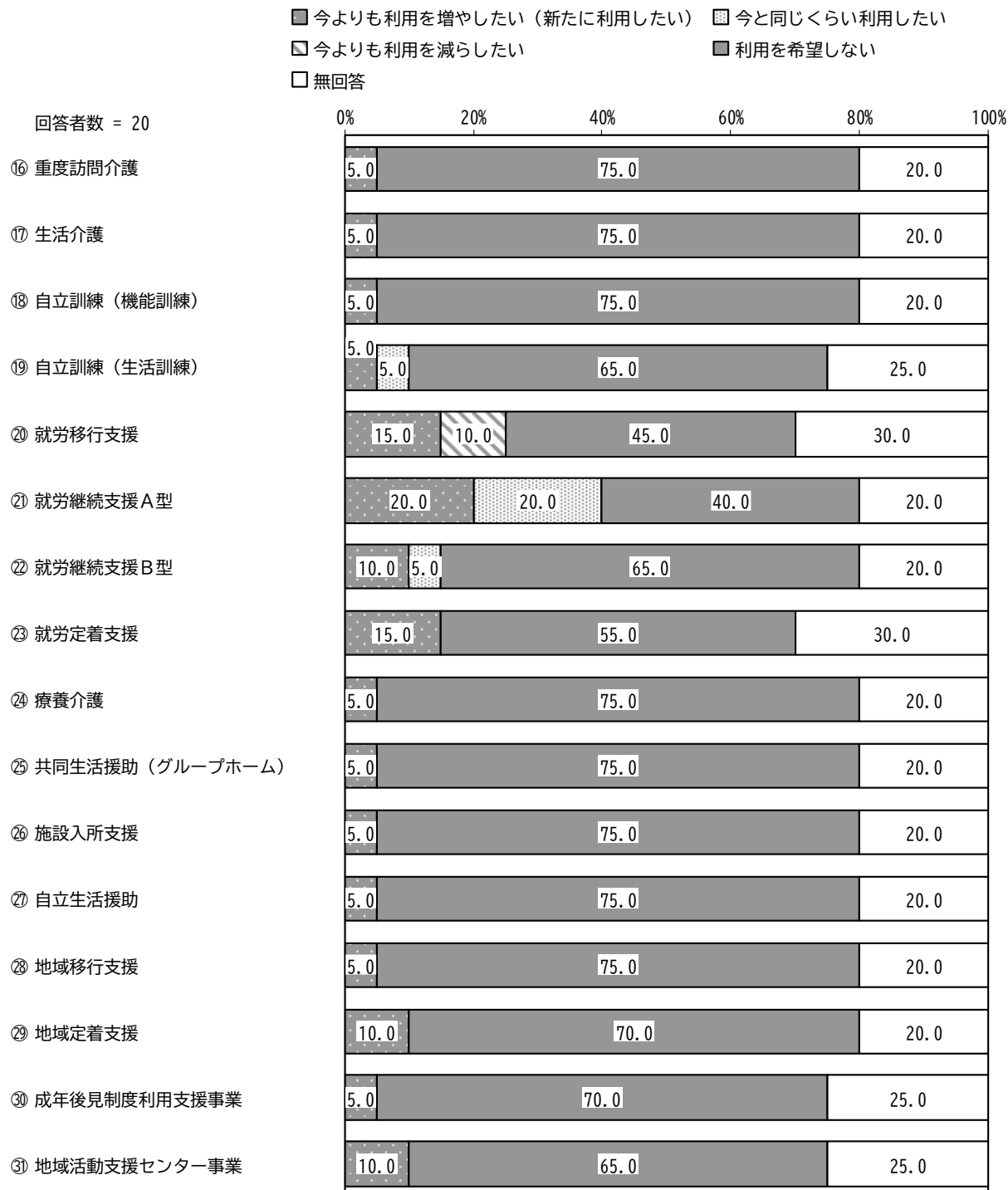
（２）今後３年以内の利用希望 全年齢

『⑪相談支援事業』で「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」「今よりも利用を減らしたい」が、『⑩計画相談支援』で「今と同じくらい利用したい」が、『⑦同行援護』で「利用を希望しない」が高くなっています。



(2) 今後3年以内の利用希望 18歳以上

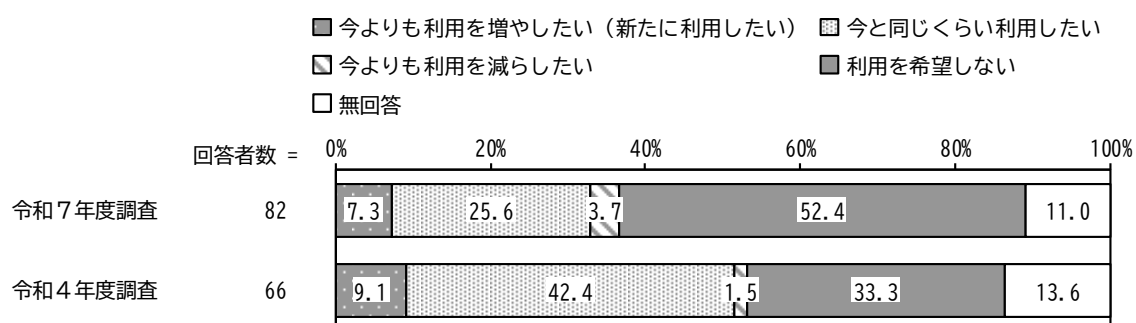
『②就労継続支援A型』で「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」「今と同じくらい利用したい」が、『②⑩就労移行支援』で「今よりも利用を減らしたい」が、『①⑥重度訪問介護』『①⑦生活介護』『①⑧自立訓練（機能訓練）』『②④療養介護』『②⑤共同生活援助（グループホーム）』『②⑥施設入所支援』『②⑦自立生活援助』『②⑧地域移行支援』で「利用を希望しない」が高くなっています。



①児童発達支援

【経年比較】

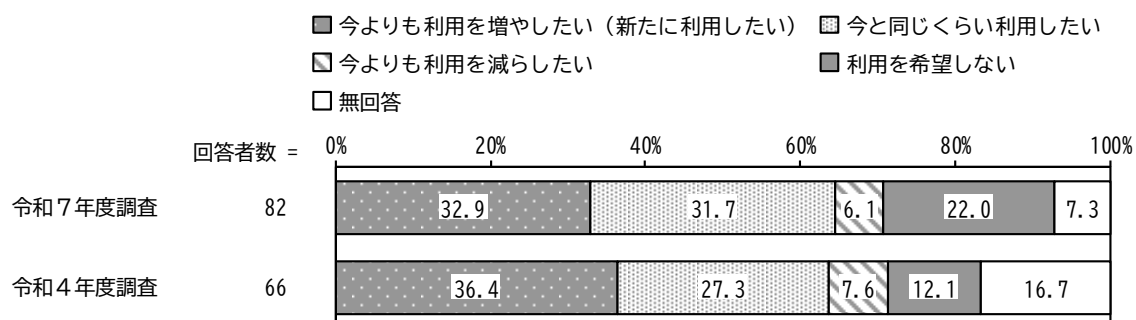
令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が減少しています。



②放課後等デイサービス

【経年比較】

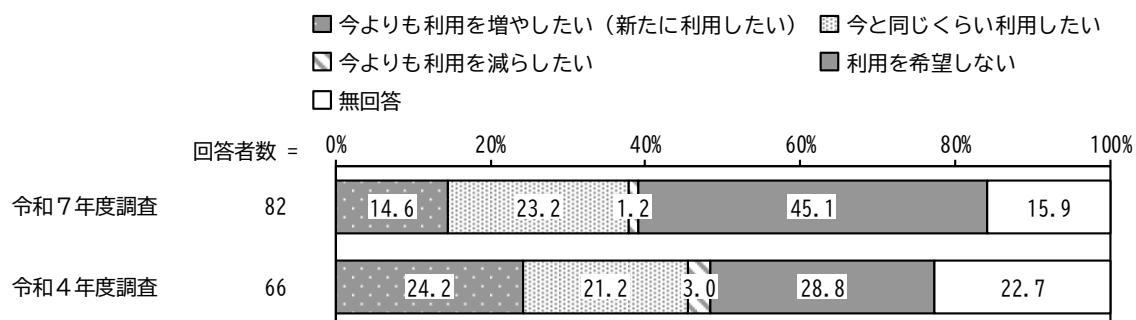
令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が減少しています。



③保育所等訪問支援

【経年比較】

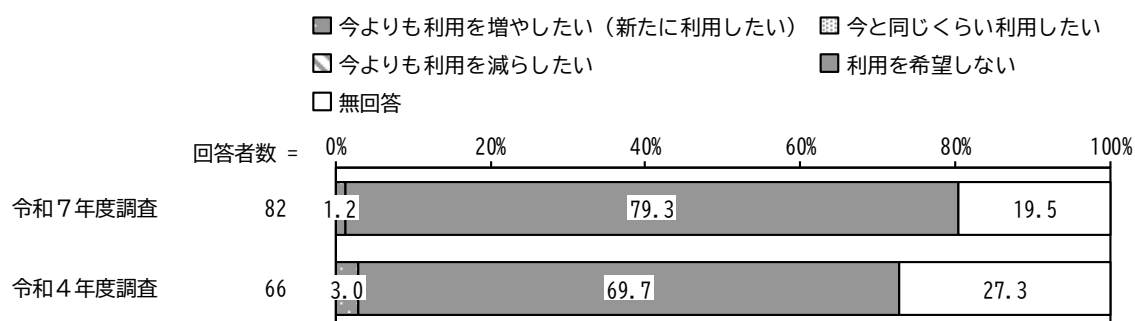
令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が減少しています。



④居宅訪問型児童発達支援

【経年比較】

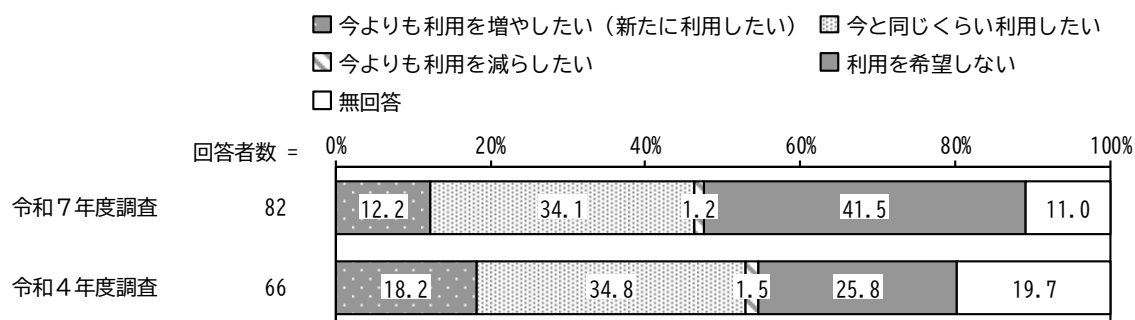
令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が減少しています。



⑤障害児相談支援

【経年比較】

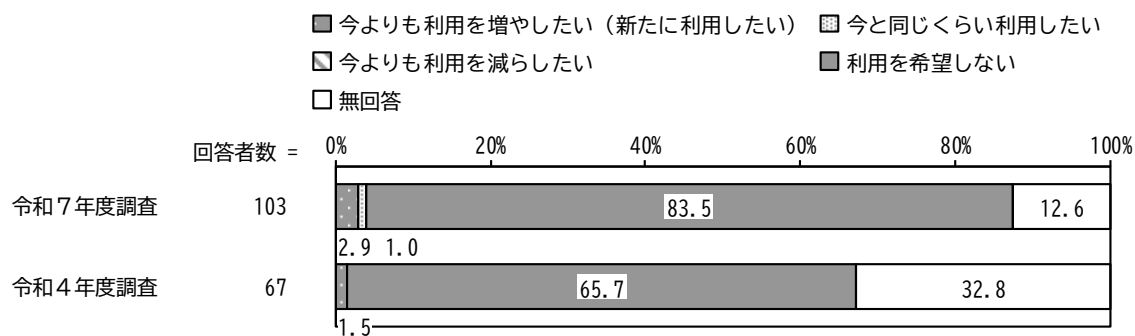
令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が減少しています。



⑥居宅介護（ホームヘルプ）

【経年比較】

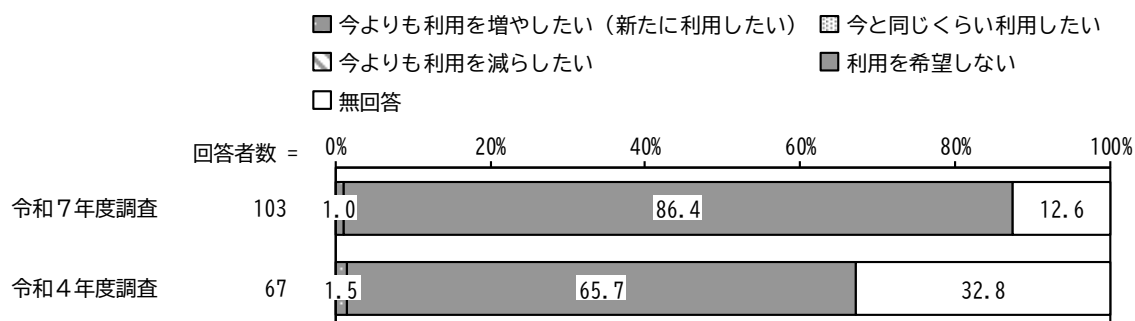
令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



⑦同行援護

【経年比較】

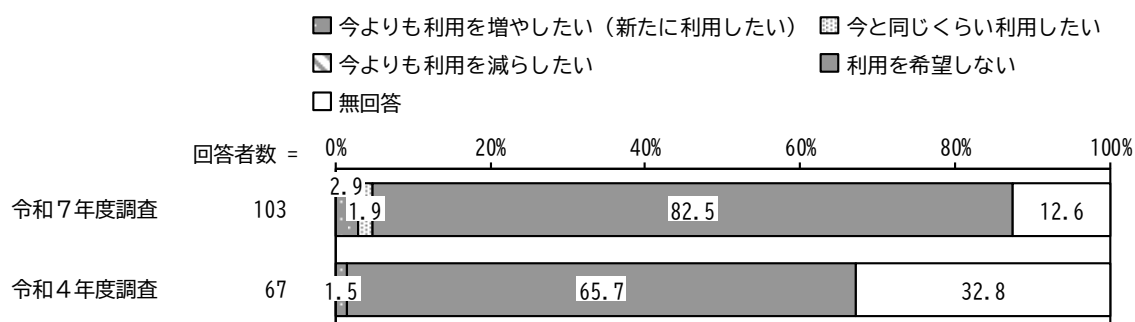
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



⑧行動援護

【経年比較】

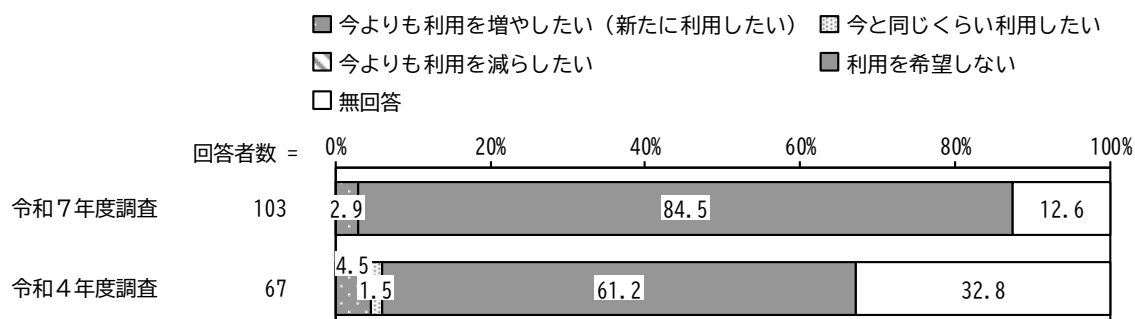
令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



⑨短期入所

【経年比較】

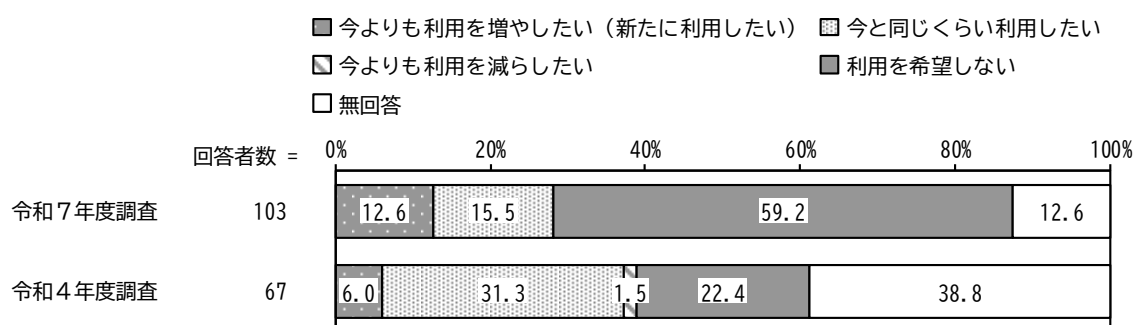
令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が減少しています。



⑩計画相談支援

【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が増加しています。



⑪相談支援事業

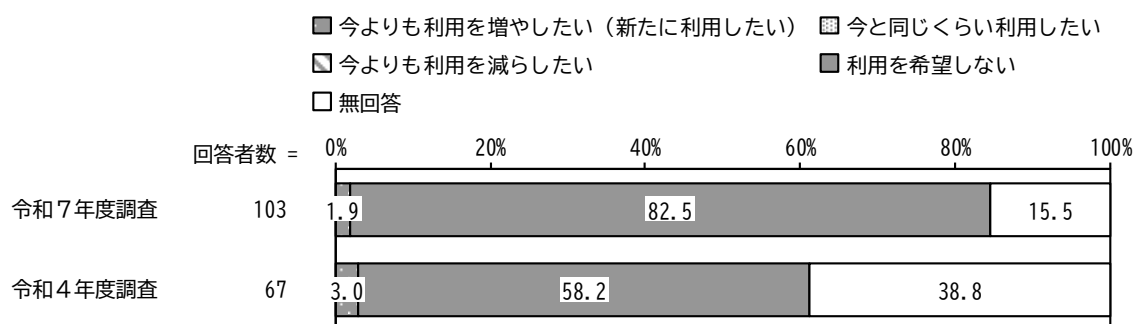
【経年比較】

令和4年度調査には同様の設問がありませんでした。

⑫意思疎通支援事業等

【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が減少しています。



⑬日常生活用具給付等事業

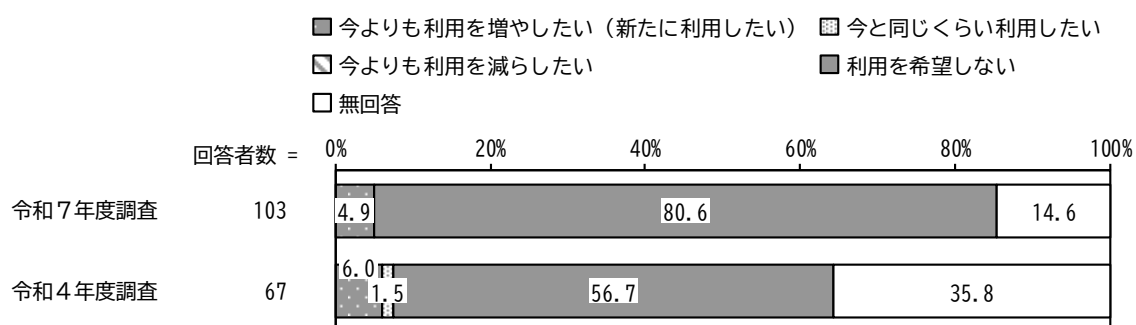
【経年比較】

令和4年度調査には同様の設問がありませんでした。

⑭移動支援事業

【経年比較】

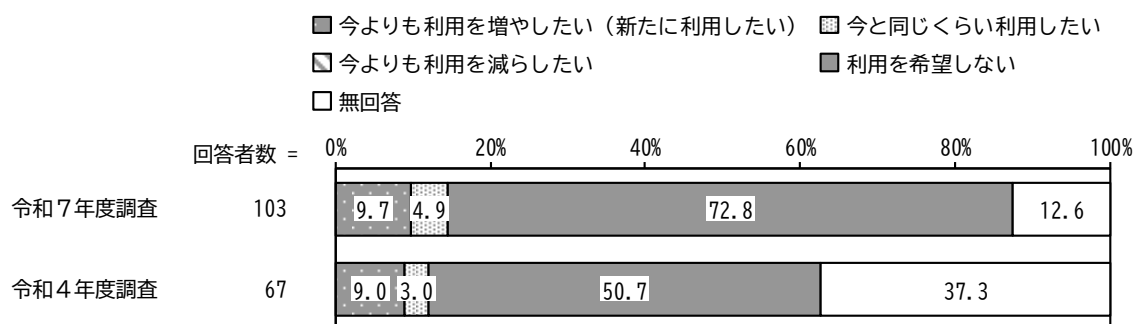
令和4年度調査と比較すると、「今よりも利用を増やしたい（新たに利用したい）」の割合が減少しています。



⑮日中一時支援事業

【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



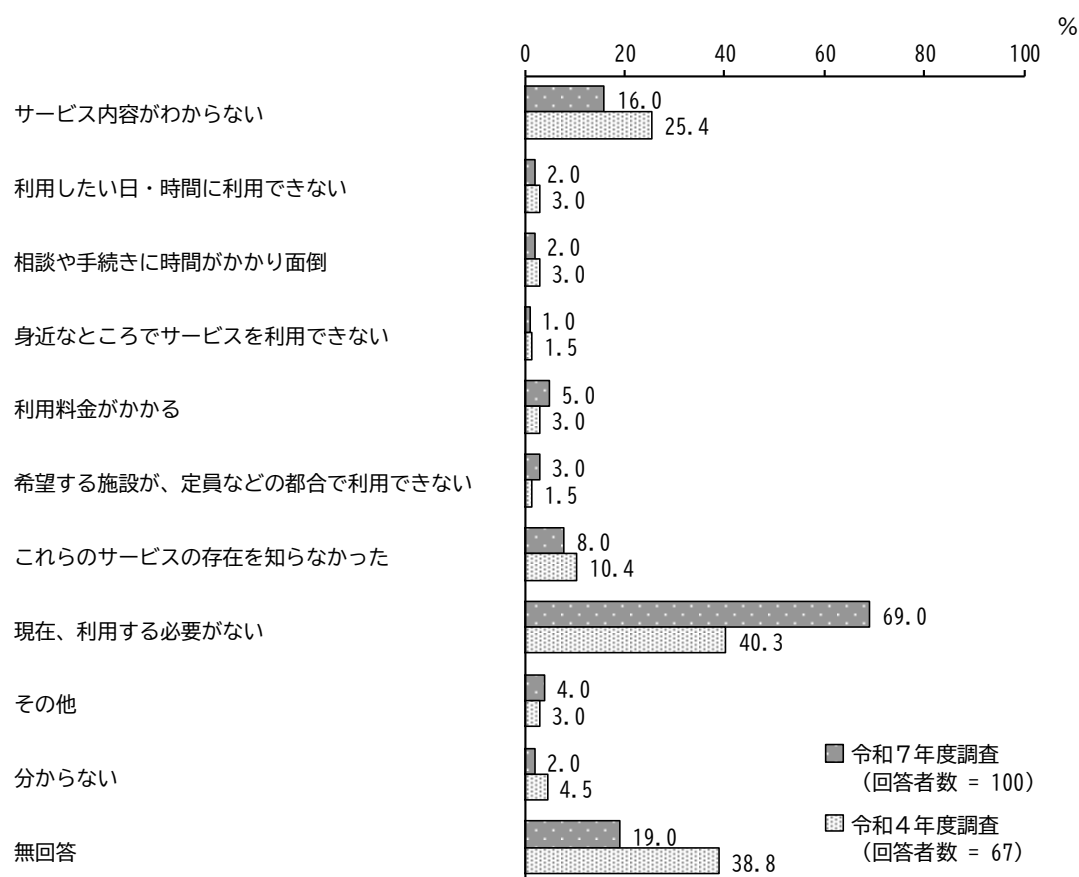
※⑯は、令和4年度調査と調査対象が異なり、比較ができないため掲載していません。

※⑰～⑳は、令和4年度調査の回答者数が1名となっており、比較ができないため掲載していません。

問 29 【問 28 のサービスで一つでも（１）現在の利用で「利用していない」、（２）今後３年以内の利用希望で「利用を希望しない」を選択された方にお聞きします。】
 現在、利用されていない理由、または今後利用を希望されない理由は何ですか。
 （あてはまるものすべてに○）

「現在、利用する必要がない」の割合が 69.0%と最も高く、次いで「サービス内容がわからない」の割合が 16.0%となっています。

令和４年度調査と比較すると、「現在、利用する必要がない」の割合が増加しています。一方、「サービス内容がわからない」の割合が減少しています。

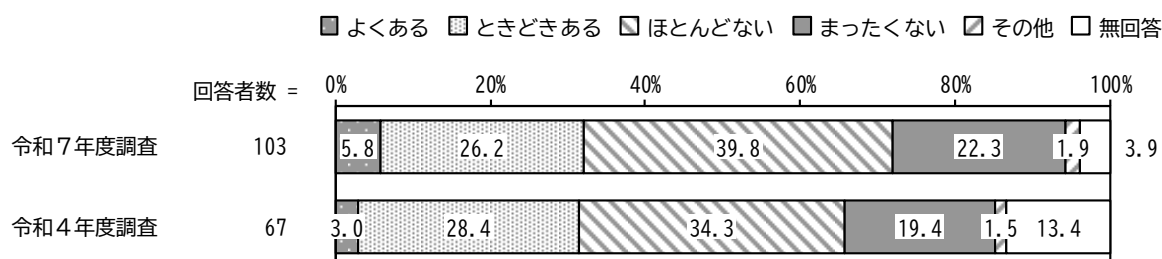


11. 権利擁護について（全員にお聞きします）

問 30 あなたは、差別を受けたり、嫌な思いをする（した）ことがありますか。（1つに○）

「よくある」「ときどきある」を合わせた“ある”の割合が32.0%、「ほとんどない」「まったくない」を合わせた“ない”の割合が62.1%となっています。

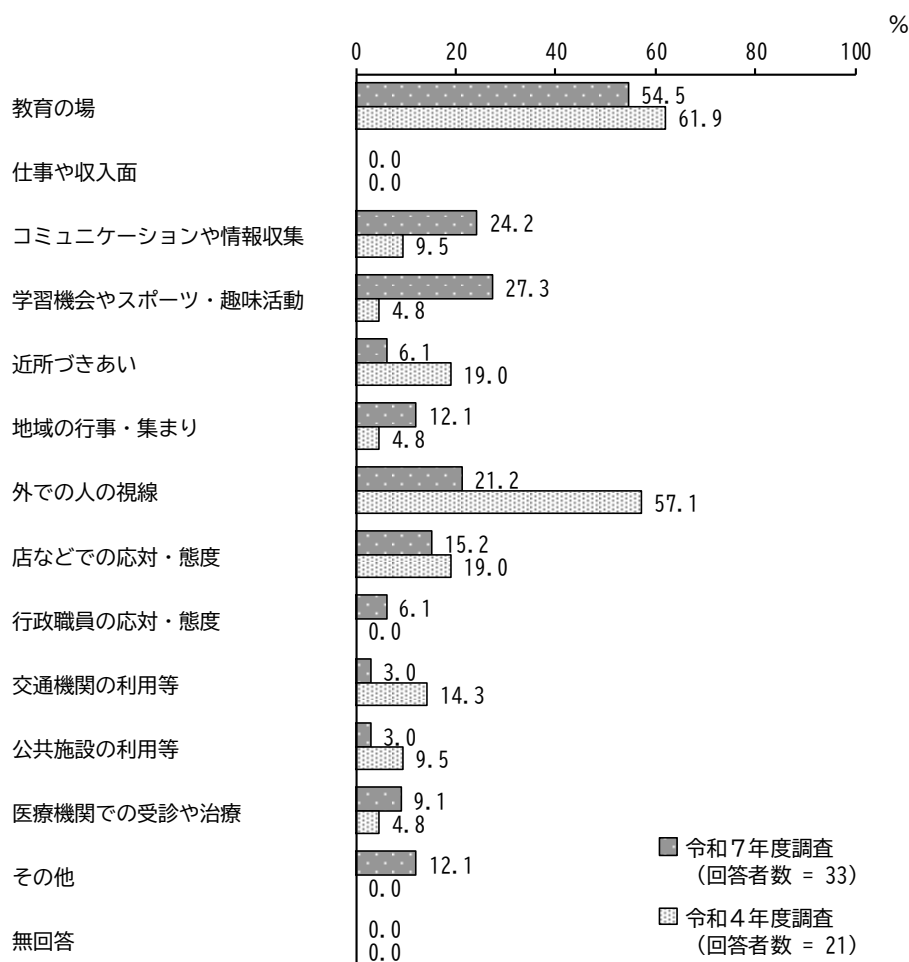
令和4年度調査と比較すると、“ない”の割合が増加しています。



問 31 【問 30 で「よくある」「ときどきある」を選択された方にお聞きします】
具体的にどのような場面で、差別を受けたり、嫌な思いをされましたか。
（あてはまるものすべてに○）

「教育の場」の割合が54.5%と最も高く、次いで「学習機会やスポーツ・趣味活動」の割合が27.3%、「コミュニケーションや情報収集」の割合が24.2%となっています。

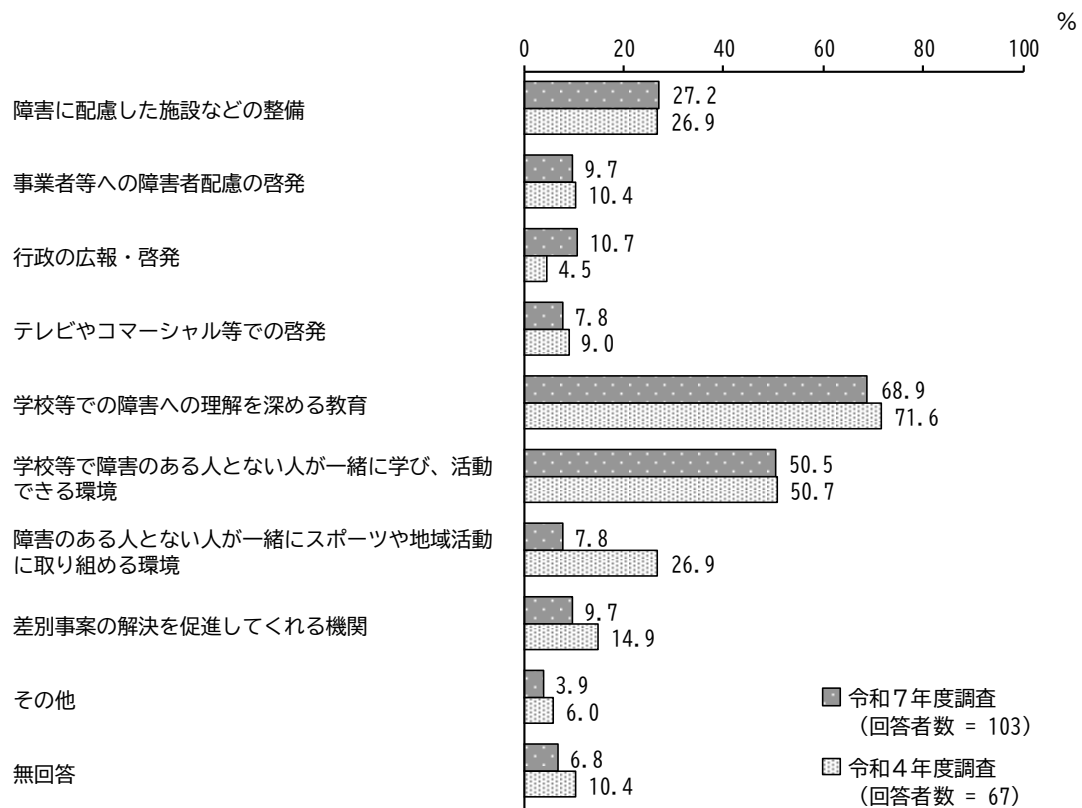
令和4年度調査と比較すると、「コミュニケーションや情報収集」「学習機会やスポーツ・趣味活動」「地域の行事・集まり」「行政職員の応対・態度」の割合が増加しています。一方、「教育の場」「近所づきあい」「外での人の視線」「交通機関の利用等」「公共施設の利用等」の割合が減少しています。



問 32 障害のある人に対する理解や差別解消のために必要なことは何だと思いますか。
(3つまでに○)

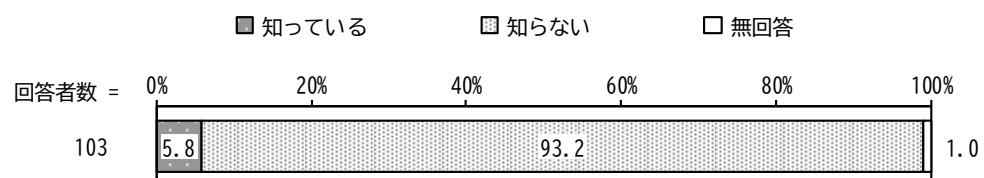
「学校等での障害への理解を深める教育」の割合が 68.9%と最も高く、次いで「学校等で障害のある人となない人が一緒に学び、活動できる環境」の割合が 50.5%、「障害に配慮した施設などの整備」の割合が 27.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「行政の広報・啓発」の割合が増加しています。一方、「障害のある人となない人が一緒にスポーツや地域活動に取り組める環境」「差別事案の解決を促進してくれる機関」の割合が減少しています。



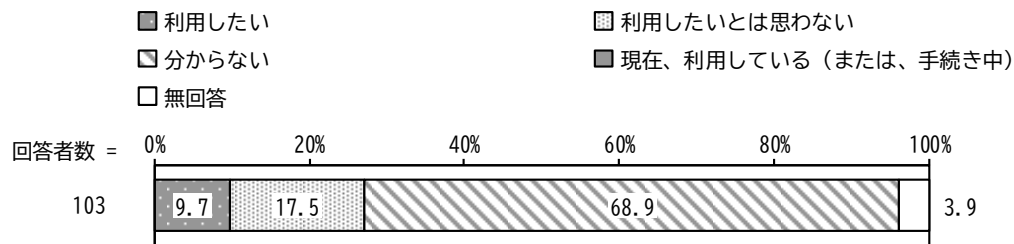
問 33 あなたは、「宇治市障害者・高齢者権利擁護センター」を知っていますか。
(1つに○)

「知っている」の割合が 5.8%、「知らない」の割合が 93.2%となっています。



問 34 あなたは、今後、「宇治市障害者・高齢者権利擁護センター」を利用したいですか。
(1つに○)

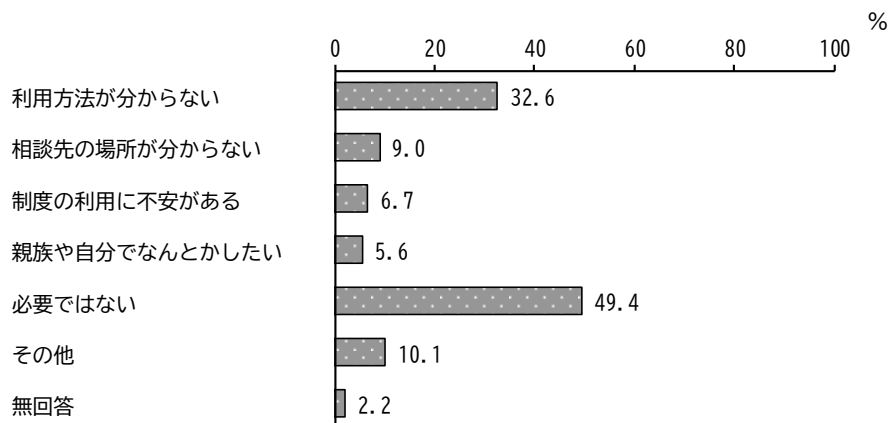
「利用したい」の割合が9.7%、「利用したいとは思わない」の割合が17.5%となっています。



問 35 【問 34 で「利用したいとは思わない」「分からない」を選択された方にお聞きします】
現在のところ、利用を検討されない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「必要ではない」の割合が49.4%と最も高く、次いで「利用方法が分からない」の割合が32.6%となっています。

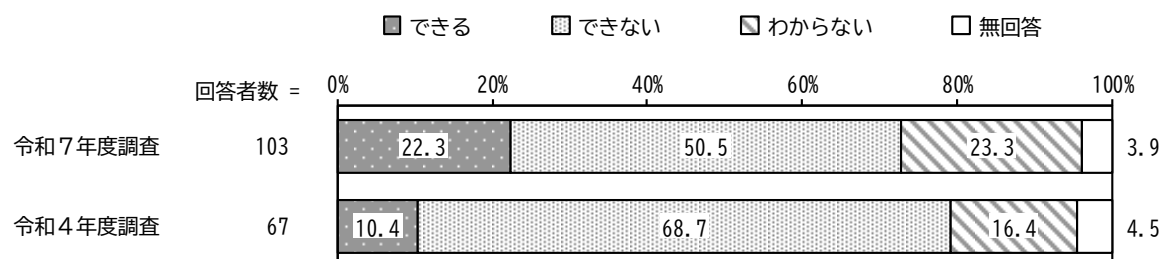
回答者数 = 89



12. 災害時の避難等について（全員にお聞きします）

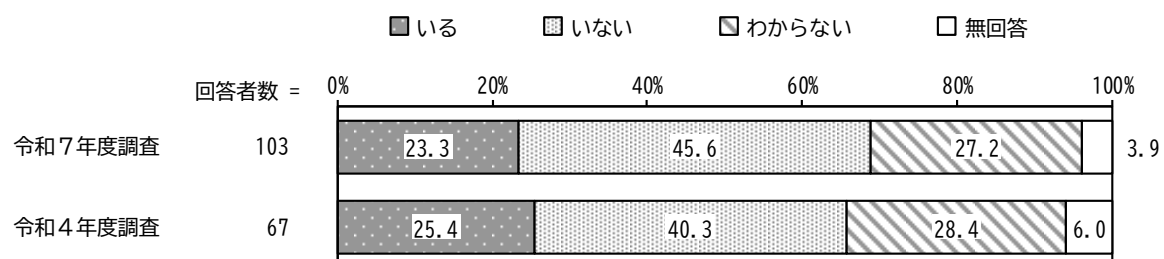
問 36 あなたは地震や水害、火事等の災害時に一人で避難できますか。（1 つに○）

「できる」の割合が 22.3%、「できない」の割合が 50.5%となっています。
令和 4 年度調査と比較すると、「できない」の割合が減少しています。



問 37 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、災害時にあなたを助けてくれる人はいますか。（1 つに○）

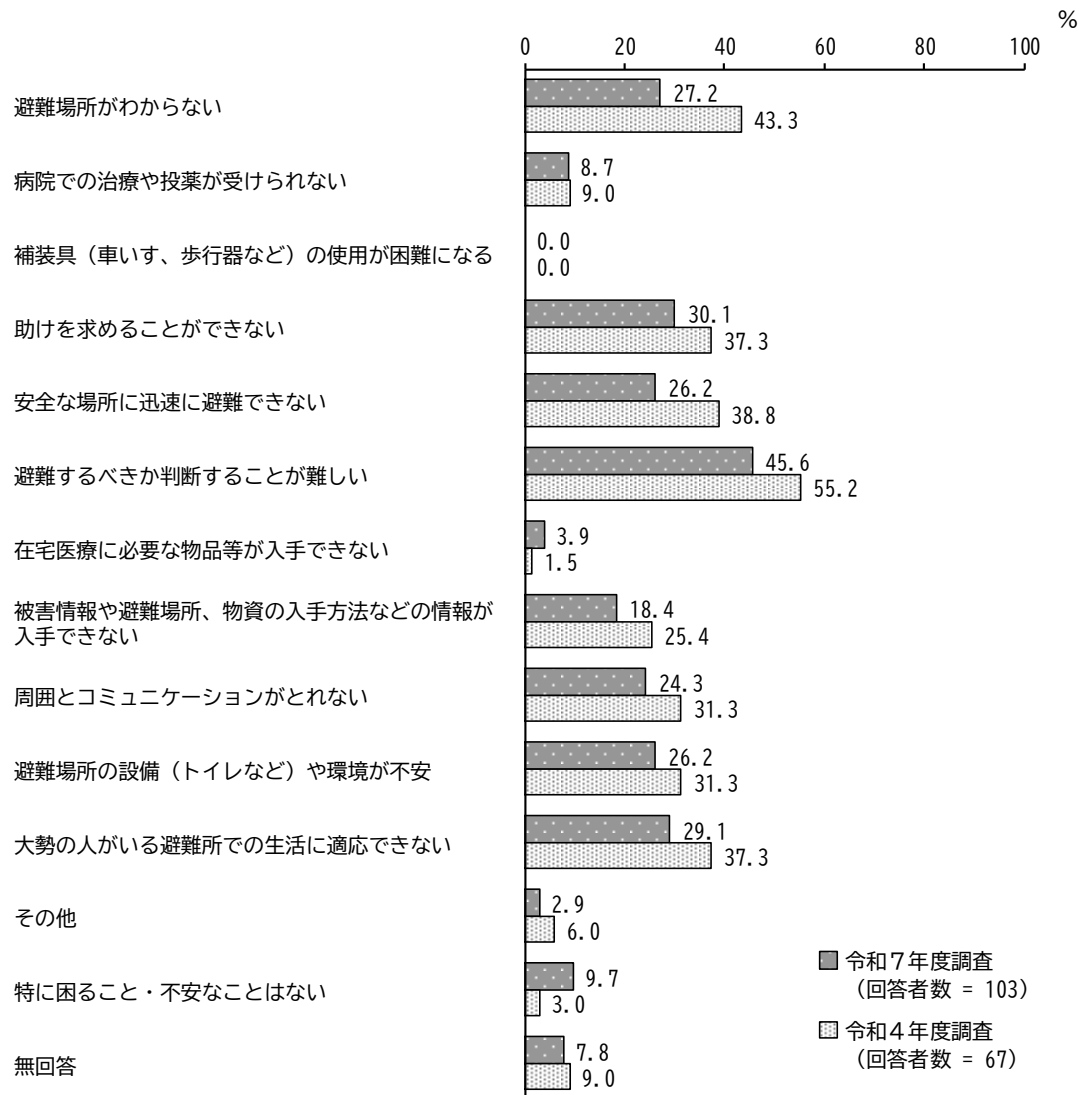
「いる」の割合が 23.3%、「いない」の割合が 45.6%となっています。
令和 4 年度調査と比較すると、「いない」の割合が増加しています。



問 38 地震や水害、火事等の災害時に、あなたが困ることや不安なことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「避難すべきか判断することが難しい」の割合が 45.6%と最も高く、次いで「助けを求めることができない」の割合が 30.1%、「大勢の人がいる避難所での生活に適応できない」の割合が 29.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「避難場所がわからない」「助けを求めることができない」「安全な場所に迅速に避難できない」「避難すべきか判断することが難しい」「被害情報や避難場所、物資の入手方法などの情報が入手できない」「周囲とコミュニケーションがとれない」「避難場所の設備（トイレなど）や環境が不安」「大勢の人がいる避難所での生活に適応できない」の割合が減少しています。



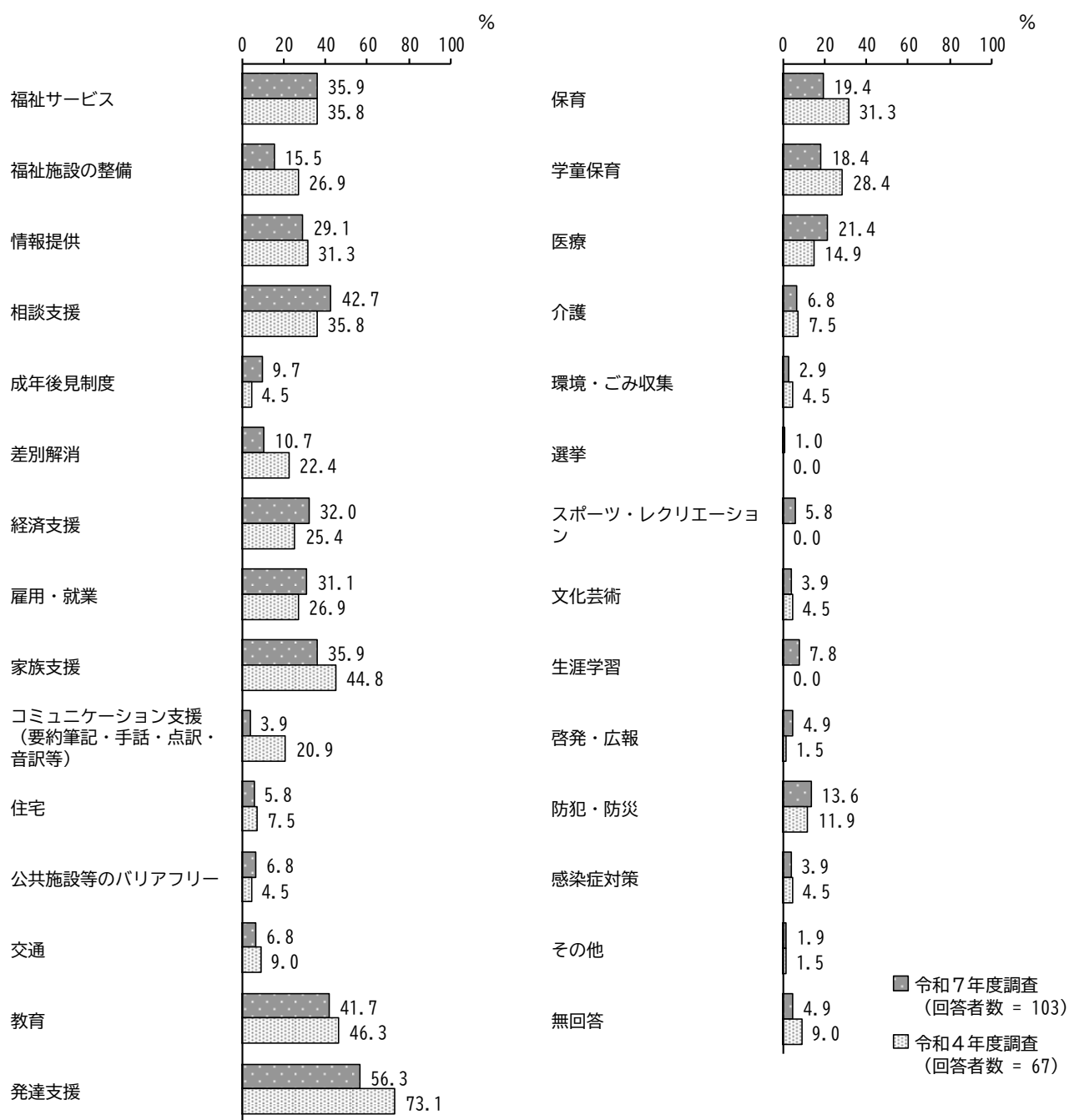
13. 宇治市の今後の施策に向けて

最後に、宇治市の障害福祉施策に対し期待していることや必要だと思うことについてお聞きます。

★障害のある人の福祉の充実のために、今後宇治市で力を入れて取り組んでほしい分野は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「発達支援」の割合が 56.3%と最も高く、次いで「相談支援」の割合が 42.7%、「教育」の割合が 41.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「相談支援」「成年後見制度」「経済支援」「医療」「スポーツ・レクリエーション」「生涯学習」の割合が増加しています。一方、「福祉施設の整備」「差別解消」「家族支援」「コミュニケーション支援」「発達支援」「保育」「学童保育」の割合が減少しています。



自由記述欄にご記入いただいた意見総数は、21 件でした。意見を要約して以下に記載します。

1 相談体制の拡充・利便性向上に関して

- 電話だと市役所が開いている時間にしか連絡ができないので、メールでも連絡ができるようにしてほしい。メールアドレスがあるなら利用しやすいよう公表していただきたい。
- 現在の相談員には大変お世話になっているが、メール、LINEなどで療育や園を含めた相談や情報共有が簡単にできるとありがたい。
- 困った時にどこに言えばいいのかというのが、なかなかわかりづらいので、明確にしてほしい。
- グレーと言われている発達障害の子ども達とどう向きあっていったら良いか等の相談ができる所があればと思う。そのような所がある場合は、どうやってその情報を知ったらいいのか教えていただきたい。
- 教育と障害の狭間をつなぐ相談支援の仕組みを設けてほしい。

2 制度・サービスの情報発信・周知に関して

- 制度の利用方法や説明があり、一目見て何をすべきかわかる一覧表があれば嬉しい。
- 生活介護、就労継続支援B型等の福祉施設見学を定期的に市主催で実施してほしい。

3 障害福祉サービスの充実に関して

- 早期療育を希望するすべての人が療育施設に通えるようにしてほしい。
- 音に敏感な子のために、個別で利用できる放課後等デイサービスがあると助かる。
- 療育へ通うのに一年待つことがあったので、誰もが利用したい時に利用できるよう、整備してほしい。
- 放課後デイサービスの送迎を充実させてほしい。

4 教育・保育機関における支援・配慮に関して

- 全ての小学校の先生に乳幼児期の療育について知っておいてもらいたい。
- 小学校入学前に通常学級か支援学級を決めるのではなく、入学してから学校と相談して年度の途中でも変更できるようにしてほしい。
- 中学支援学級は小学校3年生以上の学習内容を教えない。もし学習希望なら塾に行ってくださいと言われた。生活向上の指導が中心なのは分かるが、学習面のサポートがもう少しあれば良いと思う。
- もっと障害福祉と保育の連携を強化してほしい。保育園や幼稚園の中にいる、発達障害を抱えている子どもの支援が充実していない。グレーゾーンと言われる人達の支援を充実させてほしい。

5 就労・日中活動の支援と保護者の就労に関して

- 障害のある子を持つ親が働きやすい環境を作してほしい。
- 短時間の座り仕事のみの就労継続支援A型があれば良いと思う。

6 支援者・職員の専門性向上と環境改善に関して

- 現場はとても頑張ってくれているので、職場環境、労働条件をしっかり支えてほしい。
- 放課後等デイサービスに通わせているが、職員の知識不足や対応に不満に思う事がよくある。もう少し1人ひとりに合った支援ができるよう職員の学ぶ場をつくっていただきたい。
- 乳幼児健診について、子どもは緊張してできないことがあっても、すぐに発達相談が必要という判断をしないでほしい。

7 経済的負担の軽減に関して

- 京都市のように利用者の上限月額の軽減を求めたい。

8 防災・防犯・権利擁護体制の整備に関して

- 判断能力が低下している時に金品や精神的な被害を受けた。他の人々が同じ被害に遭わないように早目に対応できるよう警察等の関係機関と連携してほしい。
- より安全な避難場所について、居住している地域の方々と一緒に検討してほしい。

第8期宇治市障害福祉計画及び
第4期宇治市障害児福祉計画
策定に向けたアンケート調査結果報告書(案)

発行年月：令和8年8月

発 行：宇治市 障害福祉課

〒611-8501

京都府宇治市宇治琵琶 33 番地

電 話：0774-21-0419